

# 江戸中期の漢詩文にみる画人関係資料

## —事項一覧編—

杉本欣久

### 一 作成の経緯

美術史の研究においては、作品と文献を車の両輪のごとく、バランスを取りつつ行わなければならない、と大学在籍中にしばしば耳にする機会があった。会津八一先生の言葉と記憶するが、当時としてはどのように作品に向き合っているのか、その方法がわからず、といて正しく文献を読めるわけでもなく、耳に痛い言葉として胸に刻まれている。その後、当研究所に就職して実際に「もの」に触れ、さらに前所長の中野徹氏から「もの」を見るときはどのようなことかというトレーニングを受けたことから、作品を前にして行うべきは、それまでのように既存の知識を頭に入れて「もの」に当てはめていくのではなく、自身の目で、「もの」から情報を引き出すことだと認識するに至った。

絵画に関して平たく言えば、単なる美術評論、印象批評に終わらせないためには表層的なかたちだけでなく、画家の息づかいを辿りつつ、筆づかいや墨づかい（筆墨）、顔料や染料の色調、その土台となる絹や紙など、情報となり得るあらゆる部分を観察したうえで分析整理する必要がある。その観察結果を経験値として蓄積していなければ、たとえ同一の落款を有する作品を数百点集め、そこから最大公約数を引き出そうとしたところで不協和音ははぶけず、芳しい結果を得るのは困難であろう。それは、最新技術さえ用いればなにか新知見が得られるのではないかという、漠然とした期待のみで行われる思想や哲学のない科学実験とも同様である。改めて個々の研究者が作品における資料性の有無を「もの」に即して検証し、形式観や様式観を再構築していかなければ、本来そこにあるべき価値はますます融解の度を深め、閉塞感は一層強まっていくと思われる。

学芸員という最も「もの」に近い立場から、これまでなるべく印刷物やガラスケース越しのみによらず、実際に作品を観察し、ひとつでも多くの情報を引き出すことに意を置いて江戸後期の画家を中心に論じてきた。けれども一息ついて振り返ってみたとき、作品から多くを得る努力は当然として、一方で正しい歴史観を着実に構築していかなければ、観察結果をより大きな歴史の流れに組み込んでいくことは難しいという反省を抱くに至った。たとえば、江戸中期に活躍した祇園南海や柳沢淇園らを「日本文人画の祖」とみることは既成事実かのようなのであるが、では具体的にどのような事績を根拠としてそのように明快な定義付けができるのかということになると、それを的確に説明しうるだけの作品、文献資料ともに出揃っていないとは思えず、歴史的背景、思想面を踏まえただけで、改めて画に対する彼らの認識から検証し直さなければならぬと考える。また、現代では個性というものが過剰に重視され、江戸時代の画家についても「天才」や「奇才」などと冠される場合があるが、そのような多分に観念性の強い用語に引きずられ、バランスを欠いた評価をしないためには、人物を取り巻く時代性や地域性にまで深く立ち入り、ときには関係する多くの人々と比較検討したうえで論じる必要がある。

気がつけば多くに氾濫しているこのような漠然とした定義や観念に対し、何ら擬議を挟まず、自身で検

証せず前提として受け入れたり、販売促進のキャッチコピーに類する用語を安易に結びつけ、言葉遊びを喜ぶ風潮をよしとしてしまえば、具体的な事象を地道に積み上げ、より正確な歴史観を構築していこうという気運が起らないのは当然のことである。そこでこのような状況から起こる閉塞感を打開するためにも、確かな研究基盤に拠りつつ、ひとつの分野、ひとつの時代に限ることなく、広範な史料を読みこなし、いくことが不可欠と考え、まずは江戸後期よりも具体的事象がつかみにくく、観念的な用語で語られることが多いと思われた江戸中期に関し、相当数が現存し、比較的容易に手に触れることのできる漢学者の版本資料を中心に調査することとした。

中国文化の窓口となった江戸時代の漢学者は、同時に明清絵画受容の窓口ともなり、いわゆる「文人画家」の育成にも先導的な役割を果たした点で、絵画史研究と不可分の関係にある。とりわけ詩文集には、交遊関係やある事柄の年代が判明する重要な記述があり、先人の研究でもしばしば引用されるところである。また、ひとつの詩文では重要と思われないものでも、複数の内容が同じ事柄、同じ状況を指していることもあり、組み合わせると考察すれば意義が深まる場合も多い。ここでは以上の点に留意しつつ、画人の動向が直接窺える詩文の「題」を取り上げ、理解を助けるためにおぼつかないながらも訓読文を付して一覧表を作成し、そこにあらわれた画人の索引を加えて掲示した。さらに次の機会では、絵画史研究において重要な事柄を含む詩文の「本文」をいくつか選択し、訓読といささかの解説を付して紹介することを考えている。

また、今回の作業で得られた論点のうち、18世紀前半において明清絵画の受容に初期的な役割を果たした服部南郭（1683～1759）と浄土僧・忍海（1696～1761）の動向、忍海を端緒として盛んになっていく江戸増上寺の画僧の活動、そのひとり恢応（？～1795）の仏心院で行われた古書画展観会と伊勢長島藩主・増山雪斎（1754～1819）の関係、そしてそれに関心をよせた京都の皆川淇園（1734～1807）と東山新書画展観開催までを一連の流れととらえ、改めて稿を起す予定をしている。これらを併せてひとつの報告とみていただければ幸甚である。

## 二 一覧表の作成方法とその凡例

この作業の眼目のひとつは、いまひとつ判然としない江戸中期の画家の動向について具体的なヒントを得ることにある。そこで調査の対象とした漢詩文集には、著者の生没年を基準に上下限を設けた。ただし、上限は厳密に定めたわけではなく、江戸中期以降に多大な思想的影響を及ぼした荻生徂徠（1666～1728）から以降を考えた。また下限は、江戸中期の空気を吸っている世代、つまり江戸後期の寛政年間（1789～）にはすでに30代であることをひとつの区切りと考え、そこから逆算をして1760年以前に生まれた人物とした。このような作業を行う際には、まずその時代に該当する人物が何人あり、著作は何件と目算を立てて行うのが通常の方法と思われるが、事前に二三百もあると判ってしまうと、それだけで断念してしまうことは往々にしてある。筆者はそのようなことを考えずに、とりあえず身近にある大阪府立中之島図書館の蔵書、早稲田大学の蔵書を気の赴くに任せて調査し、さらに詩文中に頻出する人物の著作を芋蔓式に他の図書館で調べ、一年間で調査し得た量に限定して掲載することとした。最終的には、影印本として出版されている『詩集日本漢詩』（富士川英郎・松下忠・佐野正巳編 汲古書院）や、熊本の漢学者の著作を集めた『肥後文献叢書』（古城貞吉・宇野東風・武藤巖男編 隆文館）などの刊行物を加えて、著者131人、

著作192件となった。今回は編集方法の異なる紀行詩集の類は省いており、著者の学派などにも偏りがあると思われるので、今後も継続して調査を行い、機会があれば追って公表したいと考えている。なお、調査した資料であっても、取り上げるべき画人の記述がなかったものが若干あるので、これを本文の末尾に掲げておく。

一覧表として掲示した「題」に含まれる画人については、著名、無名あるいは専門、素人にかかわらず、江戸中期の全体像を把握したいという意図で、でき得る限り抽出した。それは日々の活動で、明らかに江戸中期はあろうかという質の高い作品に出会っても、その落款に記される名が既存の画家辞典の類に出ない場合も多く、歯がゆい思いをさせられているからである。けれども、筆者の力不足ゆえに画人と認識できていない人物については、当然ながら漏らしていることであろう。また、調査を進める過程で後から画人と気づくことも想定し、極力、人名を含んだ「題」に関してはデータとしてパソコンに入力したが、そもそも漢詩文中に示される人名は、姓の1字に字（あざな）の2字を合わせた3文字によるものが大半を占め、人物の特定には予想外の労苦が伴った。結果、多くを特定できず、さらに人名とは気づかなかったもの、寺名や齋号で人物を指したもの、不注意で見落としたものなど、取りこぼしも相当数あると考えられる。たとえ目的とする画人が何らかの詩文集に収載されているとわかっていても、利用者はその詩文集に実際にあたり、改めて全文に目を通していただくことを願う次第である。

このような方法で抽出した画人のうち、日本人328人、中国人53人、朝鮮人6人に関しては「画人索引」としてそれぞれ五十音順に配列し、一覧表と対応した番号を挙げて検索できるようにした。意図したところについてはそちらの凡例をご覧いただきたい。加えて、これらの画人のなかでもほとんど図録などで紹介のない人物の作品を、個人所有のものに限られるが数点ばかり掲載することとした。著名画家の作品について資料性の有無を検証するためにも、その弟子、孫弟子あたりに至るまでの画風は把握しておかなければならないと考える。その一助となれば幸いである。

なお、一覧表の記載事項に関する凡例は以下の通りである。

- ・調査した漢詩文集の著者を五十音順にして配列し、最後に僧侶を生年順に配して掲示した。
- ・漢詩文集の著者のうち、漢学者にはひらがな1字、僧侶には「僧」の1字をあて、アルファベットの小文字を割り振って検索番号とし、名前の最初に付した。詩文の番号と組み合わせて「画人索引」で検索できるようにした。
- ・漢詩文集の著者のうち、「画人索引」にも掲載した人物については、略歴の後に「→画人」と付した。
- ・資料名の後に調査を行った所蔵先を記したが、版が淡く読めない文字がある場合や、落丁があった資料に関しては、別の所蔵先が有する資料で補った。
- ・一覧表は、左から「著者ごとの詩文番号」、「詩文集の巻数」、「訓読文」、「原文」、「画人」の順に掲載した。
- ・「訓読文」、「原文」に示した〔 〕はその題に付された割注、〔 〕は詩文の本文に付された割注をあらわす。
- ・「訓読文」は、理解しやすいことを第一に考え、詩文集に記載される返り点や送り仮名には必ずしもよらなかった。また、漢字をひらがなに改めた部分もある。（ ）は筆者による注釈で、特定できる画人の通用名や年号などを記した。年号については、題や本文中に干支がある場合、もしくは詩文の配列か

ら明らかな場合にのみ限って付した。

- ・「画人」のうち、( ) を付したものは、その題には名が認められないものの、詩文の本文に記されるか、他の詩文内容から明らかとなる人物である。
- ・「画人」のうち、ゴシック体によって表記したものは、「画人索引」に対応した人物、明朝体によって表記したものは人物の特定ができず、「画人索引」に対応していない人物をあらわす。また、一部に事項や作品を記した箇所もある。

※調査したものの、一覧表には取り上げなかった漢詩文集（著者五十音順）

新井滄洲【1714～92】	『滄洲先生詩集』（寛政二年刊）
石作駒石【1740～96】	『翠山楼詩集』（安永六年刊）
伊藤錦里【1710～72】	『邀翠館集』（天明五年刊）
岡井嵯州【1702～65】	『嵯州遺稿』（明和六年序）
岡田鶴鳴【生没年未詳】	『鶴鳴詩鈔』（寛政三年跋）
岡部四溟【1745～1814】	『四溟陳人詩集』（明和九年刊）
古賀精里【1750～1817】	『精里初集抄』（文化十四年序）
首藤水晶【1740～72】	『水晶山人遺稿』（安永六年序跋）
大潮元皓【1678～1768】	『松浦詩集』（元文五年刊）
鷹見爽鳩【1690～1735】	『爽鳩詩稿』（宝暦五年刊）
千村鷺湖【1727～90】	『自適園遺稿』（寛政五年刊）
平野金華【1688～1732】	『金華稿刪』（享保十三年序）
松本愚山【1755～1834】	『愚山先生文稿前編』（刊行年不明）
山根華陽【1697～1771】	『華陽先生文集』（明和六年序跋）
和智東郊【1703～65】	『東郭先生文集』（刊行年不明）

### 三 事項一覧表

#### あa・赤田臥牛【朱君宜、田君宜、1747～1822】

(飛騨高山の人。江戸の状生徂徠や太宰春台に私淑し、酒造業のかたわら、私塾静修館を開いて子弟に教授した。)

『臥牛山人集』文政十年(1827)刊(早稲田大学図書館本)				
1	卷一	月夜、辺氏の錦江別荘にて紀山人(浦上玉堂)の琴を弾ずるを聞く。	月夜辺氏錦江別荘聞紀山人弹琴	浦上玉堂
2	一	片月丈人の七十誕節、児貞吉をして「墨竹の図」を写さしめ、以て献す。余はすなわちこれが歌をつくる。	片月丈人七十誕節使児貞吉写墨竹図以献余乃為之歌	赤田章斎
3		丹青の引。諸葛生に贈る。	丹青引贈諸葛生	諸葛監
4		藤三郎君、扇三柄を恵せられ、附するに精里翁(古賀精里)の写せる詩一篇を以てす。敢えて賦して奉謝す。[自ら注して曰く、緑紙の扇頭に養川翁の画、栗山翁(柴野栗山)の題詩あり。外二の扇頭に藤橋藍波の図、背に精里翁の題詩あり。]	藤三郎君惠扇三柄附以精里翁写詩一篇敢賦奉謝[自注曰緑紙扇頭養川翁画栗山翁題詩外二扇頭藤橋藍波図背精里翁題詩]	狩野惟信
5	四	浪華の木世肅(木村兼葭堂)、家を勢州に徙すと聞く。遙かにこの寄あり。… [長島侯(増山雪斎)、善く世肅を待す。世肅の徙れるゆえなり。]	聞浪華木世肅徙家勢州遥有此寄… [長島侯善待世肅世肅之所以徙焉]	増山雪斎
6	八	粘材浅水琴の記。	粘材浅水琴記	(浦上玉堂)
7		芸竹の説。	芸竹説	(錦川釣徒・伯瑜)
8	九	浅水琴の銘。	浅水琴銘	(浦上玉堂)

#### あb・赤松滄洲【国譽、1721～1801】

(播磨赤穂の人。本姓は舟曳もしくは大川氏。京都で香川修庵や宇野明霞らに学び、赤穂藩の儒学者となった。子は赤松蘭室、河野魯齋。)

『静思亭集』明和九年(1772)刊(早稲田大学図書館本)				
1	卷三	秋夜、尚友館にて、巖敬甫(岩溪嵩台)、木瑜公、田子復に贈る。	秋夜尚友館贈巖敬甫木瑜公田子復	岩溪嵩台
2	五	宇土侯(細川興文)蘭を画き、秋文学(秋山玉山)に属してこれを賜う。謹みて一絶を賦して奉謝す。	宇土侯画蘭属秋文学賜之謹賦一絶奉謝	細川興文
3		夜雨の小集にて、巖敬甫(岩溪嵩台)を運つも至らず。戯れに賦して寄す。	夜雨小集運巖敬甫不至戯賦寄	岩溪嵩台
4		平安の巖敬甫(岩溪嵩台)、恵韻あり。和して以て別る。	平安巖敬甫有恵韻和以別	岩溪嵩台
5	六	秋玉山(秋山玉山)。	秋玉山	(細川興文「蘭図」)
6	七	宅敬甫(岩溪嵩台)。	宅敬甫	岩溪嵩台
7	十	田士健のために石良雄(大石良雄)の画に書す。	為田士健書石良雄画	大石良雄(「四睡図」)
8		祇南海(祇園南海)の題詠二百首の首に題す。	題祇南海題詠二百首首	祇園南海
9		三浦迂斎翁の墓碑の銘。	三浦迂斎翁墓碑銘	(三浦恒升)

#### あc・赤松蘭室【大業、1743～97】

(播磨赤穂の人。滄洲の長男で父に学ぶ。赤穂藩の儒学者を嗣ぐが、父に先立って逝去する。弟は河野魯齋。)

『蘭室先生詩文集』文政元年(1818)刊(国立国会図書館本)				
1	卷一	癸巳(安永2年)の歳、前川淵龍、年甫めて五十なり。姫路の画工・藍川、「寿星の図」を画き、遙かに寄せて以て寿となす。淵龍装して掛軸となし、余に乞いてその上に識せしむ。よりに戯れに題して併せて奉す。	癸巳前川淵龍年甫五十姫路画工藍川画寿星図遥寄以為寿淵龍装為掛軸乞余識其上因戲題併奉	藍川
2		三浦恒升の「山水の画」に題す。沢南公に応ず。	題三浦恒升山水画应沢南公	三浦恒升
3		高砂の三浦恒升、「六芸の図」を画きて恵さる。喜び賦して謝す。	高砂三浦恒升画六芸図見恵喜而賦謝	三浦恒升
4	一	三浦恒升、「六芸の図」を画きて恵さる。余、すでに詞一篇を賦謝す。また諸友に乞いて俱に六芸を咏じ、これに附す。六首	三浦恒升画六芸図見恵余已賦謝詞一篇又乞諸友俱咏六芸附之六首	三浦恒升
5	四	秋夜、巖敬甫(岩溪嵩台)過る。賦して贈る。[敬甫は郷の人にして今丹州に官たり。]	秋夜巖敬甫見過賦贈[敬甫郷人今官於丹州]	岩溪嵩台
6	五	維明禪師と静思亭において邂逅す。師、画梅を善くす。よりに賦してこれを乞う。	邂逅維明禪師於静思亭師善画梅因賦乞之	維明
7	七	石大夫(大石良雄)の画軸に題す。	題石大夫画軸	大石良雄
8	九	備中倉敷の宰・野口君に与う。[家君に代わりて]	与備中倉敷宰野口君[代家君]	(李公麟「文宣王図」)
9	十	岩敬甫(岩溪嵩台)に与う。	与岩敬甫	岩溪嵩台
10		源士蛟に復す。	復源士蛟	(大原呑響)
11		中根君美(中根東平)に復す。	復中根君美	(大石良雄「墨刻画」)

#### あd・秋元小丘園【管習之、?～1783】

(越前の人。本姓菅原氏。江戸で服部南郭に学ぶ。志摩鳥羽藩主・稲垣昭央に仕え、明和元年には朝鮮通信使饗応の書記として三河赤坂駅に赴いた。)

『小丘園集』天明二年(1782)序跋(早稲田大学図書館本)				
1	卷三	海雲上人(忍海)の房にて「嵐山の図」を観る歌。	海雲上人房觀嵐山図歌	忍海
2	四	藤公子女(榊原辰兮)の宅にて、鸞山上人画ける「山水の図」を観る歌。	藤公子女宅觀鸞山上人画山水図歌	鸞山
3	五	河子昌(河原保寿)の林亭に過る。	過河子昌林亭	河原保寿
4		忍海上人を哭す。	哭忍海上人	忍海
5		白賁墅、荒に就き、檢校し畢る。同に賦す。[壁に「猿鶴の図」あり、古色依然たり。]	白賁墅就荒檢校畢同賦[壁有猿鶴図古色依然]	(忍海)
6		新居落成し、鸞山上人、ために山水を画く。賦して謝す。	新居落成鸞山上人為画山水賦謝	鸞山
7	六	平子英(平賀蕉斎)、居する所の「蕉斎の図」に題す。	題平子英所居蕉斎図	平賀蕉斎

8	六	河子昌(河原保寿)の新居、竹太沖(竹内長水)と隣をなす。賦して贈る。	河子昌新居与竹太沖為隣賦贈	河原保寿
9	七	峯山師(玄海峯山)、南郭服先生草する所の「観音太子普門諸相粉本」を装し、これを少林院に蔵む。ために贈る。	峯山師装南郭服先生所草観音太子普門諸相粉本蔵之少林院為贈	服部南郭
10	八	岡君章(岡岷山)画ける「蜀道の図」を觀、諸體を分賦す。七言排律二十韻を得たり。	觀岡君章画蜀道圖分賦諸體得七言排律二十韻	岡岷山
11	十	白賞亭にて壁画猿鶴を觀る。二冬を得たり。	白賞亭觀壁画猿鶴得二冬	(忍海)
12		夏日、南郭先生(服部南郭)に陪して子昌(河原保寿)の莊に過る。陽韻を得たり。	夏日陪南郭先生過子昌莊得陽韻	河原保寿
13		神植卿の大翁画ける「淵明、菊を把る図」に題し、贈となす。翁、今ここに七十にして致仕すと云う。	題神植卿大翁画淵明把菊圖為贈翁今茲七十致仕云	神植卿の大翁
14		女画史・狩野黎勢作れる「王母梅の図」に題し、君太夫人の六十を寿し奉る。	題女画史狩野黎勢作王母梅圖奉寿君太夫人六十	狩野黎勢
15		呉子謹(五十嵐子謹)、北越に帰るを送る。先韻を得たり。[生、画を善くす。]	送呉子謹帰北越得先韻[生善画]	五十嵐子謹
16		広陵の岡君章(岡岷山)、侯の駕に従い、信中を道して帰藩するを送る。	送広陵岡君章從侯駕道信中歸藩	岡岷山

あe・秋本澹園【秋子帥、嶋夷、1688~1751】

(下野那須黒埴の人。江戸で荻生徂徠に学ぶ。三河岡崎藩主・水野忠辰に招かれ、儒学者となる。)

『澹園初稿』享保十四年(1729)刊(国立国会図書館本)

1	巻上	白雲の詞。不佞以てまさに東叡王台(公寛親王)の画を求むること久し。いささかこれを賦して田好紀に寄す。	白雲詞不佞以正求東叡王台画也久矣聊賦此寄田好紀	公寛親王
2	中	東叡王台(公寛親王)、不佞の「白雲の詞」によりて画山水を賜う。謹みて拝謝し奉る。即事。	東叡王台因不佞白雲詞賜画山水謹奉拜謝即事	公寛親王

あf・秋山玉山【秋子羽、1702~63】

(肥後熊本の人。同藩儒学者水足屏山に学び、江戸で幕府儒官林家の林鳳岡に入門する。熊本藩の儒学者となり、藩校時習館の創設を建議した。)→画人

『玉山先生詩集』宝暦四年(1754)刊(富士川英郎・松下忠・佐野正巳編『詩集日本漢詩』第5巻[汲古書院 1985年]所収)

1	巻五	米大夫(米田是著)、余のために真を写す。よりて戯れにその上に題す。	米大夫為余写真因戲題其上	米田是著
2	六	江生、余に絹素を托して画を徴さる。持帰していまだ果さず。既にして江都に寄ること一歳、帰すればすなわち江生逝せり。よりて哭詞をその上に題し、これをその家に還す。いささか挂劍の義に比すると云う。	江生托余絹素徵画持帰未果既寄江都一歳帰則江生逝矣因題哭詞其上而還之其家聊比挂劍之義云	自画
『玉山先生遺稿』安永三年(1774)跋(早稲田大学図書館本)				
3	巻二	春日、鸞嘯閣の茗譚にて、大川、忍海の二上人、大医令橘公に陪し、同に人字を賦し得たり。	春日鸞嘯閣茗譚陪大川忍海二上人大医令橘公同賦得人字	忍海
4		服子遷(服部南郭)の白頁壁の集。二首[壁画の猿鶴]	服子遷白頁壁集二首[壁画の猿鶴]	(忍海)
5	三	鸞嘯閣の集にて、格外禪師の韻に和し、兼ねて黄檗大鵬和尚に贈る。	鸞嘯閣集和格外禪師韻兼贈黄檗大鵬和尚	大鵬正観
6		忍海上人、戯れに余の醉像を写し、添うるに花木、侍童を以てす。阿堵の妙、言うべからず。けだしその意を寓するや深し。よりてこれを賦して致謝す。	忍海上人戲写余醉像添以花木侍童阿堵之妙不可言蓋其寓意也深矣因賦此致謝	忍海
7	四	孟喬(建部凌岱)の画山水に題す。	題孟喬画山水	建部凌岱
8		文休承(文嘉)の「山陰雪夜の図」に題す。	題文休承山陰雪夜圖	文嘉
9		仇十洲(仇英)の「美人の図」に題す。十五首	題仇十洲美人圖十五首	仇英
10	五	秋日、米大夫(米田是著)及び盈上人と同じく神水に泛舟し、向晩、まさに帰らんとす。余紅は山を銜み、煙樹は碧を抹す。堤上の人馬は皆燈影中に在りて行くがごとし。予醉甚だしく、急ぎ紙筆を索めてこれを描く。舟転じ景移り、盡くは写すべからざるなり。米公これを賞し、すでにして上人のために奪去せらる。明日、これを賦して寄贈す。	秋日同米大夫及盈上人泛神水向晚將帰余紅山煙樹抹碧堤上人馬皆如在燈影中行予醉甚急索筆描之舟転景移不可盡写也米公賞之既而為上人奪去明日賦此寄贈	自画
11		伊太素(伊形靈雨)の「雪竹の図」。	伊太素雪竹圖	伊形靈雨
12	七	服翁(服部南郭)の墨竹の記。	服翁墨竹記	服部南郭
13	九	北仲温(北岡恪齋)に復す。	復北仲温	(鈴木芙蓉)

あg・芥川丹邱【芥彦章、1710~85】

(京都の人。はじめ宇野野間、伊藤東涯に師事し、のちに江戸で服部南郭に学ぶ。晩年には陽明学を信奉した。)

『菴菴館集』宝暦十二年(1762)刊(大阪府立中之島図書館本)

1	巻一	書画の引。望玉蟾(望月玉蟾)、田弘鮮に贈る。	書画引贈望玉蟾田弘鮮	望月玉蟾
2	五	春日、趙(趙陶齋)、渡の二子と同じく浪華銀山寺にて花を賞づ。	春日同趙渡二子浪華銀山寺賞花	趙陶齋
3		浪華にて趙陶齋の京に帰るを送る。	浪華送趙陶齋帰京	趙陶齋

あh・足利義根【源子寛、平台(栖龍)源公、1747~1826】

(阿波平島の人。本姓は源。室町幕府十代將軍義隆より八代の後裔。京都で龍草庵に学ぶ。同門の島津華山を資師として招いた。)

『棲龍閣詩集』天明六年(1786)跋(国立国会図書館本)

1	巻四	春日、彦藩の文学・龍玉淵先生に寄す。	春日寄彦藩文学龍玉淵先生	龍玉淵
---	----	--------------------	--------------	-----

あi・安達清河【安文仲、安吉甫、1726~92】

(下野烏山の人。修験の家系に生まれ、玉泉道士と号した。江戸で服部南郭に学び、浅草に私塾・市隱堂を営んで子弟に教授した。)

『市隱草堂集前編』安永四年(1775)刊(大阪府立中之島図書館本)

1	巻九	歳杪、陳必器(蒔田暢齋)、過訪せらる。	歳杪陳必器見過訪	蒔田暢齋
2		月夜、勢南の陳必器(蒔田暢齋)を懐う。	月夜懷勢南陳必器	蒔田暢齋
3		勢州の陳必器(蒔田暢齋)、山文蔚(山口豹山)、詩草を示さる。並に皆佳なること甚し。よりて賦して贈る。	勢州陳必器山文蔚見示詩草並皆佳甚因賦贈	蒔田暢齋
『市隱草堂集後編』(同上)				
4	巻三	山君猷の穀坊の橋居に飲す。西子友、木文熙(鈴木芙蓉)と同じく分韻す。	飲山君猷穀坊橋居同西子友木文熙分韻	鈴木芙蓉
5		暮春、子高、文熙(鈴木芙蓉)、維和と同じく遊び、樹を武平園に種う。	暮春同子高文熙維和遊種樹武平園	鈴木芙蓉

6	四	木文熙(鈴木芙蓉)、しばらく信州に帰るを送る。	送木文熙暫帰信州	鈴木芙蓉
7		木文熙(鈴木芙蓉)画ける「鳥海山の図」に題す。武孟玉(曾根原周庵、鳥海山人)の求めに応ず。	題木文熙画鳥海山図応武孟玉求	鈴木芙蓉
8	六	文熙(鈴木芙蓉)画ける「漁翁の図」に題す。[摘藁公子(瀧川南谷)の求めに応ず。]	題文熙画漁翁図[応摘藁公子求]	鈴木芙蓉
9	八	秋雨の泛江。子友、文熙(鈴木芙蓉)、君猷と同じく分韻す。	秋雨泛江同子友文熙君猷分韻	鈴木芙蓉
10		田必器(蒔田暢斎)の鴻雁堂に題す。[必器、毎歳、秋に出で春に帰す。よりにて鴻雁を以て堂に名づく。]	題田必器鴻雁堂[必器毎歳秋出春帰因以鴻雁名堂]	蒔田暢斎
11		雪館老人年甫めて七十。冬至、宴を開き、詩以て寿となす。	雪館老人年甫七十冬至開宴詩以為寿	桜井雪館か

あj・天沼恒庵【鳥子済、天履仁、1743~94】

(江戸の人。三浦瓶山、宮瀬龍門に学ぶ。幕府の御家人(御徒)であったが、伊藤華岡に書を学び、のちに養子となった。)

『恒庵文稿』文化七年(1810)跋(国立国会図書館本)				
1	卷一	庚辰(宝暦10年)三月、華岡先生(伊藤華岡)まさに京師を発たんとす。岩垣翁(岩垣龍溪)、靈山の棲を借りて饒をなす。無染、終南(天年浄寿)の二禪師及び池大雅、高芙蓉来会し、余もまた侍す。席上にて賦して謝す。	庚辰三月華岡先生將發京師岩垣翁借靈山棲作饒無染終南二禪師及池大雅高芙蓉来会余亦侍焉席上賦謝	池大雅
2		植伯中のために藤先生(伊藤華岡)の墨竹に題す。	為植伯中題藤先生墨竹	伊藤華岡
3		芝庵和尚(開中浄復)と同じく仲子和(中山高陽)を松石居に訪う。	同芝庵和尚訪仲子和松石居	中山高陽
4		長島侯(増山雪斎)に謁す。侯、書画を善くす。新たに官命を奉り、まさに浪華城に衛戍せんとするを聞く。	謁長島侯侯善書画聞新奉官命將衛戍浪華城	増山雪斎
5	二	森土蔚の画に題す。	題森土蔚画	森土蔚
6		松坂にて韓大年(韓天寿)を訪う。その疾病に属して人に接することあたわず。悵然としてこれに賦す。	松坂訪韓大年属其疾病不能接人悵然賦之	韓天寿
7		谷文晁の白河に在るに寄す。	寄谷文晁在白河	谷文晁
8	三	「群峰封雪の図」の記。	群峰封雪図記	(谷文晁)
9		若狭侯(酒井忠實)の画馬図に題す。	題若狭侯画馬図	酒井忠實
10		明の陳裸の「石君社の図」に題す。	題明陳裸石君社図	陳裸

あk・安藤東野【藤(藤)東壁、1683~1719】

(下野黒羽の人。江戸で荻生徂徠に学ぶ。徂徠に将来を嘱望されるが、師に先んじて没した。徂徠門・巖園七子のひとり。)

『東野遺稿』寛延二年(1749)刊(富士川英郎・松下忠・佐野正巳編『詩集日本漢詩』第14巻[汲古書院 1989年]所収)				
1	卷上	不佞、舎を山間に置く。四面平蕪にして山なきを苦しめば、すなわち山を四壁に画き、日々、醪をその間に把りて少文の遊となす。蘭台公子(本多忠統)、これを聞きて喜び、三月丁丑、米夫子(荻生徂徠)、潮尊者(大潮)と、にわかに草萊を披きて入る。それこの三人の者は、各々扶む所ありて扶まず。煥園(安藤東野)独り高尚を扶みてその雲閣を扇ごさば、なんぞ不可なることなからんや。これに絲桐を援けて詩以て従となさん。	不佞置舎田間也四面平蕪而苦無山則画山四壁日把醪其間為少文之遊焉蘭台公子聞之而喜焉三月丁丑与米夫子潮尊者忽披草萊而入夫此三人者也各有所扶而不扶也煥園独扶高尚扇其雲閣無乃不可乎援之絲桐詩以為従	白画
2		洵真佐先生(佐々木縮往)に寄する辞、並びに序。	寄洵真佐先生辞并序	佐々木縮往

いa・伊形靈雨【伊大素、1745~87】

(肥後木葉の人。農家に生まれたが、学問を好んで熊本藩藩校・時習館で秋山玉山に学ぶ。同校の助教となった。) →画人

『靈雨山人詩集』(古城貞吉・宇野東風・武藤巖男編『肥後文獻叢書』第5巻[隆文館 1910年]所収)				
1	卷四	売酒の人・喲(佐竹喲々)に贈る。[家は洛東白河橋に在り。酒旗の上、掲ぐるに「黄鳥一声」の句を以てす。]	贈売酒人喲[家在洛東白河橋酒旗上掲以黄鳥一声句]	佐竹喲々

いb・石川麟洲【石伯卿、1707~59】

(京都の人。向井滄洲、堀南湖に学ぶ。豊前小倉藩の儒学者となり、藩校・思永館の学頭を務めた。)

『石増二先生文鈔』寛政二年(1790)序跋(国立公文書館内閣文庫本)				
1	卷上	藤子和の芥子園画伝を臨する序。(宝暦4年)	藤子和臨芥子園画伝序	藤子和 (彭城百川)

いc・石島筑波【石仲緑、1708~58】

(遠江浜松藩士の子として江戸に生まれる。服部南郭に学び、のち二十三歳で致仕して、駒込吉祥寺前に私塾を営んだ。)

『芝荷園文集』明和七年(1770)跋(富士川英郎・松下忠・佐野正巳編『詩集日本漢詩』第14巻[汲古書院 1989年]所収)				
1	卷一	張陽の服順長、その伯季と母氏の七十初度を寿す。国老・秉文津田君(津田北海)、ために松鶴を画きてこれに与う。余、これを聞いて遥かにこの贈あり。	張陽服順長与其伯季季母氏七十初度国老秉文津田君為画松鶴与之余聞之遙有此贈	津田北海
2	一	長崎の藤子和、篆印を貽らる。その石、美なること玉の如し。云えらく、その友・源伯民(清水伯民)の刻する所なりと。筆を走らせ謝となし、兼ねて伯民氏に寄す。	長崎藤子和見貽篆印其石美如玉云其友源伯民所刻走筆為謝兼寄伯民氏	清水伯民
3		張藩致仕大夫・北海津君(津田北海)に呈す。	呈張藩致仕大夫北海津君	津田北海
4	三	千力之(千村鷺湖)、代を得て張陽に還るを送る。	送千力之得代還張陽	千村鷺湖
5	四	毎歳暮冬、服子(服部南郭)、二三子を挟みて縁山の宝松院に遊ぶ。今ここにまた例に隨いて陪遊す。席上にて利主・海雲尊者(忍海)に賦呈す。	毎歳暮冬服子挟二三子遊縁山宝松院今茲亦隨例陪遊席上賦呈利主海雲尊者	忍海
6		藤子文の画厨に題す。	題藤子文画厨	藤子文
7	五	左子嶽(佐脇崇之)に過る。[子嶽、画を善くす。]	過左子嶽[子嶽善画]	佐脇崇之
8		蕪夫公子、侍史・藤季徳に命じ、「王右丞、秘書晁監の日本に帰るを送る図」を画かしむ。余、戯れに右丞の七絶體に倣い、図画に即いてこれに題す。	蕪夫公子命侍史藤季徳画王右丞送秘書晁監日本回余戲倣右丞七絶體即圖画而題之	藤季徳
9		海雲上人(忍海)、自ら画ける「富嶽の図」を患さる。賦して謝す。	海雲上人見惠自画富嶽圖賦謝	忍海

いd・石作駒石【1740～96】

(信濃木曾福島の人。尾張藩木曾代官・山村氏の臣で、山村蘇門に近侍した。伊勢桑名で南宮大湫に学ぶ。)

『翠山楼詩集二編』寛政五年(1793)刊(国立公文書館内閣文庫本)				
1	卷上	平君胃(錦木梅溪)、茶及び井水を恵さる。賦して謝す。[以下の二首は東都の作なり。]	平君胃見恵茶及井水賦謝[以下二首東都作]	錦木梅溪
2		十時子羽(十時梅厓)の贈らるるの作に和す。	和十時子羽見贈之作	十時梅厓
3	中	平君胃(錦木梅溪)の招に応ず。賦して謝す。	応平君胃招賦謝	錦木梅溪
4		千鷺湖(千村鷺湖)、余に托して自適園集を吾が主君に贈らる。よりにて賦して贈る。	千鷺湖托余見贈自適園集於吾主君因賦贈	千村鷺湖

いe・市河寛斎【河子静、1749～1820】

(江戸の人。幕府儒官・林家に入門して学ぶ。越中富山藩の儒学者となり、藩校広徳館の儒官長を務めた。子は書家として著名な市河米庵。)

『寛斎摘草』天明六年(1786)刊(富士川英郎・松下忠・佐野正巳編『詩集日本漢詩』第8巻[汲古書院 1985年]所収)				
1	卷一	沢弟侯(平沢旭山)画ける「金洞山の図」を観る引。	観沢弟侯画金洞山図引	平沢旭山
2		雲室の歌。大洲上人に贈る。	雲室歌贈大洲上人	雲室
3	二	三月二日、君長(関松窓)、汝翼、廷琦(渡辺玄対)と同じく子野の宅に集す。	三月二日同君長汝翼廷琦集子野宅	渡辺玄対
4		五月六日、君長(関松窓)、汝翼、廷琦(渡辺玄対)と同じく子野の宅に飲す。	五月六日同君長汝翼廷琦飲子野宅	渡辺玄対
5		五月十三日、谷子穆(谷文晁)、東江精舎に邀飲せらる。君、画を善くす。けだし一時同好の士、ことごとく集すと云う。	五月十三日谷子穆邀飲東江精舎君善画蓋一時同好之士悉集云	谷文晁
6	三	長島侯(増山雪斎)の独楽園に寄題す。[長島は伊勢に隸う。]	寄題長島侯独楽園[長島隸伊勢]	増山雪斎
7		池上の松を詠じて松平醉翁を寿す。	詠池上松寿松平醉翁	松平醉翁
8		長島侯(増山雪斎)の松秀園に陪す。	陪長島侯松秀園集	増山雪斎
9	四	源文龍(沢田東江)の画山水に題す。	題源文龍画山水	沢田東江
10		元朗師、まさに帰らんとするに、大洲上人(雲室)の画芭蕉を携え来りて言を請う。余、上人とともに寥落の感に堪えず。ために小詩を題してこれに贈る。情を辞に見わす。	元朗師將帰携大洲上人画芭蕉来請言余与上人俱不堪寥落之感為題小詩贈之情見乎辞	雲室
11		辺廷琦(渡辺玄対)の「雪竹の図」。	辺廷琦雪竹図	渡辺玄対
『寛斎先生遺稿』文政四年(1821)刊(同上)				
12	卷一	松林山人の「枯木寒鴉の図」に題す。	題松林山人枯木寒鴉図	松林山人
13		戯れに雲室上人に贈る。[師、時に上尾に在り。南碩茂の輩、義塾を創りて村童を教導す。]	戯贈雲室上人[師時在上尾南碩茂輩創義塾教導村童]	雲室
14		僧月仙の芭蕉。	僧月仙芭蕉	月仙
15		謝春星(与謝蕪村)画ける「江山晚照の図」。	謝春星画江山晚照図	与謝蕪村
16		春日、九如董君の宅に集飲す。	春日集飲九如董君宅	董九如
17		谷文晁の画梅。	谷文晁画梅	谷文晁
18	二	沢呉龍、江戸より京に還る。道を枉げて余を越中に訪う。留飲すること十数日、別に臨みて賦して贈る。	沢呉龍自江戸還京枉道訪余於越中留飲十数日臨別賦贈	沢呉龍
19		董九如の画山水に題す。澹齋君のためにす。	題董九如画山水為澹齋君	董九如
20		春首、芙蓉山人(鈴木芙蓉)を訪う。	春首訪芙蓉山人	鈴木芙蓉
21		宴を賜うの後、特に評を命ぜられ、宝函の書画を観る。退きて四絶句を作り、以て寓日の榮を紀して云う。東坡の行書漁父の詞、筆意妙絶にして款識なし。米元章(米芾)の画ける鶴の対幅。祝枝山の草書山居絶句の巻、龍蛇飛動の勢あり。管伯姬の小楷織錦回文の詩、九十洲(仇英)、図を補し、文休承(文嘉)、陸竹平、許元復の跋あり。	賜宴之後特命評觀宝函書画退而作四絶句以紀寓日之榮云 東坡行書漁父詞筆意妙絶無款識 米元章画鶴对幅 祝枝山草書山居絶句卷有龍蛇飛動之勢 管伯姬小楷織錦回文詩九十洲補図有文休承陸竹平許元復跋	米芾 仇英
22		董九如先生に贈る。先生、公に在るの暇、絵事に鋭意し、名声一世に藉甚なり。寧や、知遇を辱くすること十余年、老いて交ますます厚し。よくその平生の名跡を盡せり。よりにて小詩四絶を賦し、もってその事実を録す。あに敢えて先生の小伝に当つるといわんや。…[先生自ら小像を写するに漁人の扮装をなし、以てその幽淡の意を寓す。]…[先生少き時、多く花卉翎毛を沈南蘋の体に倣いて画く。晩、その艶麗を厭い、一切諸乞を辞謝し、山水の一門に専意す。作る所の大幅、筆力蒼老にして沈石田(沈周)の遺法あり。]…[近日、先生、門を掩いて客を謝し、「綱川の図」一巻を製す。けだし文休承(文嘉)の筆意に倣う。令子・汝南君に付して以て伝家の宝となす。]	贈董九如先生 先生在公之暇銳意繪事名声藉甚一世寧也辱知遇十余年老而交益厚能盡其平生名跡因賦小詩四絶以録其事實豈敢謂当先生小伝哉 …[先生自写小像為漁人扮裝以寓其幽淡之意] …[先生少時多画花卉翎毛倣沈南蘋体晚厭其艶麗一切辭謝諸乞専意山水一門所作大幅筆力蒼老有沈石田遺法]…[近日先生掩門謝客製綱川圖一巻蓋倣文休承筆意付令子汝南君以為伝家の宝]	董九如 (沈南蘋) (沈周) (文嘉)
23		董徐南の宅を訪い、その先君・九如先生(董九如)の遺像を拝す。	訪董徐南宅拜其先君九如先生遺像	董九如
24	三	釈迦牟尼の像。	釈迦牟尼像	(清水伯民)
25	四	薺英(谷薺英)の画竹。	薺英画竹	谷薺英
26		秋日、辺玄対(渡辺玄対)の林麓草堂に集宴す。	秋日集宴辺玄対林麓草堂	渡辺玄対
27		三硯の歌。大地伯政(大地文宝)の金沢に還るを送る。	三硯歌送大地伯政還金沢	大地文宝
28		皆川淇園画ける「太公望釣渭の図」。	皆川淇園画太公望釣渭図	皆川淇園
29		漫成、南畝(大田南畝)、玄対(渡辺玄対)に示す。	漫成示南畝玄対	渡辺玄対
30		長島侯(増山雪斎)の「寒夜の作」に奉和す。	奉和長島侯寒夜作	増山雪斎
31	五	「歳寒三友の図」、南畝(大田南畝)、玄対(渡辺玄対)と同じく題す。	歳寒三友図同南畝玄対題	渡辺玄対
32		高野寺の小集にて雪斎老侯(増山雪斎)の高韻に奉和す。	高野寺小集奉和雪斎老侯高韻	増山雪斎
33		小蓬萊石の歌。雪斎老侯(増山雪斎)に奉呈す。	小蓬萊石歌奉呈雪斎老侯	増山雪斎
34		江芸閣、劉夢澤と同じく張秋琴の七夕の韻に和す。	同江芸閣劉夢澤和张秋琴七夕韻	江芸閣 張秋琴
35		張(張秋琴)、江(江芸閣)の二子、「雨後、金毘羅山に登り、辟間に前賢、図に題する韻に追和するの作」を示さる。	張江二子見雨後登金毘羅山追和辟間前賢題韻之作	江芸閣 張秋琴
36		地蕪齋(大地文宝)の画蘭に題す。	題地蕪齋画蘭	大地文宝



37	五	三玄祥胤(市河米庵)の書画に題す。	題三玄祥胤書画	市河米庵
38		夜、隣家の棋声を聴く。長島侯(増山雪斎)の席上にて作る。	夜聴隣家棋声長島侯席上作	増山雪斎
39		兄祥(市河米庵)の画竹。	兄祥画竹	市河米庵
40		南溟の画譜。	南溟画譜	春木南溟
41		古法眼(狩野元信)画ける「果子の図」。	古法眼画果子図	狩野元信
42		南谷源公(瀧川南谷)の像に題す。[仙伝に云えらく、老子、殷の武丁庚辰二月十五日、卯の時をもって降誕すと。南谷源公の誕生日はこれと全く同じ。よりにて雪斎老侯(増山雪斎)にその像を画かれんことを乞い、寧に命じてその上に題せしむ。戯れに小絶を賦す。]	題南谷源公像[仙伝云老子以殷武丁庚辰二月十五日卯時降誕南谷源公誕日与之全同因乞雪斎老侯画其像命寧題其上戲賦小絶]	増山雪斎

いf・市島岱海【1757~1813】

(越後水原の人。薬商や蠟商を営んだ大地主・市島家の一族。京都で商売の傍ら、龍草廬に学んだ。)

『岱海堂文集初編』享和元年(1801)刊(早稲田大学図書館本)				
1	卷一	丁巳(寛政9年)の臘月、浦士栗(三浦九折)、其正(呉北汀)の画竹一軸を贈らる。すなわち欣然として賦す。	丁巳臘月浦士栗贈其正画竹一軸即欣然賦	呉北汀
2		昔、嵐子勉(五十嵐元誠)、吾が昆季に龍門の詩画を贈り、いくばくもなく物故す。今ここに戊午(寛政10年)、筆跡を觀て感に堪えず。よりにて賦して情を写す。	昔嵐子勉贈吾昆季龍門詩画亡物故今茲戊午觀筆跡不堪感因賦写情	五十嵐元誠
3	四	家什の俊明(五十嵐俊明)の画山水、平安の四先生各々詩を題す。余その篋に蛇足す。	家什俊明画山水平安四先生各題詩余蛇足其篋	五十嵐俊明
『岱海堂文集二編』文化五年(1808)刊(同上)				
4	卷一	真相(相阿弥)画ける「地藏吹笛舞の直幅」に題す。	題真相画地藏吹笛舞直幅	相阿弥
5		馬麟画く所の配幅を獲。喜びて賦す。	獲馬麟所画配幅喜賦	馬麟
6		尚信(狩野尚信)画ける直幅に題す。	題尚信画直幅	狩野尚信
7	三	呉巨宝(五十嵐竹沙)、病を上池の館に移す。余もまた賤恙あり。よりにて賦して以て床蓐を慰む。	呉巨宝移病上池館余亦有賤恙因賦以慰床蓐	五十嵐竹沙
8		伏夜、浦上池の呉静所(五十嵐竹沙)、病蓐を訪む。	伏夜浦上池呉静所見訪病蓐	五十嵐竹沙
9	五下	馬麟の画幅の頌。	馬麟画幅頌	馬麟

いg・伊藤君嶺【藤(藤)士善、1747~96】

(播磨北条の人。京都で伊藤錦里に学び、娘婿となって跡を嗣いだ。福井藩儒学者。)

『自怡堂詩集』寛政七年(1795)刊(早稲田大学図書館本)				
1	卷一	夏日、巖敬甫(岩溪嵩台)と共に荷田子晟(荷田信郷)を訪う。十四寒を分韻す。	夏日与巖敬甫同訪荷田子晟分韻十四寒	岩溪嵩台
2		席上にて敬甫(岩溪嵩台)に次韻す。	席上次韻敬甫	岩溪嵩台
3	二	長島侯(増山雪斎)の独樂園に寄題す。	寄題長島侯独樂園	増山雪斎
4		岩敬甫(岩溪嵩台)、福知山に之くを送る。	送岩敬甫之福知山	岩溪嵩台
5	三	大雅山人(池大雅)を訪うに、たまたま昼眠を見る。戯れに賦す。	訪大雅山人適見昼眠賦	池大雅

いh・伊藤蘭齋【藤(藤)環夫、1728~76】

(上野厩橋の人。同藩の藩士であったが、藩主・酒井家の移封に伴い、姫路に移った。藩校・好古堂の教授となった。)

『蘭齋先生遺稿』安永六年(1777)刊(国立国会図書館本)				
1	卷一	浪華の黙隠道人(佚山)の「春日、感あるの作」に次韻す。	次韻浪華黙隠道人春日有感作	佚山
2	三	越後の五十嵐法眼(五十嵐俊明)、書画を善くし、名声甚なり。今ここに六十の初度にしてその友・高砂の迂齋翁(三浦迂齋)、寿詩を余に徵す。余、いまだ荆識を得ずといえども、いささかこれに賦して寄賀す。	越後五十嵐法眼善書画名声甚矣今茲六十初度其友高砂迂齋翁徵寿詩於余余雖未得荆識聊賦之寄賀	五十嵐俊明
3		浪華の必東泉氏(泉必東)に贈る。	贈浪華必東泉氏	泉必東
4		大坂の黙隠禪師(佚山)に和答す。	和答大坂黙隠禪師	佚山
5		浪華の佚山道人の七十を賀す。	賀浪華佚山道人七十	佚山
6	附録	画員・金有聲に寄す。	寄画員金有聲	金有聲

いi・伊東藍田【東龜年、1734~1809】

(江戸の人。祖徠の嗣養子・荻生金谷や大内熊耳に学ぶ。豊後日出十代藩主・木下俊胤に儒学者として仕えた。)

『藍田先生文集初稿』天明五年(1785)刊(岩瀬文庫本)				
1	卷一	先兄・鵬拳(菱田房行)画ける「光山霧降瀑図」に題す。	題先兄鵬拳画光山霧降瀑図	菱田房行
2	二	家大兄・鵬拳(菱田房行)、弟龜年(伊東藍田)を携え、墨水に泛舟す。田清卿を邀えて江楼に饒別す。	家大兄鵬拳携弟龜年泛舟墨水邀田清卿饒別江楼	菱田房行
3	三	葉芸閣(千葉芸閣)の徴に応じ、遙かに長島侯(増山雪斎)の独樂園に題す。	応葉芸閣徴遥題長島侯独樂園	増山雪斎
4		日出侯(木下俊胤)の命に応じ、狩柴川(狩野典信)の画蘭に題す。	応日出侯命題狩柴川画蘭	狩野典信
5		松本君祚のために宇和島公子(伊達村寿)の画に題す。	為松本君祚題宇和島公子画	伊達村寿
6		信陽の祖支師のために京の人・大雅堂(池大雅)画ける東方朔に題す。	為信陽祖支師題京人大雅堂画東方朔	池大雅
7	四	人の需めに応じて狩野女画史の写せる「王母梅の図」に題し、鳥羽侯夫人の寿詞となす。	人需題狩野女画史写王母梅図為鳥羽侯夫人寿詞	(狩野黎勢)
8	八	先考・菱田西来府君の行状。	先考菱田西来府君行状	(菱田房行)
『藍田先生文集二稿』寛政六年(1794)序跋(国立国会図書館本)				
9	卷一	鈴子述(鈴木鷗汀)画ける二卷石の図を觀る引。	觀鈴子述画二卷石図引	鈴木鷗汀
10	三	鈴鷗汀(鈴木鷗汀)の水亭。	鈴鷗汀水亭	鈴木鷗汀
11		鈴子述(鈴木鷗汀)、村上侯に従いて越後に之くを送る。	送鈴子述從村上侯之越後	鈴木鷗汀
12		需めに応じ、鈴使君(鈴木鷗汀)の画に題す。二首	應需題鈴使君画二首	鈴木鷗汀
13	四	鳥大鵬のために斗米庵(伊藤若冲)の「伏雛、菊花の下に雛を将ゆる画」に題す。	為鳥大鵬題斗米庵伏雛菊花下將雛画	伊藤若冲
14		清商・沈敬瞻(沈南蘋)の人に貽れる謝帖を觀る。元を分韻す。	觀清商沈敬瞻貽人謝帖分韻元	沈南蘋

15	四	鈴鷗汀(鈴木鷗汀)、来りて琴を鼓す。喜びて寒字を賦し得たり。	鈴鷗汀来鼓琴喜賦得寒字	鈴木鷗汀
16	六	古訓抄の序。(寛政2年)	古訓抄序	(岸熊野)
17	八	鈴子述(鈴木鷗汀)に復す。	復鈴子述	鈴木鷗汀

いj・井上金峨【井純卿、1732~84】

(常陸笠間藩士の子として江戸に生まれる。井上蘭台に学び、折衷学を唱えた。駒込に私塾を開き、門弟から山本北山や亀田鵬斎を輩出した。) →画人

『金峨先生焦余稿』寛政十二年(1800)序(関儀一郎編『日本儒林叢書』第13巻[鳳出版 1971年]所収)				
1	卷二	画則の序。	画則序	(桜井雪館)
2		画談鶏肋の序。	画談鶏肋序	(中山高陽)
3	三	仲子和(中山高陽)画ける伯牙鐘期の賛、新井子叔のためにす。	仲子和画伯牙鐘期賛为新井子叔	中山高陽
4	六	仲若水に答う。	答仲若水	(建部凌岱)
5	七	浦上君輔(浦上玉堂)に与う。	与浦上君輔	浦上玉堂

いk・井上蘭台【井子叔、1705~61】

(江戸の人。幕府儒官・林家の林鳳岡に入門する。備前岡山藩の儒学者となり、門人に井上四明、井上金峨らがあった。)

『蘭台先生遺稿』天明六年(1786)序(早稲田大学図書館本)				
1	卷三	滕予州(本多忠統)の画鶴。	滕予州画鶴	本多忠統

いi・入江若水【江子徹、樺谷山人、江山人、1671~1729】

(摂津富田の人。酒造業を営むが放蕩破産して京都に移住した。大坂の鳥山芝軒、江戸の荻生徂徠に学ぶ。)

『西山樵唱』享保十九年(1734)刊(大阪府立中之島図書館本)				
1	卷上	五城の洞巖老人(佐久間洞巖)画く所の「清平調の図」に題す。	題五城洞巖老人所画清平調図	佐久間洞巖
2		磐山藤君(伊達村泰)、印色一盒を恵さる。詩以て奉謝す。	磐山藤君見恵印色一盒詩以奉謝	伊達村泰
3	下	奥東の洞巖老人(佐久間洞巖)の寄せらるるに答う。	答奥東洞巖老人見寄	佐久間洞巖

うa・内田鶴洲【田叔明、1736~96】

(江戸の人。板倉瓊濱らに学ぶ。麻布古河に私塾を開き、諸侯に賓師として招かれた。画家の渡辺玄対はその異母弟。)

『醉客漫興集』享和二年(1802)序(東京都立中央図書館加賀文庫本)				
1	卷乾	家弟・廷輝(渡辺玄対)、相中に遊ぶを送る。三首	送家弟廷輝遊相中三首	渡辺玄対
2		七夕、弟廷輝(渡辺玄対)と対酌す。	七夕与弟廷輝对酌	渡辺玄対
3		九日、風雨、弟(渡辺玄対)と対酌し、韻を探る。	九日風雨与弟对酌探韻	渡辺玄対
4		仏心院の恢応上人、新たに一小室を構う。賦して賀す。	仏心院恢応上人新構一小室賦賀	恢応
5		季夏、諸大人および諸君子に陪して仏心精舎に遊ぶ。この日、壁上に故拾遺八巖武田公の書画を掛く。ここにおいて相共に慨嘆す。懐然として各々賦す。	季夏陪諸大人及諸君子遊仏心精舎是日也壁上掛故拾遺八巖武田公書画於是相共慨嘆懐然各賦	(恢応)
6	坤	仏心院の集にて、各々古書画を齎して同観す。時に劉元育(劉安生)、東道主となる。	仏心院集各齎古書画同觀時劉元育為東道主	(恢応) 劉安生
7		長島侯(増山雪齋)の帰藩を奉送す。	奉送長島侯帰藩	増山雪齋
8		孟冬、曹溪寺の集にて、共に亡友・筑元育(劉安生)を悼む。二首	孟冬曹溪寺集同悼亡友筑元育二首	劉安生
9		柳橋酒樓の集にて、各々古書画を齎して同観す。たまたまこの作ありて岡孔彰(岡思潜)に呈す。時に淵白亀(淵上旭江)、東道主となる。	柳橋酒樓集各齎古書画同觀偶有此作呈岡孔彰時淵白亀為東道主	淵上旭江
10		初春、仏心の恢応老師、しばらく江州に帰するを送る。便道にて西遊す。	初春送仏心恢応老師暫歸江州便道西遊	恢応
11		暮春、源叔驥(屋代鷺溪)の辛夷館の集にて、河雪亭(河島雪亭)、しばらく岐阜に帰するを餞別す。	暮春源叔驥辛夷館集餞別河雪亭暫歸岐阜	河島雪亭
12		重ねて河雪亭(河島雪亭)に別を贈る。	重贈別河雪亭	河島雪亭

うb・鶴殿士寧【鶴士寧、1710~74】

(江戸の人。服部南郭に学んだ。幕府の旗本で西の丸の御書院番士。)

『桃花園稿』天明四年(1784)刊(富士川英郎・松下忠・佐野正巳編『詩集日本漢詩』第14巻[汲古書院 1989年]所収)				
1	卷一	西良仲の宅にて服子(服部南郭)の画を觀る歌。	西良仲宅觀服子画歌	服部南郭
2	四	服翁(服部南郭)の画山。	服翁画山	服部南郭

うc・宇野明霞【宇士新、1698~1745】

(京都の人。僧大潮に師事し、のち荻生徂徠に私淑するが、病弱のため、代わりに弟・士朗を徂徠に入門させた。晩年、徂徠学を批判するに至る。)

『明霞先生遺稿』寛延元年(1748)刊(早稲田大学図書館本)				
1	卷二	嵐法眼(五十嵐浚明)、越後に還るを送る。	送嵐法眼還越後	五十嵐浚明
2		望生(望月玉蟾)の墨画水仙花に題す。	題望生墨画水仙花	望月玉蟾
3	四	嵐法橋(五十嵐浚明)の画山水に題す。	題嵐法橋画山水	五十嵐浚明
4		望玉蟾(望月玉蟾)に贈る。	贈望玉蟾	望月玉蟾
5	五	蘇子瞻(蘇軾)の「宝山昼睡の図」に題す。	題蘇子瞻宝山昼睡図	蘇軾
6		嵐法橋(五十嵐浚明)、越後に還るを送る。	送嵐法橋還越後	五十嵐浚明

えa・江村北海【江君録、1713~88】

(京都の人。越前福井藩の儒学者・伊藤龍洲の次男。月後宮津藩の儒学者となり、京邸留守居役。兄は伊藤錦里、弟は清田儉叟。)

『北海詩鈔』明和四年(1767)刊(富士川英郎・松下忠・佐野正巳編『詩集日本漢詩』第5巻[汲古書院 1985年]所収)				
1	上卷	大雅道人(池大雅)の歌。	大雅道人歌	池大雅
2	下	村中漸(村井中漸)と同じく銀閣寺に遊び、怡公を憶いて作る。	同村中漸遊銀閣寺憶怡公作	村井中漸
3		紀藩の祇師授(祇園尚濂)、時に先考・南海先生(祇園南海)を祭る。追慕之余、諸友をしてこれに詩せしむ。余もまた賦して贈る。	紀藩祇師授時祭先考南海先生追慕之余使諸友詩之余亦賦贈	祇園南海
4		百拙師の「早春」の韻に和し、戯れに師の詩體に倣う。三首	和百拙師早春韻戲倣師詩體三首	百拙元養

『北海詩鈔二編』安永四年(1775)刊(同上)				
5	卷二	仲冬、亮卿(岩垣龍溪)邀飲せらる。席上、青韻を得たり。二首 …〔余、酒觴なし。主人、特に家製の梅花醴を設く。席間に望玉蟾(望月玉蟾)の松竹屏風あり。初聯云々。〕	仲冬亮卿邀飲席上得青韻二首 …〔余無酒觴主人特設家製梅花醴席間有望玉蟾松竹屏風初聯云々〕	望月玉蟾
6		郡山の客中、柳大夫(柳沢淇園)の席上にて永伯綱(永原南山)に次韻す。	郡山客中柳大夫席上次韻永伯綱	柳沢淇園
7	五	噲々生(佐竹噲々)の奮めに応ず。	応噲々生奮	佐竹噲々
『北海詩鈔三編』天明二年(1782)刊(同上)				
8	卷二	郡山の原伯綱(永原南山)の宅にて柳大夫(柳沢淇園)に邂逅す。席上、紅字を得たり。	郡山原伯綱宅邂逅柳大夫席上得紅字	柳沢淇園
9	五	嵐子勉(五十嵐元誠)、南紀に赴くを送る。	送嵐子勉赴南紀	五十嵐元誠
『北海先生文鈔』天明六年(1786)刊(大阪府立中之島図書館本)				
10	卷中	筠圃帖の跋。	筠圃帖跋	宮崎筠圃
11		京拱図画卷の題言。	京拱図画卷題言	(宮地敬之)
12	下	趙子昂(趙孟頫)の「百醉の図」の記。	趙子昂百醉図記	趙孟頫

おa・大内熊耳【余子綽、1697～1776】

(陸奥三春の人。江戸で秋本澗園、荻生徂徠、服部南部に学んで、浅草に私塾を開いた。肥前唐津藩儒学者。)

『熊耳先生文集』寛政九年(1797)刊(早稲田大学図書館本)				
1	卷一	莊子謙(莊田豊城)、芙蓉に遊び、因して帰る。同に題して賦す。	莊子謙芙蓉園而帰同題賦	莊田豊城
2	二	暑雨、服仲山(服部仲山)、菅習之(秋元小丘園)、林大豊と同じく緑山に遊ぶ。了庵上人、鸞山、俊霊の二上人と迎えらる。	暑雨同服仲山菅習之林大豊遊緑山了庵上人与鸞山俊霊二上人見迎	鸞山
3	十二	南郭先生(服部南郭)の画馬図に題す。	題南郭先生画馬図	服部南郭
4		莊子謙(莊田豊城)の芙蓉図巻の後に題す。	題莊子謙芙蓉図巻後	莊田豊城
5	十六	泉谷の忠頼上人に与う。	与泉谷忠頼上人	(鸞山)

おb・大江玄圃【田晋卿、江禪圭、1729～94】

(京都の人。儒学を龍草庵や岡白駒に学び、書を宮崎筠圃に学んだ。大理寺属司(検非違使庁役人)とされ、私塾・時習堂を開いて業とした。)

『玄圃集』明和六年(1769)刊(大阪府立中之島図書館本)				
1	卷一	豊城太守の墨竹の歌。	豊城太守墨竹歌	(奥平昌鹿)
2		棟棠館の歌。長禹功(長谷川青楓)に贈る。	棟棠館歌贈長禹功	長谷川青楓
3	三	屈子頌画ける「白鶴瀑布の図」に題し、子頌に寄す。〔九佳を得たり。〕	題屈子頌画白鶴瀑布図寄子頌〔得九佳〕	屈子頌
4		舟飛脚画ける「薔薇の図」に題す。	題舟飛脚画薔薇図	舟飛脚
5		月夜、仲延冲(中山高陽)に寄懐す。〔仲は土左の人なり。時に江都に在り。〕	月夜寄懐仲延冲〔仲土左人時在于江都〕	中山高陽
6	四	清人・大鵬禪師に呈す。	呈清人大鵬禪師	大鵬正鯤
7		舟飛脚の寄せらるるに酬ゆ。	酬舟飛脚見寄	舟飛脚
8		中秋の無月、藤子冬(藤原貞幹)、瀬明卿、證覚師と同じく賦す。十一尤を得たり。〔瀬明卿の賞月楼の集にて。〕	中秋無月同藤子冬瀬明卿證覚師賦得十一尤〔瀬明卿賞月楼集〕	證覚
9	五	仲延冲(中山高陽)画ける「晴竹の図」に題す。	題仲延冲画晴竹図	中山高陽
10		仲延冲(中山高陽)、江都に之くを送る。	送仲延冲之江都	中山高陽
11		安子深のために滄景雲の画山水に題す。	為安子深題滄景雲画山水	村田龍亭か
12		舟飛脚の宅集にて、分題して「羽林騎の閑人」を得たり。	舟飛脚宅集分題得羽林騎閑人	舟飛脚
13		源遷夫、熊子立、谷純卿、證覚師と同じく武陵亭に遊ぶ。	同源遷夫熊子立谷純卿證覚師遊武陵亭	證覚
『玄圃集二編』天明二年(1782)刊(同上)				
14	卷一	丹青の引。秦生に贈る。〔名は重雄。〕	丹青引贈秦生〔名重雄〕	秦重雄
15	二	巖溪敬甫(岩溪嵩台)、箴仕して福知山に之くを送る。〔名は恭、嵩台と号す。〕	送巖溪敬甫箴仕之福知山〔名恭号嵩台〕	岩溪嵩台
16	三	長禹功(長谷川青楓)を哭す。〔長、名は公勲、伏見の人なり。詩並びに画をよくす。かつて僧となり、名を買山と更むも、いくばくもなく還俗す。余の家に禹功の画教幅を蔵む。故に句中、これに併及す。〕	哭長禹功〔長名公勲伏見人能詩并画嘗為僧更名買山無何還俗余家藏禹功画教幅故句中併及之〕	長谷川青楓
17		平君栗(下郷学海)に至る。喜びて賦す。〔名は寛、尾張鳴海の人なり。〕	平君栗至喜賦〔名寛尾張鳴海人〕	下郷学海
18		嵐子勉(五十嵐元誠)画ける「山水の図」に題す。〔名は元誠、越後新潟の人なり。〕	題嵐子勉画山水図〔名元誠越後新潟人〕	五十嵐元誠
19	四	江州の湛空上人(玉翁)、法を禪林精舎に講す。これを賦して寄贈す。	江州湛空上人講法于禪林精舎賦此寄贈	玉翁
20	五	郡山侯源公(柳沢伊信)画ける「花鳥の図」に題す。	題郡山侯源公画花鳥図	柳沢伊信
21		藤仲選(門山応挙)に寄す。〔名は応挙、族は門山氏、平安の人なり。〕	寄藤仲選〔名応挙族門山氏平安人〕	門山応挙
22		遙かに嵐子勉(五十嵐元誠)の「徐福の墓を經るの作」に同ず。〔墓は紀州熊野秦洲に在り。蓬萊山も同処に在り。〕	遙同嵐子勉經徐福墓之作〔墓在紀州熊野秦洲蓬萊山在同処〕	五十嵐元誠

おc・大城壺梁【城文卿、1741～1811】

(肥後熊本の人。秋山玉山に学び、熊本藩校・時習館の助教となった。のち、師・秋山玉山に学んだ徂徠学から、朱子学に転じた。)

『壺梁先生遺稿』天保九年(1838)跋(古畑貞吉・宇野東風・武藤巖男編『肥後文献叢書』第2巻[隆文館 1909年]所収)				
1	卷一	潮師(大潮)蔵する所の「台嶽の図」に題す。	題潮師所蔵台嶽図	(江稼園)
2	二	南筑の樺生(樺島石梁)、富岳に登りて雪水を携えて帰り、工に命じてこれを図せしむ。余、よりにてその上に題す。	南筑樺生登富岳携雪水帰命工図之余因題其上	(三谷映信)
3	三	画師・芙蓉山人(鈴木芙蓉)に贈る。	贈画師芙蓉山人	鈴木芙蓉
4		春日、麓谷山人(谷麓谷)に過る。山人、詩賦を善くす。令嗣・文晁(谷文晁)は画師を以て聞ゆ。よりにて賦す。	春日過麓谷山人山人善詩賦令嗣文晁以画師聞因賦	谷文晁
5		柴先生(柴野栗山)および芙蓉山人(鈴木芙蓉)と同じく三匠祠に遊ぶ。一先を得たり。	同柴先生及芙蓉山人遊三匠祠得一先	鈴木芙蓉

6	四	僧雪舟の「芙蓉の図」に題す。	題僧雪舟芙蓉図	雪舟
7	七	墨君徹(住江滄浪)の書画の軸の跋。	墨君徹書画軸跋	住江滄浪
8		吳道玄の画龍に跋す。	跋吳道玄画龍	吳道玄
9		夷酋列像の跋。(寛政12年)	夷酋列像跋	(崎波響)

おd・大久保忠休【狹南山人、1737~1809】

(江戸の人。大内熊耳に学ぶ。幕府の旗本で西の丸の御書院番土。)

【狹南集】文化二年(1805)序跋(早稲田大学図書館本)				
1	卷一	岡君亭(岡岷山)画ける「蜀道の図」に題す。	題岡君亭画蜀道図	岡岷山
2	三	小島氏の額の記事、並びに詩。(寛政4年)	小島氏額記并詩	(宋紫石)
3		神農の画像の記事。(享和元年)	神農画像記	(加藤信清)
4	四	達子翰に代りて画師常名に与う。	代達子翰与画師常名	常名

おe・大田南畝【田子租、1749~1823】

(江戸の人。松崎観海らに学ぶ。幕府の御家人(御徒)で、戯作や狂歌で名を成す。幕府の人材登用によって大坂銀座、長崎奉行出役を歴任した。)

【杏園詩集】文政三年(1820)刊(富士川英郎・松下忠・佐野正巳編『詩集日本漢詩』第7巻[汲古書院 1987年]所収)				
1	卷一	春夜、土訓(山内穆亭)、道甫(朱楽菅江)、河惟寅、野美脚(水野廬朝)と同じく蘇百順に宴す。	春夜同上土訓道甫河惟寅野美脚宴蘇百順	水野廬朝
2		七夕、井玄里、関叔成(菊池衡岳)、大久君節(久保筑水)、山道甫(朱楽菅江)、山士訓(山内穆亭)、島子諒、蘇百順、野美脚(水野廬朝)、河益之、辺公僚(渡辺鳳来)、栗士弘と同じく、元石師の水月庵に集す。	七夕同井玄里関叔成大久君節山道甫山士訓島子諒蘇百順野美脚河益之辺公僚栗士弘集元石師水月庵	水野廬朝 河益之 渡辺鳳来
3		中秋、井玄里、大久君節(久保筑水)、山道甫(朱楽菅江)、山士訓(山内穆亭)、蘇百順、河益之、辺公僚(渡辺鳳来)、栗士弘と同じく、高田に郊行し、鼠山に至りて作る。十首	中秋同井玄里大久君節山道甫山士訓蘇百順河益之辺公僚栗士弘高田郊行至鼠山作十首	河益之 渡辺鳳来
4	二	九月十日、公修(岡部四溟)、叔成(菊池衡岳)と同じく、白貫墅を尋ぬ。[墅は東都城西渋谷村に在り。もと南郭先生(服部南郭)の宮む所なり。壁上に忍海上人の画猿鶴あり。]	九月十日同公修叔成尋白貫墅[墅は東都城西渋谷村旧南郭先生所宮む也壁上有忍海上人画猿鶴]	忍海
5		七夕、山士訓(山内穆亭)、山道甫(朱楽菅江)、野美脚(水野廬朝)諸子と同じく、高田に遊ぶ。感あり。	七夕同山士訓山道甫野美脚諸子遊高田有感	水野廬朝
6		余、島石山人(松下島石)の名を聞くこと久し。香山師(玄海香山)および河子昌(河原保寿)、竹岡子益に見ゆるに及び、山人の山人たるに熟してその瀟灑拔俗の標を想見す。今歳、山人甫めて八十、四方の士みな賀す。余もまた香山師によりて一詩を致し、もって華封の祝に代え、かつ景慕の意を寓して云う。	余聞島石山人之名久矣及見香山師及河子昌竹岡子益熟山人之為山人而想見其瀟灑拔俗之標矣今歳山人甫八十四方之士皆賀余亦因香山師致一詩以代華封之祝且寓景慕之意云	河原保寿
7		河子昌(河原保寿)先生を哭す。… [先生、麴坊に居す。坊、一に星岡と名づく。居する所、「采真」の字を掲ぐ。]	哭河子昌先生… [先生居麴坊坊一名星岡所居掲采真字]	河原保寿

おf・大竹東海【岳子陽、1735~1803】

(三河宝飯の人。江戸で大内熊耳に学ぶ。一時、備中足守藩の若き藩主・木下利彪に招かれ、三年ほど詩文を教授した。)

【岳東海先生文稿上篇】天明五年(1785)刊(早稲田大学図書館本)				
1	卷七	岳子蕩(大竹麻谷)の宅にて、辺廷輝(渡辺玄対)の墨画山水を観る。よりて賦して贈る。	岳子蕩宅親邊廷輝墨画山水因賦贈	渡辺玄対
2	八	劉玄育(劉安生)のために大翁の紫陽に還るを送る。兼ねて七十の初度を寿す。	為劉玄育送大翁還紫陽兼寿七十初度	劉安生
3	十	田白駒、「岳城山出雲の図」を写寄せらるるに酬ゆ。	酬田白駒写寄岳城山出雲図	田白駒
4		大夢山人・田白駒に寄せて「山水の図」を畫む。	寄大夢山人田白駒畫山水図	田白駒
【岳東海先生文稿下篇】文化四年(1807)序(東京都立中央図書館加賀文庫本)				
5	卷一	繡江(熊斐)の画禽譜の序。	繡江画禽譜序	(森五石) 熊斐
6	三	沢白華の画蘭の賛。	沢白華画蘭賛	沢白華
7		地球全図に題す。	題地球全図	(司馬江漢)
8	六	初秋、辺廷輝(渡辺玄対)、東江寺に晝を避く。招かるるも至るを得ず。	初秋辺廷輝避暑東江寺見招不得至	渡辺玄対
9		「岳城出雲の図」に題す。	題岳城出雲図	(田白駒)
10		閑鷗翁、写する所の「陶淵明、菊を採る図」に題す。	題閑鷗翁所写陶淵明採菊図	閑鷗
11	十	黒宮雲卿の「岡山の紀生(浦上玉堂)の弹琴を聴くの作」に和す。	和黒宮雲卿聽岡山紀生弹琴作	浦上玉堂
12		平君冑(鑄木梅溪)、「麻姑の図」を画き、宗幽公のために寿す。その需めに応じてその図に題す。	平君冑画麻姑図為宗幽公寿其需題其図	鑄木梅溪

おg・岡雀汀【岡元齡、1736~1811】

(備中倉敷の人。農家の出身で、同族の岡雲臥に学ぶ。京都で江村北海や龍草廬、大坂で葛子琴や頼春水らに交わった。)

【雀汀吟稿】文政六年(1823)刊(国立国会図書館本)				
1	卷一	南海の田子良に贈る。	贈南海田子良	黒田綾山か
2		歳晩、林士徳、梅花一枝、鯉魚双尾を贈らるるに賦して謝す。時に南海の田子良、坐に在り。	歳晩林士徳見贈梅花一枝鯉魚双尾賦謝時南海田子良在坐	黒田綾山か
3		弟延年画ける「曼倩、桃を偷むの図」に題し、菅礼卿(菅茶山)の家翁七十を寿す。	題弟延年画曼倩偷桃图寿菅礼卿家翁七十	岡延年
4	二	九月十三夜、拙斎(西山拙斎)翁及び諸子と同じく弟延年の宅に集す。四支を得たり。	九月十三夜同拙斎翁及諸子集弟延年宅得四支	岡延年
5		弟延年画ける「山水の図」に題す。浪華の森表兄の需めに応ず。	題弟延年画山水图应浪華森表兄需	岡延年
6		重陽の夜、諸君と同じく弟延年の宅に集す。韻を限る。	重陽夜同諸君集弟延年宅限韻	岡延年
7		織田子猛(縫殿助岐山)の内人(織田琴々)画ける「白桜花の図」に題す。	題織田子猛内人画白桜花図	織田琴々
8		自得山人(平松曼谷)、九州に遊ぶを送る。	送自得山人遊九州	平松曼谷

9	三	弟延年画ける「老小町の図」に題す。	題弟延年画老小町図	岡延年
10		四明先生(井上四明)の七十を寿す。弟延年に命じて「劉阮采薬の図」一幅を画かしめ、併せて贈る。	寿四明先生七十命弟延年画劉阮采薬図一幅併贈	岡延年

おh・岡崎廬門【平師古、1734~87】

(京都の人。龍草廬に学ぶ。綾小路黒門下町で私塾を開き、子弟を教授した。)

『廬門先生集初編』安永六年(1777)刊(国立国会図書館本)				
1	卷三	魏子明(鉅鹿民部)、長崎に帰るを送る。[子明、名は皓、明朝の楽を善くす。]	送魏子明帰長崎[子明名皓善明朝楽]	鉅鹿民部
2		秋日、龍子春(龍玉淵)に寄す。	秋日寄龍子春	龍玉淵
3	四	秋日、龍子春(龍玉淵)に寄す。	秋日寄龍子春	龍玉淵
4		売酒の佐応謙(佐竹喰々)に寄す。	寄売酒佐応謙	佐竹喰々

おi・岡田鶴鶴【岡士聞・生没年未詳(18世紀後半)】

(河内交野の人。旗本水野忠敬の家臣で、その采地であった交野坂村の宰。江村北海らに学んだ。片野神社の宮司を兼ねたといわれる。)

『鶴鳴文鈔』寛政十二年(1800)刊(大阪府立中之島図書館本)				
1	卷下	画竹の引。	画竹引	(土岐清美) (円山応挙)
2		画の説。若冲道人(伊藤若冲)に贈る。	画説贈若冲道人	伊藤若冲

おj・岡田新川【岡挺之、1737~99】

(尾張名古屋の人。同藩の藩士・松平君山に学び、藩校明倫堂の教授、督学となった。)

『響園詩草』(刈谷市中央図書館村上文庫本)				
1	卷一	伊君祥、余のために「蜀道の図」を写す。	伊君祥為余写蜀道図	伊君祥
2		画に題す。	題画	(内藤東甫)
3		霞樵(池大雅)の「富士の図」に題す。	題霞樵富士図	池大雅
4	二	子和(青生東谿)に過る。	過子和	青生東谿
5		季文(中野龍田)に寄す。	寄季文	中野龍田
6		京師災の後、季文(中野龍田)郷に回り、過訪す。	京師災後季文回郷過訪	中野龍田
7		季文(中野龍田)、叔建(奥田嵩谷)、南野に遊ぶを送る。	送季文叔建遊南野	中野龍田
8		季文(中野龍田)を饒る。	饒季文	中野龍田
9	三	季文(中野龍田)に寄す。	寄季文	中野龍田
10		季文(中野龍田)、郷に帰りて親の病を省る。よりて過訪す。	季文帰郷省親病因過訪	中野龍田
11		季文(中野龍田)を送る。	送季文	中野龍田
12		望東楼にて、季文(中野龍田)の韻に和す。	望東楼和季文韻	中野龍田
13	四	季文(中野龍田)、婦を納る。	季文納婦	中野龍田
14		三日、青生子和(青生東谿)に集す。	三日集青生子和	青生東谿
15		中元、伊君祥を訪う。	中元訪伊君祥	伊君祥
16		季文(中野龍田)に和答す。	和答季文	中野龍田
17		鸞山の墨菊。	鸞山墨菊	鸞山
18		西河氏の画竹に題す。	題西河氏画竹	西河九松か
19		瀬木公醇の画馬に題す。	題瀬木公醇画馬	瀬木公醇
20	五	清狂(西村清狂)画ける「列仙の図」。	清狂画列仙図	西村清狂
21		子和(青生東谿)、写せる松に題す。	題子和写松	青生東谿
22		伊君祥の「山水の図」に題す。	題伊君祥山水図	伊君祥
『新川集』明和七年(1770)序(同上)				
23	卷二	木文熙(鈴木芙蓉)に寄す。	寄木文熙	鈴木芙蓉
24		西河氏(西河九松)の小女(西河璃琪)の画蒲桃に題す。	題西河氏小女画蒲桃	西河璃琪
25		猷山(青山猷山)の「美人の図」に題す。	題猷山美人図	青山猷山

おk・岡田南山【岡君章、1742~1810】

(阿波徳島の人で、同藩の藩士。大坂藩邸詰で、片山北海に学んだ。書画にも長じた。)→画人

『半間園遺稿』文化十一年(1814)序(野間光辰監修『近世文芸叢刊 第8巻 浪華混沌社集』[1969年]所収)				
1		郡山侯(柳沢伊信)の「花馬の図」を奉観す。	奉観郡山侯花馬図	柳沢伊信
2		嵐子勉(五十嵐元誠)、越後に還るを送る。	送嵐子勉還越後	五十嵐元誠
3		戊午(寛政10年)の小春、清音亭の小集にて東讀の竹石散人(長町竹石)に邂逅し、これを賦して贈る。歌韻を得たり。	戊午小春清音亭小集邂逅東讀竹石散人賦此贈得歌韻	長町竹石
4		葛子琴、頼千秋(頼春水)、福大初(福原五岳)、艸堂に枉せらる。	葛子琴頼千秋福大初見枉艸堂	福原五岳
5		早春、白芝山(白川芝山)の平安に還るを送り、兼ねて五岳山人(福原五岳)に寄す。	早春送白芝山還平安兼寄五岳山人	白川芝山 福原五岳

おl・荻生徂徠【物茂卿、1666~1728】

(上野館林藩士の子として江戸に生まれる。武蔵川越藩主・柳沢吉保に仕え、茅場町に私塾・龍岡を開いて古文辞学を唱えた。日本儒学に新風を起す。)

『徂徠集』元文元年(1736)序(富士川英郎・松下忠・佐野正巳編『詩集日本漢詩』第3巻[汲古書院 1986年]所収)				
1	卷一	嶺南侯(本多忠統)の画に題す。二首	題嶺南侯画二首	本多忠統
2		子寛(伊達村泰)の「蒲桃の画」に題す。子寛は奥藩の公族にして巖提山に食采す。	題子寛蒲桃画子寛奥藩公族食采巖提山	伊達村泰
3		最玄洲(朝比奈玄洲)のために仇実父(仇英)の画の後に題す。	為最玄洲題仇実父画後	仇英
4		墨君徽(住江滄浪)に謝す。	謝墨君徽	住江滄浪
5		墨君徽(住江滄浪)に贈る歌。	贈墨君徽歌	住江滄浪

6	一	盤山君(伊達村泰)の画を謝す。	謝盤山君画	伊達村泰
7		張僧繇の「翠嶂瑤林の図」を觀る歌。	觀張僧繇翠嶂瑤林図歌	張僧繇
8	四	君徽(住江滄浪)の寄せらるるに次韻し、よりて以て贈となす。	次韻君徽見寄因以為贈	住江滄浪
9	六	余、五十なり。五城の左容翁(佐久間洞巖)、詩を恵さる。侑むるに三物を以てす。仙台は地、靈。ゆえにまさにこの風流の人あるべし。千里の思に勝えず。併せてその近作共に四首に和してこれに酬ゆ。あに謝すると云わんか。…〔右は王元美の墨蹟に謝す〕…〔右は自製の松島の図に謝す〕	余五十也五城左容翁惠詩侑以三物仙台地靈故當有此風流人矣不勝千里之思併和其近作共四首酬之豈謝云乎哉…〔右謝王元美墨蹟〕…〔右謝自製松島圖〕	佐久間洞巖
10	七	左子巖(佐久間洞巖)に寄す。	寄左子巖	佐久間洞巖
11		墨君徽(住江滄浪)の「留別」の韻に和し、却寄す。三首	和墨君徽留別韻却寄三首	住江滄浪
12		秋日、蓮光精舎に遊び、多字を得たり。子遷(服部南郭)、壁上に刺溪を画く。	秋日遊蓮光精舎得多字子遷壁上画刺溪	服部南郭
13		墨君徽(住江滄浪)に寄す。	寄墨君徽	住江滄浪
14	十	左子巖(佐久間洞巖)を送る序。	送左子巖序	佐久間洞巖
15	十五	峡中紀行(宝永3年)	峡中紀行	(牧谿「羅漢図」) (可翁「海島大士像」) (向嶽寺・達磨大師像)
16	十八	墨君徽(住江滄浪)画ける岳陽樓の跋。	墨君徽画岳陽樓跋	住江滄浪
17		梁楷の「蠶桑の図」を摹せるに跋す。	跋摹梁楷蠶桑図	本多忠統
18	二十	猗蘭侯(本多忠統)に与う。	与猗蘭侯	本多忠統 (文徵明) (仇英)
19	二十二	晁玄洲(朝比奈玄洲)に復す。	復晁玄洲	(仇英「孔子像」)
20	二十四	墨君徽(住江滄浪)に与う。	与墨君徽	住江滄浪
21	二十五	佐子巖(佐久間洞巖)に与う。	与佐子巖	佐久間洞巖
22	二十七	左物真(佐々木縮往)に与う。	与左物真	佐々木縮往
23	三十	独麟禪師に復す。	復独麟禪師	独麟 (伊達村泰)

おm・小田穀山【田子文、1740~1804】

(越後の人。江戸で片山兼山に学ぶ。播磨龍野藩・脇坂氏、下野壬生藩・鳥居氏に賓師として招かれた。)

『穀山先生詩文集』寛政十一年(1799)刊(国立国会図書館本)			
1	詩集	河保寿(河原保寿)の画に題す。	題河保寿画
2	文集	徳世子の間に報す。	報徳世子間 (河原保寿)

おn・越智雲夢【越君瑞、1686~1746】

(江戸の人。幕府医官・曲直瀬平庵の子として生まれ、家業を嗣いだ。荻生徂徠に学び、服部南郭、平野金華、本多忠統らと情交厚かった。)

『懷仙樓集』寛政十二年(1800)跋(国立国会図書館本)			
1	卷六	服先生(服部南郭)、「岳陽樓の図」に題するを觀る。	觀服先生題岳陽樓図
2	八	烏石山人(松下烏石)の「見懷」に和答す。向きに約する所の柱額、山人の幽蘭の画並びに賛辞、投贈せらる。よりてこれに及ぶ。二首	和答烏石山人見懷向所約柱額山人幽蘭之画并賛辞見投贈因及之二首
3	十	子式(高野蘭亭)に与う。	与子式 (服部南郭「雪中白鷺図」)

かa・陰山豊洲【陰文熙、1750~1808】

(阿波徳島藩士の子として江戸に生まれる。大竹麻谷に学び、のちに河内狭山藩の儒学者となった。)

『松桂园詩集』文化三年(1806)刊(国立公文書館内閣文庫本)			
1	卷三	春日、古梁尊者の書及び詩画を得。これを賦して却寄す。	春日得古梁尊者書及詩画賦此却寄
2	四	仏心院の集にて、齋す所の古書画を同觀す。	仏心院集同觀所齋古書画
3	五	玄対居の集にて、服鴻谷の遺稿を読む。感あり。	玄対居集讀服鴻谷遺稿有感
4		長島侯(増山雪斎)の独楽園に寄題す。二首	寄題長島侯独楽園二首
5		早秋、墨水の薬王殿にて、辺廷輝(渡辺玄対)、書画会を設く。賦して呈す。	早秋墨水薬王殿辺廷輝設書画会賦呈
6		木子述(鈴木鷗汀)の水明館、落成す。賦して贈る。	木子述水明館落成賦贈
7		春晚、福士行、予輩を陶丘の市樓に邀宴せらる。賦して謝す。	春晚福士行邀宴予輩於陶丘市樓賦謝
8		光明寺を咏ず。〔並びに序。〕	詠光明寺〔并序〕
9		秋日、鈴子述(鈴木鷗汀)の水明書屋に集す。〔分韻して徴を得たり。〕	秋日集鈴子述水明書屋〔分韻得徴〕
10		首春、白賁塾の集。〔壁画の猿鶴。〕	首春白賁塾集〔壁画猿鶴〕
11		陶丘田生(内田陶丘)の風簷館、新たに成る。これを賦して賀となす。	陶丘田生風簷館新成賦此為賀
12	六	貞上人の逝を聞く。いささか三絶を賦して瑞林尊者及び辺廷輝(渡辺玄対)に呈す。	聞貞上人逝聊賦三絶呈瑞林尊者及辺廷輝
13		伯諧、酒盞を恵さる。報ずるに画梅を以てす。	伯諧惠酒盞報以画梅
14	七	辺廷輝(渡辺玄対)の大甗人の寿筵にて桃花を贈り、係くるに詩を以てす。	辺廷輝大甗人壽筵贈桃花係以詩
15		玄対山人(渡辺玄対)、まさに熱海に赴かんとす。別れに臨みて一絶を賦し、いささか遙想の意を寓す。	玄対山人將赴熱海臨別賦一絶聊寓遙想之意
16		八月二日、感を書して辺廷輝(渡辺玄対)に贈る。〔時に湊水翁(渡辺湊水)の三十三回の忌辰なり。〕	八月二日書感贈辺廷輝〔時湊水翁三十三回忌辰〕

かb・葛城森庵【葛子琴、1739～84】

(大坂の人。菅甘谷、兄楽郊から徂徠学を学び、医を業とした。片山北海の混沌詩社に参加した。)

『葛子琴詩抄』写本(野間光辰監修『近世文芸叢刊 第8巻 浪華混沌詩社集』[1969年]所収)			
1	卷二	人日、清静処(片山北海)の集會にて、西孟清(西村孟清)齋す所の洞庭園巻を觀る行。	人日清静処集會觀西孟清所齋洞庭園巻行 (池大雅)
2		重ねて「洞庭の園」に題す。	重題洞庭園 (池大雅)
3		冬夜、懷徳堂の集にて、錢叔宝(錢穀)の「書画樂志論の図」を觀る引。	冬夜懷徳堂集觀錢叔宝書画樂志論圖引 錢穀
4	三	加州の阮康侯(苧蘿山人)至る。[画を善くす。]	加州阮康侯至[善画] 苧蘿山人
5		福太初(福原五岳)、訪われて小飲す。體を限る。	福太初見訪小飲限體 福原五岳
6		九日雨、青松院の席間にて君章(岡田南山)に贈る。	九日雨青松院席間贈君章 岡田南山
7	四	岡君章(岡田南山)の父母六秩の双寿。諸子を蟹島の酒樓に邀え、予もまた与る。実に二月旬又四日なり。	岡君章父母六秩双寿邀諸子于蟹島酒樓予亦与焉実二月旬又四日也 岡田南山
8	五	錢必東(泉必東)を哭す。[書を善くし、女蘿館と号す。]	哭錢必東[善書号女蘿館] 泉必東
9	七	岡君章(岡田南山)の抱翠閣に寄題す。	寄題岡君章抱翠閣 岡田南山
10		嵐子勉(五十嵐元誠)の帰郷を送る。	送嵐子勉帰郷 五十嵐元誠
『葛子琴詩』写本(同上)			
11		清明、福太初(福原五岳)、頼松年(頼春風)二賢の至るを喜ぶ。烟字を得たり。[庚寅(明和7年)]	清明喜福太初頼松年二賢至得烟字[庚寅] 福原五岳
12		頼千秋(頼春水)、趙陶齋先生の宅に集飲するを聞き、追いて至る。[己丑(明和6年)]	聞頼千秋集飲趙陶齋先生宅追至[己丑] 趙陶齋
13		苧蘿山人の留宿を訪う。[北山に遊ぶ路上の雜興。三首 己亥(安永8年)]	訪苧蘿山人留宿[遊北山路上雜興三首己亥] 苧蘿山人
『葛子琴詩稿』写本(同上)			
14		[己亥(安永8年)] 重陽前一夕、池田に宿す。翌、まさに苧蘿山人を訪わんとするも果たさず。賦して寄す。	[己亥]重陽前一夕宿池田翌訪苧蘿山人不果賦寄 苧蘿山人

かc・樺島石梁【樺世儀、1754～1827】

(筑後久留米の人。江戸で細井平洲に学ぶ。久留米藩藩校・明善堂の教授となった。)

『石梁文集』文化十五年(1818)序跋(早稲田大学図書館本)			
1	卷一	春日、仏心院の集。時に狀邸上人まさに筑紫に遊ばんとし、峴岨上人(古梁峴岨)まさに仙台に還らんとす。韻を分かたず。	春日仏心院集時狀邸上人將遊筑紫峴岨上人將還仙台分韻 峴岨
2		亡師・紀子(細井平洲)の画に題す。	題亡師紀子画 細井平洲
3	二	「月落潮平の図」に題し、台山翁(広瀬台山)の帰隱を送る。	題月落潮平圖送台山翁帰隱 広瀬台山
4		台山翁(広瀬台山)の三物(劍、鬚、婦)を賦してこれに贈る。	賦台山翁三物贈之 広瀬台山
5	三	法眼狩永錫(三谷映信)の大猷人八十八寿の序。	法眼狩永錫大猷人八十八寿序 三谷映信
6		神保士廉(神保蘭室)の七十を寿する序。	寿神保士廉七十序 (有馬照長「模雪舟筆薩埵富士図」)
7		夢の記。(寛政元年)	夢記 (三谷映信)
8		富士の画の記。	富士画記 (三谷映信)
9	四	文文山の肖像に題す。	題文文山肖像 (三谷映信)
10	五	二銘[並びに序。](享和元年)	二銘[并序] (細井平洲「李白觀瀑図」)
『石梁文集後編』文政八年(1825)刊(同上)			
11	卷一	臘月念六、豊洲(泉豊洲)、龍渚(介成龍渚)、玉堂(浦上玉堂)、清士鐸、鈴士徳等凡そ二十人、邸舎に集す。喜びて賦す。	臘月念六豊洲龍渚玉堂清士鐸鈴士徳等凡二十人集邸舎喜賦 浦上玉堂
12		備後の菅茶山の「春川釣魚の図」に題す。	題備後菅茶山春川釣魚図 菅茶山
13		詩聖堂(大窪詩仏)の集にて、主人の画竹に題す。	詩聖堂集題主人画竹 大窪詩仏
14		永錫(三谷映信)の遺堂の集。期は明日に在り。夜賦す。	永錫遺堂集期在明日夜賦 三谷映信
15	三	奥海仙舟の後に題す。	題奥海仙舟後 (祇園南海「玉津島詩画」)(細井平洲)
16	五	東肥の教授・辛伯彝(辛島塩井)に与う。(文政3年)	与東肥教授辛伯彝 (鈴木芙蓉)
17		狩永錫(三谷映信)、日光山に遊ぶを送る序。	送狩永錫遊日光山序 三谷映信
18		鷺伯経に与う。	与鷺伯経 (三谷映信)「文文山像」)

かd・亀田鵬斎【1752～1826】

(江戸の人。井上金峨に学ぶ。折衷学の立場から、寛政異学の禁に異を唱えたことで知られる。) →画人

『鵬斎先生詩鈔』文政五年(1822)刊(杉村英治編『亀田鵬斎詩文・書画集』[三樹書房 1982年]所収)			
1	卷二	先師の「秋江独釣の図」に題す。先師・金峯山人(井上金峨)、天趣甚だ高く、胸懐灑落なり。ここを以て絵事すこぶる奇古たり。しかして談経の暇、いささか清興を寄するのみ。先師即世、今を距つこと十有七年、この図を披きてこれを觀れば、当日の風度、宛然として目に在り。仰止の至にして感慨に勝えず。よってこの絶を題し、并せて數語を末に識す。	題先師秋江独釣図 先師金峯山人天趣甚高胸懐灑落是以絵事頗奇古矣而談経之暇聊寄清興焉耳先師即世距今十有七年披此圖而觀之当日風度宛然在目仰止之至不勝感慨因題此絶并識數語於末 井上金峨
2		自ら画に題す。	自題画 自画
3	補遺	竹洞(中林竹洞)の「山水暁景の図」に題す。	題竹洞山水暁景図 中林竹洞
『善身堂詩鈔』天保七年(1836)刊(同上)			
4		千曲川を濟り、呉静所(五十嵐竹沙)を懷う。	濟千曲川懷吳静所 五十嵐竹沙
5		銅雲泉に留別す。	留別銅雲泉 銅雲泉

6		淇園の画山に題す。	題淇園画山	柳沢か皆川か
7		胸中山の画巻、新たに成る。よりにて自ら題す。	胸中山画巻新成因自題	自画
8		谷文晁の画山水に題す。	題谷文晁画山水	谷文晁
『鵬齋先生文鈔』文政十一年(1828)刊(同上)				
9	卷上	醉芙蓉の序。	醉芙蓉序	(鈴木芙蓉)

かe・香山適園【香吉甫、香山大学、1749~95】

(京都の人。武田梅龍、江村北海らに学ぶ。妙法院宮・真仁法親王に侍読として仕えた。)

『東隴庵集』寛政四年(1792)刊(東京都立中央図書館加賀文庫本)				
1	卷一	甲午(安永3年)の春、伊齋に遊びて磯山の鸚鵡石に攀らんと欲するも、大雨にて到るを得ず。帰後、池大雅、ために図を写して贈らる。詩以てこれを謝す。	甲午春遊伊齋欲攀磯山鸚鵡石大雨不得到帰後池大雅為写図見贈詩以謝之	池大雅
2	三	秋日、大雅堂(池大雅)に過る。感ありて賦す。[堂は双林寺の前に在り。]	秋日過大雅堂有感賦[堂在双林寺前]	池大雅
3		東山画史・池貸成(池大雅)の挽詞。[池、常に云えらく、東山峯巒はこれ吾が家の粉本なりと。]	東山画史池貸成挽詞[池常云東山峯巒是吾家之粉本也]	池大雅
4		秋日、北海先生(江村北海)、巖孟厚(岩垣龍溪)、袖仲素(袖木綿山)、賀伯魏(太田玩鶴)、永俊平(永田親鶴)、巖敬市(岩溪嵩台)と同じく東山に集し、龍岬廬の彦根に還るを送る。	秋日同北海先生巖孟厚袖仲素賀伯魏永俊平巖敬市集東山送龍岬廬彦根	岩溪嵩台
5	四	源仲選(円山応挙)の画石に題す。	題源仲選画石	円山応挙
6		東山に大雅山人(池大雅)を訪いて逢わず。	東山訪大雅山人不逢	池大雅
7		蘭齋(岸駒)、余のために雪竹を写さる。詩以てこれを謝す。	蘭齋為余写雪竹詩以謝之	岸駒
8		龍谷大法主の皆山亭の宴集、席上にて呉月溪(呉春)の「月梅の図」に題す。	龍谷大法主皆山亭宴集席上題呉月溪月梅図	呉春
9	六	城文瑠(若城藍田)の画を論ずるに与うる書。	与城文瑠論画書	若城藍田

かf・辛島塩井【辛伯彝、1754~1839】

(肥後熊本の人。同藩藩校・時習館で高本紫沢に学ぶ。同校の教授となった。)

『塩井先生遺稿』(古城貞吉・宇野東風・武藤殿男編『肥後文獻叢書』第5巻[隆文館 1910年]所収)				
1	卷二	山俊度(山内俊度)、恭庵師と同じく過らる。席上にて画成り、後日また図半幅を允めらる。よりにて二絶を賦して奉謝す。	山俊度同恭庵師見過席上画成後日又見允図半幅因賦二絶奉謝	山内俊度
2		南家の夜集、席上にて琴士玉堂翁(浦上玉堂)に贈る。	南家夜集席上贈琴士玉堂翁	浦上玉堂
3	四	烟村居士(鳥越烟村)、西溪に遊ぶ。詩並びに梅花を携え贈らる。一絶を賦してこれを謝し、その韻に次ぐ。[居士は備前岡山の人なり。]	烟村居士遊西溪携詩并梅花見贈賦一絶謝之次其韻[居士備前岡山人]	鳥越烟村
4	六	「天台山の図」の跋。	天台山図跋	(江稼園)
5		蒙古襲来の模図の跋。	蒙古襲來模図跋	(志賀君)
6	九	この日琴客至らず。呉主善(五十嵐竹沙)たまたま至り、席間にて揮灑す。よりにてこれを賦してこれに示す。(享和3年)	是日琴客不至呉主善偶至席間揮灑因賦此示之	五十嵐竹沙
7	十	六別雅集の横軸の跋。…[右は第一の別、駿台双玉楼。](寛政12年3月7日)	六別雅集横軸跋…[右第一別駿台双玉楼]	(鈴木芙蓉) (谷文一)
8		六別雅集の横軸の跋。…[右は第六の別、双玉楼。](寛政12年4月24日)	六別雅集横軸跋…[右第六別双玉楼]	(鈴木芙蓉) (谷文一)
9		駿台雅集の記。[以下は享和壬戌の東役の作に係る。](享和2年10月15日)	駿台雅集記[以下係享和壬戌東役之作]	(谷文一)

かg・川合春川【新羅孝衡、川襄平、1750~1824】

(美濃高須の人。京都で龍草廬に学ぶ。紀伊和歌山藩九代藩主・徳川治貞に儒学者として仕えた。)

『春川詩草』天明二年(1782)刊(国立国会図書館本)				
1	卷一	鉄笛篇。鉄笛道人龍子春(龍玉淵)に贈る。	鉄笛篇贈鉄笛道人龍子春	龍玉淵
2	三	歳之孟陬十有九日、岬廬龍先生(龍草廬)の六十誕辰なり。郎君・子春(龍玉淵)、門人等と謀りて相共に城南の某氏別荘に觴す。予は負薪の憂ありて親ら寿を盛筵に奉ずることあたわず。一月を闕して病少し聞ゆ。すなわち一律を賦し、謹み以て華祝に奉ずと云う。	歳之孟陬十有九日岬廬龍先生六十誕辰也郎君子春与門人等謀相共觴城南某氏之別荘予也負薪之憂不能親奉寿於盛筵聞一月病少聞乃賦一律謹以奉華祝云	龍玉淵
3	四	寒川、梅嶺と同じく桑山生(桑山玉淵)を訪う。生、題をその画梅に請う。すなわち賦あり。	同寒川梅嶺訪桑山生生請題其画梅乃有賦	桑山玉淵

かh・川治南山【川伯玄・生没年未詳(18世紀後半)】

(出身地不明。江戸で鶴殿士寧に学ぶ。近江宮川藩主・堀田正邦に招かれた。宝暦8年、正邦の大番頭就任時には書記として京都に随行している。)

『高眠亭録稿』文化八年(1810)刊(国立国会図書館本)				
1	卷一	平子英(平賀蕉斎)の日光山の詩画巻を観る歌、並びに序。客歳、芸侯、朝命を奉じて日光山の神祖廟を修飾す。友人平子英、駕に従いて子役す。子英の性、郭文の癖あり。奉職の暇、窮谷無人の地に入り、暢然として独嬉す。嘆賞之余、真景を写し、更にその幽致を詩して還る。いわゆる有力、山を負いて走る者とはそれ子英の謂いか。ねがわくはその装いを束する時に当たりて、山霊をして愕然せしむること無きを得ん。	観平子英日光山詩画巻歌并序 客歳芸侯奉朝命修飾日光山神祖廟友人平子英従駕子役子英性有郭文癖奉職之暇窮谷无人之地暢然独嬉嘆賞之余写真景更詩其幽致而還所謂有力負山走者其子英之謂乎将当其束装時得無使山靈愕然乎	平賀蕉斎
2		藤子有(柳原辰兮)の宅にて狩柴川(狩野典信)画ける「仙人掌の図」を観る引。	藤子有宅觀狩柴川画仙人掌図引	狩野典信
3		至日、逍遙館にて狩蘭侯(本多忠統)の墨梅を観る。	至日逍遙館觀狩蘭侯墨梅	本多忠統
4		玉山翁(秋山玉山)の画巻に題す。	題玉山翁画巻	秋山玉山
5	四	鳴海駅に平君栗(下郷学海)を訪う。席上にて水正介の贈らるるに答う。	鳴海駅訪平君栗席上答水正介見贈	下郷学海

かi・菅甘谷【屈子旭、1691~1764】

(和泉岸和田の人。江戸で荻生徂徠に学ぶ。関西で初めて徂徠学興隆の礎を築いたとして知られる。)

『甘谷先生遺稿』安永四年(1775)刊(大阪府立中之島図書館本)				
1	卷上	必東山人(泉必東)の墨竹に謝す。	謝必東山人墨竹	泉必東



2	下	画苑の序。	画苑序	(大岡春卜)
3		彭蓬洲(彭城百川)の「三酔人の画」に題す。	題彭蓬洲三酔人画	彭城百川

か)菅茶山【菅礼卿、1748~1827】

(備後神辺の人。京都で那波魯堂、和田東郭らに学ぶ。郷里で農業、商業を営むかたわら、黄葉夕陽村舎で子弟に教授した。)→画人

『紅葉夕陽村舎詩』文化九年(1812)刊(富士川英郎・松下忠・佐野正巳編『詩集日本漢詩』第9巻[汲古書院 1985年]所収)				
1	卷二	重陽、岡岷山に托して頼千秋(頼春水)に寄書し、附するに菊花を以てす。(天明4年)	重陽托岡岷山寄書頼千秋附以菊花	岡岷山
2	四	鴨川橋舎にて、蛸崎公子(蛸崎波響)と月を賞づ。風字を分得す。(寛政6年)	鴨川橋舎与蛸崎公子賞月分得風字	蛸崎波響
3		蛸崎公子(蛸崎波響)まさに松前に還らんとす。円山に携具して諸子と宴別す。席上にて詩あり。次韻して以て謝す。時に余もまた西帰す。(寛政6年)	蛸崎公子将還松前携具円山宴別諸子席上有詩次韻以謝時余亦西帰	蛸崎波響
4		中秋、六如上人、蛸崎公子(蛸崎波響)、伴蒿蹊、橘忠風(橘南谿)、大原雲卿(大原春響)と共に掠湖に泛舟す。三首(寛政6年)	中秋与六如上人蛸崎公子伴蒿蹊橘忠風大原雲卿同泛舟掠湖三首	蛸崎波響 大原春響
5		玉江橋より洛北諸山を望む。六如上人、大原雲卿(大原春響)諸子を懐うことあり。(寛政6年)	玉江橋望洛北諸山有懐六如上人大原雲卿諸子	大原春響
6		「桃源の図」に題す。[原雲卿(大原春響)の需めに応ず。](寛政7年)	題桃源図[原雲卿需]	大原春響
7	五	所見を書す。韻を限る。三首[斎藤文貫(斎藤一興)、武元君立と同じく賦す。](寛政10年)	書所見限韻三首[同斎藤文貫武元立賦]	斎藤一興
8		斎藤文貫(斎藤一興)、東武に祇役するを送る。(寛政11年)	送斎藤文貫祇役東武	斎藤一興
9		蛸崎公子(蛸崎波響)の波響楼四時の詩、図を按じて作る。(寛政12年)	蛸崎公子波響楼四時詩按図而作	蛸崎波響
10		病中、六如上人、録して蛸崎公子(蛸崎波響)に贈りし詩を示さる。次韻して以て謝し、兼ねて公子に呈す。(寛政12年)	病中六如上人録示贈蛸崎公子詩次韻以謝兼呈公子	蛸崎波響
11		白雲上人に贈る。[上人、奥州白河の人、画をよくす。白河侯(松平定信)、集古十種を著すに、搜索模写す。上人もまた与かる。](寛政12年)	贈白雲上人[上人奥州白河人能画白河侯著集古十種搜索模写上人亦与焉]	白雲
12		大野萬平に贈る。[名は文泉、奥州白河の人なり。写真を善くす。](寛政12年)	贈大野萬平[名文泉奥州白河人善写真]	大野文泉
13		早川明府、栗山先生(柴野栗山)の貽らるる所の「富士の図」を寄せ、詩を索む。云えらく、これ谷文晁、岳頂の雪水を以て墨を和して写すところなりと。(寛政12年)	早川明府寄栗山先生所貽富士図索詩云是谷文晁以岳頂雪水和墨所写	谷文晁
14	六	斎藤文貫(斎藤一興)の寄せらるる韻に次ぐ。(享和元年)	次斎藤文貫見寄韻	斎藤一興
15		陶斎(趙陶斎)の墨竹。(享和元年)	陶斎墨竹	趙陶斎
16		亀井道載(亀井南冥)、災後に画く所の竹に題す。僧志剛の需めに応ず。(享和2年)	題亀井道載災後所画竹応僧志剛需	亀井南冥
17	七	文晁(谷文晁)の画山に題す。石子道のためにす。[子道、余と共に水戸に遊び、尋いで秋田に帰る。](文化元年)	題文晁画山為石子道[子道与余同遊水戸尋帰秋田]	谷文晁
18	八	玉堂先生(浦上玉堂)訪わる。これを賦して以て呈す。(文化3年)	玉堂先生見訪賦此以呈	浦上玉堂
19		豊女史(平田玉蘊)の画牡丹。(文化3年)	豊女史画牡丹	平田玉蘊
20		千詩の画の引。原雲卿(大原春響)の需めに応ず。(文化5年)	千詩画引原雲卿需	大原春響
『紅葉夕陽村舎詩後篇』文政六年(1823)刊(同上)				
21	卷一	蛸崎公子(蛸崎波響)画ける「鯨魚の図」に題す。	題蛸崎公子画鯨魚図	蛸崎波響
22		素軒主人のために浜田希庵(浜田杏堂)画ける「楊林泛舟の図」に題す。款に曰く、「甲子三日写」と。	為素軒主人題浜田希庵画楊林泛舟図款曰甲子三日写	浜田杏堂
23		「留侯響劍の図」に題す。[一字の韻は、先賢・祇伯玉(祇園南海)の創る所に到底す。近日、葛子琴の「田千秋を送るの作」はこれを擬す。余もまた擧に做う。]	題留侯響劍図[一字韻到底先賢祇伯玉所創近日葛子琴送田千秋作擬之亦余做擧]	祇園南海
24		斎藤文貫(斎藤一興)、近ごろ劇職に遷る。詩ありて次韻し、以て答う。	斎藤文貫近遷劇職有詩次韻以答	斎藤一興
25		原雲卿(大原春響)、聘に応じて松前府に赴くを送る。	送原雲卿应聘赴松前府	大原春響
26		斎藤文貫(斎藤一興)、武元君立、来訪す。韻東を分得す。	斎藤文貫武元君立来訪分得韻東	斎藤一興
27	二	雲卿(大原春響)の画山水。	雲卿画山水	大原春響
28		赤松(赤松滄洲)、西山(西山拙斎)の二先生、姫井学士(姫井桃源)、若林子陽と同じく、浦上執法君輔(浦上玉堂)の宅に夜飲す。主人、琴を彈す。	同赤松西山二先生姫井学士若林子陽夜飲浦上執法君輔宅主人彈琴	浦上玉堂
29		中秋、六如上人及び蛸崎公子(蛸崎波響)、大原雲卿(大原春響)に寄懐す。	中秋寄懐六如上人及蛸崎公子大原雲卿	蛸崎波響 大原春響
30		浦上玉堂(浦上玉堂)招飲せらる。酒間の聯句。	浦上玉堂招飲酒間聯句	浦上玉堂
31	三	谷文晁の「富士対写の図」。[これ文晁、栗山堂(柴野栗山)の席上にて画く所なり。余携えて帰り、桑田伯彦に遺わす。後七年、寄て余の題を乞う。いわゆる諸賢とは、尾藤(尾藤二洲)、古賀(古賀精里)の二博士、岡田明府(岡田寒泉)、岩瀬典客、倉成(倉成龍渚)、頼(頼春水)の二文学、木芙蓉画史(鈴木芙蓉)なり。別に胡琴を善くする者あり、今はその名を忘る。](文化7年)	谷文晁富士対写図[是文晁栗山堂席上所画余携遺桑田伯彦後七年寄乞余題所謂諸賢尾藤古賀二博士岡田明府岩瀬典客倉成頼二文学木芙蓉画史别有善胡琴者今忘其名]	谷文晁 鈴木芙蓉
32	四	玉蘊(平田玉蘊)画ける「西施五湖の図」。(文化9年)	玉蘊画西施五湖図	平田玉蘊
33		斎藤文貫(斎藤一興)、東都に祇役するを送る。五首[卒章、兼ねて四明先生(井上四明)に呈す。](文化10年)	送斎藤文貫祇役東都五首[卒章兼呈四明先生]	斎藤一興
34		牧徳称(牧詩牛)、自画の竹を寄せ、題を索む。(文化10年)	牧徳称寄自画竹索題	牧詩牛
35	五	文貫(斎藤一興)の疊礎に復答す。時に文貫(斎藤一興)まさに帰らんとす。(文化11年)	復答文貫疊礎時文貫将帰	斎藤一興
36		南湖老人(春木南湖)、自ら漁父を画き、詩を題して贈らる。次韻して以て謝す。(文化11年)	南湖老人自画漁父題詩見贈次韻以謝	春木南湖
37		前韻に復疊し、文貫(斎藤一興)の帰国するを送る。(文化11年)	復疊前韻送文貫帰国	斎藤一興
38		波響公子(蛸崎波響)の近作に次韻す。(文化11年)	次韻波響公子近作	蛸崎波響
39		画に題す。波響公子(蛸崎波響)のためにす。(文化11年)	題画為波響公子	蛸崎波響
40	六	文晁(谷文晁)画ける「富士薄暮の図」に題す。(文化12年)	題文晁画富士薄暮図	谷文晁
41		費漢源の画に題す。(文化12年)	題費漢源画	費漢源
42		増山侯(増山雪斎)、余のために書画を作るに奉謝す。(文化12年)	奉謝増山侯為余作書画	増山雪斎
43		谷写山[文晁]に簡す。(文化12年)	簡谷写山[文晁]	谷文晁

44	六	公の謔、木芙蓉(鈴木芙蓉)、坐上にて揮写す。公、余に命じて詩せしむ。(文化12年)	公謔木芙蓉坐上揮写公命余詩	鈴木芙蓉
45		第五隆(野呂介石)画ける「那智瀑布の図」。篠崎承弼(篠崎小竹)のために題す。(文化12年)	第五隆画那智瀑布図為篠崎承弼題	野呂介石
46		雲室上人、画山水を恵さる。これを賦して以て謝す。(文化12年)	雲室上人恵画山水賦此以謝	雲室
47		杏堂(浜田杏堂)の画山水。(文化12年)	杏堂画山水	浜田杏堂
48	七	文貫(斎藤一興)の「即事」の韻に次ぐ。(文化13年)	次文貫即事韻	斎藤一興
49		谷文晁、「碓磔鮭餌の図」を作りて余の七十を寿す。賦して謝す。(文化14年)	谷文晁作碓磔鮭餌図寿余七十賦謝	谷文晁
50	八	伏水の道中。[寛政甲寅(寛政6年)中秋、蛸崎公子(蛸崎波響)、六如上人、伴高蹊、橘忠風(橘南翁)、原雲卿(大原吞響)、米子虎(米谷金城)、松孟幹及び余の八人、棕湖に泛舟す。](文政元年)	伏水道中[寛政甲寅中秋蛸崎公子六如上人伴高蹊橘忠風原雲卿米子虎松孟幹及余八人泛舟于棕湖]	蛸崎波響 大原吞響
51		大含上人の東遊を送る。(文政元年)	送大含上人東遊	雲華大含
52		月仙画ける七老群飲。(文政2年)	月仙画七老群飲	月仙
53		米子虎(米谷金城)蔵する「棕湖賞月の図」に題す。[同遊の八人、今僅かに波響公子(蛸崎波響)、米子虎及び余の三人を存するのみ。](文政2年)	題米子虎蔵棕湖賞月図[同遊八人今僅存波響公子米子虎及余三人]	蛸崎波響
54		蛸公子(蛸崎波響)の墨河舟中にて寄せらるる韻に次ぐ。(文政2年)	次蛸公子墨河舟中見寄韻	蛸崎波響
55		玉蘊女画史(平田玉蘊)蔵する所の古鏡に題す。(文政3年)	題玉蘊女画史所蔵古鏡	平田玉蘊
『紅葉夕陽村舎詩遺稿』天保三年(1832)刊(同上)				
56	卷一	趙陶斎の画山水。[佐藤子文(佐藤幹員)の索。](文政4年)	趙陶斎画山水[佐藤子文索]	趙陶斎
57		千齡(頼春風)の画竹。(文政4年)	千齡画竹	頼春風
58		谷写山(谷文晁)、次息・文二(谷文二)の自作の書画一冊を寄恵せらる。賦して謝す。(文政4年)	谷写山寄恵次息文二自作書画一冊賦謝	谷文晁 谷文二
59		千齡(頼春風)の画蘭。(文政4年)	千齡画蘭	頼春風
60	二	大含上人(雲華大含)の寄せらるる韻に和す。(文政5年)	和大含上人見寄韻	雲華大含
61		大含上人(雲華大含)の洛に還るを送る。前韻に重疊す。(文政5年)	送大含上人還洛重疊前韻	雲華大含
62		「昔を憶う」の三章、蛸崎公子(蛸崎波響)に呈す。(文政5年)	憶昔三章呈蛸崎公子	蛸崎波響
63		斎九畹(斎藤一興)画ける「鷺湖望岳の図」に題す。(文政5年)	題斎九畹画鷺湖望岳図	斎藤一興
64	三	病中、豊後の田君彝(山能村竹山)来訪せらる。去年、詩三章を恵さるるも、いまだ酬答するあたわず。今、その韻に依りて以て謝意を寓す。(文政6年)	病中豊後田君彝来訪去年見恵詩三章未能酬答今依其韻以謝謝意	田能村竹田
65		梁詩禪(梁川星巖)、内(張紅蘭)を携えて来訪す。(文政6年)	梁詩禪携内来訪	梁川星巖 梁川紅蘭
66		詩禪(梁川星巖)、前詩に和答す。礎を疊して重ねて贈る。時に中元に属し、郷閭、久旱を以て踏唱を廢す。よりて及ぶ。(文政6年)	詩禪和答前詩疊礎重贈時屬中元郷閭以久旱廢踏唱因及	梁川星巖
67		韓人西巖(金有聲)の山水に題す。(文政6年)	題韓人西巖山水	金有聲
68	五	子成(頼山陽)、竹洞(中林竹洞)、春琴(浦上春琴)諸子の席上合作の「山水の図」に題す。(文政8年)	題子成竹洞春琴諸子席上合作山水図	頼山陽 中林竹洞 浦上春琴
69		乙酉(文政8年)の中秋、霖後の月、殊に佳し。数日前、湯正平、江戸より至りて蛸崎公子(蛸崎波響)の病聲に在るを説く。よりて賦して問を寄せ、かつ近況を告げ、兼ねて花亭、月堂の二君に呈す。	乙酉中秋霖後月殊佳数日前湯正平至自江戸説蛸崎公子在病聲因賦寄問且告近況兼呈花亭月堂二君	蛸崎波響
『紅葉夕陽村舎文』天保三年(1832)刊(同上)				
70	四	六如上人、手写せる詩巻の首に題す。(文化元年)	題六如上人手写詩巻首	(蛸崎波響)
71		詩禪道人(梁川星巖)の西遊詩巻の後に書す。	書詩禪道人西遊詩巻後	梁川星巖 梁川紅蘭
72		木芙蓉(鈴木芙蓉)の山水画帖の跋。	木芙蓉山水画帖跋	鈴木芙蓉
73		雲泉(銅雲泉)の画帖に跋す。	跋雲泉画帖	銅雲泉
74		中谷士寅の書画帖の後に題す。	題中谷士寅書画帖後	(錦木雲潭) (春木南湖)
75		耶馬溪の書巻の後に題す。	題耶馬溪書巻後	(頼山陽)
76		大雅(池大雅)の画軸の匣に題す。(文政元年)	題大雅画軸匣	池大雅

かk・祇園南海【祇伯玉、1676~1751】

(紀伊和歌山藩士の子として江戸に生まれ、木下順庵に学ぶ。父の跡を嗣ぐも不行跡を咎められ、蟄居生活ののち、藩の儒学者として復帰した。)→画人

『南海先生文集』天明四年(1784)刊(富士川英郎・松下忠・佐野正巳編『詩集日本漢詩』第1巻[汲古書院 1987年]所収)				
1	卷一	詩画の歌。	詩画歌	自画
2		自写せる墨竹に題す。五首	題自写墨竹五首	自画
3		江州の僧某、「念仏纒かに口を開かば、池中に宝蓮を結ぶ」を以て題となし、詩および画を請う。いささか一篇を賦し、かつ一枝を写して以て贈る。	江州僧某以念仏纒開口池中結宝蓮為題請詩及画聊賦一篇且写一枝以贈	自画
4	二	露竹、自写せる画に題す。	露竹題自写画	自画
5		次韻して田鳳泉(田中岫巖)に酬ゆ。	次韻酬田鳳泉	田中岫巖
6		再び前韻を用いて鳳泉(田中岫巖)に酬い、兼ねて敬亭、福川の両子に呈す。	再用前韻酬鳳泉兼呈敬亭福川両子	田中岫巖
7	四	雪娘(清原雪信)画ける「昭君の図」に題す。[娘、探幽の女なり。]	題雪娘画昭君図[娘探幽女]	清原雪信
8		関明湖のために今椿の八秩華誕を寿す。贈するに梅竹の墨画を以てし、副うるにこの篇を以てす。	為関明湖寿今椿八秩華誕贈以梅竹墨画副以此篇	自画
9		宝渚師、天台に帰るを送る。併せて自写せる墨竹を貽る。	送宝渚師歸天台并貽自写墨竹	自画
10		唐伯虎先生(唐寅)の名山の巻に題す。	題唐伯虎先生名山巻	唐寅
11	五	田履道(田中岫巖)に復す。	復田履道	田中岫巖

か・菊池衛岳【関叔成、1747～1805】

(紀伊和歌山藩士の子として江戸に生まれる。初姓関口氏。高野蘭亭、松崎観海に学び、同藩士・菊池氏の遺跡を嗣いで藩の儒学者となった。) →画人

『衛岳先生思文亭遺稿』文政五年(1822)序跋(東京都立中央図書館加賀文庫本)			
1	卷一	岡春卿画ける「山中園基の図」に題す。	題岡春卿画山中園基図 岡春卿
2		熱海勝覧の引。	熱海勝覧引 (子誠・衛岳の姪)
3	二	河子昌(河原保寿)に贈る。	贈河子昌 河原保寿
4		秋夜、井玄理、田子相(大田南畝)、栗子弘、源君節(久保筑水)、山道甫(朱楽菅江)、蘇百順、山土訓(山内穆亭)、野美卿(水野藍朝)、辺公僚(渡辺鳳来)、島子諒、河益之と同じく郊行す。八首	秋夜同井玄理田子相栗子弘源君節山道甫蘇百順山土訓野美卿辺公僚島子諒河益之郊行八首 水野藍朝 渡辺鳳来 河益之
5	三	亡友・岡春卿の旧居に寄す。	寄亡友岡春卿旧居 岡春卿
6		著公(玄海著山)の山房にて宋僧牧溪の「蘆雁の図」を観る。	著公山房觀宋僧牧溪蘆雁図 牧谿
7		中台山人を哭す。[中台は河子昌(河原保寿)の別号なり。]	哭中台山人[中台河子昌別号] 河原保寿
8	五	呂降年(野呂介石)の画山水に題す。	題呂降年画山水 野呂介石
9		画牡丹、鳳翔公子の命に应ず。	画牡丹应鳳翔公子命 自画か
10		辺廷輝(渡辺玄対)の「西施浣紗の図」に題す。	題辺廷輝西施浣紗図 渡辺玄対
11		丙午(天明6年)七月、樺世儀(樺島石梁)、袁因卿、富嶽に遊びて還る。雪水にて墨を磨り、吾が姪・子誠をしてこれが図を造らしむ。よりにて題して以て贈る。	丙午七月樺世儀袁因卿遊富嶽而還雪水磨墨使吾姪子誠造之因題以贈 子誠
12	九	望月帖の首に題す。	題望月帖首 (河益之)
13		熱海詩画卷の跋。	熱海詩画卷跋 (子誠)
14		「山陰觴詠の図」の後に題す。	題山陰觴詠図後 (渡辺玄対)
15		辺氏画譜の首に題す。	題辺氏画譜首 (渡辺湊水) (渡辺玄対) (内田陶丘) (渡辺赤水)
16		吹上巖若の画障上に題す。(寛政7年)	題吹上巖若画障上 (谷文晁)
17		松倉氏の墓誌の銘。	松倉氏墓誌銘 (渡辺鳳来)
18	十	岡春卿に復す。	復岡春卿 岡春卿
19		田仲嘉に与う。	与田仲嘉 (飯応) 書画会

かm・北仲利【1721～65】

(大坂の人。林東溟に学ぶ。北山橋庵、細合斗南らと交流した。)

『醉臥亭遺稿(三逸稿・下)』明和二年(1765)序(東京都立中央図書館加賀文庫本)			
1		五岳山人(福原五岳)の画梅に題す。平君典のためにす。	題五岳山人画梅為平君典 福原五岳

かn・北山橋庵【橋元章、1731～91】

(河内の人。本姓は橋氏。医を橋元泰に学び、大坂で古医方を広めた北山寿安の医統を継いだ。片山北海の混沌社社に参加した。)

『橋庵先生詩鈔』寛政元年(1789)刊(大阪府立中之島図書館本)			
1	卷上	秋夜、平君舒、豊子彪、高子慎と同じく円福室に集し、賦して淇園先生(柳沢淇園)に呈す。	秋夜同平君舒豊子彪高子慎集円福室賦呈淇園先生 柳沢淇園
2		雀亭道人(鶴亭)の画竹の歌。	雀亭道人画竹歌 鶴亭
3		重ねて淇園(柳沢淇園)に遊びての感懐。	重遊淇園感懐 柳沢淇園
4		春日、柳淇園先生(柳沢淇園)の席上にて諸賢と同じく賦す。	春日柳淇園先生席上同諸賢賦 柳沢淇園
5		郡山客中、淇園先生(柳沢淇園)の席上にて高孺皮(高芙蓉)に邂逅す。	郡山客中淇園先生席上邂逅高孺皮 柳沢淇園
6		春日、合麗王(細合斗南)、岡君章(岡田南山)、張伯龍(長崎驪橋)、曾応聖(曾谷学川)諸君、過集せらる。	春日合麗王岡君章張伯龍曾応聖諸君過集 岡田南山
7	中	初めて柳淇園先生(柳沢淇園)に謁す。[先生、名は里恭、字は公美、淇園と号す。郡山公族の大夫にして高名一時に高し。]	初謁柳淇園先生[先生名里恭字公美号淇園郡山公族大夫文名高一時] 柳沢淇園
8		春日、柳淇園先生(柳沢淇園)と同じく東大寺の池畔の旗亭に飲す。	春日同柳淇園先生飲東大寺池畔旗亭 柳沢淇園
9		秋日、煙蘿亭に集し、時字を分韻す。席上に常足道人(佚山)の在ることあり。兼ねてこれに贈る。	秋日集煙蘿亭分韻時字席上有常足道人在兼贈之 佚山
10		郡山の楊柳柳沢君(柳沢淇園)に呈す。	呈郡山楊柳柳沢君 柳沢淇園
11	下	大鵬禪師に答う。	答大鵬禪師 大鵬正鯤
12		五岳山人(福原五岳)過訪せられ、席上にて山水数幅を揮洒す。各々その妙を極めて天然の幽致あり。余これを壁上に掲げて愛玩すること最も深し。	五岳山人過訪席上揮洒山水数幅各極其妙有天然之幽致余揭之於壁上愛玩最深 福原五岳
13		発志禅院に過りて柳淇園先生(柳沢淇園)の墓に謁す。	過発志禅院謁柳淇園先生墓 柳沢淇園
14		木世肅(木村兼葎堂)、池無名(池大雅)画く所の「富士山の図」を恵さる。よりにてこれを謝す。	木世肅見池無名所画富士山図因謝之 池大雅
15		松平醉翁君、草堂を顧ねらる。賦して呈す。	松平醉翁君見顧草堂賦呈 松平醉翁
16		雪鼎(月岡雪鼎)画く所の「江口君、群妓と舟中に舞を奏する図」に題す。	題雪鼎所画江口君与群妓奏舞於舟中图 月岡雪鼎

かo・京極高明【京君柔、1735～79】

(江戸の人。鶴殿士寧に学んだ。幕府の旗本で西の丸の御書院番士。)

『陽春館遺稿』安永九年(1780)刊(国立公文書館内閣文庫本)			
1	卷一	公頭(徳力桃溪か)の宅にて、徳甫画く所の竹障子を観る。	公頭宅觀徳甫所画竹障子 徳甫
2		忍海上人を哭す。	哭忍海上人 忍海
3	五	宋紫石の画梅月に題す。	題宋紫石画梅月 宋紫石

かp・日生駒【孔世傑、1712～52】

(河内日下(孔坂)の人。豪農の家に生まれ、學問に傾倒して徂徠学を学んだ。龍草廬や吉益東洞と情交厚かった。)

『生駒山人詩集』宝暦十二年(1762)刊(早稲田大学図書館本)			
1	卷七	泉必東に酬ゆ。	酬泉必東 泉必東
2		長禹功(長谷川青楓)に謝す。	謝長禹功 長谷川青楓

かq・高葛岐【高伯起、1724～76】

(浪華に生まれ、祖父の仕出に伴い、江戸に移居する。徂徠学派の板倉瑣漢、石島筑波に学ぶ。宝暦10年に上京し、二条富小路に私塾を開いた。)

『葛岐先生杖杖集』安永二年(1773)刊(国立国会図書館本)			
1	卷二	衆妙上人、田生の画竹を貽らる。歌を作りて謝となす。	衆妙上人見貽田生画竹作歌為謝 (南海田生)
2		月仙師、防邸に還るを送る。	送月仙師還防邸 月仙
3	三	佐応謙に過る。[名は貞吉、別に喲々生と号す。平安の人なり。]	過佐應謙[名貞吉別号喲々生平安人] 佐竹喲々
4	四	夏夜、韓大年(韓天寿)、羽長済に寄す。[大年、名は天寿。長済、名は寧、伊齊の人なり。]	夏夜寄韓大年羽長済[大年名天寿長済名寧伊齊人] 韓天寿
5		阮素一(阮自千)、濠水里に移居するを訪う。[名は寧、平安の人なり。]	訪阮素一移居濠水里[名寧平安人] 阮自千
6		韓大年(韓天寿)、羽長済と偕に再び京に入る。喜びて賦す。	偕韓大年羽長済再入京喜賦 韓天寿

かr・河野魯齋【大経、1759～86】

(播磨赤穂の人。初姓は大川もしくは赤松氏。赤松滄洲の次男で父に学び、同藩儒学者となった。父に先立って逝去する。兄は赤松蘭室。)

『魯齋詩抄』寛政十二年(1800)刊(国立国会図書館本)			
1	卷三	高砂の三浦恒升、「六芸の図」を画きて博文館に寄贈す。長公(赤松蘭室)、社友に命じて詩を作らしめ、これを賛す。	高砂三浦恒升画六芸図寄贈博文館長公命社友作詩賛之 三浦恒升

かs・古賀精里【劉溥卿、淳風、1750～1817】

(肥前佐賀の人。上京して頼山陽、尾藤二洲と交わり、朱子学に傾倒。寛政の改革とともに幕府の儒官となる。寛政三博士の一。)

『精里二集抄』文化十五年(1818)跋(富士川英郎・松下忠・佐野正巳編『詩集日本漢詩』第7巻[汲古書院 1987年]所収)			
1	卷一	王石谷(王暉)の画巻に題す。	題王石谷画巻 王暉
2		「蠶織の図」に題す。	題蠶織図 (福島藩家老長谷川氏)
3	二	画に題す。	題画 (白雲)
4		谷文晁の「山水の図」に題す。	題谷文晁山水図 谷文晁
『精里三集文稿』文政二年(1819)序跋(同上)			
5	卷一	岡君章(岡田南山)に答う。	答岡君章 岡田南山
6		忠孝巻の跋。	忠孝巻跋 (古礪)
7	二	如翠画ける菅王瀑に題す。[彦嶽の席上にて。]	題如翠画菅王瀑[彦嶽席上] 如翠
8		桜井孟素(桜井雪鮮)の墓碣の銘。(文化8年)	桜井孟素墓碣銘 桜井雪鮮
9	四	費淵(費漢源)の図画に題す。	題費淵図画 費漢源
10		祇園伯玉(祇園南海)の蕪山石の記に題す。	題祇園伯玉蕪山石記 祇園南海
11		爾信(李義養)の画に題す。	題爾信画 李義養
12		多賀谷氏蔵する所の費淵(費漢源)の画に題す。	題多賀谷氏所蔵費淵画 費漢源
13		中神主簿蔵する所の画に題す。	題中神主簿所蔵画 (費漢源)
14	五	山水図に題す。	題山水図 (野呂介石)

かt・小西松江【西伯照、1748～1819】

(丹後湊宮の人。廻船業のかたわら學問を好み、京都の江村北海に学んだ。大坂の混沌社詩社に交わった。)

『松江近體詩』寛政七年(1795)刊(大阪府立中之島図書館本)			
1	卷三	六山人、片北海(片山北海)、葛子琴、頼千秋(頼春水)、五岳山人(福原五岳)および余を招く。分韻して四支を得たり。	六山人招片北海葛子琴頼千秋五岳山人及余分韻得四支 福原五岳
2		維明禪師、別後に詩を投ぜらる。韻を次ぎて酬答す。[禪師、梅を画く妙手なり。]	維明禪師別後見投詩次韻酬答[禪師画梅妙手] 維明
3	五	陶齋(趙陶齋)の左海墨莊に過る。	過陶齋左海墨莊 趙陶齋

かu・米田是著【米子隠、米大夫、1720～97】

(肥後熊本の人。同藩家老家の長岡氏に次男として生まれ、中老や大目付を務めた。江戸で服部南郭に学ぶ。) →画人

『米大夫四時園集』安永三年(1774)序(古城貞吉・宇野東風・武藤巖男編『肥後文獻叢書』第5巻[隆文館 1910年]所収)			
1	卷二	思玄亭[主人、画癖あり。]	思玄亭[主人有画癖] 思玄亭
2	四	諸子と同じく北山に遊びて帰る。明日、藤子豊写してその山水を贈らる。賦して謝す。	同諸子遊北山帰明日藤子豊写贈其山水賦謝 藤子豊
『四時園詩集二篇』寛政五年(1793)序(同上)			
3	卷一	野伯修(上野霞山)、南郭先生(服部南郭)の画山水を示し、かつ詩を乞う。よりてこれを作りてこれに題す。	野伯修示南郭先生画山水且乞詩因作此題之 服部南郭
4		晩夏苦熱、たまたま「盆石の図」を携えて至る者あり。巻を開かば気骨頓蘇す。借覽すること数日、まさに寧さんとするに、余もとより画を善くせず。すなわち泥を滲まして白造し、焼きて成す。遂に菖蒲を植え、以て書中の玩となす。	晩夏苦熱偶有携盆石図至者開卷骨頓蘇頓蘇借覽数日將寧余素不善画乃澄泥自造燒而成矣遂植菖蒲以為書中之玩 自画
5	二	辛子清、余の書画を乞う。よりて山水を写し、これを題してこれに贈る。	辛子清乞余書画因写山水題此贈之 自画
6		蟠年(村井習静)、伯養(辛島塩井)と同じく、桂源老侯(細川興文)の「山林の図」を觀る。分韻して各々賦す。	同蟠年伯養觀桂源老侯山林図分韻各賦 細川興文
7		山俊度(山内俊度)、余の「西山秋景の図」を觀て詩あり。叙賞過甚なり。よりて賦して答謝す。	山俊度觀余西山秋景図有詩叙賞過甚因賦答謝 山内俊度

8	一	桂源公(細川興文)、その「隠居の図」を示さる。展覧すること数日、よりにて賦して謝し奉り、かつ悵恋の情を叙ぶ。十四韻	桂源公見示其隱居圖展覧數日因賦奉謝且叙悵恋之情十四韻	細川興文
9	三	白ら北山の秋景を画き、かつこれを賦して巻後に題す。	自画北山秋景且賦此題巻後	自画
10		元夜、板敷卿(板井賦)、僧泰安と同じく草堂に過らる。微脚、余の書画を求む。よりにて七八句に及ぶ。	元夜板敷卿同僧泰安見過草堂微脚求余書画因及七八句	自画
11		病中、石子文の「避竹園に寄題するの作」を得、兼ねて余の画を乞う。よりにて韻を和して答謝す。	病中得石子文寄題避竹園之作兼乞余画因和韻答謝	自画
12	四	児まさに発たんとするに、余写す所の「北山の図」を乞う。云えらく、郷道に代えんと。よりにて賦して併せて贈る。	児將発乞余所写北山圖云代郷道因賦併贈	自画

さa・沢田東江【阮(平)景瑞、源文龍、1732~96】

(江戸の人。井上蘭台に師事し、のち幕府儒官・林家の林風谷に学ぶ。書家として著名。) →画人

『来禽堂詩草』天明元年(1781)跋(大阪府立中之島図書館本)				
1		高陽山人(中山高陽)画ける「蘭亭宴集の図」に題する引。	題高陽山人画蘭亭宴集図引	中山高陽
2		大鵬禪師、再び東都に朝す。賦して呈す。	大鵬禪師再朝東都賦呈	大鵬正観
3		高陽山人(中山高陽)の画樓に題す。	題高陽山人画樓	中山高陽
4		金峨山人(井上金峨)の画に題す。	題金峨山人画	井上金峨
5		沢弟侯(平沢旭山)の「金洞山の図」を觀る。	觀沢弟侯金洞山圖	平沢旭山
6		九峯山人(高橋道斎)、純卿(井上金峨)および余のために酒を置いて留別す。席上にて純卿、画図を作り、余、その上に題して贈となす。	九峯山人為純卿及余置酒留別席上純卿作画圖余題其上為贈	井上金峨
7		南勢の田必器(蒔田暢齋)の鴻雁堂。[必器、書を善くす。]	南勢田必器鴻雁堂[必器善書]	蒔田暢齋

さb・柴野栗山【柴子彦、柴彦輔、1736~1807】

(讃岐牟礼の人。高松藩儒学者・後藤芝山に学び、幕府の儒官・林家に入門した。阿波藩儒学者となり、松平定信に招かれて寛政の改革に尽力した。)

『栗山堂詩集』写本(宮上川英郎・松下忠・佐野正巳編『詩集日本漢詩』第7巻[汲古書院 1987年]所収)				
1	卷一	独楽園に寄題す。敬して長嶋侯(増山雪齋)の命に応ず。	寄題独楽園敬啟長嶋侯命	増山雪齋
2		谷文晁の「連山一望松の図」に題し、西依先生(西依成斎)の九十初度を寿す。	題谷文晁連山一望松図西依先生九十初度	谷文晁
3		岡伯和(岡井赤城)の「白鷄の図」に題す。讃岐の矢嶋大夫の需めに応ず。	題岡伯和白鷄図讃岐矢嶋大夫需	岡井赤城
4		鳴海駅にて千倉主人(下郷学海)に寄す。	鳴海駅寄千倉主人	下郷学海
5		祇伯玉(祇園南海)の墨竹に題す。	題祇伯玉墨竹	祇園南海
6		南殿の障子画は画院・土佐氏の世守するところなり。中葉、芸業すこぶる荒れ、院にその人なし。狩野氏の能者、代りてこれを承く。筆力觀るべきといえども、服章稽識なきは病なり。今上、聖明にして百度維新し、この図もまた命じて整生せしむ。藤岡博広行(住吉広行)は土佐氏の支族なり。実に選に応じて起つ。曠代の盛事と謂うべし。既に事を竣て退き、邦彦もまた身有りて勞あるを謂う。図中に就きて、仲山甫、蕭相国、杜征南の三図を写して贈らる。よりにてこれを書して以て謝となす。	南殿障子画画院土佐氏世守也中葉芸業頗荒院無人狩野氏能者代而承之雖筆力可觀而服章無稽識者病焉今上聖明百度維新此圖亦命整生藤岡博広行土佐氏支族也実選而起可謂曠代之盛事矣既竣事而退謂邦彦身有勞焉就圖中写仲山甫蕭相国杜征南三圖見贈因書此以為謝	住吉広行
7	二	阿波侯(蜂須賀治昭)の園鶴、年々雛を育す。公、新たに狩野惟信をしてこの図を作らしむ。また邦彦に命ずるに題辭を以てす。時に公の側室、たまたま扇を奉上す。すなわち敢えてかくのごとくす。	阿波侯園鶴年々育雛公新使狩野惟信作此圖又命邦彦以題辭時公側室適奉上扇乃敢如此	狩野惟信
8		月仙師の「山水の図」を惠さるるに謝す。	謝月仙師見惠山水図	月仙
9		丁巳(寛政9年)首春、谷老兄文晁を邀え、拜揖の像容數幅を圖せしむる後、すこぶる倦色あり。歎起してこの図を作らしむ。相顧みて笑いて曰く、僕、思う所あり。まさに持帰して以て斎頭に掛んとす。これを人に与うるを欲せず。請うらくは子、幸いに一言されよと。すなわち敢えてしかくす。	丁巳首春邀谷老兄文晁因拜揖像容數幅之後頗有倦色蹶起作此圖相顧而笑曰僕有所思將持帰以掛齋頭不欲与人請子幸一言也乃敢尔	谷文晁
10		山本子和に贈る。	贈山本子和	(鈴木芙蓉)
11		謝長庚(与謝蕪村)の「山水の図」に題す。	題謝長庚山水図	与謝蕪村
12		書賈錢七、「青砥滑川の図」を寄せ、題字を索めらる。その図すこぶる杜撰にして、以て余の辭を置くに足らず。すなわち藤岡博広行(住吉広行)をしてこの図を作らしむ。細布、直垂布、大口袴に木鞘巻大刀を帶す。一人は木劍を持ち、絃袋を繫し、従後を見る。かくのごとくして後、以て青砥左衛門尉と称して可なり。しかる後、以て余の詩を係くるべし。	書賈錢七寄青砥滑川圖索題字其圖頗杜撰不足以置余辭乃令藤岡博広行作此圖細布直垂布大口袴帶木鞘卷大刀一人持木劍繫絃袋從後如此而後可以称青砥左衛門尉也而後可以係余詩也	住吉広行
13		中野叟、絹一轆を持ち、月仙をして画を作らしめんと欲す。先に来りて詩を要す。	中野叟持絹一轆欲使月仙作画先来要詩	月仙
14		橋医伯の隠居にて、谷文晁、景に対してこの図を作る。	橋医伯隱居谷文晁對景作此圖	谷文晁
15	三	大雅堂(池大雅)の墨竹に題す。	題大雅堂墨竹	池大雅
16		長島侯(増山雪齋)の白描牡丹に題す。	題長島侯白描牡丹	増山雪齋
17		熊城の源侯(細川重賢)、邦彦(柴野栗山)のために親ら「薩埵嶺隔海望岳の図」を製す。榮城の藤侯(鍋島治茂)、余興を聴風し、題贊して以てこれを呈す。阿波源侯(蜂須賀治昭)、これを觀て一聯の語を作りてこれを賞す。粲然として三絶成る。よりにて短述して三公に奉謝す。肥侯の源公、文を好み士を愛す。邦彦、老病の勝なるを俯憫し、それ親らために「薩埵嶺隔海望岳の図」を製して孤寂を慰めらる。その経営致趣、高妙絶塵なるは、人をして飄然、雲表の想あらしむ。…	熊城源侯為邦彦親製薩埵嶺隔海望岳圖榮城藤侯聽風余興題贊以声之阿波源侯觀之作一聯語賞之粲然成三絶因短述奉謝三公肥侯源公好文愛士俯憫邦彦老病之勝親為製薩埵嶺隔海望岳圖見慰孤寂其經營致趣高妙絶塵使人飄然有雲表之想矣…	細川重賢
18		長州侯(増山雪齋)の墨梅。	長州侯墨梅	増山雪齋
19		仲仏蓮(中村仏庵)のために月仙の「山水の図」に題す。絶頂巔上に二人対坐し、岳下の橋上に二老を著す。後ろに童子、琴を荷して従う。	為仲仏蓮題月仙山水図絶頂巔上二人对坐岳下橋上着二老後有童子荷琴而従焉	月仙
20		余の家、例として後赤壁の夕を以て宴を設く。今ここに干支たまたま二賦の紀に値る。ここを以て諸友相命ずるに、速やかにならずしていまだ尤衆集らず。南豊の倉善脚(倉成龍密)新たに羽州より還り、獲る所の五色洞硯山を袖して来赴せらる。峰壑万状、宛然として一坐の赤壁なり。余、一見して神飛す。手に就きてこれを奪わば、坐客大いに咲う。遂に小赤壁を以てこれを呼ぶ。伝え觀て歎酔するも、善脚、独り慨然として擲はざることを久しうす。ここにおいて、谷文晁をしてその髣髴を像らしめてこれを贈り、また長語を作りてこれを歌う。庶わくは善脚をして咲わしめんことを。	余家例以後赤壁夕設宴今茲干支適值二賦之紀是以諸友相命不速而未集尤衆南豊倉善脚新自羽州還袖所獲五色洞硯山而來赴峰壑万状宛然一坐赤壁余一見神飛就手而奪之坐客大咲遂以小赤壁呼之伝觀而歎酔善脚独然不擇者久之於是使谷文晁像其髣髴贈之又作長語歌之庶幾乎令善脚咲	谷文晁

21	三	栗邱老侯(増山雪齋)の「兔の図」に題す。	題栗邱老侯兔図	増山雪齋
22		月仙の画に題す。	題月仙画	月仙
23		竹石道人(長町竹石)、讃に帰るを送る。	送竹石道人帰讚	長町竹石
24		「百老の図」に題す。[丙寅(文化3年)]	題百老図[丙寅]	(鈴木芙蓉)
25		波響老契(蛸崎波響)、洛の東西山の図を示さる。以全(前か)久しく洛内に棲み、旧作を書するを索めらる。漫りに西山の詩二首を書す。それ東山の詩のごときはすなわち今は皆これを忘る。しばらくこれを言いて以て責を塞ぐ。	波響老契見示洛東西山図以全久棲洛内索書旧作漫書西山詩二首如其東山詩則今皆忘之且言此以塞責	蛸崎波響
26		啓書記(祥啓)の「釣魚の図」に題す。(文化4年)	題啓書記釣魚図	祥啓
27		伯恭(皆川淇園)の墨竹に題す。	題伯恭墨竹	皆川淇園
28		維明の梅に題して桜土良(桜井東門)に贈る。	題維明梅贈桜土良	維明
『栗山文集』天保十三年(1842)刊(早稲田大学図書館本)				
29	卷一	鏡画の松本生(松本上厚)に与う。	与鏡画松本生	(黒川龜玉)
30	二上	東溪画譜の序。	東溪画譜序	龜井東溪
31	二下	紫宸殿賢聖障子画の模本屏風の記。	紫宸殿賢聖障子画模本屏風記	(住吉広行) (板谷広当)
32		賢聖障子の名臣像の縮本帖子の記。	賢聖障子名臣像縮本帖子記	(住吉広行)
33		画学大全の序。	画学大全序	(谷文晁)
34		集古妙蹟の序。	集古妙蹟序	(岡井赤城) (蒔田暢齋)
35		名山図志の序。	名山図志序	(谷文晁)
36		麓谷集の序。	麓谷集序	(谷文晁) (谷舜英) (谷文一) (菅原洞齋)
37		土佐経隆の「蘇武の図」の記。	土佐経隆蘇武図記	土佐経隆 (土佐光貞) (住吉広行)
38	三	久保仲通(久保盛齋)に与う。	与久保仲通	(岡井赤城)
39		長州侯(増山雪齋)に答う。	答長州侯	増山雪齋
40		長州侯(増山雪齋)に復す。	復長州侯	増山雪齋
41		田必器(蒔田暢齋)に与う。	与田必器	蒔田暢齋 (韓天寿)
42	四	山口徳甫の碑の銘。	山口徳甫碑銘	(蒔田暢齋)
43	五	何人なるか知らざる像の賛。	不知何人像賛	(島士通)
44		覺溪研の銘。[景金園(住吉広行)の覺溪研、紀の納言源公の賞賚なり。東讚の柴邦彦、繫くるに銘を以てす。]	鴨溪研銘[景金園鴨溪研紀納言源公賞賚也東讚柴邦彦繫以銘曰]	(住吉広行)
45	六	舒城王の襖帖に跋す。	跋舒城王襖帖	(鳥羽台麓) (池大雅)
46		池無名(池大雅)の山水書画の帖に題す。二則	題池無名山水書画帖二則	池大雅
47		住吉広行、手摸せる「木筆歌仙の図」に題す。	題住吉広行手摸木筆歌仙図	住吉広行
48		陸明本(陸復)の墨梅の模本の跋。	陸明本墨梅模本跋	陸復 (住吉広行)
49		韓(韓天寿)の刻せる夏承の碑の跋。	韓刻夏承碑跋	韓天寿
50		大雅(池大雅)の書の後に跋す。	跋大雅書後	池大雅
51		沈南蘋の画巻に跋す。	跋沈南蘋画巻	沈南蘋
52		円山仲選(円山応挙)の画巻に跋す。	跋円山仲選画巻	円山応挙
53		白川源侯(松平定信)の書に跋す。	跋白川源侯書	(谷文晁)
54		史維則の大智禪師碑帖に跋す。	跋史維則大智禪師碑帖	(韓天寿)
55		「蘭風七月の図」に跋す。	跋蘭風七月図	(谷文晁)
56		栄城公(鍋島治茂)の画に跋す。	跋栄城公画	鍋島治茂
57		李北海の葉有道の碑に跋す。	跋李北海葉有道碑	(韓天寿)
58		「戸山荘の図」の跋。	戸山荘図跋	(谷文晁)
59		「蘭亭の図」に跋す。	跋蘭亭図	(皆川淇園) (祇園南海) (月仙)
60		「横披蘭亭の図」に跋す。	跋横披蘭亭図	(李公麟) (祇園南海) (谷文晁)
61		南部源大夫蔵する所の池大雅の「脩禊の図」に跋す。	跋南部源大夫所蔵池大雅脩禊図	池大雅
62		新たに装せる「六祖傳衣鉢の図」の掛幅に題す。	題新装六祖傳衣鉢図掛幅	(土佐光起)
63		明人の扇面の跋。	明人扇面跋	(鳥羽台麓)

さ・杉岡敬桑【公曙、?~1822】

(京都の人。江村北海、清田儂叟に学ぶ。美濃郡上藩に招かれ、藩校の督学となった。)

『襄荷溪詩集』文政七年(1824)刊(早稲田大学図書館本)				
1	卷二	南紀の岸氏(岸南嶠)、書画展観に遥かに詩を乞う。…[岸某、芸を好み、四時の百花を園亭に種う。]	南紀岸氏書画展観遙乞詩…[岸某好芸種四時百花園亭]	岸南嶠
2	五	小栗十洲に贈る。(若狭の元愷の孫にして久しく長崎に遊ぶ。また京師に下帷す。)	贈小栗十洲(若狭元愷之孫久遊長崎、又下帷京師)	小栗十洲
3		小栗十洲、越に遊ぶを送る。	送小栗十洲遊越	小栗十洲

4	五	大原呑響に贈る。…〔呑響、勢州に遊ぶ。藤堂侯、画を命じて刺紙三千枚を賜う。洛に還りて諸友を東山酒樓に邀う。画幅を以て人に与え、後、浪華に到りてことごとくその賜うところを贅す。〕	贈大原呑響 …〔呑響遊勢州藤堂侯命画賜刺紙三千枚還洛邀諸友東山酒樓以画幅与人後浪華悉贅其所賜〕	大原呑響
5		呑響(大原呑響)、刺紙三千枚を鑿扶して京に帰る。…〔呑響、殊に山水に妙にして十様の画法あり。〕	呑響鑿扶刺紙三千枚帰京 …〔呑響殊妙山水有十様画法〕	大原呑響
6		小栗十洲と牧君に陪し、嵐山に遊ぶ。	与小栗十洲陪牧君遊嵐山	小栗十洲
7		村上東洋、善く虎を画く。天下に甲たり。	村上東洋善画虎甲于天下	村上東洲か
8		二条城の戌客となり、三月下旬、すでに瓜期に幾し。梶定夫「信州岐岨の図」を展開し、宮沢竹堂、庄田淡水および余を招いてこれに題せしむ。図はすなわち石川大浪の画く所なり。	二条城戌客三月下旬已幾瓜期梶定夫展開信州岐岨図招宮沢竹堂庄田淡水及余令題之図乃石川大浪所画	石川大浪
9		尾州の竹洞(中林竹洞)、石楽庵中龍田(中野龍田)の祭饗を東山に設く。平安の文士を招き、余もまたこれに与かる。	尾州竹洞設石楽庵中龍田祭饗於東山招平安文士余亦与之	中林竹洞 中野龍田
10	八	報恩寺にて四明の陶逸の画虎を観る。…〔世に伝う、豊太閤、伏見桃山城に在りしとき、陶逸の虎画を洛北報恩寺に徴す。寺僧、威を憚れてすなわちこれを奉ず。画虎咆哮し、殿を嚇す。太閤よりてまたこれに還すと。〕	報恩寺觀四明陶逸画虎 …〔世伝豊太閤在伏見桃山城日徵陶逸虎画於洛北報恩寺寺僧憚威輒奉之画虎咆哮嚇殿太閤因復還之〕	陶逸
11		東山に遊びて大雅堂に過る。感あり。〔大雅堂、東山を以て粉本となす。〕	遊東山過大雅堂有感〔大雅堂以東山為粉本〕	池大雅
12		雪堂和尚の菊画の賛。	雪堂和尚菊画賛	雪堂

さd・清田儂叟【藤(藤)元琰、清君錦、1719~85】

(京都の人。越前福井藩の儒学者・伊藤龍洲の三男で、父に学んだ。福井藩儒学者となった。兄は伊藤錦里、江村北海。)

『孔雀楼文集』安永三年(1774)刊(早稲田大学図書館本)				
1	卷二	南嶽公(岡部南嶽)の画に題す。	題南嶽公画	岡部南嶽
2	五	劉彰臣(劉顕宗)の美人春遊の巻に書す。	書劉彰臣美人春遊卷	劉顕宗
3	七	慣々道人(佐竹嚶々)の事を記す。	記慣々道人事	佐竹嚶々 (池大雅)

さe・清田龍川【清公積、1750~1811】

(京都の人。江村北海の三男で父に学び、叔父の清田儂叟の養子となった。越前福井藩儒学者。)

『龍川詩鈔』寛政元年(1789)刊(大阪府立中之島図書館本)				
1	卷三	巖溪敬甫(岩溪嵩台)、聘に応じて福知山に赴くを送る。	送巖溪敬甫应聘赴福知山	岩溪嵩台
2	五	春日山居、小栗明卿(小栗常山)に次韻す。	春日山居次韻小栗明卿	小栗常山

さf・関口雪翁【関子卿、1753~1834】(附、息・孔凱)

(越後十日町の人。曹洞僧・祥云海雲に師事し、江戸で南郭の後を嗣いだ服部白賁に学んだ。美作津山藩主・松平康致に招かれた。)→画人

『関氏余稿』文政十年(1827)序(神宮文庫本)				
1	雪翁	長島老侯(増山雪齋)の寿筵、この日新たに楼成る。恭みてこれを賦して奉賀す。侯、書画に工にしてかつ奇石を好む。詩中、これに及ぶ。	長島老侯寿筵是日新楼成恭賦此奉賀侯工書画且好奇石詩中及之	増山雪齋
2		夏日の即事、雪齋老侯(増山雪齋)の有竹居、席上にて韻を探る。	夏日即事雪齋老侯有竹居席上探韻	増山雪齋
3		暮春、玄対翁(渡辺玄対)の西游を送る。	暮春送玄対翁西游	渡辺玄対
4		秋日、松山の寂照寺に過り、月仙上人に呈す。	秋日過松山寂照寺呈月仙上人	月仙
5	孔凱	芸藩の岡君章(岡岷山)画梅を恵さる。これを賦して謝す。	芸藩岡君章被惠画梅賦此謝焉	岡岷山
6		東大洋(東東洋)、伯庸を携え、まさに嶺北に之かんとす。よりてその行を送る。	東大洋携伯庸將之嶺北因送其行	東東洋

たa・高野蘭亭【高子式、東里先生、1704~57】

(江戸の人。荻生徂徠に学んだ。十七歳で失明したことで経学を諦め、詩に専念した。護国七子のひとり。)

『蘭亭先生詩集』宝暦八年(1758)刊(富士川英郎・松下忠・佐野正巳編『詩集日本漢詩』第3巻[汲古書院 1986年]所収)				
1	卷二	飯山侯(本多助監)蔵する所の韓幹の「二馬の図」を観る歌。	觀飯山侯所蔵韓幹二馬図歌	韓幹
2		画梅の行。	画梅行	(沈南蘋)
3	三	烏山侯(大久保忠胤)の席上にて大鵬禪師に贈る。	烏山侯席上贈大鵬禪師	大鵬正鯤
4		春夜の雪、文卿(横谷藍水)、子徳(竹川馬陵)、城昭徳と韓大年(韓天寿)の宅に宿す。	春夜雪与文卿子徳城昭徳宿韓大年宅	韓天寿
5	五	君瑞(越智雲夢)の懐仙楼にて子遷(服部南郭)の「岳陽樓の図」を観る。	君瑞懐仙楼觀子遷岳陽樓図	服部南郭
6	七	子徳(竹川馬陵)、城昭徳、韓大年(韓天寿)と同じく舟を泛べて海晏寺に遊するを聞く。賦して贈る。	聞子徳同城昭徳韓大年泛舟遊海晏寺賦贈	韓天寿
7	八	松山世子(酒井忠起)の壁間に、子行(伊藤華岡)、竹を画く。	松山世子壁間子行画竹	伊藤華岡
8	九	宇土侯(細川興文)の画蘭を恵さるるに奉謝す。	奉謝宇土侯見惠画蘭	細川興文
9	十	狩茶川(狩野典信)、屏面に松鶴を画けるに寄謝す。	寄謝狩茶川屏面画松鶴	狩野典信

たb・高本紫溟【李子友、1738~1813】

(肥後熊本の人。同藩儒学者・秋山玉山に学ぶ。藩校時習館の教授となった。朱子学を信奉したが、国学にも詳しくあった。)

『紫溟先生詩集』(古城貞吉・宇野東風・武藤殿男編『肥後文獻叢書』第2巻[隆文館 1909年]所収)				
1		亀文石の歌。蓬平山人(佐竹蓬平)に贈る。	亀文石歌贈蓬平山人	佐竹蓬平
2		伊大素(伊形靈雨)の「猿崖草堂の図」を観る。	觀伊大素猿崖草堂図	伊形靈雨
3		山俊度(山内俊度)、東武より帰り、その詩稿を示さる。これに賦して答寄す。	山俊度自東武帰見示其詩稿賦之答寄	山内俊度
『紫溟先生遺稿』(同上)				
4	卷一	豪潮師、蔵する所の「天台山の図」を観る歌。	觀豪潮師所蔵天台山図歌	(江稼圃)
5	三	中津の丸岡仲堅、岡城の田能村君彝(田能村竹田)皆至る。余の門に遊ばんと欲するも、故ありて還かに去る。賦して以て別を贈る。	中津丸岡仲堅岡城田能村君彝皆至余門有欲遊余門有故還去賦以贈別	田能村竹田
6		玉堂翁(浦上玉堂)、川観學に過らる。琴を奏で催馬楽を歌う。喜びて賦す。	玉堂翁見過川観學奏琴歌催馬楽喜而賦	浦上玉堂

7	四	慈仙師の墨梅に題す。	題慈仙師墨梅	慈仙
8		蓬平仙(佐竹蓬平)の画に題す。	題蓬平仙画	佐竹蓬平
9		甲子(文化元年)十月の望、慈仙師を懐う。	甲子十月之望懷慈仙師	慈仙
10		南医伯の集にて、玉堂翁(浦上玉堂)の催馬楽[蕙田]を弾ずるを聞く。	南医伯集聽玉堂翁彈催馬樂[蕙田]	浦上玉堂
11		行香子[田能村君彝(田能村竹田)の京に之くを送る。]	行香子[送田能村君彝之京]	田能村竹田
12		卜算子[田能村君彝(田能村竹田)の京に之くを送る。]	卜算子[送田能村君彝之京]	田能村竹田
13	五	佐竹蓬平に贈る序。	贈佐竹蓬平序	佐竹蓬平
14		蓬平山人(佐竹蓬平)の墓誌。	蓬平山人墓誌	佐竹蓬平
15		蕉堅稿を読む。	読蕉堅稿	(雪舟)
16	六	一溪翁野田君の墓表。	一溪翁野田君墓表	(宮本武蔵)

たc・瀧鶴台【瀧弥八、1709~73】

(長門萩の人。同藩儒学者・山県周南や江戸の服部南郭に学ぶ。仏学にも詳しかった。藩主毛利重就の侍講、羽前米沢藩主・上杉鷹山の賓師を務めた。)

『鶴台先生遺稿』安永七年(1778)刊(早稲田大学図書館本)				
1	卷四	張州の処士・西河黎猷(西河九松)、「山水の図」を恵さる。云えらく、それ自写する所なりと。これを賦して謝となす。	張州処士西河黎猷見惠山水図云其所自写賦此為謝	西河九松
2		画菊に題して九松子(西河九松)に贈る。	題画菊贈九松子	西河九松
3		中津侯(奥平昌鹿)作る所の墨竹、骨格勁爽にして氣韻清逸、一に汚俗を洗い、塵表に超然たり。通魏(宮沢通魏)、携え来りて賜せらる。文房新たに一尚友を得たるを喜ぶ。これを賦して奉謝し、かつ祝延の意を寓すと云う。	中津侯所作墨竹骨格勁爽氣韻清逸一洗汚俗超然塵表通魏携來見賜喜文房新得一尚友賦此奉謝且寓祝延之意云	奥平昌鹿
4	五	画藪の序。	画藪序	(宋紫石) (沢東宿)
5	八	西黎猷(西河九松)	西黎猷	西河九松
6	九	南塘先生(雲谷等直)	南塘先生	雲谷等直

たd・瀧川南谷【源長孺、搗藻公子、長門守、1760~1820?】

(江戸の人。豊後佐伯藩主毛利高慶四男・壺邸の子。旗本・瀧川一貞の養子となった。)

『芝園詩草』享和元年(1801)跋(岩瀬文庫本)				
1	卷上	北越の関子卿(関口雪翁)の清嘯館に寄題す。	寄題北越関子卿清嘯館	関口雪翁
2		遙かに長島侯(増山雪齋)の独楽園に題す。	遥題長島侯独楽園	増山雪齋
3		鈴子述(鈴木鷗汀)の馴鷗亭に題す。	題鈴子述馴鷗亭	鈴木鷗汀
5	下	今ここに閏六月、炎熱殊に甚し。長島侯(増山雪齋)、戸川君(戸川達邦)および諸子と同じく直指亭に遊びて納涼す。余、篋具を携う。陽韻を得たり。	今茲閏六月炎熱殊甚同長島侯戸川君及諸子遊直指亭納涼余携篋具得陽韻	増山雪齋
6		仏心の皈依老師、しばらく江州に之くを送る。[師、詩偈を善くし、また丹青をよくす。]	送仏心皈依老師暫之江州[師善詩偈又能丹青]	皈依

たe・武田梅龍【篠士明、武聖謨、1716~66】

(美濃の人。伊藤東涯や宇野明霞に学ぶ。赤松滄洲とは同門で、情交厚かった。妙法院宮・真仁法親王に侍読として仕えた。)

『梅龍先生遺稿』天明二年(1782)刊(国立国会図書館本)				
1	卷一	小集にて、播磨の宅敬甫(岩溪嵩台)、但馬の西士斐を懐う。體を分けて七言古を得たり。…[西士斐、名は貴。宅敬甫、名は恭。赤穂は宅の郷名なり、蓮台は西の郷国の山名なり。宅は母ありて父なし、西は父ありて母なし。]	小集懷播磨宅敬甫但馬西士斐分體得七言古[西士斐名貴宅敬甫名恭赤穂宅郷名蓮台西郷国山名宅有母無父西有父無母]	岩溪嵩台
2	四	峨洋軒の記。	峨洋軒記	(西鶴拳)

たf・武谷雲庵【武子龍、六甲山人、1702~65】

(大坂の人。菅甘谷に学んだか。医を業とし、細谷斗南や北山橋庵らと交流した。)

『六甲山人遺稿(三逸稿・上)』天明七年(1787)序(大阪府立中之島図書館本)				
1		立春、結文甫、泉必東、水漢徳と前に賦す。還字を分韻す。	立春結文甫泉必東水漢徳同賦分韻還字	泉必東
2		手ずから「仙桃の図」を写して竹田氏堂堂の八十を寿す。	手写仙桃図寿竹田氏堂堂八十	自画

たg・武谷成章【武豹卿、?~1786?】

(大坂の人。林東溟に学んだか。武谷雲庵の長男で、父の跡を嗣いで医を業とした。)

『青山集(三逸稿・中)』天明七年(1787)序(東京都立中央図書館加賀文庫本)				
1		泉必東、合麗王(細谷斗南)、木世肅(木村兼貞堂)、岡公翼(岡澹齋)、篠安道(篠崎三島)、葛子琴、過訪せらる。徊字を得たり。	泉必東合麗王木世肅岡公翼篠安道葛子琴過訪得徊字	泉必東
2		泉必東の東都に遊ぶを送る。	送泉必東遊東都	泉必東

たh・田坂瀧山【田子恭、1720~58】

(長門萩の人。同藩儒学者の山県周南らに学ぶ。萩藩士として書院番や藩主の近侍を務めた。)

『瀧山詩集』明和二年(1765)刊(早稲田大学図書館本)				
1	卷一	沢文学(繁沢豊城)、自ら「山水の図」を製して贈らるるに謝す。	謝沢文学自製山水図見贈	繁沢豊城
2	五	繁文学(繁沢豊城)の六十を寿す。文学、画に工にして、性、花草を好む。三首	寿繁文学六十文学工画性好花草三首	繁沢豊城

たi・田中桐江【田省吾、富春山人、1668~1742】

(出羽庄内鶴岡の人。江戸で萩生祖徠や服部南郭らに学ぶ。一時、柳沢吉保に仕えたが出奔して仙台に赴く。摂津池田に隠棲し、詩社・呉江社を開く。)

『樵漁余適』寛保元年(1741)序跋(大阪府立中之島図書館本)				
1	卷二	百拙禅師の惠韻に和す。	和百拙禅師惠韻	百拙元養
2	七	磐山君侯(伊達村泰)の墨梅、老蒼姿媚にして以て言うべからず。和靖の精神、儼然として在り。にわかには一幅を領して遂に久渴消ゆ。よりて小詩を綴りて厚情に奉謝す。	磐山君侯墨梅老蒼姿媚不可以言和靖精神儼然在忽領一幅遂消久渴因綴小詩奉謝厚情	伊達村泰



3	九	盤山藤侯(伊達村泰)の画蘭。[すなわち侯の求むる所なり。]	盤山藤侯画蘭[乃侯所求]	伊達村泰
4		竹師(独麟)画く所の松茸に題す。	題竹師所画松茸	独麟
5		竹老師(独麟)の自画像。	竹老師自画像	独麟
6	十三	龍眠(李公麟)の「十八羅漢の図」の記。	龍眠十八羅漢図記	李公麟
7	十五	米元章(米芾)の西園雅集の記の後に跋す。	跋米元章西園雅集記後	(仇英) (王振鵬)
8		鶴洲画ける費長房の遺蹟の後に題す。	題鶴洲画費長房遺蹟之後	鶴洲靈鷲

たj・端春荘【端文仲、1732~90】

(近江の人。京都で清山儋叟に学ぶ。二条間之町で書林を営んだが、天明8年の大火によって家産を失い、病を得て没した。)

『春荘遺稿』寛政十三年(1801)刊(岩瀬文庫本)				
1		建凌岱(建部凌岱)の画山水に題す。字元章(宇野禮泉)の韻に次ぐ。	題建凌岱画山水次字元章韻	建部凌岱
2		六如尊者に簡し奉り、兼ねて三熊子(三熊花顔)に呈す。	奉簡六如尊者兼呈三熊子	三熊花顔
3		三熊子(三熊花顔)の「雨竹の図」。	三熊子雨竹図	三熊花顔

たk・千葉芸閣【葉子玄、1727~92】

(江戸の人。熊本藩儒学者・秋山玉山に学ぶ。下総古河藩に出仕するも数年で致仕、駒込吉祥寺前で私塾を開いた。)

『芸閣先生文集』安永六年(1777)序跋(富士川英郎・松下忠・佐野正巳編『詩集日本漢詩』第15巻[汲古書院 1989年]所収)				
1	卷一	駒込の捨禪精舎、罹災して後、この歳明和丙戌(明和3年)に至るまで凡そ四十有六年を経、爾來仏涅槃の像を闕く。余、児豊を後圃に埋むるの因縁あるを以て、故に画工・零陵(烏山石燕)を借いて「涅槃会上の図」を謄写せしめ、以て宝庫に蔵め、いささか法会の開を補す。よりて臥仏の歌を作り、また松山伯義(松山天姥)を勞して直幅の背面に書さしめ、以て不朽に備うと云う。	駒込捨禪精舎罹災而後至茲歲明和丙戌凡經四十有六年爾來闕仏涅槃像余以有埋兒豊於後圃之因緣故借画工零陵謄写涅槃会上圖以蔵宝庫聊補法會之闕因作臥仏歌又勞松山伯義書直幅之背面以備不朽云	烏山石燕
2		画山水の歌。飯嶋汝文に贈る。	画山水歌贈飯嶋汝文	飯嶋汝文
3	三	逍遙公の集にて、趙松雪(趙孟頫)の画馬図に分題す。	逍遙公集分題趙松雪画馬図	趙孟頫
4		中山延冲(中山高陽)の画樓に飲す。	飲中山延冲画樓	中山高陽
5		煙波釣叟、飯嶋汝文の家翁七十を寿す。	煙波釣叟寿飯嶋汝文家翁七十	飯嶋汝文
6	四	大鵬禪師の画竹に題す。	題大鵬禪師画竹	大鵬正銀
7		鸞山師、水戸に掃省するを送る。十二侵を得たり。	送鸞山師掃省水戸得十二侵	鸞山
8		冬夜、飯嶋汝文宅に飲す。寒字を得たり。時に士文、座に在り。	冬夜飲飯嶋汝文宅得寒字于時士文在座	飯嶋汝文
9	五	先聖像の贊。[狩野養朴の図]	先聖像贊[狩野養朴図]	狩野安信
10	六	漆几の銘。[並びに小引。] 黒川安定、字は子保、亀玉と号す。かつて几案を製し、ただ画のみこれ耽る。宝暦六年を以て夭没す。爾後、その几を飯嶋汝文に伝う。汝文もまた画を好み、すこぶる詩を賦す。奇遇と謂うべし。汝文、余に就いて銘を請い、余頷す。叙してその所由を略し、并せてこれが銘を作る。	漆几銘[并小引] 黒川安定字子保号亀玉嘗製几案惟画是耽以宝暦六年夭没爾後伝其几於飯嶋汝文汝文亦好画頷賦詩謂可謂奇遇也汝文就余請銘余頷略叙其所由并作之銘	黒川亀玉 飯嶋汝文
11	八	「富嶽の図」に題す。画工に代わりて作る。	題富嶽図代画工作	(朝倉頼母)
12		王母を画ける直幅の背後に題す。	題画王母直幅之背後	(狩野洞雲) (烏山石燕)
13	九	横田君繩に与う。	与横田君繩	(2代黒川亀玉)

たl・千村鷺湖【千力之、千伯就、1727~90】

(尾張名古屋の人。同藩藩士・松平君山や、江戸で石鳥筑波に学ぶ。尾張藩士として藩主の近侍を務めた。) →画人

『自適園集初編』安永八年(1779)序跋(国立国会図書館本)				
1	卷下	服部君用を送る序。(宝暦5年)	送服部君用序	(津田北海)
2		月仙上人、京師小松谷に之くを送る序。(安永2年)	送月仙上人之京師小松谷序	月仙
『自適園集二編』天明五年(1785)刊(同上)				
3	卷一	鈴木、津田(津田北海)の二隠君、寿国上人および諸子訪わる。分韻して刀字を限る。	鈴木津田二隠君寿国上人及諸子見訪分韻限刀字	津田北海
4		自適園の小集にて北海津君(津田北海)、黙天上人に賦して示す。	自適園小集賦示北海津君黙天上人	津田北海
5		仲秋、北海津田公(津田北海)、諸君を栢榴園に邀て月を賞づ。余、病みて陪することを得ず。恨なきにあらざ。よりて賦して主人に奉呈す。	仲秋北海津田公邀諸君栢榴園賞月余病不得陪焉不無恨因賦奉呈主人	津田北海
6	二	藤東市(内藤東市)の園に飲す。	飲藤東市園	内藤東市
7		北海徴君(津田北海)の茶宴に赴く。主人に奉呈す。	赴北海徴君茶宴奉呈主人	津田北海
8	三	龍世華(龍玉淵)の字の説。(明和2年)	龍世華字説	龍玉淵
9		墨竹画巻の序。	墨竹画巻序	(浅井因南)
10	四	平洲細井先生に与う。	与平洲細井先生	自画

たm・鳥山菘岳【鳥世章、?~1774】

(越前府中の人。京都で香川修庵、伊藤東涯に学ぶ。医を業とした。大坂移居後は片山北海の混沌詩社に参加した。)

『垂葭詩稿』安永二年(1773)刊(野間光辰監修『近世文芸叢刊第8巻 浪華混沌詩社集』[1969年]所収)				
1	卷二	銭必東(泉必東)を挽す。[亭、女蘿と名づく。]	挽銭必東[亭名女蘿]	泉必東
2		柳淇園(柳沢淇園)の墨竹を詠ず。「陰は酒樽を過りて涼し」の韻を分かつ。	詠柳淇園墨竹分陰過酒樽涼韻	柳沢淇園
3		沢弟侯(平沢旭山)の富士登覧の図の記に題す。十三元を得たり。	題沢弟侯富士登覧図記得十三元	平沢旭山
4	三	郡山侯(柳沢伊信)、花鳥を画き、係くるに五絶を以てし、西孟清(西村孟清)に賜う。孟清、諸子の詩を請い、以て画軸に附す。	郡山侯画花鳥係以五絶賜西孟清孟清請諸子詩以附画軸	柳沢伊信
5	四	戊子(明和5年)正月十九日、井世華(大井艸亭)の宅に会す。朋字を得たり。	戊子正月十九日会井世華宅得朋字	大井艸亭
6		六月五日、阿邸の岡君章(岡田南山)、城北に泛舟して諸友を招く。遷字を得たり。	六月五日阿邸岡君章城北泛舟招諸友得遷字	岡田南山

なa・中島雪楼【島潜(仙)夫、1745~1825】

(丹波亀山の人。大坂の岡白駒や那波魯堂に学ぶ。亀山藩主・松平信岑に召還され、藩校の教授となった。)

『雪楼先生詩鈔』寛政十一年(1799)自序(岩瀬文庫本)				
1	卷上	董公子文承君の「秋日出家」の韻に和す。[広川董公(董九如)の次子なり。]	和董公子文承君秋日出家韻[広川董公次子]	董九如
2	中	僧雪我の画に題す。	題僧雪我画	雪峨
3		東藍山(伊東藍山)の席上にて鈴子述(鈴木鷗汀)に邂逅す。子述、まさにその君の駕に從いて越後州に赴かんとす。これを賦して別となす。	東藍山席上邂逅鈴子述子述將從其君駕赴越後州賦此為別	鈴木鷗汀
4	下	噂々(佐竹噂々)に贈る。[源東溪子(松平東溪)と同じく過飲す。]	贈噂々[同源東溪子過飲]	佐竹噂々
5		七月既望、木文照[芙蓉と号す]に寄懐す。	七月既望寄懷木文照[号芙蓉]	鈴木芙蓉
6		三白華の寄せらるるに酬ゆ。兼ねて枝山(石川枝山)、天岡の二子を懐う。	酬三白華見寄兼懷枝山天岡二子	石川枝山
7		冬夜、石枝山(石川枝山)訪わる。七虞を得たり。	冬夜石枝山見訪得七虞	石川枝山
8		矢筈脚と同じく苗君逸に過る。四支を分かち。	同矢筈脚過苗君逸分四支	苗君逸
9		白華、枝山(石川枝山)と同じく青山椽甫の宅に飲し、分韻す。	同白華枝山飲青山椽甫宅分韻	石川枝山

なb・中山高陽【仲子和、仲延沖、1717~80】

(土佐の人。同藩儒学者・富永惟安に学ぶ。大坂、江戸に出て井上金峨を始めとする漢学者と交わり、特に画に長じた。)→画人

『高陽山人詩稿』安永七年(1778)刊(国立公文書館内閣文庫本)				
1	卷二	岡生の求めに応じて宮土奇(宮崎筠圃)の「風竹の図」に題す。	応岡生求題宮土奇風竹図	宮崎筠圃
2		山子遠の宅にて錢舜拳(錢選)画ける「旅葵を賞する図」を観る引。	山子遠宅觀錢舜拳画賞旅葵図引	錢選
3		子昂(趙孟頫)画ける「掃去来の図」を観る引。	觀子昂画掃去來図引	趙孟頫
4	四	「麻姑山の図」を画く。	画麻姑山図	自画
5		浦君輔(浦上玉堂)の邸舎にて、岳子蕩(大竹麻谷)、松有年(赤松龍南)、山文照(陰山豊洲)、石太一(石川金谷)諸子に邂逅す。余の画を求め、各々詩あり。賦して答う。	浦君輔邸舎邂逅岳子蕩松有年山文照石太一諸子求余画各々有詩賦答	浦上玉堂
6	七	酔後の席上にて求めに応じて画を作り、かつ戯れに詩を併す。二首	酔後席上応求作画且戯併詩二首	自画
7	八	冬日、加上瑤の伊勢に帰るを送り、兼ねて彭百川(彭城百川)を問う。	冬日送加上瑤伊勢兼問彭百川	彭城百川
8		泉必東に寄せ、兼ねて菅尚善を問う。	寄泉必東兼問菅尚善	泉必東
9		辺延暉(渡辺玄対)の求めに応じて馬文晋(北山晋陽)画ける雪屋の扇面に題す。	応辺延暉之求題馬文晋画雪屋扇面	渡辺玄対 北山晋陽
10		紅白梅の図に自題す。	紅白梅図自題	自画

なc・南宮大湫【喬卿、1728~78】

(美濃今尾の人。尾張藩家老竹腰氏の家臣・中西波淵に学ぶ。伊勢桑名、江戸で私塾を開き、日向延岡藩主・内藤政陽に賓師として招かれた。)

『大湫先生集』明和元年(1764)刊(国立国会図書館本)				
1	卷三	中秋前一夜、張州の土季頼の宅にて田子晋(飯山高嶺)、藤茂臣、児君房と同じく、長崎の野子今(勝野范古)に邂逅す。	中秋前一夜張州土季頼宅同田子晋飯山高嶺藤茂臣児君房邂逅長崎野子今	勝野范古
2	五	林生、「太公釣渭の図」を写して贈らる。これを賦して寄謝す。	林生写太公釣渭図見贈賦此寄謝	林生

なd・西川国華【西子璉、1749頃~1818】

(近江彦根の人。同藩の儒学者・野村東皐に学んだ。丹波綾部藩に医と儒で仕えた。)

『蓬蒿詩集初編』文化十一年(1814)刊(国立国会図書館本)				
1	卷二	長島侯(増山雪齋)の帰藩を送り奉る。	奉送長島侯帰藩	増山雪齋
2		岡文学伯和(岡井赤城)、高松侯に從いて日光山に之くを送る。	送岡文学伯和從高松侯之日光山	岡井赤城

なe・西山拙斎【西士雅、1735~98】

(備中鴨方の人。大坂の岡白駒や那波魯堂に学ぶ。徂徠学から朱子学に転向し、異学の禁を建議した。古林見宜に学び、郷里で医業を営む。)

『拙斎西山先生詩鈔』文政十一年(1828)刊(早稲田大学図書館本)				
1	卷上	画者索我齋(田中索我)、梅花を寄贈す。戯れに賦して以て謝す。	画者索我齋寄贈梅花戲賦以謝	田中索我
2	中	浦上玉堂に寄贈し、張大命の「琴経の首題」の韻に次ぐ。	寄贈浦上下堂次張大命琴経首題之韻	浦上玉堂
3		明人の鼻器に題す。玉堂氏(浦上玉堂)のためにす。並びに引。	題明人鼻器為玉堂氏并引	浦上玉堂
4	下	重陽前四日、菅礼卿(菅茶山)訪わる。これを賦して喜を志す。…〔綾山田生(黒田綾山)、余のために采石磯黄山諸名勝を障壁の間に画く。すこぶる幽致あり。席上たまたま岱史黄山導等の遊記あり。相与に披閱す。〕	重陽前四日菅礼卿見訪賦此志喜…〔綾山田生為余画采石磯黄山諸名勝於障壁間頗有幽致席上偶有岱史黄山導等遊記相与披閱〕	黒田綾山
5		五岳生(福原五岳)画く所の「洞庭湖の図」を観る。小野泉蔵(小野橋山)示さるる所なり。	觀五岳生所画洞庭湖圖小野泉蔵所示	福原五岳
6		洛陽客舎にて始めて松前蠅崎君(蛸崎波響)に見ゆ。知遇を叨辱すること累月なり。漫りに小詩二章を賦して奉謝す。情を辞に見わす。	洛陽客舎始見松前蠅崎君叨辱知遇累月漫賦小詩二章奉謝情見乎辞	蛸崎波響
7		蝦夷酋長の図像に題す。松前公子(蛸崎波響)のためにす。	題蝦夷酋長図像為松前公子	蛸崎波響

なf・丹羽嘉言【1742~86】

(尾張名古屋の人。同藩儒学者の小出慎齋、石川香山に学ぶ。竹中氏の臣であったが致仕し、雲臥禅師に参禅して出家同前の生活を送った。)→画人

『謝庵遺稿』享和元年(1801)序(東京芸術大学本)				
1		自画に題す。	題自画	(巢見修父)
2		修父(巢見修父)の画卷の後に題す。	題修父画卷後	巢見修父
3		木謝庵(勝木謝庵)の「祝寿宝珠の図」の後に書す。	書木謝庵祝寿宝珠図後	勝木謝庵
4		雪斎(鎌田雪斎)の「鳴門津潮の図」の後に書す。(安永6年)	書雪斎鳴門津潮図後	鎌田雪斎
5		西村清狂の「謝庵移居の図」の後に書す。	書西村清狂謝庵移居図後	西村清狂

6		清狂糟百春(西村清狂)の平安遊興画卷に題す。(安永8年)	題清狂糟百春平安遊興画卷	西村清狂
7		墨竹巻の後に書す。(安永9年)	書墨竹巻後	(浅井因南) (宮崎筠圃)
8		清狂(西村清狂)の「中秋閑泛の図」に題す。	題清狂中秋閑泛図	西村清狂
9		韻語[己亥(安永8年)六月十七日、諸友と暑を避け、海に泛ぶ。舟人、先に酔いて酒樽を枕とす。清狂(西村清狂)これを図し、予乞いて帰る。これが賛をつくり、重ねて諸友に示す。]	韻語[己亥六月十七日与諸友避暑泛海舟人先酔枕酒樽清狂図之子乞帰為之賛重示諸友]	西村清狂
10		韻語[宮吉夫(山田宮常)の「白描大黒天の図」に題す。]	韻語[題宮吉夫白描大黒天図]	山田宮常
11		韻語[自画の「西行上人の像」に題す。]	韻語[題自画西行上人像]	自画
12		韻語[自画の「独坐山亭の図」に題す。]	韻語[題自画独坐山亭図]	自画
13		韻語[自画の古木に題す。]	韻語[題自画古木]	自画

なg・野村東皐【野子賤、1717~84】

(近江彦根の人。同藩儒学者の沢村琴所、江戸の服部南郭らに学ぶ。彦根藩の儒学者となった。)

『蕺園集前編』明和七年(1770)刊(早稲田大学図書館本)				
1	卷五	「王母の図」に題す。我が大孺人の七十誕辰なり。大菅瓊美(大菅中養父)、「王母の図」一幅を贈らる。けだしその手写すところなり。余、すなわちこれが賛をつくり、種元民(種村箕山)に請いて書せしむ。これを堂の壁に掛け、以て大孺人の驪に中つと云う。	題王母図 我大孺人七十誕辰大菅瓊美見貽王母圖一幅蓋其手写也余乃為之賛請種元民書掛諸堂壁以中大孺人驪云	大菅中養父
『蕺園集後編』寛政九年(1797)刊(同上)				
2	卷二	遙かに竹酔館に題す。[館主、姓は佐、名は某、字は応謙、酒を洛東に売る。池無名(池大雅)に師事す。頃、来りて余の詩を乞う。すなわち賦してこれに寄与す。]	遙題竹酔館[館主姓佐名某字応謙売酒於洛東師事池無名頃来乞余詩乃賦寄与之]	佐竹嘯々 池大雅
3	三	寄せて龍文学(龍草廬)を賀す。文学新たに致仕し、特に命じて菓を給う。子春(龍玉淵)職を襲う。	寄賀龍文学文学新致仕特命給菓子春襲職	龍玉淵
4	五	杉憇卿、余のために屏面を画く。これを作りて寄謝す。	杉憇卿為余画屏面作此寄謝	杉憇卿

はa・服部南郭【服子遷、1683~1759】

(京都の人。江戸で武藏川越藩主・柳沢吉保に歌人として仕え、荻生徂徠に学ぶ。護国七子の一。最も詩をよくし、画にも長じたという。)→画人

『南郭先生文集初編』享保十二年(1727)刊(富士川英郎・松下忠・佐野正己編『詩集日本漢詩』第4巻[汲古書院 1985年]所収)				
1	卷八	快哉亭の記。	快哉亭記	(住江滄浪)
『南郭先生文集二編』元文二年(1737)刊(同上)				
2	卷二	仙台佐容翁(佐久間洞巖)の画を得、喜びて歌を作る。寄贈して謝となす。	得仙台佐容翁画喜而作歌寄贈為謝	佐久間洞巖
3	五	寄せて仙台佐容翁(佐久間洞巖)の八十の寿を賀す。二首	寄賀仙台佐容翁八十寿二首	佐久間洞巖
4	八	西台侯(本多忠統)のために画卷に跋す。	為西台侯跋画卷	本多忠統 (梁楷 「画盪図」)
5	十	郡山の柳大夫(柳沢淇園)に答う。	答郡山柳大夫	柳沢淇園
6		猗蘭侯(本多忠統)に報ず。	報猗蘭侯	本多忠統 (仇英)
『南郭先生文集三編』延享二年(1745)刊(同上)				
7	卷一	画龍の引。	画龍引	(忍海) (牧谿)
8		芙蓉の図を観る引。	観芙蓉図引	(忍海) (雪舟)
9	四	松子錦(松本尚綱)、たまたま雪景の掛幅を得。これ猗蘭侯(本多忠統)の図する所なり。よりて作りて以てその賞を助く。	松子錦偶得雪景掛幅是猗蘭侯所図因作以助其賞	本多忠統
10		忍海上人、盆荷並びに詩を贈らる。云えらく、これ竺蓮なりと。謝して答う。	忍海上人見贈盆荷并詩云是竺蓮答謝	忍海
11		海雲上人(忍海)、西京に遊ぶを送る。二首[上人画癖あり。]	送海雲上人遊西京二首[上人有画癖]	忍海
12	五	白華印譜の序。	白華印譜序	(忍海)
13	八	容軒先生(佐久間洞巖)の墓碣。(元文元年)	容軒先生墓碣	佐久間洞巖
14	九	土佐氏の「妖怪の図」を謄写する跋。	謄写土佐氏妖怪図跋	(土佐光信) (望月玉蟾) (真珠庵・百鬼 夜行図巻)
『南郭先生文集四編』宝暦八年(1758)刊(同上)				
15	卷一	齋中の四壁に自ら山水を画く。戯れに臥遊の歌を作る。	齋中四壁自画山水戯作臥遊歌	自画
16		尾藩致仕大夫・北海君(津田北海)、閑居すること数年、賦して寄してこれを問う。	尾藩致仕大夫北海君閑居数年賦寄問之	津田北海
17		子昌(河原保寿)の鵲巢亭に題す。	題子昌鵲巢亭	河原保寿
18		艸堂の壁に、海雲上人(忍海)、ために猿鶴を画く。ただに小荘を錫光するのみならず、悠然として隠操を助くることあり。よりて賦して謝となす。	艸堂壁上海雲上人為画猿鶴不惟錫光小荘悠然有助隠操因賦為謝	忍海
19	九	栗探淑(栗柄探叔)、画帖を謄写する跋。	栗探淑謄写画帖跋	栗柄探叔 (狩野探幽)
20		戯れに海雲師(忍海)の画蘭の巻に題す。	戯題海雲師画蘭巻	忍海

はb・尾藤二洲【左子文、藤志尹、1747~1813】

(伊予川之江の人。大坂で片山北海に学ぶ。のち、寛政の改革で幕府に登用され、昌平坂学問所の教授となった。寛政三博士の一。)

『静寄軒集』浄写本(富士川英郎・松下忠・佐野正己編『詩集日本漢詩』第7巻[汲古書院 1987年]所収)				
1	卷一	画に題す。[千原穆香、南極星を夢む。よりて自ら画きて図となし、以て詩を乞う。](天明3年)	題画[千原穆香夢南極星因自画為図以乞詩]	千原穆香
2		大井世華(大井艸亭)の宅にて梅花を觀、十蒸を分韻す。篠安道(篠崎三鳥)、隠子遠(隠岐菜軒)、吉夢鶴(吉田謙齋)、古林百朋(古林見常)、田師逸(田辺庸之)と同じくす。[世華は大坂鎮騎にして作詩を好み、しばしば文士を招く。](天明5年)	大井世華宅觀梅花分韻十蒸同篠安道隠子遠吉夢鶴古林百朋田師逸[世華大坂鎮騎好作詩屢招文士]	大井艸亭

3	二	五岳山人(福原五岳)の「琵琶湖の図」に題す。宮寛庵のためにす。[図は全く琵琶の形を成す。](寛政3年)	題五岳山人琵琶湖図為宮寛庵[図全成琵琶之形]	福原五岳
4		木芙蓉(鈴木芙蓉)の画に題す。古林君実のためにす。(寛政3年)	題木芙蓉画為古林君実	鈴木芙蓉
5	三	五岳山人(福原五岳)、遠く浪華より余に画山水六幅を贈らる。これを賦して寄謝す。	五岳山人遠自浪華贈余画山水六幅賦此寄謝	福原五岳
6		阿波源侯(蜂須賀治昭)、柴彦輔(柴野栗山)の駿台の宅に過り、富嶽を望む。よりにて画幅を作りて壘(尾藤二洲)に属してこれに題せしむ。	阿波源侯過柴彦輔駿台宅望富嶽因作画幅属壘題之	蜂須賀治昭
7		方西園の「楠樹及鳥の図」に題す。	題方西園楠樹及鳥図	方西園
8		皆川伯恭(皆川淇園)の画幅に題す。	題皆川伯恭画幅	皆川淇園
9		画に題す。阿藩某生のためにす。[岡君章(岡田南山)の画山水。]	題画為阿藩某生[岡君章画山水]	岡田南山
10		彦輔(柴野栗山)、子強(岡田寒泉)、淳風(古賀精里)諸子と同じく、橘侍医の水明楼に集す。[画人木雍(鈴木芙蓉)、図を作る。]	同彦輔子強淳風諸子集橘侍医水明楼[画人木雍作画]	鈴木芙蓉
11		肥後源侯(細川重賢)、手ずから「蔭垂より富嶽を望む図」を写し、以て柴彦輔(柴野栗山)に寄す。彦輔また肥前(鍋島治茂)、阿波(蜂須賀治昭)二侯の詩を乞い、装して一軸と成す。会客共に観て賦をなす。古風十二韻	肥後源侯手写蔭垂望富嶽図以寄柴彦輔彦輔又乞肥前阿波二侯詩裝成一軸会客同観為賦古風十二韻	細川重賢
12	四	谷文晁の松島の画軸に題す。辛伯彝(辛島塩井)のためにす。	題谷文晁松島画軸為辛伯彝	谷文晁

はc・平井晴雨【平紀宗、1735~90】

(近江平井の人。越の藩に仕官するも辞去し、逢阪に幽暢園を開いて隠棲した。混沌社にも交わり、特に頼春水と情交厚かった。)

『滄池詩鈔』寛政八年(1796)序跋(国立国会図書館本)			
1	卷上	苗君逸、僧泰然、訪わる。寒字を分得す。	苗君逸僧泰然見訪分得寒字
2		君逸の画山水に題す。	題君逸画山水

はd・平賀蕉斎【平子英、1745~1805】

(安芸広島の人。江戸で南郭の後を嗣いだ服部白賈に学ぶ。広島藩の重臣・浅野士教に仕えた。) →画人

『白山集』寛政七年(1795)刊(大阪府立中之島図書館本)				
1	卷三	都子玉、老新二竹を画き、以て祖母氏の寿を奉ず。余をしてこれに題せしむ。	都子玉画老新二竹以奉祖母氏寿令余題之	都子玉
2		同前(巖島に遊ぶ)、子順(太田午庵)の僑居に集す。生、画を善くす。二首	同前集子順僑居生善画二首	太田午庵
3		伯修(長田鶴洲)、周介(松本奉時)と同じく、五岳老人(福原五岳)の詩画樓を訪う。	同伯修周介訪五岳老人詩画樓	松本奉時 福原五岳
4		月仙老師に贈る。	贈月仙老師	月仙
5		奉時山人(松本奉時)に贈る。	贈奉時山人	松本奉時
6	四	余、日光山より帰り、歴る所の諸勝詩画を録して帖となす。諸君に請いてその巻後に題せしめ、賦となす。	余自日光山而帰録所歴諸勝詩画為帖請諸君題其巻後為賦	自画
7		関子卿(関口雪翁)の清嘯亭に寄題す。	寄題関子卿清嘯亭	関口雪翁
8		西川氏の大孺人の八十初度、その孫・子玉、「王母の図」を製して以てその寿を奉ず。余もまたこれに題し、兼ねて称觴の詞に代ゆると云う。	西川氏大孺人八十初度其孫子玉製王母図以奉其寿余亦題之兼代称觴之詞云	都子玉
9		馬山の雑咏、十首。百拙師の韻に和し、戯れにその體に倣う。	馬山雑咏十首和百拙師韻戲倣其體	百拙元養
10	五	噲々生(佐竹噲々)の竹酔館に飲す。戯れに同遊視遠に示す。	飲々生竹酔館戲示同遊視遠	佐竹噲々
11		自ら墨梅を画き、人に贈る。系くるに詩を以てす。	自画墨梅贈人系以詩	自画
12		林子行、浪華に之く。五岳老人(福原五岳)を懐うことあり。	林子行之浪華有懷五岳老人	福原五岳
13		正通院にて胡枝花を賞づ。雪舫上人に賦呈す。	正通院賞胡枝花賦呈雪舫上人	雪舫
14		斗米翁(伊藤若冲)に贈る。翁はすなわち若冲居士なり。	贈斗米翁翁即若冲居士	伊藤若冲
『独醒庵集』寛政十三年(1801)刊(同上)				
15	卷二	余、東都に在りしとき、越後の関子卿(関口雪翁)としばしば小丘園(秋元小丘園)に会す。別後二十年、杳として音問なし。たまたま藩便に附して詩を寄せらる。余、読むこと数四、あたかも面晤するがごとし。遂にその韻に歩して酬となす。	余在東都日与越後関子卿教会小丘園別後二十年杳無音問偶附藩便見寄詩余誦数四宛如面晤遂步其韻為酬	関口雪翁
16		馬山の客中、子興、君莽、周介(松本奉時)、浪華より至る。喜びて賦す。	馬山客中子興君莽周介自浪華至喜賦	松本奉時
17		早秋、子順(太田午庵)の集。	早秋子順集	太田午庵
18		同前(總渡夜泊)、田子順(太田午庵)、東都より帰するに遇う。喜びて賦す。	同前遇于田子順自東都喜賦	太田午庵
19	三	冬日の雨、篠安道(篠崎三鳥)と正通院(雪舫)に遊ぶ。寒字を分得す。	冬日雨与篠安道遊正通院分得寒字	(雪舫)
20		白山園の雑咏。十首 … [五鹿生、須麻敗庵を贈らる。また勢州・月仙師、列仙十二牒を画きて贈らる。]	白山園雑咏十首 … [五鹿生須麻敗庵又勢州月仙師画列仙十二牒而贈]	月仙
21		田前鋒将子順(太田午庵)の馬、死す。詩にてこれを悼む。	田前鋒将子順馬死詩以悼之	太田午庵
22	四	月仙老禪に呈す。[雲嶺、栖神共に居する所の名なり。]	呈月仙老禪[雲嶺栖神共所居名]	月仙
23	五	画山水[浪華古愚堂(西村孟清)のためにす。]	画山水[為浪華古愚堂]	自画
24		月仙師、余の浄髪肖像を画く。感あり。	月仙師画余浄髪肖像有感	月仙

はe・平沢旭山【沢弟侯、1733~91】

(山城宇治の人。大坂で片山北海に学ぶ。その後、江戸へ出て昌平塾に入門し、教授となるが、寛政の改革に伴って破門された。) →画人

『澤旭山先生文章』写本(早稲田大学図書館本)				
1		新模名山勝概図の序。	新模名山勝概図序	(鈴木芙蓉)
2		芙蓉齋の記。	芙蓉齋記	鈴木芙蓉
3		雲室の記。	雲室記	雲室
4		黄蘆園の記。	黄蘆園記	(董九如)
5		波臣画帖の跋。	波臣画帖跋	曾鯨か
6		錢玉潭(錢選)の羅漢模本の跋。	錢玉潭羅漢模本跋	錢選
7		「源三位白晝の図」の跋。	源三位白晝図跋	(狩野尚信)

はf・細合斗南【合麗王、半斎、1727~1803】

(伊勢江島の人。大坂で菅竹谷に学ぶ。今橋に私塾・半斎齋を開いて門弟を教授した。松花堂流の書家としても著名。) →画人

『小草初篋』安永五年(1776)刊(大阪府立中之島図書館本)				
1	卷一	田子玉(田其相)、余のために「白雲山下読書の図」を写寄せらる。喜びて自題す。山は京城の西十数里に在り。すなわち愛宕山なり。余の親舎は愛宕郡に在り。よりに自ら白雲山人と号す。	田子玉為余写寄白雲山下読書圖書而自題山在京城西十数里即愛宕山也余親舎在愛宕郡因自号白雲山人	田其相
2		仲秋、泉恒卿(泉必東)諸子と同じく、海門に泛舟す。十二體を分賦す。	仲秋同泉恒卿諸子海門泛舟分賦十二體	泉必東
3		鶴亭禪師の画秋海棠に題す。岡公翼(岡澹齋)のためにす。	題鶴亭禪師画秋海棠為岡公翼	鶴亭
4	三	田子玉(田其相)の画山水に題す。	題山子玉画山水	田其相
5		阮素一(阮白千)、長崎に之くを送る。	送阮素一之長崎	阮白千
6		平安の岡元震(岡野石圃)に題す。	題平安岡元震東山図	岡野石圃
7		土佐の仲延冲(中山高陽)の「雨竹の図」に題す。	題土佐仲延冲雨竹図	中山高陽
8	四	三嶽の行、池道者(池大雅)に贈る。…【出雲怪石の二句、宋の范寛画論中の語を用ゆ。】	三嶽行贈池道者…【出雲怪石二句用宋范寛画論中語】	池大雅
9		池貸成(池大雅)の東山草堂に過る。長州の大江君、瀧(瀧鶴台)、縣の二子、辭に題するを見る。	過池貸成東山草堂見長州大江君瀧縣二子題辭	池大雅
10		碎硯の行。宮筠圃(宮崎筠圃)に贈る。	碎硯行贈宮筠圃	宮崎筠圃
11		池山人(池大雅)を訪う。	訪池山人	池大雅
12		高孺皮(高芙蓉)、池貸成(池大雅)と共に清水寺に遊ぶ。	与高孺皮池貸成同遊清水寺	池大雅
13		池載成(池大雅)の夢居に贈る。四首	贈池載成夢居四首	池大雅
14	五	中川夙夜(青木夙夜)の「小金剛の図」を写寄せらるるに謝す。【勢に小角の遺跡あり。図致す。】	謝中川夙夜写寄小金剛図【勢有小角遺跡図致】	青木夙夜
15		韓大年(韓天寿)の醉晋齋に宿す。	宿韓大年醉晋齋	韓天寿
16	六	池貸成(池大雅)の小景に題す。田潜夫の索めに応ず。	題池貸成小景応田潜夫索	池大雅
『合子天明後稿』寛政十年(1798)刊(卷一~三・大阪府立中之島図書館本、卷四・東京都立中央図書館加賀文庫本)				
17	卷一	松楊谷の画山水に題す。(天明元年)	題松楊谷画山水	松楊谷
18		如春齋(勝部如春齋)の「夏秋富士山の図」に題す。二首(天明元年)	題如春齋夏秋富士山図二首	勝部如春齋
19		韓客・金仲玉(金有聲)の「水墨山水の図」を観る引。高士寅(高木東陽)のためにす。(天明元年)	觀韓客金仲玉水墨山水図引為高士寅	金有聲
20		如春齋(勝部如春齋)の画鶴に題す。(天明元年)	題如春齋画鶴	勝部如春齋
21		滕南州の墨龍に題す。(天明元年)	題滕南州墨龍	滕南州
22		阿波の岡君章(岡田南山)、来りて先兄の墓を祭る。婦に即きて感あり。別を贈る。(天明2年)	阿波岡君章來祭先兄墓即婦有感贈別	岡田南山
23		春卜(大岡春卜)の「松鳩の図」に題す。(天明2年)	題春卜松鳩図	大岡春卜
24		秋桂の「三笑の図」に題す。(天明2年)	題秋桂三笑図	秋桂
25		大井世華(大井紳亭)、紅白の二梅花を貽らるるに謝す。二首(天明2年)	謝大井世華見貽紅白二梅花二首	大井紳亭
26		木田伯子(木田初心齋)、石街の別業に留飲す。筆を走らせこれを謝す。(天明2年)	留飲木田伯子石街別業走筆謝之	木田初心齋
27		山必器(蒔田暢齋)の鴻雁堂に寄題す。(天明2年)	寄題山必器鴻雁堂	蒔田暢齋
28		吾が書祖・松花堂師に「十六羅漢の図」あり。本坊藏本に在り。木田仲子、これを慕し、賛を請う。よりに替す。仲子もまた吾が徒なり。(天明2年)	吾書祖松花堂師有十六羅漢図在本坊藏本木田仲子慕之請贊因替仲子亦吾徒也	松花堂昭乗
29		桑明夫(桑山玉洲)の「箱根山の図」に題す。(天明2年)	題桑明夫箱根山図	桑山玉洲
30		杉宗仲の小景に題す。(天明2年)	題杉宗仲小景	杉宗仲
31		維明禪師の墨梅に題す。(天明2年)	題維明禪師墨梅	維明
32		長島侯(増山雪齋)の独楽園に寄題し奉る。(天明3年)	奉寄題長島侯獨樂園	増山雪齋
33		阮亭蘿山人、画山水を恵さるるに謝す。(天明3年)	謝阮亭蘿山人恵画山水	阮蘿山人
34		越鳥齋の「海客鷗に対する図」に題す。(天明3年)	題越鳥齋海客對鷗図	越鳥齋
35		愚鈍画ける契此に題す。(天明3年)	題愚鈍画契此	神立愚鈍
36		五岳生(福原五岳)の墨山水に題す。(天明3年)	題五岳生墨山水	福原五岳
37	二	尼崎前老・松平醉翁君の八十八を寿す。君、画を善くす。(天明4年)	寿尼崎前老松平醉翁君八十八君善画	松平醉翁
38		源孺皮(高芙蓉)の計至る。余、これがために勵す。けだし孺皮、穴戸侯の聘に應じて暮春の念七日、家を提して京を發す。道を任て太神宮に謁し、首夏十六日に及びて東都に入る。途より疾に罹る。越えて念五日、遂に邸舎に歿すと云う。ああ、痛いかな。余、交誼において最も旧し。詩を作りて并せて序し、相ために往來して別る。後一夕、孺皮を夢み、覺して詩あり。追思すればその卒前五夕に丁る。識に庶し。よりに哭詩を作る。四首…【孺皮、もと高氏を称す。池貸成(池大雅)、韓大年(韓天寿)と同じく富士、白、立の三岳に遊ぶ。池子先に没し、韓子は病みて勢州に在り。】(天明4年)	源孺皮計至余為之勵矣蓋孺皮應穴戸侯聘暮春念七日提家發京任道謁太神宮及首夏十六日入東都自途罹疾越念五日遂歿邸舎云嗚呼痛哉余於交誼最旧作詩并序相為往來而別後一夕夢孺皮覺而有詩追思其卒前五夕庶乎識矣因作哭詩四首…【孺皮旧称高氏同池貸成韓大年遊富士白立三岳池子先没韓子病在勢州】	池大雅 韓天壽
39		木世肅(木村兼葎堂)、長島侯(増山雪齋)の朝觀に従いて東都に之くを送る。(天明4年)	送木世肅從長島侯朝觀之東都	増山雪齋
40		無名氏の山水帖に題す。石台麓(鳥羽台麓)のためにす。(天明4年)	題無名氏山水帖為石台麓	鳥羽台麓
41		十四夜、北山白甫(北山七僧)、友と墨江に遊ぶ。時に長島侯(増山雪齋)かつて書賜せらるる所の月賤の語一幅を携え、松林に留酌して月を翫ぶ。後、来りてその幅を示さる。予拝観してこれを賞す。よりに贈る。(天明4年)	十四夜北山白甫与友遊墨江時携長島侯嘗所書賜月賤語一幅留酌松林翫月後來示其幅予拝観賞之因贈	増山雪齋
42		大雅(池大雅)の画山水に題す。(天明4年)	題大雅画山水	池大雅
43		韓大年(韓天壽)の「山水の図」を観る引。(天明5年)	觀韓大年山水図引	韓天壽 (伊孚九) (池大雅)
44		藤応拳(円山応拳)の「狗子の図」に題す。(天明5年)	題藤応拳狗子図	円山応拳
45		衡岳画ける「右軍写経換鶯の図」に題す。(天明5年)	題衡岳画右軍写経換鶯図	衡岳

46	二	神立愚鈍、隠居放言す。書において余と同好なり。その画におけるや、余に長ずることおその齒のごとし。木田仲子、近ごろ東遊して彼の廬を訪い、画を乞いて帰る。後また千里、「善化禪師の図」を寄す。仲子、余に属して題せしむ。二してこれを返す。(天明5年)	神立愚鈍隠居放言於書与余同好其於画也長余猶其齒乎木田仲子近東遊訪彼廬乞画而歸後又千里寄善化禪師画仲子属余題二返之	神立愚鈍
47		石峰寺の石羅漢。[若冲居士(伊藤若冲)、山中の自然石を取りて補貌す。](天明5年)	石峰寺石羅漢[若冲居士取山中自然石補貌]	伊藤若冲
48		光琳(尾形光琳)の旧荘に留題す。[二首。小川街に在り。](天明5年)	留題光琳旧荘[二首在小川街]	尾形光琳
49		皆川伯恭(皆川淇園)の小景に題す。(天明5年)	題皆川伯恭小景	皆川淇園
50		土佐光房(土佐光芳)の着色牡丹に題す。(天明5年)	題土佐光房着色牡丹	土佐光芳
51		桑明夫(桑山玉洲)、重ねて余の照を写寄するに謝す。(天明5年)	謝桑明夫重写寄余照	桑山玉洲
52		岡君章(岡田南山)、役を京師に竣て國に還るを聞く。急に浪華を過ぎ、来訪を得ず。後に贈る。三首(天明5年)	聞岡君章竣役京師還國急過浪華不得來訪後贈三首	岡田南山
53		木田伯子(木田初心齋)を哭す。[初心齋と号す。まさに兆伝司の「五百応真の図」を尊さんとし、すでに百四十尊を得。父に後ること百日、遽かに死す。](天明5年)	哭木田伯子[号初心齋将奉兆伝司五百応真圖既得百四十尊後父百日遽死]	木田初心齋(明兆)
54	三	海眼禪師(鶴亭)、東都にて寂するを聞き、これを哭す。[師、画花鳥を善くす。](天明6年)	聞海眼禪師東都寂哭之[師善画花鳥]	鶴亭
55		初心齋(木田初心齋)の「車胤螢囊読書の図」に題す。(天明6年)	題初心齋車胤螢囊讀書圖	木田初心齋
56		韓大年(韓天寿)の書及び字を得て却寄し、并せて謝す。(天明6年)	得韓大年書及字却寄并謝	韓天寿
57		初心齋(木田初心齋)の「布袋の図」に題す。(天明6年)	題初心齋布袋圖	木田初心齋
58		十時子業(十時梅屋)、既に長島侯(増山雪齋)に仕え、後しばらく郷に返る。再び訪わるるも、他に適きて迎えず。往きて謝せんと欲すれば、すなわち途に上る。よりにて篇す。余もまた近ごろ高田門主に釈褐す。郷故を以てのゆえなり。(天明6年)	十時子業既仕長島侯後暫返再見訪過他不迎欲往謝則上途矣因篇余亦近釈褐高田門主以郷故也	十時梅屋 増山雪齋
59		岡君章(岡田南山)のためにその父母の双寿を祝す。二首、序あり。(天明7年)	為岡君章祝其父母及寿二首有序	岡田南山
60		藤応拳(円山応拳)の「嵐山の図」に題す。	題藤応拳嵐山圖	円山応拳
61		来禽(大鳥来禽)の小景。[余、往に故孺皮(高芙蓉)および室・来禽と同じく南都に遊ぶ。路、小倉湖を經。室に命じて写意せしむ。後、遺あり。よりにて感を書す。](天明7年)	来禽小景[余往回故孺皮及室来禽遊南都路經小倉湖命室写意後有遺因書感]	大鳥来禽
62		福五岳(福原五岳)の「嘉靖七子の図」の引。(天明7年)	福五岳嘉靖七子圖引	福原五岳
63		自ら旧稿の小景に題し、馬子陵に貽る。	自題旧稿小景貽馬子陵	自画
64	四	石台麓(鳥羽台麓)、藏する明季の人の書画扇帖の跋。	石台麓藏明季人書画扇帖跋	鳥羽台麓
65		無名印の墨梅に題す。	題無名印墨梅	(陳淳)
66		大鳥孺皮(高芙蓉)の東帰を送る序。	送大鳥孺皮東帰序	(池大雅) (韓天寿)
67		池大雅の絶筆画山水の襲背の記。	池大雅絶筆画山水襲背記	池大雅 (池玉瀾)
68		虞永興の孔子廟堂碑の跋。	虞永興孔子廟堂碑跋	(韓天寿)
69		磊盆の銘、木田伯子(木田初心齋)のためにす。[磊材、高砂の松朽株を用ゆ。姫路の吏人、貽る所と云う。]	磊盆銘為木田伯子[磊材用高砂松朽株姫路吏人所貽云]	木田初心齋
70		惺々翁(松花堂昭乗)画ける菅公の真儀、本房に奉納する記。	惺々翁画菅公真儀奉納本房記	松花堂昭乗
『遠志初篋』享和二年(1802)刊(大阪府立中之島図書館本)				
71	卷一	墨刻化度寺碑帖の説。	墨刻化度寺碑帖説	(韓天寿)
72	二	錦江先生に上る書。	上錦江先生書	(池大雅)
73	三	藍田叔(藍瑛)の石譜の跋。	藍田叔石譜跋	藍瑛
74		彭百川(彭城百川)の山水巻の跋。	彭百川山水巻跋	彭城百川 (木村兼葎堂)
75		春誦釈義	春誦釈義	(池大雅)
『隠居放言』享和三年(1803)自序(同上)				
76	卷上	小柴景山法眼画師の七句を存す。(寛政12年)	存小柴景山法眼画師七句	小柴景山
77		書画の詩を乞わる。京の嘯風亭主人(雄崎沢甫)のためにす。(寛政12年)	書画乞詩為京嘯風亭主人	雄崎沢甫
78		庚申(寛政12年)首夏十三日、池大雅画伯の遠諒に丁る。洛下の門人・余春塘(青木夙夜)及び諸子、齋を双林寺遺跡に設け、旁ら江上に募る。赴く者あり、否なる者あり。否なる者は別に齋を寒山寺に設く。余、近ごろ洛よりまた江に帰る。すでに二律を作り、託して洛の齋に薦む。それ江の齋は小恙ありてまた会さず。重ねて三絶を作りてこれに薦む。	庚申首夏十三日丁池大雅画伯遠諒洛下門人余春塘及諸子設齋於双林寺遺跡旁募江上有赴者有否者否者別設齋於寒山寺余近自洛復歸江既作二律托薦洛齋其江齋有小恙亦不重作三絶薦之	池大雅 青木夙夜
79		京の原在中の「双鳩の図」に題す。(寛政12年)	題京原在中双鳩圖	原在中
80		自画の茄子に題す。(寛政12年)	題自画茄子	自画
81		川口士寅、筍を恵さるるに謝す。(寛政12年)	謝川口士寅恵筍	川口士寅
82		林岳州の「相如、琴心もて文君を挑する図」に題す。木田氏のためにす。(寛政12年)	題林岳州相如琴心挑文君圖為木田氏	林岳州
83		月仙師の「三笑の図」に題す。(寛政12年)	題月仙師三笑圖	月仙
84		詹仲和の墨竹を觀る引。湖上の山中生のためにす。(寛政12年)	觀詹仲和墨竹引為湖上山中生	詹仲和
85		松本奉時を哭す。二首(寛政12年)	哭松本奉時二首	松本奉時
86		川口士寅を哭す。[東六条仏画師の属、俗に幸二郎と称す。かつて余のために照を写す。](寛政12年)	哭川口士寅[東六条仏画師属俗称幸二郎嘗為余写照]	川口士寅
87		若冲居士(伊藤若冲)の墨梅に題す。長田氏のためにす。(寛政12年)	題若冲居士墨梅為長田氏	伊藤若冲
88		大津の戯画に題す。(寛政12年)	題大津戯画	大津繪
89		鴨祐為祝隠の「枇杷の画」に題す。郡氏のためにす。(寛政12年)	題鴨祐為祝隠枇杷画為郡氏	鴨祐為
90		維明長老の墨梅に題す。呉氏のためにす。(寛政12年)	題維明長老墨梅為呉氏	維明
91		月仙の「九老の図」に題す。(寛政12年)	題月仙九老圖	月仙
92		高(高芙蓉)、池(池大雅)、柳(柳沢淇園)の集画、両三の樹幹、福(福原五岳)、木(木村兼葎堂)の補画せる小景に題す。田辺氏のためにす。(寛政12年)	題高池柳集画両三樹幹福木補画小景為田辺氏	池大雅 柳沢淇園 福原五岳 木村兼葎堂

93	上	撫山翁(福岡撫山)画ける大黒神に題す。翁のためにす。(享和元年)	題撫山翁画大黒神為翁	福岡撫山
94		手製の紙帳、白画並びに題。(享和元年)	手製紙帳白画并題	白画
95		銅雲泉の「春景の図」に題す。また冬景。(享和元年)	題銅雲泉春景図 又冬景	銅雲泉
96		木田氏(木田初心齋)の小画牡丹に題す。(享和元年)	題木田氏小画牡丹	木田初心齋
97		学与斎の墨竹雀に題して馬田氏に貽る。(享和元年)	題学与斎墨竹雀貽馬田氏	学与斎
98		「月下独酌の図」に題す。十時詞契(十時梅庄)の需めに応ず。(享和元年)	題月下独酌図 十時詞契需	十時梅庄
99		木村遜齋(木村兼葭堂)の墨竹に題す。(享和元年)	題木村遜齋墨竹	木村兼葭堂
100		月仙師の「修禊の図」に題す。長山氏の囑のためにす。(享和元年)	題月仙師修禊図為長山氏囑	月仙
101		十時子業(十時梅庄)、まさに本藩に帰観せんとす。余もまた京遊あり。卒に賦して別る。(享和元年)	十時子業將帰観本藩余亦有京遊卒賦別	十時梅庄
102	中	篠安道(篠崎三島)、稲田大夫の召に応じて再び淡州に之くを送る。并せて阿州の岡君章(岡田南山)に簡す。(享和元年)	送篠安道応稲田大夫召再之淡州并簡阿州岡君章	岡田南山
103		田必器(蒔田暢齋)を哭す。三首(享和元年)	哭田必器三首	蒔田暢齋
104		月仙の「七老の図」に題す。森本氏のためにす。(享和元年)	題月仙七老図為森本氏	月仙
105		院画員・土佐備後介光孚の墨梅に題し、北村文暢の隠居を祝す。(享和元年)	題院画員土佐備後介光孚墨梅祝北村文暢隠居	土佐光孚
106		芦雪(長沢芦雪)の水墨水魚に題す。(享和元年)	題芦雪水墨水魚	長沢芦雪
107		田子玉を追悼す。(享和元年)	追悼田子玉	田其相
108		辛酉の守歳、感あり。重ねて手造の梅花帳に題す。(享和元年)	辛酉守歳有感重題手造梅花帳	自画
109		戯れに芦雪(長沢芦雪)の「大鬼、煎餅を持する図」に題す。児島氏のためにす。(享和2年)	戯題芦雪大鬼持煎餅図為児島氏	長沢芦雪
110		池大雅の小景に題す。上に「漠々たる水田、白鷺飛す」の句あり。しかれども鷺を見ず。太田南畝の韵に次いで後書す。(享和2年)	題池大雅小景上有漠々水田飛白鷺句而不見鷺次太田南畝韵後書	池大雅
111		月仙師の「没骨牡丹の図」に題す。南陵(釜谷南陵)のためにす。(享和2年)	題月仙師没骨牡丹図為南陵	月仙
112		兼葭(木村兼葭堂)、少きに作れる遺画に題す。家人のためにす。(享和2年)	題兼葭少作遺画為家人	木村兼葭堂
113		世継氏(世継希仙)の茶饗に謝す。二首	謝世継氏茶饗二首	世継希仙
114		熊生(三熊花顔)の「海棠の画」に題す。竹原氏のためにす。(享和2年)	題熊生海棠画為竹原氏	三熊花顔
115		手ずから画ける芙蓉に題す。北村氏のためにす。(享和2年)	題手画芙蓉為北村氏	自画
116		趙陶齋の墨菊に題す。十時氏(十時梅庄)の需に応ず。(享和2年)	題趙陶齋墨菊 十時氏需	趙陶齋 十時梅庄
117		無名氏の小画周子愛蓮に題す。同前(十時氏の需に応ず。)(享和2年)	題無名氏小画周子愛蓮同前	十時梅庄
118		徹山(森徹山)の「柳下打魚の図」に題す。(享和2年)	題徹山柳下打魚図	森徹山
119		陶齋(趙陶齋)の水墨蘭に題す。(享和2年)	題陶齋水墨蘭	趙陶齋
120		世肅(木村兼葭堂)遣せる画蘭に題す。(享和2年)	題世肅遣画蘭	木村兼葭堂
121		岡君章(岡田南山)の書および画を得、却寄す。画に酬いて唐句を題す。(享和2年)	得岡君章書及画却寄酬画題唐句	岡田南山
122		柳大夫(柳沢淇園)の着色蘭に題す。松田氏のためにす。(享和2年)	題柳大夫着色蘭為松田氏	柳沢淇園
123		藤応瑞(円山応瑞)の墨梅に題す。余斎上田翁(上田秋成)のためにす。事を辞に見わず。(享和2年)	題藤応瑞墨梅為余斎上田翁事見乎辞	円山応瑞
124		呉春の「郭子儀多子の図」に題し、森本氏に贈る。(享和2年)	題呉春郭子儀多子図贈森本氏	呉春
125		桑玉洲(桑山玉洲)画ける山水長巻に題す。君順(西村君順)のためにす。(享和2年)	題桑玉洲画山水長巻為君順	桑山玉洲
126		霞樵(池大雅)の水墨石傍蘭に題す。井上生のためにす。(享和2年)	題霞樵水墨石傍蘭為井上生	池大雅
127	下	装玉舟の後に書す。(寛政12年)	書装玉舟後	(月仙)
128		池無名(池大雅)の無名墨蘭の賛。君順(西村君順)のためにす。	池無名無名墨蘭賛為君順	池大雅
129		井筒帖の小引。	井筒帖小引	(福原五岳)
130		芦雪(長沢芦雪)の墨竹の賛。竹原生のためにす。	芦雪墨竹賛為竹原生	長沢芦雪
131		池九霞(池大雅)の「列子の図」の賛。	池九霞列子図賛	池大雅
132		家蔵の白井正竹画ける古屏の跋。	家蔵白井正竹画古屏跋	白井正竹 (北向雲竹)
133		集古妙蹟の序。	集古妙蹟序	(蒔田暢齋)
134		兼葭(木村兼葭堂)遣す所の南嶺画帖の跋を代書す。北村氏のためにす。	代書兼葭所遣南嶺画帖跋為北村氏	沈南嶺
135		岡君章(岡田南山)に答うる書。	答岡君章書	岡田南山
136		松花尊師(松花堂昭乗)の画三挂幅を鑑定す。中を維摩と曰い、左を観子と曰い、右を猪頭と曰う。山本生のためにす。	鑑定松花尊師画三挂幅中曰維摩左曰観子右曰猪頭為山本生	松花堂昭乗
137		片山氏の画具匣の銘。[梁田儒宗の囑に応ず。]	片山氏画具匣銘[梁田儒宗囑]	(狩野典信) (勝部如春齋)

はg・細井平洲【紀世馨、如来山人、1727~1801】

(尾張平島の人。名古屋で中西淡淵に学ぶ。名君の誉れ高い羽前米沢藩主・上杉鷹山の師として知られる。尾張藩藩校・明倫堂の督学となった。) →画人

『嘯鳴館詩集』宝暦十三年(1763)序跋(早稲田大学図書館本)				
1	卷二	山逸人(山崎石燕)、余のために如来山を画く。これを賦してこれに謝す。	山逸人為余画如来山賦此謝之	山崎石燕
2	三	伊予九、清に還るを送る。	送伊予九還清	伊予九
3	六	西条侯(本多忠統)の筵にて大鵬禪師に呈す。時に師、黄檗山に再住す。	西条侯筵呈大鵬禪師時師再住黄檗山	大鵬正観
4		泉必東を送る。	送泉必東	泉必東
5		山逸人(山崎石燕)を送る。	送山逸人	山崎石燕
『嘯鳴館遺稿』文化五年(1808)序(同上)				
6	卷一	延陵侯(内藤政陽)の邸にて雪舟の「西湖の図」を観る引。	延陵侯邸觀雪舟西湖図引	雪舟
7		伯就(千村鷺湖)、佳集を恵さる。東に代えて答謝す。	伯就見惠佳集東答謝	千村鷺湖
8		自ら山水の図を製して野村君に贈る。	自製山水図贈野村君	自画
9	二	冬至前三日、千村伯就(千村鷺湖)の自適園に過飲す。	冬至前三日過飲千村伯就自適園	千村鷺湖

10	二	米沢の神保子康(神保蘭室)、羽山雪景を図して詩を題し、以て東都の諸友に寄贈す。余、これを観て感あり。	米沢神保子康羽山雪景題詩以寄贈東都諸友余觀此有感	神保蘭室
11		渡辺支対(渡辺支対)の画梅図に題す。	題渡辺支対画梅図	渡辺支対
12		富嶽の雪を磨して図を製し、遥かに筑陽の南陸翁(宮原南陸)の七十を賀す。	磨富嶽雪製図遥賀筑陽南陸翁七十	自画
13	三	人見璣邑先生、もとより老を告げ、自ら「丘壑の図」を製して詩を題すと聞く。以て寄懐す。	聞人見璣邑先生固告老自製丘壑図題詩以寄懐	人見璣邑
14		谷文晁の白河に答するに寄懐す。	寄懐谷文晁答白河	谷文晁
15		友人辺子(渡辺支対)製する所の「山水の図」を観て感あり。	觀友人辺子所製山水図有感	渡辺支対
16	七	玉堂琴譜の跋。	玉堂琴譜跋	(浦上玉堂)

はh・細川興文【源子華、桂源公、1723~85】

(肥後宇土藩藩主。本藩熊本藩の儒学者・秋山玉山らに学ぶ。烏山藩主大久保忠胤、泉藩主本多忠如、高松藩主松平頼恭らと詩会を催した。) →画人

『桂源遺稿』享和元年(1801)刊(大阪府立中之島図書館本)				
1	卷上	白河侯の席上にて、初めて大鵬禪師に謁す。賦して贈る。二首	白河侯席上始謁大鵬禪師賦贈二首	大鵬正観
2		劉文翼(宮瀬龍門)、詩を以て余の画蘭を需む。よりにその韻に次ぎ、画を併せて答寄す。	劉文翼以詩需余画蘭因次其韻併画答寄	自画
3		松山世子(酒井忠起)の書斎の画竹。これを賦して需めに応ず。	松山世子書斎画竹賦此応需	(伊藤華岡)
4	下	蓬平山人(佐竹蓬平)、印章を善くするを聞く。石を齎して篆刻を乞い、附するに小詩を以てす。	聞蓬平山人善印章齎石乞篆刻附以小詩	佐竹蓬平

はi・本多忠統【西台侯、猪蘭侯、伊予守、1691~1757】

(河内西代藩、のち伊勢神戸藩の藩主。荻生徂徠に学び、その門の服部南郭、安藤東野、越智雲夢などと情交厚かった。) →画人

『猪蘭台集初稿』享保十七年(1732)序(富士川英郎・松下忠・佐野正巳編『詩集日本漢詩』第14巻[汲古書院 1989年]所収)				
1	卷三	長谷川老画師の贈らるるに酬ゆ。予、時に驪山の下に館す。二首	酬長谷川老画師見贈予時館驪山下二首	長谷川
2	四	徂徠(荻生徂徠)家蔵せる仇実父の「桃李園の図」に題す。	題徂徠家蔵仇実父桃李園図	仇英
3		保誠(柳沢保誠)家蔵せる張僧繇の画卷の後に題す。	題保誠家蔵張僧繇画卷後縁	張僧繇
4	五	摹宋梁楷の画の跋。	摹宋梁楷画跋	梁楷 (狩野探幽) (狩野古信)
5		摹郭熙の画牡丹の跋。	摹郭熙画牡丹跋	郭熙 (狩野探幽)
6		摹玉潤の画の跋。	摹玉潤画跋	玉潤 (狩野探幽)
7	六	徂先生(荻生徂徠)に寄す。	寄徂先生	(仇英)
『猪蘭台集二稿』元文三年(1738)頃(同上)				
8	卷四	御府蔵せる趙昌の牡丹画の跋。(享保20年)	御府蔵趙昌牡丹画跋	趙昌
9		僧法常(牧谿)の画の跋。	僧法常画跋	牧谿 「瀟湘八景図」
10		徽宗帝の胡鷹の画の記。	徽宗帝胡鷹画記	徽宗
11		子遷(服部南郭)に与う。	与子遷	(仇英)
12	五	服子遷(服部南郭)の婦去来の摸画の跋。	服子遷婦去来摸画跋	服部南郭
13		忍海に与う。	与忍海	忍海 (服部南郭) (狩野探幽)
『猪蘭台集三稿』寛延三年(1750)頃(同上)				
14	卷四	忍海の雍州に遊ぶに贈る序。	贈忍海游雍州序	忍海
15	五	画の跋。	画跋	(郭熙)
16		子遷(服部南郭)に与う。	与子遷	(雪舟)
17		狩守信(狩野探幽)の学古画の跋。(延享4年)	狩守信学古画跋	狩野探幽 (狩野克信)

はj・本多忠如【壺山老侯、1714~73】

(遠江相良藩のち磐城泉藩藩主。太宰春台、服部南郭らに学ぶ。宇土藩主細川興文、烏山藩主大久保忠胤、高松藩主松平頼恭らと詩会を催した。) →画人

『壺山集』安永六年(1777)刊(国立国会図書館本)				
1	卷上	原子才(原雲沢)の需めに応じて「白鶴の図」を写し、これを賦してその上に題す。	応原子才需写白鶴図賦此題其上	自画
2		藤子行(伊藤華岡)を携え、重ねて川子保(黒川亀玉)の宅に過る。	携藤子行重過川子保宅	黒川亀玉
3		夏中、鍾欽礼(鍾礼)の「雪山山水の図」に題す。	夏中題鍾欽礼雪山山水図	鍾礼
4		藤子行(伊藤華岡)の新居に過飲す。時に宗延年、川子保(黒川亀玉)、僧大海(大海浄涛)、座に在りて各々画を作る。よりに賦す。	過飲藤子行新居時宗延年川子保僧大海在座各作画因賦	黒川亀玉
5	下	子保(黒川亀玉)の松蘿館に遊ぶ。	遊子保松蘿館	黒川亀玉
6		子保(黒川亀玉)を悼む。	悼子保	黒川亀玉
7		写して「萱竹双青の図」を得、山子祥(藤山懐月)の母の六十を寿す。	写得萱竹双青図寿山子祥母六十	自画
8		「天保九如の図」を写して上に新詩を題し、寄せて藤椿居の六十初度を寿す。	写天保九如图上題新詩寄寿藤椿居六十初度	自画

まa・増井玄覽【増彦敬、1721~73】

(豊前小倉の人。同藩儒学者の石川鱗洲に学ぶ。藩主小笠原氏の書斎・思永斎の教授、学頭となって藩士を教育した。)

『石増二先生文鈔』寛政二年(1790)序跋(国立公文書館内閣文庫本)				
1	卷下	明卿図する所の屏風に題す。	題明卿所図屏風	明卿



まb・松崎観海【松君脩(修)、1725~75】

(丹波篠山の人。江戸で太宰春台、高野蘭亭に学ぶ。篠山藩主・松平信岑の亀山移封に従って移り、執政、世子伝役兼侍読を務めた。)

『観海先生集』天明三年(1783)刊(富士川英郎・松下忠・佐野正巳編『詩集日本漢詩』第14巻[汲古書院 1989年]所収)				
1	卷一	壺山老侯(本多忠如)の画双鶴の歌。藤子行(伊藤華岡)の五十を寿す。	壺山老侯画双鶴歌寿藤子行五十	本多忠如
2	二	井生、膳所老侯(本多康桓)の画竹を蔵す。詩を索む。	井生蔵膳所老侯画竹索詩	本多康桓
3	三	竹子徳(竹川馬陵)、韓大年(韓天寿)と同じく山子祥(藤山懐月)に過る。斎字を得たり。	同竹子徳韓大年過山子祥得斎字	韓天寿

まc・松平君山【子龍、1697~1783】

(尾張名古屋の人。定まった師なく諸学を独習し、同藩の書物奉行を務めた。子・霍山、孫・南山とともに朝鮮通信使と唱和したことで知られる。)

『弊帚集』明和七年(1770)刊(国立国会図書館本)				
1	卷二	成大夫、墨竹を恵さる。賦して以て奉謝す。	成大夫見恵墨竹賦以奉謝	成瀬正太
2	七	橋本氏の小女(橋本冬青)の墨菊。	橋本氏小女墨菊	橋本冬青

まd・松平東溪【東谿、敏、源子求、1744~90】

(丹波亀山の人で、同藩の家老。江村北海や皆川淇園らに学んだ。江戸にあっては松崎観海を中心に広く交流した。)

『東谿詩集』文化十三年(1816)序 浄写本(東京都立中央図書館加賀文庫本)				
1	卷一	雪峨道人の画山水を觀る歌。	觀雪峨道人画山水歌	雪峨
2	二	噲々翁(佐竹噲々)に贈る。	贈噲々翁	佐竹噲々
3		謝長庚(与謝蕪村)の「山水の図」に題す。	題謝長庚山水図	与謝蕪村
4		長嶋侯(増山雪斎)の独樂園に寄題す。	寄題長嶋侯独樂園	増山雪斎
5		岡伯和(岡井赤城)に寄す。	寄岡伯和	岡井赤城
6	四	南宇大夫(奥平広知)の六十誕辰。その子公輔(奥平広間)「舞鶴の図」をつくりて以て寿觴を侑め、余に題詩を索む。七言近体一章を得たり。	南宇大夫六十誕辰其子公輔為舞鶴図以侑寿觴余題詩得七言近体一章	奥平広間
7		早春、大家子裕(大塚孝緯)、岩堀公頭、岡井伯和(岡井赤城)、安原三吾、黒沢正甫(黒沢雪堂)、余の客舎に過らる。同に賦す。二首	早春大家子裕岩堀公頭岡井伯和安原三吾黒沢正甫見過余客舎同賦二首	岡井赤城
8	五	壳酒翁(佐竹噲々)を寿す。	寿壳酒翁	佐竹噲々
9		雲谿の雑画に題す。四首	題雲谿雜画四首	雲谿
10		梅亭(紀梅亭)の画に題す。	題梅亭画	紀梅亭
11		雪峨道人の画卷に題す。三首	題雪峨道人画卷三首	雪峨
12		皆川淇園の山水。	皆川淇園山水	皆川淇園
13		三熊山人(三熊花顔)の画に題す。	題三熊山人画	三熊花顔
14		円山仲選(円山応挙)に贈る。	贈円山仲選	円山応挙

まe・松波光興【松士発、播磨守、1718~93】

(京都の人。朝廷に仕え、正四位下に叙せられた地下。女院、青綺門院に勤めた。伊藤東涯に学ぶ。)

『藤町斎先生詩集』寛政五年(1793)序跋(大阪府立中之島図書館本)				
1	卷一	蕭白道人(曾我蕭白)に贈りて画を請う。	贈蕭白道人請画	曾我蕭白
2	三	応挙(円山応挙)の獨に題す。	題応挙獨	円山応挙
3		筠圃(宮崎筠圃)の墨竹に題す。	題筠圃墨竹	宮崎筠圃

まf・松本愚山【幼憲、1755~1834】

(京都の人。皆川淇園に学び、四条東洞院に私塾を開いて子弟に教授した。晩年、大坂に移って没した。)

『愚山先生文稿後集』文政十一年(1828)刊(国立国会図書館本)				
1	卷上	藻洲詩集の後に書す。	書藻洲詩集後	(野間蘭陵)
2	下	姉妹硯の記。	姉妹硯記	(青木木米)
3		晩香園の梅の詩に跋す。(文政9年)	跋晩香園梅詩	(池大雅) (与謝蕪村)
4		杏堂(浜田杏堂)の墨君帖に跋す。	跋杏堂墨君帖	浜田杏堂
5		光琳(尾形光琳)の三幅画幅に題す。	題光琳三幅画幅	尾形光琳

まg・皆川淇園【咸伯恭、1734~1807】

(京都の人。伊藤錦里らに学ぶ。中立空室町で私塾・弘道館を開く。肥前平戸藩主・松浦静山や丹波亀山藩主・松平信岑から礼遇された。) →画人

『淇園詩集』文政元年(1818)刊(富士川英郎・松下忠・佐野正巳編『詩集日本漢詩』第6巻[汲古書院 1986年]所収)				
1	卷一	源仲選(円山応挙)に贈る。	贈源仲選	円山応挙
2		范古(勝野范古)の画竹に題す。朝倉大夫(朝倉頼母)の需めに応ず。	題范古画竹应朝倉大夫需	勝野范古
3		若冲(伊藤若冲)の画白鷗鶴。	若冲画白鷗鶴	伊藤若冲
4	二	長島侯(増山雪斎)の需めに應じて独樂園に寄題す。	应長島侯需寄題独樂園	増山雪斎
5		長島侯(増山雪斎)の東帰を送り奉る。	奉送長島侯東帰	増山雪斎
6		辺生の遊仙図巻に書す。	書辺生遊仙図巻	辺生
7	三	弟憲(富士谷成章)画ける桃林牛に題す。	題弟憲画桃林牛	富士谷成章
8		屠龍山人(倉屠龍)の画竹に題す。	題屠龍山人画竹	倉屠龍
9		自画の「湖亭清眺の図」に題す。	題自画湖亭清眺図	自画
10		仲春一日、円山仲選(円山応挙)と偕に往きて華頂山に観花す。その明日、雨ふる。よりにて寄す。	仲春一日与円山仲選偕往観花於華頂山其明日雨因寄	円山応挙
11		池無名(池大雅)の画山水に題す。	題池無名画山水	池大雅
12		僧牧溪の「漁村夕照の図」に題す。西條侯の需めに応ず。	題僧牧溪漁村夕照図应西條侯需	牧谿
13		自画の小景に題す。	題自画小景	自画

14	三	自画の「淵明飲酒の図」に題す。	題自画淵明飲酒図	自画
15		浅井図南画ける墨竹に題す。	題浅井図南画墨竹	浅井図南
16		自画の「幽人弹琴の図」に題す。	題自画幽人弹琴図	自画
17		源仲選(円山応挙)画ける「海鶴、雛を将ゆる図」に題す。高橋皮(高芙蓉)、水戸藩の聘を得、家を挙げて東に能るを送る。	題源仲選画海鶴將雛送高橋皮得水戸藩聘挈家東徙	円山応挙
18		源仲選(円山応挙)画ける「春鶯、谷を出づる図」に題し、柴子彦(柴野栗山)、大府の召に応じて江戸に赴くを送る。	題源仲選画春鶯出谷送柴子彦応大府召赴江戸	円山応挙
19		謝蕪村(与謝蕪村)の山水小景に題す。端文仲(端春莊)の需めに応ず。	題謝蕪村山水小景端文仲需	与謝蕪村
20		源仲選(円山応挙)画ける「播州洋の図」に題し、堀君弼(堀正輔)、安芸に赴くを送る。	題源仲選画播州洋送堀君弼赴安芸	円山応挙
21		源仲選(円山応挙)の「狗子、雪に戯む図」に題す。	題源仲選狗子戯雪図	円山応挙
22		弟憲(富士谷成章)の画に題す。	題弟憲画	富士谷成章
『淇園文集初編』寛政十一年(1799)刊(高橋博巳編『近世儒家文集集成』第9巻[ペリかん社 1986年]所収)				
23	卷二	梅溪紀行(天明8年2月28日)	梅溪紀行	(円山応挙) (呉春) (伊藤若冲)
24	三	望月玉蟾の伝。	望月玉蟾伝	望月玉蟾
25		長島侯(増山雪齋)に上る啓。	上長島侯啓	増山雪齋
『木活字本淇園文集前編』文化十三年(1816)序(同上)				
26	卷一	玉堂琴譜の叙。(寛政3年2月)	玉堂琴譜叙	(浦上玉堂)
27		紀琴上詩集の序。	紀琴上詩集序	(浦上玉堂)
28		白山集の序。	白山集序	(平賀蕉斎)
29	二	和田隆侯蔵する天下名山水画帖の序。	和田隆侯蔵天下名山水画帖序	(淵上旭江)
30		田必器(蒔田暢齋)集せる書画帖の序。	田必器集書画帖序	蒔田暢齋
31		白山詩集二編の序。	白山詩集二編序	(平賀蕉斎)
32		小田景福(龍江)の需めに応じて、以て自ら「琴客尋勝の図」を画き、小序を讀す。(寛政12年7月)	応小田景福需以自画琴客尋勝図讀小序	自画
33		静谷(中村幸堅)の插花百瓶図冊の序。	静谷插花百瓶図冊序	(佐久間草偃) (相阿弥)
34		名山勝概図を刻する序。	刻名山勝概図序	(鈴木芙蓉)
35	三	醉芙蓉の序。	醉芙蓉序	(鈴木芙蓉)
36		昨非遺稿の序。	昨非遺稿序	(鈴木芙蓉)
37	四	木世肅(木村兼霞堂)の伊勢に遷るを送る序。	送木世肅遷於伊勢序	(増山雪齋)
38	六	孟涵九の書画幅の首に題す。	題孟涵九書画幅首	孟涵九
39		池大雅の飲中八仙画卷の首。	池大雅飲中八仙画卷首	池大雅
40		盛懋の雪景堅幅に題す。	題盛懋雪景堅幅	盛懋
41		岸賁脚(岸駒)、「唐太宗拳毛騮の図」を模するに題す。	題岸賁脚模唐太宗拳毛騮図	岸駒
42		長條生画ける楓樹の幅上に題す。(寛政9年5月7日)	題長條生画楓樹幅上	長條生
43		霞樵(池大雅)画ける「陶叟有絃琴の図」の題辭。	霞樵画陶叟有絃琴図題辭	池大雅
44		岡章博の集貼書画摺疊屏風の首に書す。	書岡章博集貼書画摺疊屏風首	(上田耕夫)
45		龍骨図巻の首に書す。膳所侯(本多康定)の需めに応ず。(文化2年)	書龍骨図巻首應膳所侯需	(上田耕夫)
46		関帝像の軸首に書す。(文化4年5月)	書関帝像軸首	(馬元欽) (渡辺南岳)
47		自画の竹の首に書す。	書自画竹首	自画
48		堯憲蔵する所の「布袋和尚の図」に書す。	書堯憲所蔵布袋和尚図	(陳繼儒)
49		三熊露香画ける桜花三十六品帖に書す。(寛政9年11月)	書三熊露香画桜花三十六品帖	三熊露香
50		曾道怡居士、長沢蘆雪合作の画卷の首に書す。(寛政7年10月20日)	書曾道怡居士長沢蘆雪合作画卷首	長沢蘆雪
51		東洋画ける「騰蛇の図」の上に書す。	書東洋画騰蛇図上	東東洋
52		書画展観品目名字録の首の引。	書画展観品目名字録首引	書画会
53	七	池無名(池大雅)の水流帖の跋。	池無名水流帖跋	池大雅
54		文徵明の中流砥柱図巻の跋。	文徵明中流砥柱図巻跋	文徵明 (唐寅)
55		自画の「江村小景の図」の跋。(寛政8年)	自画江村小景図跋	自画
56		池大雅の画卷の跋。(寛政9年)	池大雅画卷跋	池大雅
57		池無名(池大雅)の戲画三図の跋。(寛政11年)	池無名戲画三図跋	池大雅
58		松本奉時の三足蟾図帖の跋。(寛政10年)	松本奉時三足蟾図帖跋	松本奉時
59		池無名(池大雅)の書古楽府折楊柳歌巻の跋。(寛政11年)	池無名書古楽府折楊柳歌巻跋	池大雅
60		摹刻池無名(池大雅)寄興雲烟画卷の跋。	摹刻池無名寄興雲烟画卷跋	池大雅 (月峰)
61		宋紫石の画竹の巻に跋す。	跋宋紫石画竹巻	宋紫石
62		祇園南海(祇園南海)の手ずから書せる詩巻の後に書す。(明和8年)	書祇園南海手書詩巻後	祇園南海
63		源仲選(円山応挙)の「遊障着彩竹鶏の図」の後に書す。(寛政7年10月20日)	書源仲選遊障着彩竹鶏図後	円山応挙 (円山応瑞)
64		同じく(源仲選)画ける空障の画。	同画空障画	円山応挙
65		僧月仙画ける平賀子英(平賀蕉斎)の詩意巻の後に書す。(寛政8年)	書僧月仙画平賀子英詩意巻後	月仙 平賀蕉斎
66		詹景鳳の画僧巻の後に書す。(享和元年10月)	書詹景鳳画僧巻後	詹景鳳
67		程赤城の画竹の讀および謝角鼎の治疾牘の後に書す。(文化元年4月)	書程赤城画竹讀及謝角鼎治疾牘後	程赤城
68		池無名(池大雅)画ける「赤壁の図」四大幅の後に書す。(文化3年)	書池無名画赤壁図四大幅後	池大雅

69	八	墨刻趙子昂玄武殿帖の後に題す。	題墨刻趙子昂玄武殿帖後	趙孟頫 (宮崎筠園)
70		梅道人(呉鎮)の墨竹譜の後に題す。(享和3年9月20日)	題梅道人墨竹譜後	呉鎮 (池大雅) (狩野永納)
71		「洞庭湖の図」の跋尾。(文化2年4月27日)	洞庭湖図跋尾	池大雅
72		松前侯の新製大砲の記。	松前侯新製大砲記	(蛸崎波響)
73	九	和田氏(和田隆侯)の貼書小屏風の記。	和田氏貼書小屏風記	(狩野宗秀)
74		豆海攬寄題の記。(寛政6年)	豆海攬寄題記	(谷文晁) (上田耕夫)
75		飛仙樓の記。(寛政9年)	飛仙樓記	(紀梅亭)
76		急雨亭の記。(寛政9年)	急雨亭記	(呉春)
77	十	岸賁卿(岸駒)に代わりて蔵虎頭骨の記を書す。(寛政10年)	代岸賁卿書蔵虎頭骨記	岸駒
78		岸氏の蔵虎頭骨の記。(寛政11年5月7日)	岸氏蔵虎頭骨記	岸駒
79		梅道人(呉鎮)の墨竹横披の題記。(寛政11年8月)	梅道人墨竹横披題記	呉鎮
80	十一	上田耕夫の能登を周覽して図を得たる事を記す。(寛政7年)	記上田耕夫周覽能登得図事	上田耕夫
81		岸某(岸岱)に代わりて、その父・賁卿(岸駒)の新製せる「虎の図」の事を記す。	代岸某記其父賁卿新製虎図事	岸駒・岸岱
82		源仲選(円山応挙)、道怡居士のために画図を作る事を識す。(寛政7年)	識源仲選為道怡居士作画図事	円山応挙 (円山応瑞)
83		安喜生、小幅の「五百羅漢の図」を得たる事を書す。(寛政10年8月11日)	書安喜生得小幅五百羅漢図事	書画会 (長沢芦雪)
『木活字本淇園文集後編』文化十三年(1816)序(同上)				
84	卷一	解剖の図の跋。(安永3年12月)	解剖図跋	(菅原誠意)
85		朝倉大夫(朝倉頼母)の屏風「耕虫の図」の贊並びに序。	朝倉大夫屏風耕虫図贊并序	(朱式毅)
86	二	高孺皮(高芙蓉)の座右図品目の序。	高孺皮座右図品目序	(三熊花頼)
87		望玉蟾(望月玉蟾)の漢亭小景に跋す。(天明4年4月9日)	跋望玉蟾漢亭小景	望月玉蟾
88		大雅堂(池大雅)の画帖の跋。(天明5年2月27日)	大雅堂画帖跋	池大雅 (池玉瀾)
89		長島侯(増山雪齋)に上る啓。	上長島侯啓	増山雪齋 (春木南湖)
90		白鳥の賦、並びに序。	白鳥賦并序	(円山応挙)
91	三	植松叟(植松季英)の花園の記。(天明6年)	植松叟花園記	(円山応挙)

まh・三繩桂林【繩温卿、1744~1808】

(江戸の人。安達清河に学び、両国に私塾・桂林館を開いて子弟に教授した。)

『桂林詩集』享和元年(1801)刊(国立国会図書館本)				
1	卷一	市隠亭(安達清河)にて、本文熙(鈴木芙蓉)画ける「桃花源の図」を観る行。	市隠亭觀本文熙画桃花源図行	鈴木芙蓉
2	三	谷文晁、白河に之くを送る。	送谷文晁之白河	谷文晁
3	六	戯れに自画に題して臥遊齋主人に贈る。	戯題自画贈臥遊齋主人	自画

まi・宮瀬龍門【劉文翼、1719~71】

(紀伊和歌山の人。荻生徂徠に私淑し、江戸で服部南郭に学んだ。湯島の私塾・藤籬館で多くの門人を教授したが、諸侯の聘には応じなかった。)

『龍門先生文集初編』宝暦三年(1753)刊(早稲田大学図書館本)				
1	卷二	丹青の歌。鏡湖の諸葛監に贈る。	丹青歌贈鏡湖諸葛監	諸葛監
2	四	諸葛監に贈る。	贈諸葛監	諸葛監
3	五	諸葛監の画蘭に題す。	題諸葛監画蘭	諸葛監
『龍門先生文集二編』宝暦十年(1760)序(同上)				
4	卷二	画蘭の歌。宇土侯(細川興文)に奉ず。	画蘭歌奉宇土侯	細川興文
5		熊旗瞻(熊斐)の諺公に饒れる「蒼鷹撃禽の画」を観る。よりて花鳥図を作られんことを索め、謔りに長歌を賦してこれに寄す。	觀熊旗瞻諺公蒼鷹擊禽画因索作花鳥図諷賦長歌寄之	熊斐
6	三	田子雲(黒川亀玉)の宅に遊びて菊を賞づ。	遊田子雲宅賞菊	(2代黒川亀玉)
7	五	松山世子(酒井忠起)の壁間、子行(伊藤華岡)の画竹に題す。	題松山世子壁間子行画竹	伊藤華岡
8		壺山老侯(本多忠如)、画を賜うに奉謝す。	奉謝壺山老侯賜画	本多忠如
9		宇土侯(細川興文)に奉じて画蘭を索む。二首	奉宇土侯索画蘭二首	細川興文

まj・村瀬栲亭【源君績、1744~1818】

(京都の人。武田梅龍に学ぶ。妙法院宮・真仁法親王に侍読として仕えた。のち、出羽秋田藩に儒学者として迎えられた。)→画人

『栲亭初稿』天明三年(1783)刊(大阪府立中之島図書館本)				
1	卷一	謝長庚(与謝蕪村)の「桃源の図」に題す。巖仲文(紀梅亭)のためにす。	題謝長庚桃源図為巖仲文	与謝蕪村 紀梅亭
2	二	文休承(文嘉)の山水巻に題す。五首	題文休承山水巻五首	文嘉
3	三	僧月泉の「蜀道の図」に題す。和鞞卿(和田東郭)のためにす。	題僧月泉蜀道図為和鞞卿	月仙か
4	四	五嶽道人(福原五岳)の紅梅を患ざるに謝す。	謝五嶽道人患紅梅	福原五岳
5		巖仲文(紀梅亭)の山水の画に題す。二首	題巖仲文山水画二首	紀梅亭
6		首夏、巖仲文(紀梅亭)、病を問い、かつ桃及び枕瓜一籠を饋らる。余、初めその時ならざるを驚訝す。既にしてこれを剖かば、すなわち籠餅なり。よりて戯れに二絶を賦してこれを謝す。	首夏巖仲文問病且饋桃及枕瓜一籠余初驚訝其不時既而剖之則籠餅也因戲賦二絶謝之	紀梅亭
7	五	巖敬甫(岩溪嵩台)を送る序。	送巖敬甫序	岩溪嵩台
8	六	嵐峽に遊ぶ記。(安永9年)	遊嵐峽記	(呉春)

9	六	八淵の巻に跋す。	跋八淵巻	(若城藍田)
『栲亭二稿』文化四年(1807)刊(同上)				
10	卷二	秋月仙の「岳陽樓の図」に題す。	題秋月仙岳陽樓図	月仙
11		朝鮮の蘇齋(李聖麟)の山水画に題す。山崎士服のためにす。	題朝鮮蘇齋山水画為山崎士服	李聖麟
12		英一蝶の「双燕の図」、佐竹山城君のためにす。	英一蝶双燕図為佐竹山城君	英一蝶
13	三	謝春星(与謝蕪村)の「山水の図」に題す。	題謝春星山水図	与謝蕪村
14		田夢鶴(吉田謙斎)の寓廬にて、中野季文(中野龍田)、鴨伯師と同じく「泛水偶人」を賦す。先韻を分得す。	田夢鶴寓廬同中野季文鴨伯師賦泛水偶人分得先韻	中野龍田
15	四	月仙の「山水の図」に題す。	題月仙山水図	月仙
16		福元素(福原五岳)の山水画帖に題す。七首	題福元素山水画帖七首	福原五岳
17		蠣崎世祐(蠣崎波響)の山水画に題す。	題蠣崎世祐山水画	蠣崎波響
18		鶴亭の墨梅に題す。	題鶴亭墨梅	鶴亭
19		朝鮮の述斎(下璞)の山水画に題す。山崎士服のためにす。	題朝鮮述斎山水画為山崎士服	下璞
20		池無名(池大雅)の画竹に題す。二首	題池無名画竹二首	池大雅
21		蠣崎世祐(蠣崎波響)の「暁江打魚の図」に題す。春子濟(春日亀蘭洲)のためにす。	題蠣崎世祐暁江打魚図為春子濟	蠣崎波響
22		呉月溪(呉春)の「陽春白雪の図」。	呉月溪陽春白雪図	呉春
23		大原雲卿(大原吞響)、松前に之くを送る。	送大原雲卿之松前	大原吞響
24		源琦の老少年の画。同前(広福親王の教に応ず。)	源琦老少年画同前	源琦
25		僧月仙の「靈芝の図」。同前(広福親王の教に応ず。)	僧月仙靈芝図同前	月仙
26		大原雲卿(大原吞響)の山水の画に題す。二首	題大原雲卿山水画二首	大原吞響
27		巖仲文(紀梅亭)の六十を寿す。[仲文、画を善くす。近ごろ天津に住す。]	寿巖仲文六十[仲文善画近者住天津]	紀梅亭
28		蠣崎世祐(蠣崎波響)の「嵐山の図」。	題蠣崎世祐嵐山図	蠣崎波響
29		長山孔寅の「王右軍の図」。	長山孔寅王右軍図	長山孔寅
30		大原雲卿(大原吞響)の米法山水の画に題す。	題大原雲卿米法山水画	大原吞響
31		呉月溪(呉春)の「雨中漁舟の図」。	呉月溪雨中漁舟図	呉春
32		岸蘭齋(岸駒)の「龍山落帽の図」。	岸蘭齋龍山落帽図	岸駒
33		維明禪師の梅月の画。春子濟(春日亀蘭洲)のためにす。	維明禪師梅月画為春子濟	維明
34		雲卿(大原吞響)の「梅花書屋の図」に題す。二首。六如上人のためにす。	題雲卿梅花書屋図二首為六如上人	大原吞響
35	六	董思白(董其昌)の山水巻に題す。	題董思白山水巻	董其昌
36		宮子常(宮崎筠圃)の墨帖に題す。	題宮子常墨帖	宮崎筠圃
『栲亭三稿』文政九年(1826)刊(同上)				
37	卷一	岸駒の「四皓の図」。	岸駒四皓図	岸駒
38		君彝(田能村竹田)を送る。	送君彝	田能村竹田
39		蠣崎世祐(蠣崎波響)の波響樓に寄題す。	寄題蠣崎世祐波響樓	蠣崎波響
40		「趙子龍の図」に題す。[僧月仙の画くところ。]	題趙子龍図[僧月仙画]	月仙
41		上田耕夫の宅にて牡丹を觀る歌。	上田耕夫宅觀牡丹歌	上田耕夫
42	二	初冬の夜、坐して君彝(田能村竹田)を思う。	初冬夜坐思君彝	田能村竹田
43		老境三首 … [余性、梅花を愛す。毎歳、数十枝を大瓶に挿す。よりて呉月溪(呉春)をして春月を描かしめ、壁上に掛けて小羅浮となす。]	老境三首 … [余性愛梅花每歳挿数十枝于大瓶因使呉月溪画春月掛壁上号为小羅浮]	呉春
44		九日、上田余齋(上田秋成)、呉月溪(呉春)と同じく南禅寺に遊ぶ。	九日同上田余齋呉月溪遊南禅寺	呉春
45		呉月溪(呉春)の「独活芽の図」に題す。大愚上人のためにす。(寛政8年)	題呉月溪独活芽図為大愚上人	呉春
46		「鶴蘭園」に題す。[並びに序。]	題鶴蘭園[并序]	(上田耕夫)
47	三	甲子(文化元年)の春、世継伯周(世継希仙)と湖東に同遊す。舟を汎べて伊耆耶山下を經。伯周、一石を得るに、状すこぶるその山に似たり。すなわち命づけて伊耆孫と曰う。係くるに一絶を以てす。[伊耆耶山、俗に長命寺と名づく。]	甲子之春与世継伯周同遊湖東汎舟經伊耆耶山下伯周得一石狀頗似其山乃命曰伊耆孫係以一絶[伊耆耶山俗名長命寺山]	世継希仙
48		呉月溪(呉春)の「頑石平地木の図」。	呉月溪頑石平地木図	呉春
49		大原雲卿(大原吞響)の「桃源の図」に題す。	題大原雲卿桃源図	大原吞響
50		武禪(墨江武禪)の「寒林の図」。余齋(上田秋成)のためにす。	武禪寒林図為余齋翁	墨江武禪
51		福元素(福原五岳)の「廬山の図」。土山士景のためにす。	福元素廬山図為土山士景	福原五岳
52		柳公美(柳沢淇園)の「昌陽洋実の図」。	柳公美昌陽洋実図	柳沢淇園
53		呉月溪(呉春)の「鬢頭の図」。	呉月溪鬢頭図	呉春
54		蠣崎波響の「南瓜花蝸牛の図」。	題蠣崎波響南瓜花蝸牛図	蠣崎波響
55		花竿の図。[孝敬(吉村孝敬)の画くところなり。けだし京師、俗に四月八日、家々躑躅を竿標に縛り、庭中に立て、もって諸天に供す。] 広福親王の教に応ず。	花竿図[孝敬画蓋京師俗四月八日家家躑躅于竿標繫庭中以供諸天] 広福親王教	吉村孝敬
56		「三保浦の図」[探信(狩野探信)の画くところなり。富士嶽、清見寺、三保浦、分けて三幀となす。]	三保浦図[探信画富士嶽清見寺三保浦分三幀]	狩野探信
57		耕夫(上田耕夫)の「紅柿の図」。	耕夫紅柿図	上田耕夫
58		呉月溪(呉春)の「弦月の図」。	呉月溪弦月図	呉春
59		源仲選(円山応挙)の金糸荷葉。	源仲選金糸荷葉	円山応挙
60		岸蘭齋(岸駒)の「玄鬼の図」。	岸蘭齋玄鬼図	岸駒
61		「古楊青鶴の図」。この画、世継伯周(世継希仙)蔵する所なり。源仲選(円山応挙)、青鶴を画き、僧月仙、古楊を画く。双壁、禪を聯すと謂うべし。よりて一絶を題す。	古楊青鶴図 此画世継伯周所蔵源仲選画青鶴僧月仙画古楊可謂及壁聯禪矣因題一絶	世継希仙 円山応挙 月仙
62		呉月溪(呉春)の画に題す。二首	題呉月溪画二首	呉春
63		池無名(池大雅)の山水の画。和田韞卿(和田東郭)のためにす。	池無名山水画為和田韞卿	池大雅
64		岸蘭齋(岸駒)の「茗を煮る図」。余齋翁(上田秋成)のためにす。	岸蘭齋煮茗図為余齋翁	岸駒

65	三	玉隣の画竹。	玉隣画竹	玉隣
66		谷文晁の墨菊。	谷文晁墨菊	谷文晁
67		月峯、梅花を恵さるるに謝す。三首	謝月峯惠梅花三首	月峯
68		清人・孟涵九なる者、さきに長崎に來り、すこぶる国語に嫻す。かつて「一僧、笠を載せて跌坐する図」を写し、係くるに板倉侯の国風の詠を以てす。それおもえらく、およそ人情は、尺を得て尋を望まば、底止あることなし。ゆえに警するに心上笠子を着け、その上に希図することなきを以てす。その詞、俗に近しといえども、また位に素して行の一端なるのみ。浪速の和田氏、余に題言を帯む。よりて一絶を賦してこれに帰す。	清人孟涵九者嚮來長崎頗嫻國語嘗寫一僧戴笠跌坐之圖係以板倉侯國風之詠其意謂凡人情得尺望尋無有底止故警以心上着笠子勿希圖其上焉其詞雖近俗亦素位而行之一端耳浪速和田氏需余題言因賦一絕歸之	孟涵九
69		呉春の「桃花流水の図」。同前(広福親王の教に應ず。)	呉春桃花流水図同前	呉春
70		釈寂照(月仙)の「雪中婦漁の図」。同前(広福親王の教に應ず。)	釈寂照雪中婦漁図同前	月仙
71		呉春の扇面杜鵑、二首。同前(広福親王の教に應ず。)	呉春扇面杜鵑同前	呉春
72		呉月溪(呉春)の「夜叉念仏の図」。	呉月溪夜叉念仏図	呉春
73		服叔信、月仙師に呉信晩歩の詩意を画かれんことを請い、余に題詞を帯む。よりて係くるに一絶を以てす。	服叔信請月仙師画呉信晩歩之詩意需余題詞因係以一絶	月仙
74		大原雲卿(大原吞響)の「漢童葉を掃く図」。	大原雲卿漢童掃葉図	大原吞響
75		耕夫(上田耕夫)、靈芝を恵さるるに謝す。	謝耕夫惠靈芝	上田耕夫
76		若冲(伊藤若冲)の「蘆雁の図」。	若冲蘆雁図	伊藤若冲
77		月峯の「百老の図」に題す。	題月峯百老図	月峯
78		岸蘭齋(岸駒)の墨梅に題す。某生のためにす。	題岸蘭齋墨梅為某生	岸駒
79		呉月溪(呉春)の「半身、水に没する鬼」。	呉月溪半身没水鬼	呉春
80		豊彦(岡本豊彦)の山水の画。	豊彦山水画	岡本豊彦
81		秋日、梅亭(紀梅亭)を訪う。	秋日訪梅亭	紀梅亭
82		朝鮮の槐園の山水画に題す。二首	題朝鮮槐園山水画二首	槐園
83		月仙の「牧童牛に跨ぐ図」。二首	月仙牧童跨牛図二首	月仙
84		探鯨(鶴沢探鯨)の「仙人亀に乗る図」。	探鯨仙人乘龜図	鶴沢探鯨
85		岸蘭齋(岸駒)の水墨秋海棠。	岸蘭齋水墨秋海棠	岸駒
86		月仙の「瀑布を観る図」。	月仙觀瀑布図	月仙
87		岸蘭齋(岸駒)の山水の画。	岸蘭齋山水画	岸駒
88		維明禪師の雪梅。即堂師のためにす。	維明禪師雪梅為即堂師	維明
89		月仙の水墨葡萄。	月仙水墨葡萄	月仙
90		蘭齋(岸駒)の雪竹。	蘭齋雪竹	岸駒
91		耕夫(上田耕夫)の「范蠡の図」。	耕夫范蠡図	上田耕夫
92		月仙の「老子の図」。	月仙老子図	月仙
93		十王図、広福親王の教に應ず。[親王、画く所は案の上に在り。案は景文(松村景文)画く所にして、その余は呉春、岸駒、応瑞(円山応瑞)、応受(木下応受)、東洋(東東洋)、豊彦(岡本豊彦)、孝敬(吉村孝敬)、駿声(河村文鳳)、孔寅(長山孔寅)の画く所なり。錯落、案の下に在り。]	十王図応広福親王教[親王所画在案上案景文所画其餘呉春岸駒応瑞応受東洋豊彦孝敬駿声孔寅所画錯落在案下]	松村景文 呉春・岸駒 円山応瑞 木下応受 東東洋 岡本豊彦 吉村孝敬 河村文鳳 長山孔寅
94		呉岸諸子合画の「七種秋花の図」。[七種の秋花は山上億良の詠する所にして万葉集に見ゆ。呉春、鹿腸を画き、岸駒、日及を画き、応瑞(円山応瑞)、芥を画き、東洋(東東洋)、蘭を画き、岸国章(岸侍)、嬰妻を画き、文鳳(河村文鳳)、胡枝を画き、草偃(佐久間草偃)、葛を画く。]	呉岸諸子合画七種秋花図[七種秋花山上億良所詠見万葉集呉春画鹿腸岸駒画日及応瑞画芥東洋画蘭岸国章画嬰妻文鳳画胡枝草偃画葛]	呉春・岸駒 円山応瑞 東東洋 岸侍 河村文鳳 佐久間草偃
95		「人日七種菜の図」[呉春、繁縷を画き、応瑞(円山応瑞)、鼠麴を画き、応殺(木下応受)、蘿蔔を画き、東洋(東東洋)、芹を画き、景文(松村景文)、薺を画き、豊彦(岡本豊彦)、蔓菁を画き、義董(柴田義董)、鶏腸菜を画く。]	人日七種菜図[呉春画繁縷応瑞画鼠麴応殺画蘿蔔東洋画芹景文画薺豊彦画蔓菁義董画鶏腸菜]	呉春 円山応瑞 木下応受 東東洋 松村景文 岡本豊彦 柴田義董
96		僧月仙の「飲中八仙の図」、三首。広福親王の教に應ず。	僧月仙飲中八仙図三首応広福親王教	月仙
97		「蔡邕、笛材を揀る図」[池無名(池大雅)、画くところなり。]	蔡邕揀笛材図[池無名画]	池大雅
98		鶴亭の花鳥の画。三首	鶴亭花鳥画三首	鶴亭
99		月仙の山水の画。四首	月仙山水画四首	月仙
100	四	大原雲卿(大原吞響)を送る序。	送大原雲卿序	大原吞響
101		池貸成(池大雅)の山水画譜の題辭。	池貸成山水画譜題辭	池大雅 (与謝蕪村) (月峯)
102	五	茶籃の銘[并びに序。]	茶籃銘[并序]	(上田耕夫)
103	六	源仲選(円山応挙)の石譜に題す。	題源仲選石譜	円山応挙
104		池貸成(池大雅)の水流帖に題す。	題池貸成水流帖	池大雅
105		「富士山の図」の後に題す。	題富士山図後	(白雲) (大野文泉) (上田耕夫)
106		三仙堂の書画扁額の後に書す。	書三仙堂書画扁額後	(呉春) (東東洋) (岡本豊彦)

107	六	秦漢の瓦当文字の跋。	秦漢瓦当文字跋	(上田耕夫)
108		書画連屏の後に題す。	題書画連屏後	(上田耕夫)
109		池貸成(池大雅)の「臨高房山(高克恭)人物の図」。	池貸成臨高房山人物図	池大雅 高克恭
110		「洞庭諸勝の図」に跋す。	跋洞庭諸勝図	(池大雅)
111		余夙夜(青木夙夜)臨する所の「洞庭諸勝の図」に跋す。	跋余夙夜所臨洞庭諸勝図	青木夙夜 (池大雅)
112		林山春(林長英)の桃源巻に跋す。	跋林山春桃源巻	林長英
113		呂隆年(野呂介石)の山水横巻に跋す。	跋呂隆年山水横巻	野呂介石
114		自画の墨竹に跋す。	題自画墨竹	自画
115		文鳳(河村文鳳)の画帖に跋す。	跋文鳳画帖	河村文鳳 (雄崎折甫)
116		白石(新井白石)、南海(祇園南海)二先生の書牘の後に題す。	題白石南海二先生書牘後	祇園南海
117		壇詞図譜の小引。	壇詞図譜小引	(田能村竹田)
118		展覧書画品録の小引。	展覧書画品録小引	(馬寅)

まk・毛利壺邸【扶搖公子、1730~86】

(豊後佐伯藩主毛利高慶の四男。服部南郭、大内熊耳らに学ぶ。水戸藩家老家・山野辺氏の養子となるが、不行跡で離縁せられ、隠居生活を送った。)

『壺邸詩稿初編』天明八年(1788)序(東京都立中央図書館加賀文庫本)				
1	卷二	豊城の山翁、「山水の図」を写寄せらるるに酬ゆ。	酬豊城山翁写寄山水図	山翁
2	六	山正景、「琴棋書画の図」を摹するに題す。四首	題山正景摹琴棋書画図四首	山正景
『壺邸詩稿二編』寛政四年(1792)序(国立公文書館内閣文庫本)				
3	卷一	春盡、墨沓を廻り、過りて紀君輔(浦上玉堂)に別る。	春盡迴墨沓過別紀君輔	浦上玉堂
4	三	春日、含輝亭に遊ぶ。紀君輔(浦上玉堂)琴を弾ず。賦して贈る。	春日遊含輝亭紀君輔彈琴賦贈	浦上玉堂
5		秋日、諸子と同じく仏心院に遊び、長島侯(増山雪齋)に邂逅す。賦呈し、懐を申す。	秋日同諸子遊仏心院邂逅長島侯賦呈申懐	(飯応) 増山雪齋
6		首夏、長島侯(増山雪齋)、岡部侯、山上世子、源長卿(佐々木琴台)と同じく曹溪寺に遊ぶ。[諸君及び寺主皆書画を善くす。]	首夏同長島侯岡部侯山上世子源長卿遊曹溪寺[諸君及寺主皆善書画]	増山雪齋
7	六	北越の関子卿(関口雪翁)のために乃母の六十を寿す。	為北越関子卿寿乃母六十	関口雪翁
8		遙かに長島侯(増山雪齋)の独楽園に題す。	遙題長島侯独楽園	増山雪齋
9	七	鈴子迹(鈴木鷗汀)の馴鷗亭に寄題す。	寄題鈴子迹馴鷗亭	鈴木鷗汀
10		北越の関子卿(関口雪翁)の清嘯亭に寄題す。	寄題北越関子卿清嘯亭	関口雪翁
11	八	釋松氏「李太白采石醉臥の図」を写す。卒に賦して賞を助く。	釋松氏写李太白采石醉臥図卒賦助賞	釋松
12		秋雨草堂の集、瑞林師、叔明兄弟(内田鶴洲・渡辺玄対)を選つも至らず。賦して贈る。[この日、壁間にあまた「虎溪三笑の図」を掛く。]	秋雨草堂集選瑞林師叔明兄弟不至賦贈[此日壁間遍掛虎溪三笑図]	渡辺玄対
13		秋日、仏心院に遊び、画を観る。戯れに長洲侯(増山雪齋)に賦呈し、兼ねて主人尊者(飯応)に示す。[侯、自ら愚山と号す。]	秋日遊仏心院觀画戲賦呈長洲侯兼示主人尊者[侯自号愚山]	飯応 増山雪齋
14		翠竹亭の席上にて秋玉山(秋山玉山)の墨菊を観る。服子(服部南郭)の賛あり。	翠竹亭席上觀秋玉山墨菊服子有賛	秋山玉山
15		首春、広陵の平子英(平賀蕉齋)に寄懐す。三首[子英、画を善くす。]	首春寄懐広陵平子英三首[子英善画]	平賀蕉齋

まl・守屋東陽【守伯亭、1732~82】

(美濃大垣の人。荻生徂徠門の父・守屋岷眉に学び、江戸で服部南郭に師事する。大垣藩士として藩主に近侍した。)

『東陽集』天明二年(1782)刊(国立国会図書館本)				
1	卷一	岷山(岡岷山)の「蜀道の図」の引。安永乙未(安永4年)の作。	岷山蜀道図引安永乙未作	岡岷山
2	二	広陵の平子英(平賀蕉齋)の月皎楼に寄題す。安永乙未(安永4年)の作。	寄題広陵平子英月皎楼安永乙未作	平賀蕉齋
3	三	菅習之(秋元小丘園)の席上にて、岷山岡君章(岡岷山)、広陵に帰るを送る。(安永4年)	菅習之席上送岷山岡君章帰広陵	岡岷山
4		僧龍明の「岷山月図」。(安永3年)	僧龍明岷山月図	龍明
5		遙かに芸州の衝柳陰の別業に題す、十首。安永乙未(安永4年)の作。 岡岷山の図する所に據る。飛泉ありて数道迸裂し、巖側を注射す。これを望めば雜佩の然るがごとし。けだし名を得たるゆえんなり。 … [右、雜佩泉]	遥題芸州衝柳陰別業十首安永乙未作 據岡岷山所図有飛泉数道迸裂注射巖側望之若雜佩然蓋所以得名也 … [右雜佩泉]	岡岷山
6	四	岸子清を寿す。子清、画を善くす。(安永3年)	寿岸子清子清善画	岸子清
7		平子英(平賀蕉齋)、広陵に還るを送る。二首(安永4年)	送平子英還広陵二首	平賀蕉齋
8	五	岡君章(岡岷山)に与う。安永乙未(安永4年)の作。	与岡君章安永乙未作	岡岷山

やa・梁田蛻巖【梁景鸞、1672~1757】

(江戸の人。人見竹洞、新井白石、室鳩巢らに学ぶ。加賀金沢藩、美濃加納藩、次いで播磨明石藩に仕える。同藩藩校・景徳館の教授となった。)

『蛻巖集』 卷一~四・寛保二年(1742)刊、卷五~八・延享三年(1746)刊(富士川英郎他編『詩集日本漢詩』第5巻[汲古書院 1985年]所収)				
1	卷三	紀府の祇伯玉(祇園南海)の寄せらるるに和す。二首	和紀府祇伯玉見寄二首	祇園南海
2	六	祇伯玉(祇園南海)に与う。	与祇伯玉	祇園南海
3	七	瑞雲寺の「富山の図」の記。(享保2年)	瑞雲寺富山図記	(寛隆法親王)
4		瑞雲寺の挂軸の記。(寛保元年)	瑞雲寺挂軸記	(狩野探幽 [雜摩図])
『蛻巖後集』安永九年(1780)刊(同上)				
5	卷一	藤大夫の画蘭に題す。	題藤大夫画蘭	藤大夫
6		郡山の柳公美(柳沢淇園)、指もて画ける竹を観る歌。	觀郡山柳公美指画竹歌	柳沢淇園
7		雪村の画山水に題す。	題雪村画山水	雪村
8	二	桂秘監の祇伯玉(祇園南海)に贈れる「投刺に代ゆ」に和し、戯れにこれを嘲す。	和桂秘監贈祇伯玉代投刺戲嘲之	祇園南海

9	二	白隠和尚画ける「老猿抱月」の図に題す。	題白隠和尚画老猿抱月図	白隠慧鶴
10	三	祇伯玉(祇園南海)の墨菊に題す。	題祇伯玉墨菊	祇園南海
11		祇伯玉(祇園南海)の「病起の作」に和す。	和祇伯玉病起作	祇園南海
12		席上にて戯れに郡山の柳公美(柳沢淇園)に贈る。	席上戯贈郡山柳公美	柳沢淇園
13	四	席上にて画人・吉村周山に贈る。	席上贈画人吉村周山	吉村周山
14		大石良雄氏の「竹雀の図」に題す。	題大石良雄氏竹雀図	大石良雄
15	五	卜翁新画の序。	卜翁新画序	(大岡春卜)
16	六	大石良雄氏の画牡丹の賛。	大石良雄氏画牡丹賛	大石良雄
17		白隠師、予州の人・狸兄のために真を写す賛。	白隠師為予州人狸兄写真賛	白隠慧鶴
18	七	友淵生(友淵南江)に答う。	答友淵生	(柳沢淇園 「指画竹」)
19		柳公美(柳沢淇園)に寄す。	寄柳公美	柳沢淇園 (「指画竹」)

やb・荻孤山【數子厚、1735~1802】

(肥後熊本の人。同藩藩士の父・荻慎庵から学ぶ。江戸、京都で諸師に就き、熊本藩藩校・時習館の教授となった。)

『孤山先生遺稿』文化十三年(1816)序(富士川英郎・松下忠・佐野正巳編『詩集日本漢詩』第11巻[汲古書院 1987年]所収)				
1	卷一	浪華の岡君章(岡田南山)、親ら画く所の「山水の図」一幅を贈らる。これを賦してこれに謝す。	浪華岡君章見贈所親画山水図一幅賦此謝之	岡田南山
2		黄備の天海子、悠然として詩並びに画を寄せられ、千里交りを求む。賦して以て答謝す。	黄備天海子悠然見寄詩并画千里求交賦以答謝	天海
3	二	西孟清(西村孟清)、大いに諸賢および予を嶗島の大勝楼に集す。善する所の洞庭軸に題されんことを誓む。賦して贈る。[以下の三首は乙未(安永4年)東遊の作に係く。]	西孟清大集諸賢及予於嶗島大勝樓需題所善洞庭軸賦贈[以下三首係乙未東遊作]	(池大雅)
4	四	浪華の阿州郎吏・岡君章(岡田南山)、邀えらる。五歌を得たり。(安永4年)	浪華阿州郎吏岡君章見邀得五歌	岡田南山
5	六	僧雪舟の画真を贈る。	贈僧雪舟画真	雪舟
6	七	僧雪舟の「芙蓉の図」に題す。	題僧雪舟芙蓉図	雪舟
7		雪舟の「渡唐芙蓉の図」に題す。	題雪舟渡唐芙蓉図	雪舟
8		山俊度(山内俊度)の画幅に題す。十七首。尾に小絶を附し、戯れに俊度に寄す。	題山俊度画幅十七首尾附小絶戲寄俊度	山内俊度
9	十一	黄山人の画に題す。	題黄山人画	黄山人
10		画に題す。	題画	(沈周)
11		墨君徽(住江滄浪)の画幅に題す。	題墨君徽画幅	住江滄浪
12	十六	西子翼の扇頭画山水に題す。	題西子翼扇頭画山水	西子翼

やc・山県周南【縣次公、1687~1752】

(周防佐波の人。江戸で荻生徂徠に学ぶ。護国七子のひとり。萩藩儒学者として藩主に近侍し、藩校・明倫館の創設に尽力した。)

『周南先生文集』宝暦十年(1760)刊(早稲田大学図書館本)				
1	卷四	等仲子(雲谷等直)、南塘先生(雲谷等直)に従いて丹青を学び、早に韓幹の誉れあり。不幸にして明を失し、歌を詠じて自ら娛む。その居する所を聴松庵と号づく。人を介してその詩を作られんことを求む。	等仲子從南塘先生學丹青早有韓幹之譽不幸失明詠歌自娛其所居号聴松庵介人求作其詩	雲谷等仲 雲谷等直
2	八	雪舟の伝。	雪舟伝	雪舟
3	十	佐縮往(佐々木縮往)に与う。	与佐縮往	佐々木縮往

やd・山井景貫【大神青霞、神子一、山子一、備中介、1708~95】

(京都の人。本姓は大神。朝廷に仕え、正四位上に叙せられた地下。楽人として光格天皇の笛師範を務めた。)

『青霞初稿』安永九年(1780)刊(早稲田大学図書館本)				
1	卷三	席上にて建馨の「桃源の図」に和す。	席上和建馨桃源図	建馨
2	五	席上にて虎閑師の画竹に題す。	席上題虎閑師画竹	虎閑
3		大雅(池大雅)画ける「狸の図」に題す。	題大雅画狸図	池大雅

やe・山村蘇門【良由、1742~1823】

(信濃木曾福島の人。江戸で大内熊耳に学ぶ。代々、尾張藩木曾代官であったが、藩家老に抜擢された。)

『清音楼詩鈔初編』安永七年(1778)刊(東京都立中央図書館加賀文庫本)				
1	卷上	探索(鶴沢探索)画ける「山水の図」を観る。	観探索画山水図	鶴沢探索
2	下	かつて犬山侯(成瀬正典)に請うる所の「花鳥の図」成る。よりて賦して贈る。	嘗所請犬山侯花鳥図成因賦贈	成瀬正典
3		維明和尚、福閑を過り、松道師を介して蘭画一幅を贈らる。予一面するに及ばず。憾と言うべし。よりて賦して却寄す。	維明和尚過福閑介松道師見贈蘭画一幅予不及一面憾可言哉因賦却寄	維明
『清音楼詩鈔二編』享和三年(1803)刊(刈谷市中央図書館村上文庫本)				
4	卷上	かつて長洲侯(増山雪斎)に托する所の竹画成り、かつ客中の詩を示さる。よりて賦して贈る。	嘗所托長洲侯竹画成且見示客中詩因賦贈	増山雪斎
5		河雪亭(河島雪亭)、伊方次の濃州に之くを送る。雪亭、画を善くし、方次、棋を善くす。	送河雪亭伊方次之濃州雪亭善画方次善棋	河島雪亭
6		柴田元龍(柴田西涯)、尾州に還るを送る。[元龍、医を善くし、兼ねて画に工なり。]	送柴田元龍還尾州[元龍善医兼工画]	柴田西涯
7		中秋の無月、岡部侯の竹里館に遊び、長洲侯(増山雪斎)、大溝侯に呈す。	中秋無月遊岡部侯竹里館呈長洲侯大溝侯	増山雪斎
8	下	春夜、長洲侯(増山雪斎)を石谷氏の池亭に宴す。長洲侯、箏を善くする者を携う。	春夜宴長洲侯於石谷氏池亭長洲侯携善箏者	増山雪斎
9		長洲侯(増山雪斎)、草堂に過らる。	長洲侯過草堂	増山雪斎
10		鈴子述(鈴木鷗汀)、村上侯に従いて越後に之くを送る。	送鈴子述從村上侯之越後	鈴木鷗汀
11		「肥後瀑布の図」を観る引。熊本侯(細川重賢)の需めに応ず。	觀肥後瀑布図引応熊本侯需	(細川重賢)

12	下	太田侯と同じく長洲侯(増山雪齋)の碧梧書屋に遊ぶ。[太田侯は水藩の諸公子なり。]	同太田侯遊長洲侯碧梧書屋[太田侯者水藩諸公子]	増山雪齋
13		雨中、長洲侯(増山雪齋)と太田侯の飲楽園に過る。	雨中与長洲侯過太田侯飲樂園	増山雪齋
『清音樓集』文政二年(1819)刊(早稲田大学図書館本)				
14	卷一	青長好、夢に大黒天を酒盃中に安置するを見る。光明赫然たり。覚ておもえらく、吉夢なりと。よりに祐川(池井祐川)をしてこれを画かしめ、予に請いてその上に題句せしむ。	青長好夢見安置大黒天於酒盃中光明赫然覺而以為吉夢因令祐川画之請予題句其上	池井祐川
15		上田氏の女・琴風、「防長三十六灘の図」を画きて贈る。よりにこれを賦して以て謝す。	上田氏女琴風画防長三十六灘図見贈因賦此以謝	上田琴風
16		崖世煥(岸南嶠)画ける「清音亭宴会の図」に謝す。	謝崖世煥画清音亭宴会図	岸南嶠
17	二	天龍道人に寄す。	寄天龍道人	天龍道人
18	四	四時窓詩集の序。	四時窓詩集序	(岸南嶠)
19	五	古訓抄の跋。	古訓抄跋	(岸熊野)
20		木曾義昌の画像に題す。(文化3年)	題木曾義昌画像	(池井祐川)
21		岡野子言(岡野逢原)に答う。	答岡野子言	(天龍道人 [葡萄園])
『清音樓遺稿』文政六年(1823)刊(同上)				
22	卷上	豊雲師、画を患さるるに謝す。	謝豊雲師患画	(宋紫石)
23		雪齋老侯(増山雪齋)を哭す。	哭雪齋老侯	増山雪齋
24		玄対翁(渡辺玄対)のために「五瑞の図」に題し、その七十を賀す。	為玄対翁題五瑞図賀其七十	渡辺玄対
25	下	古賀溥卿(古賀精里)に復す。	復古賀溥卿	(江芸閣)

やf・湯浅常山【湯之祥、1708~81】

(備前岡山の人。江戸で服部南郭、太宰春台に学ぶ。岡山藩藩士として町奉行などを務めたが、藩政批判の咎で隠居させられた。)

『常山樓集』天明四年(1784)刊(国立国会図書館本)				
1	卷二	奥平公(奥平昌鹿)の画竹に題す。	題奥平公画竹	奥平昌鹿
2	五	沈衡齋(沈南蘋)の画に題す。	題沈衡齋画	沈南蘋
3		黄前良の画山水の巻の跋。(延享元年)	黄前良画山水巻跋	黄前良
4		黄前良の書に答う。	答黄前良書	黄前良

やg・横谷藍水【谷文卿、1720~78】

(江戸の人。六歳の時に失明し、同じく盲人の高野蘭亭に学ぶ。鍼医を業とした。彫金師・横谷宗珉の孫にあたる。)

『藍水詩草』安永九年(1780)刊(国立国会図書館本)				
1	卷三	歳暮、大年(韓天寿)を送る。	歳暮送大年	韓天寿
2		暮春、韓大年(韓天寿)に簡す。	暮春簡韓大年	韓天寿
3		泉侯(本多忠如)、「鶴菊の図」を写するに奉謝す。	奉謝泉侯写鶴菊図	本多忠如

らa・頼春水【頼千秋、1746~1816】

(安芸竹原の人。はじめ塩谷鳳洲や平賀中南に学び、大坂で趙陶齋に学ぶ。片山北海の混沌詩社に参加した。広島藩儒学者。)

『春水遺稿』文政十年(1827)序(富士川英郎・松下忠・佐野正巳編『詩集日本漢詩』第10巻[汲古書院 1986年]所収)				
1	卷三	心拳(円山心拳)の画狗に題す。(寛政3年)	題心拳画狗	円山心拳
2	四	画人・自得山人(平松曼容)、九国に遊ぶ。別れに臨みて言を請う。(寛政7年)	画人自得山人遊九国臨別請言	平松曼容
3		岡田君章(岡田南山)の詩を寄するに次韻し、答謝す。(寛政7年)	次韻岡田君章寄詩答謝	岡田南山
4	五	吉原[結句はすなわち、陶齋(趙陶齋)の吾が東遊を送りし詩中の語なり。](享和元年)	吉原[結句即陶齋送吾東遊詩中語]	趙陶齋
5		千祺(頼杏坪)の画石に題す。礼脚(菅茶山)のためにす。(享和3年)	題千祺画石為礼脚	頼杏坪
6	六	西山孝恂、福五岳(福原五岳)の山水画幅を携え、余に題詩を請う。(文化3年)	西山孝恂携福五岳山水画幅請余題詩	福原五岳
7		竹原に展墓す。儀卿(石井豊洲)舟を拏して余に請う。兄弟子姪及び尾路の画を善くする女子の玉蘊姉妹、備後の僧辻村、虎臣(佐藤)とたまたま来る。よりに同に竹原の港口に遊ぶ。(文化4年)	展墓竹原儀卿拏舟請余兄弟子姪及尾路善画女子玉蘊姉妹備後僧辻村与虎臣適來因同遊竹原港口	平田玉蘊
8		趙翁(趙陶齋)の「枸杞園の図」に題す。大坂の西村某(西村孟清)の索むる所なり。(文化4年)	題趙翁枸杞園図大坂西村某所索	趙陶齋
9	七	慈仙、巖島に在りて詩を寄す。次韻して以て謝す。[慈仙、向に本府に在り。余、しばしばこれを問う。](文化6年)	慈仙在巖島寄詩次韻以謝[慈仙向在本府余数問之]	慈仙
10		慈仙、帰を告ぐ。原韻を用いてこれを送り、兼ねて篠安道(篠崎三島)に寄す。(文化6年)	慈仙告帰用原韻送之兼寄篠安道	慈仙
11		釈豪潮蔵する所の江大来(江稼圃)画ける巨幅の「天台山の図」に寄題す。肥後教授・辛憲伯夷(辛島塩井)の託する所なり。(文化7年)	寄題釈豪潮所蔵江大来画巨幅天台山図肥後教授辛憲伯夷託	江稼圃
12		「缺月の図」に題す。[円山主水(円山心拳)の画、阿州の仁尾内膳の蔵するところなり。](文化8年)	題缺月図[円山主水画阿州仁尾内膳蔵]	円山心拳
13	八	月仙の画柳に題す。田生のためにす。[生は礼脚(菅茶山)の外姪にして廉塾に寓す。](文化10年)	題月仙画柳為田生[生礼脚外姪寓廉塾]	月仙
14	九	岡田君章(岡田南山)の詩集の序。(文化11年)	岡田君章詩集序	岡田南山
15		御風漁石印譜の序。	御風漁石印譜序	(福原五岳)
16	十一	「松島の図」の後に題す。	題松島図後	(谷文晁)
17		趙老(趙陶齋)の画巻の跋。(文化2年)	趙老画巻跋	趙陶齋
18		趙翁(趙陶齋)の扁字の跋。	趙翁扁字跋	趙陶齋
19		梅厓(十時梅厓)の書画帖の後に書す。(文化3年)	書梅厓書画帖後	十時梅厓 (増山雪齋)
20		金剛経の模本の跋。	金剛経模本跋	(趙陶齋)



21	十一	仏足石の損本の跋。(文化11年)	仏足石損本跋	(韓天壽)
22		田士徳(森田士徳)の書の跋。(文化12年)	田士徳書跋	(趙陶齋)

らb・頼春風【頼阿松、頼千齡、1753~1825】

(安芸竹原の人。頼春水の弟で、兄に従って大坂に遊学し、諸師に学んだ。郷里で医を業とした。) →画人

『春風館詩抄』天保十二年(1841)序(富士川英郎・松下忠・佐野正巳編『詩集日本漢詩』第10巻[汲古書院 1986年]所収)				
1	卷上	僧慈仙に和す。五日の雑詠。	和僧慈仙五日雑詠	慈仙
2		雲華師に寄す。	寄雲華師	雲華大舎
3		石儀脚(石井豊洲)と同じく、僧慈仙を要して泛舟し、暑を港口に避けんと欲す。風雨驟かに至り、遂に善繼堂に過る。	同石儀脚欲要僧慈仙泛舟避暑於港口風雨驟至遂過善繼堂	慈仙
4		十七夜、僧慈仙を送別す。	十七夜送別僧慈仙	慈仙
5	下	大舎師を導きて山遊をなす。	導大舎師作山遊	雲華大舎
6		大舎師、嶽に登るを聞く。賦して贈る。	聞大舎師登嶽賦贈	雲華大舎
7		岡君章(岡田南山)画く所の「満山紅葉の図」に題す。	題岡君章所画満山紅葉図	岡田南山
8		草場瑛介(草場珮川)の画菊に題す。宮島の村井直衛のためにす。	題草場瑛介画菊為宮島村井直衛	草場珮川
9		玉蘿(平田玉蘿)の罌菊。	玉蘿罌菊	平田玉蘿

らc・頼杏坪【頼阿万、頼千祺、1756~1834】

(安芸竹原の人。頼春水の末弟で、兄に従って大坂に遊学、さらに江戸に随従した。広島藩儒学者。) →画人

『春草堂詩鈔』天保五年(1834)刊(富士川英郎・松下忠・佐野正巳編『詩集日本漢詩』第10巻[汲古書院 1986年]所収)				
1	卷一	家大兄(頼春水)病に臥せ、二兄(頼春風)ために紙帳を製して梅花を画く。大兄喜びて詩あり。蘇長公の「聚星堂の雪」の詩韻を用いて、柔(杏坪)に命じて和せしむ。	家大兄臥病二兄為製紙帳画梅花大兄喜有詩用蘇長公聚星堂雪詩韻命柔作和	頼春風
2		源穆甫(広瀬台山)即世す[名は清風、台山と号す]。予、墓銘を作る。寡婦某氏、古墨一枚を贈らる。潤筆をなすに試みてこれを用う。果して名品なり。感ありて作る。	源穆甫即世[名清風号台山]予作墓銘寡婦某氏饋古墨一枚為潤筆試用之果為名品有感作	広瀬台山
3	二	菊池博甫(菊池西臯)に依りて介石翁(野呂介石)の墨竹を覚め、遙かに一燈を思さる。筆意精妙にして実に宝玩となす。よりにまた山水の一幅を請う。貪冒率易にして恐悚に勝えず。	依菊池博甫覚介石翁墨竹遺思一燈筆意精妙実為宝玩因又請山水一幅貪冒率易不勝恐悚	野呂介石
4		人日、三輪草齋の宅集にて、龍渚(倉成龍渚)、春川(河合春川)、台山(広瀬台山)と同じく作る。	人日三輪草齋宅集同龍渚春川台山作	広瀬台山
5		平田氏(平田玉蘿)の古鏡の歌。	平田氏古鏡歌	平田玉蘿
6	三	戯れに蘭数箭を画き、自ら題す。	戯画蘭数箭自題	白画
7		松前の蠣崎大夫(蠣崎波響)に寄せ、その旧封に還るを賀す。大夫、画を善くす。兼ねて花鳥一幅を乞う。[この詩いまだ達せざるに、大夫即世す。惜むべし。]	寄松前蠣崎大夫賀其還旧封大夫善画兼乞花鳥一幅[此詩未達大夫即世可惜]	蠣崎波響
8		石崎士齋(石崎融思)「長崎澳口の図」を製し、詩一首を題す。寵別賦して謝す。	石崎士齋製長崎澳口図題詩一首寵別賦謝	石崎融思
9	五	江都の亡師友諸賢を追懐す。…〔台山翁(広瀬台山)〕	追懐江都亡師友諸賢…〔台山翁〕	広瀬台山
10		夜聴亭に梁詩禪(梁川星巖)を訪う。	夜聴亭訪梁詩禪	梁川星巖
11	六	京師の諸名流に寄懐し奉る。皆客歳の東遊にて接見する者なり。…〔紀春琴(浦上春琴)〕…〔竹洞居士(中林竹洞)〕…〔大倉笠山〕	奉寄懐京師諸名流皆客歳東遊接見者…〔紀春琴〕…〔竹洞居士〕…〔大倉笠山〕	浦上春琴 中林竹洞 大倉笠山 (野呂介石)
12	七	宣和(徽宗)の画鷹。	宣和画鷹	徽宗
13		玉蘿女史(平田玉蘿)に寄す。	寄玉蘿女史	平田玉蘿
14		夜聴亭、詩禪居士(梁川星巖)に贈る。	夜聴亭贈詩禪居士	梁川星巖
15	八	阿安語を読み、江馬氏に寄懐す。[氏、名は曇々、字は細香、詩画を善くす。大垣侯の医官の女なり。]	讀阿安語寄懐江馬氏[氏名曇々字細香善詩画大垣侯医官女]	江馬細香
16		太田春耕に和答す。[春耕かつて訳官となり、画及び篆を善くすと聞く。昔法を西人に受くると云う。]	和答太田春耕[聞春耕嘗為訳官善画及篆皆受法於西人云]	太田春耕

らd・龍草廬【龍子明、1715~92】

(山城伏見の人。荻生徂徠に私淑し、京都で宇野明霞に学ぶ。京都で私塾を営み、詩社・幽蘭社を結成した。近江彦根藩に漢学者として招かれた。)

『草蘆集初編』宝暦四年(1754)序(富士川英郎・松下忠・佐野正巳編『詩集日本漢詩』第6巻[汲古書院 1986年]所収)				
1	卷二	長禹功(長谷川青楓)に贈る。	贈長禹功	長谷川青楓
2	四	夏日、東福寺に遊びて、安子貫、参子暉(三上渭川)と同じく琴を弾す。	夏日遊東福寺同安子貫参子暉弹琴	三上渭川
3		劉生、東武に赴くを送る。参子暉(三上渭川)、藤子祥(藤井西河)、田晋卿(大江玄圃)、藪子固、安子貫と同じく賦す。毛字を得たり。	送劉生赴東武同参子暉藤子祥田晋卿藪子固安子貫賦得毛字	三上渭川
4	五	長禹功(長谷川青楓)、画ける「朱竹の図」に題す。	題長禹功画朱竹図	長谷川青楓
5		参子暉(三上渭川)、手製の白扇を恵さるるに謝す。	謝参子暉惠手製白扇	三上渭川
『草蘆集二編』宝暦十二年(1762)跋(同上)				
6	卷三	新秋の雨、参子暉(三上渭川)、藤子祥(藤井西河)、幡文華(小幡太室)、田晋卿(大江玄圃)、長子敬、李汝質(西村滄海)、酒肴を携え過らる。	新秋雨参子暉藤子祥幡文華田晋卿長子敬李汝質携酒肴見過	三上渭川
7	五	長禹功(長谷川青楓)に寄す。	寄長禹功	長谷川青楓
『草蘆集三編』明和三年(1766)跋(同上)				
8	卷一	詩画楼の歌。五岳真人(福原五岳)のためにす。	詩画楼歌為五岳真人	福原五岳
9	二	常足禪衲(佚山)に贈る。	贈常足禪衲	佚山
10	三	宮子常(宮崎筠圃)に寄す。	寄宮子常	宮崎筠圃
11	四	秋夜、長松蘭若にて佚山禪衲に逢い、旧を談す。	秋夜長松蘭若逢佚山禪衲談旧	佚山
12	六	佚山禪衲の六十を寿す。	寿佚山禪衲六十	佚山
13		尾張の橋氏小娘(橋本冬青)画ける「月下美人の図」に題す。	題尾張橋氏小娘画月下美人図	橋本冬青

14	六	長禹功(長谷川青楓)に寄す。	寄長禹功	長谷川青楓
15		西酔月(大西酔月)画ける「乳虎の図」に題す。	題西酔月画乳虎図	大西酔月
『草蘆集四編』安永六年(1777)跋(同上)				
16	卷三	鳴海の平君栗(下郷学海)に答う。	答鳴海平君栗	下郷学海
17	四	伏山禪衲の七十を寿す。	寿伏山禪衲七十	伏山
18		鳴海の平君栗(下郷学海)、五律一章を投じ、以てその和を需む。予や秋来りて枕に伏すること日あり。筆を援くるに懶く、敢えて果たさず。たまたま一絶成り、すなわち以てその責を塞ぐと云う。	鳴海平君栗投五律一章以需其和予也秋来伏枕有日矣懶于援筆故不敢果焉偶一絶成乃以塞其責云	下郷学海
19	五	浪華の伏山禪衲に寄す。	寄浪華伏山禪衲	伏山
20		伏山禪衲に寄す。	寄伏山禪衲	伏山
21		尾藩の致仕国老・平応主(津田北海)画ける「桃源の図」に題す。	題尾藩致仕国老平応主画桃源図	津田北海
22		郡山侯(柳沢伊信)、その手ずから自写する所の「花鳥の図」に詩を題し、以て浪華の西孟清(西村孟清)に賜う。孟清、恩榮の辱を拝し、以て退かにこれを公美(龍草廬)に告ぐ。よりにて巴調一章を賦して讀みて奉賛し、かつ賀祝の意を述ぶと云う。	郡山侯其所手自写花鳥圖題詩以賜于浪華西孟清焉孟清拜恩榮之辱以退告諸公美因賦巴調一章謹奉賛焉且述賀祝之意云	柳沢伊信
23	六	遣かに転輪の無礙和尚(忍海)の寂を開き、義龍、月仙の二師に贈る。	遙聞転輪無礙和尚寂寄贈義龍月仙二師	忍海 月仙
24		参子頌(三上渭川)、京に還るを送る。[子頌、画を善くす。]	送参子頌還京[子頌善画]	三上渭川
25		雪谿(山口雪溪)の画山水の図に題す。	題雪谿画山水図	山口雪溪
26		売酒生喰々子(佐竹喰々)に贈る。[洛水の東畔に居し、世を弄びて活計居搯す。三絃の琴を鼓して志を言う。]	贈売酒生喰々子[居于洛水東畔弄世活計居恒鼓三絃琴而言志]	佐竹喰々
27		伏山禪伯の寄せらるるに答う。	答伏山禪伯見寄	伏山
28		浪華の藤脩卿、予の詩を愛すること久し。しかれども天涯路隔てていまだ面することあたわず。ちかごろ、伏山老禪を介して予の繩墨を請う。その情厚しと謂うべし。今また詩を寄せ、以てその和を求む。予や枕に伏せ、病魔ほとんど筆研と生を隔つがごとし。しかれども強作して以てその責を塞ぐ。ゆえに以て転々として醜態を露わすと云う。	浪華藤脩卿愛予之詩者久矣而天涯路隔而未能面焉迩者介伏山老禪而請予之繩墨其情可謂厚矣今又見寄詩以求其和予也伏枕病魔殆如与筆研隔生也而強作以塞其責故以転露醜態云	伏山
29		冬日、月仙禪師手ずから菊を画き、詩を併せて以て贈らる。韻を次ぎて謝す。	冬日月仙禪師手画菊併詩以見贈次韻謝	月仙
『草蘆集五編』安永八年(1779)序(同上)				
30	卷五	僧鶴亭画ける「芭蕉の図」に題す。	題僧鶴亭画芭蕉図	鶴亭
31		西酔月(大西酔月)画ける東方朔の画に題す。	題西酔月画東方朔画	大西酔月
32		望玉蟾(望月玉蟾)画ける「醉杜甫の図」に題す。	題望玉蟾画醉杜甫図	望月玉蟾
33	七	児世華(龍玉淵)画ける「雪中芭蕉の図」に題す。	児世華画雪中芭蕉図	龍玉淵
34		五岳(福原五岳)の画山水の図に題す。	題五岳画山水図	福原五岳
35		五岳(福原五岳)画ける「美人弹琴の図」に題す。	題五岳画美人弹琴図	福原五岳
36	八	伊斎の寂照月仙梵師に寄す。	寄伊斎寂照月仙梵師	月仙
37		池大雅画ける「廬山瀑布の図」に題す。泉七のためにす。	題池大雅画廬山瀑布図為泉七	池大雅
『草蘆集六編』寛政三年(1791)序跋(同上)				
38	卷一	月仙師、画雲に題して贈らるるに和す。	和月仙師題画雲見贈	月仙
39		円山仲選(円山応挙)画師に贈る。	贈円山仲選画師	円山応挙
40		松平酔翁の「山水の図」を観る。	觀松平酔翁山水図	松平酔翁
41	二	五岳(福原五岳)画ける「回道人、雲房先生に逢うの図」に題す。	題五岳画回道人逢雲房先生図	福原五岳
42		源琦画ける「趙飛燕の図」に題す。	題源琦画趙飛燕図	源琦
43		蛸崎氏(蛸崎波響)の波響樓に寄題す。	寄題蛸崎氏波響樓	蛸崎波響
44	三	秋夜の即事、伏山禪師に寄す。	秋夜即事寄伏山禪師	伏山
45		相国の維明師、「梅花の図」を画きて以て贈らる。賦して謝す。	相国維明師画梅花図以見贈焉賦謝	維明
46		五岳(福原五岳)の画山水の図に題す。二首	題五岳画山水図二首	福原五岳
47		五岳(福原五岳)の画山水の図に題す。	題五岳画山水図	福原五岳
48		巖谷帯刀(岩溪嵩台)、丹中に笠仕するを送る。	送巖谷帯刀笠仕丹中	岩溪嵩台
49		春遊、喰々子(佐竹喰々)の韻に和す。	春遊和喰々子韻	佐竹喰々
50		僧海門の指墨の竹。	僧海門指墨竹	海門
51		長洲侯(増山雪斎)の独楽園に寄題す。	寄題長洲侯独楽園	増山雪斎
『草蘆集七編』寛政七年(1795)序(同上)				
52	卷三	客中、長禹功(長谷川青楓)に答え、次韻す。	客中答長禹功次韻	長谷川青楓
『艸廬文集初編』天明三年(1783)刊(大阪府立中之島図書館本)				
53	卷一	魏氏楽譜の叙。	魏氏楽譜叙	鉅鹿民部
54	三	処上参子嘩(三上渭川)の碣銘。(宝暦5年)	処上参子嘩碣銘	三上渭川

僧a・月海元昭【高遊外、1675~1763】

(肥前蓮池の人。黄檗宗の僧。京都に出て、相国寺の東に住した。煎茶を売り歩いたため、売茶翁とも呼ばれる。)

『売茶翁偈語』宝暦十三年(1763)序(大阪府立中之島図書館本)				
1		百拙和尚の遠忌の辰にて、予もまた一偈を賦す。	百拙和尚遠忌之辰予亦献一偈	百拙元養

僧b・天年浄寿【終南山人、1711~64】

(伊勢松坂の人。黄檗宗の僧。京都に住し、晩年は洛東岡崎に介石庵を構えた。兄は書家の伊藤華岡。)

『介石終南禪師遺稿』明和七年(1770)跋(国立国会図書館本)				
1	卷上	八月十三夜、岡元震(岡野石圃)に集す。	八月十三夜集岡元震	岡野石圃
2		臘月十九日、宮子常(宮崎崎圃)、堀伯欽、山房に過らんことを許す。これを作りて待あり。	臘月十九日宮子常堀伯欽許過山房作此有待	宮崎崎圃

3	上	韓大年(韓天寿)と同じく国府台に遊ぶ。二首[時に余、江戸に在り。]	同韓大年遊国府台二首[時余在江戸]	韓天寿
4		竹居(池大雅)の山水に題す。	題竹居山水	池大雅
5	下	宮子常(宮崎筠圃)の画竹の讚。	宮子常画竹讚	宮崎筠圃
6		百拙和尚の水墨の跋。	百拙和尚水墨跋	百拙元養
7		雪舟禅師画ける「富士山の図」の跋。	雪舟禅師画富士山図跋	雪舟
8		劉完庵(劉珏)の画卷の跋。	劉完庵画卷跋	劉珏
9		宮子常(宮崎筠圃)に与う。	与宮子常	宮崎筠圃

僧c・敬雄【金龍道人、1712~82】

(美濃神戸の人。天台宗の僧。江戸、京都に住し、晩年は郷里の善学院に隠棲した。江戸で住した浅草寺の山号にちなみ、金龍道人と呼ばれる。)

『雨新庵詩集』明和三年(1766)刊(国立国会図書館本)				
1	卷上	寿川、龍を屏風に画く。筆を走らせて謝となす。	寿川画龍於屏風走筆為謝	寿川
2		大我、佚山の両公と同じく、堰河に泛舟す。雍公贈らるるの韻に和す。	同大我佚山両公堰河泛舟和雍公見贈之韻	佚山
3	下	画に題す。 大津の画、鹵莽にして観るに足る者なし。しかれども海内に名あるは何ぞや。凡そ百爾の玩好は時勢粧を逐わざるものなし。これ独り然らずして、けだしここを以てこれを称するなり。今、この「鬼物、縁薄を提げてその衣を緇する画」を観るに、古趣掬すべきなり。すなわち時事に感ありて遂にこれが賛をつくる。	題画 大津画鹵莽無足観者而名于海内者何也凡百爾玩好靡弗逐時勢粧者此独不然蓋以是称之矣今觀此鬼物提縁薄緇其衣之画古趣可掬也乃有感時事遂為之賛	大津絵

僧d・玄海香山【1712~94】

(江戸の人。浄土宗の僧で法名は青蓮社香譽。江戸に住し、大田南畝、菊池衛岳らと情交厚かった。)

『青山樵唱集初篇』天明六年(1786)序(国立国会図書館本)				
1	卷一	掃塵会の後、宝松主人(忍海)に奉謝す。	掃塵会后奉謝宝松主人	忍海
2		李滄溟(李攀龍)の「白雪樓の図」を観る。	觀李滄溟白雪樓之図	李攀龍
3	二	服氏(服部南郭)の摹普門身に題して少林院に蔵む。	題服氏摹普門身藏少林院	服部南郭
4		南郭先生(服部南郭)の書齋壁画の畸牋に題す。	題南郭先生書齋壁画畸牋	服部南郭
5		冬日、兼山先生(片山兼山)、河子昌(河原保寿)、豊吉見を携え、草堂を訪るるに謝す。	冬日謝兼山先生携河子昌豊吉見訪草堂	河原保寿
『青山樵唱集二篇』(同上)				
6	上一	無礙上人(忍海)、石墨画蘭を贈らるるに謝す。	謝無礙上人石墨画蘭見贈	忍海
7	上二	諸君、盆荷を詠ぜらるるの作に酬い、兼ねて川山人の画に謝す。	酬諸君見詠盆荷之作兼謝川山人画	川山人
8	中	辺永童、画を善くするに贈る。	贈辺永童善画	辺永童
9		白賁墅、荒に就き、社友相資けて檢校す。	白賁墅就荒社友相資檢校	(忍海「嘯猿図」)
10		河子昌(河原保寿)、居を移し、竹太沖(竹内長水)に隣す。	河子昌移居隣竹太沖	河原保寿
11	下	忍海上人を詠す。	詠忍海上人	忍海

僧e・悟心元明【1713~85】

(伊勢松坂の人。黄檗宗の僧。京都、近江に住し、晩年は郷里に近い浄光庵に隠棲した。篆刻をよくした。)

『一雨余稿』安永二年(1773)刊(国立公文書館内閣文庫本)				
1	卷上	池戴成(池大雅)、五瀬に遊びて古曲を伝うるに贈る。	贈池戴成遊五瀬伝古曲	池大雅
2		宮筠圃(宮崎筠圃)に贈る。	贈宮筠圃	宮崎筠圃
3		池貸成(池大雅)、東都に之くを送る。	送池貸成之東都	池大雅
4	下	宮筠圃(宮崎筠圃)、墨竹を恵さるるに謝す。	謝宮筠圃惠墨竹	宮崎筠圃
5		鶴亭禅友、東都に遊ぶを送る。三首	送鶴亭禅友遊東都三首	鶴亭
6		百拙和尚を訪う。	訪百拙和尚	百拙元養
7		鶴亭の花鳥の画に題す。	題鶴亭花鳥画	鶴亭
8		中秋前一夕、石山に月を賞で、岡元震(岡野石圃)を懐うことあり。	中秋前一夕石山賞月有懷岡元震	岡野石圃
9		鶴亭禅友、芳野に遊ぶを送る。	送鶴亭禅友遊芳野	鶴亭
10		海眼禅友(鶴亭)、大洞に遊ぶに与う。	与海眼禅友遊大洞	鶴亭
11		池戴成(池大雅)に寄せ、画山水を促す。	寄池戴成促画山水	池大雅

僧f・梅莊頭常【大典、蕉中、1719~1801】

(京都もしくは近江の人。臨済宗の僧で、京都相国寺の百十四世住持。字野明霞に学んだ。幕府から朝鮮修文職に任ぜられ、朝鮮との外交を司った。)

『北禪詩草』寛政五年(1793)序(富士川英郎・松下忠・佐野正巳編『詩集日本漢詩』第6巻[汲古書院 1986年]所収)				
1	卷一	月仙上人、久しく東山に棲み、近ごろ渡会の寂照寺に住す。乙未(安永4年)の春、余、東遊してたまたま会晤を得、賦して贈る。[月仙、名は玄瑞、尾張の人なり。浄家の僧たり。画をよくす。]	月仙上人久棲東山近住渡会寂照寺乙未之春余東遊適得会晤賦贈[月仙名玄瑞尾張人為浄家僧能画]	月仙
2		しばらく柳原の三井氏の荘を借り、瑠瑠、ために掃除す。賦して示す。荘はもと緒方光林(尾形光琳)の居する所なり。[祖瑠、字は温、その号は荊山、石見の人なり。余の院に留錫す。]	暫借柳原三井氏荘瑠瑠掃除賦示[緒方光林所居[祖瑠字温其号荊山石见人。留錫余院]	尾形光琳
3		寂照寺にて雨に對す。二首	寂照寺對雨二首	(月仙)
4		寂照寺に遇りて月仙上人に贈る。	遇寂照寺贈月仙上人	月仙
5		月仙上人、邀えられ、東軒に月を賞づ。詩ありて次韻す。	月仙上人見邀東軒賞月有詩次韻	月仙
6		雨中、月仙の至を候す。	雨中候月仙至	月仙
7		慈徳の席上にて月仙上人に別る。	慈徳席上別月仙上人	月仙

8	三	十三日夜、夢に月仙上人に遇う。晤語の次、我に謂いて曰く、師、画梅を好まざるや否やと。余、笑いて曰く、好まざるにあらざるなり。ただこれ得難きのみと。上人曰く、吾、ちかごろ図する所あり、請うらくは以てこれを贈らんと。懐より一幅を出だし、これを披かば山水の間、一樹の梅花の歴たり。風致愛すべし。俄然として覚し、よりにて賦す。	十三日夜夢遇月仙上人晤語次謂我曰師不好画梅否余笑曰非不好也只是難得耳上人曰吾頃有所圖請以贈之懷出一幅披之山水間一樹梅花の歴風致可愛俄然而覺因賦	月仙
9		春初、維明、天真と鷹峯の空中庵に遊ぶ。[茶人・空中のかつて居する所なり。今小島某の有となる。]	春初与維明天真遊鷹峯空中庵[茶人空中所曾居也今為小島某有]	維明
10	四	月仙上人、勢より至る。かねて屏風を製して山水を画かれんことを乞う。登時に筆を下し、林木の状を作るに、俄かに転じて「蘭亭の図」となす。布置、妙を得たり。忻然としてこれを賦して以て呈す。	月仙上人自勢至預製屏風乞画山水登時下筆作林木状俄而轉為蘭亭図布置妙忻然賦之以呈	月仙
11		暁、雪に乘じて遊観す。あたかも維明上人の文殊殿より下来するに逢う。よりにて相ともに池辺の林間に徜徉す。率爾として賦す。	暁乘雪遊観恰逢維明上人自文殊殿下来因相与徜徉池辺林間率爾而賦	維明
12	五	鳴海にて平君栗(下郷学海)に過る。席上にて賦して贈る。乞いて茗瓶を得。よりにて及べり。	鳴海過平君栗席上賦贈乞得茗瓶因及	下郷学海
13	六	維明の画雪梅月梅の雙幅に題す。	題維明画雪梅月梅雙幅	維明
14		雪舟画ける「江山蘭若の図」を詠す。	詠雪舟画江山蘭若図	雪舟
15		平安の北為明、善く鯉魚を画く。よりにて余の詩を乞い、これに与う。	平安北為明善画鯉魚因乞余詩与之	北為明
16		維明の墨梅。[枝幹下に垂れ、白雪半ば封ず。]	維明墨梅[枝幹下垂白雪半封]	維明
17		鳴海にて下郷氏に過り、重ねて君栗(下郷学海)を弔す。	鳴海過下郷氏重弔君栗	下郷学海
18		辛亥(寛政3年)の春、余、召を被りて再び江戸に来る。三月念一日、聞中(聞中浄復)の諸彦、公事暇あるを候して、遊て篠池勤学の樓上に会し、筵を設けて供給し、一日の歡樂を得たり。感ずる所の者は桑榆の晩、萍水の遇にして我において諸彦の厚きことなり。二律を作りて述懐するとう。緇四人、聞中、大鱗、慈仙、天圭なり。素五人、橋君樹、天履仁(天沼恒庵)、館板卿(館柳湾)、三太復(横田如圭)、橋秉徳なり。並にここに録して忘れざるとなり。…[太復、画く所の西園雅集の幅を携う。向に観る。]	辛亥之春余被召再来江戸三月念一日聞中諸彦候公事暇邀会篠池勤学之樓上設筵供給得一日歡樂所感者桑榆之晩萍水之遇而諸彦之厚于我也作二律述懐云緇四人聞中大鱗慈仙天圭素五人橋君樹天履仁館板卿三太復橋秉徳並録于茲不忘也…[太復携所画西園雅集幅同觀]	慈仙 横田如圭
19		余、江戸に寄して慈仙上人と始めて一日の遇を得たり。聞くならく、近ごろまさに二松の珊瑚寺に帰せんとすと。よりにて贈るにこれを以てし、一合一離の情を詩に見わす。	余寄江戸与慈仙上人始得一日之遇聞近将歸住二松之珊瑚寺因贈以此一合一離情見于詩	慈仙
20		慈仙、手画数幅を患さる。一絶にて謝を申す。客裡、物の贈に堪えたるものなし。卒に手中の扇面に題す。何ぞ故物の疑に涉らんや。呵々。	慈仙患手画数幅一絶申謝客裡無物堪贈卒題手中扇面何涉故物之疑呵々	慈仙
【昨非集】宝暦十一年(1761)刊(早稲田大学図書館本)				
21	卷上	仇実父(仇英)の画桃李園の宴に題す。	題仇実父画桃李園宴	仇英
22	下	藤景和(伊藤若冲)、洛西の涯に寓居す。これを訪う。	藤景和寓居洛西涯訪之	伊藤若冲
23		池無名(池大雅)の画山水に題す。	題池無名画山水	池大雅
【北禅文章】寛政四年(1792)跋(大阪府立中之島図書館本)				
24	卷一	列仙図の序。	列仙図序	(月仙)
25	二	画虎の記。	画虎記	(文都)
26		寂照寺、新たに栖神堂雲嶂樓を造る記。	寂照寺新造栖神堂雲嶂樓記	(月仙)
27	三	池貸成(池大雅)の墓碑の銘。	池貸成墓碑銘	池大雅
28		月仙上人の画帖に跋す。	跋月仙上人画帖	月仙
29		池貸成(池大雅)の瘞書誌。	池貸成瘞書誌	池大雅
30		平君栗(下郷学海)の印匣の銘。	平君栗印匣銘	下郷学海
31		夢松の図に題す。	題夢松図	(維明)
【小雲樓稿】寛政八年(1796)刊(東京都立中央図書館加賀文庫本)				
32	卷一	藤景和(伊藤若冲)、市に之きて禽を売る者に逢う。その情悲しむべし。よりにて雀數十を買う。帰りにてこれを我が庭に放つ。	藤景和之市逢売禽者其情可悲因買雀数十歸而放諸我庭	伊藤若冲
33	三	江戸の絵を見て戯れに咏す。[絵の江戸に出づるは、多く美人娼優の類を図す。印出して彩を加え兒女の目を悦ばしむ。その工なる者を西川氏となす。近ごろ更に一種あり。精巧にして備に艶麗を極む。]	看江戸絵戲咏[絵出江戸多圖美人娼優類印出加彩悦兒女目其工者為西川氏近更有一種精巧備極艶麗]	浮世絵
34		月仙上人の小松谷の幽居に過る。	過月仙上人小松谷幽居	月仙
35		池居士(池大雅)の家に観音大士の像を安す。毎歳七月十七日、同社の二三輩と奉じて以て音羽の瀑泉に往きて灌浴をなす。帰りにて齋を設け、供養すると云う。これを聞きて賦して寄す。	池居士家安観音大士像每歳七月十七日与同社二三輩奉以往音羽瀑泉為灌浴歸而設齋供養云聞之賦寄	池大雅
36	四	土佐の仲子和(中山高陽)、かつて一たび書を通ず。いまだ相見ゆることを得ず。ちかごろ江戸に在りて聞中(聞中浄復)と交る。よりにてその画く所に題して思を寄せ、聞中に托して致せらる。賦してこれに酬ゆ。	土佐仲子和嘗一通書未得相見属在江戸与聞中交因題其所画寄思託聞中見致賦酬之	中山高陽
37		麗王(細合斗南)手画の扇、以て聞中(聞中浄復)に送る。卒にその上に題す。	麗王手画扇以送聞中卒題其上	細合斗南
38		池生(池大雅)の「富士の図」。池生、しばしば富士に遊びて四面を攬勝す。これその甲の河口よりかつて観る所と云う。	池生富士図池生数遊富士攬勝四面此其甲之河口所嘗觀云	池大雅
39		藤生(伊藤若冲)の画帖に題す。三十六首	題藤生画帖三十六首	伊藤若冲
40	五	池生(池大雅)の「富士山の図」に題す。池生、しばしば富士に遊び、その勝概を極む。これすなわち甲の河口よりかつて見る所と云う。	題池生富士山図池生数遊富士極其勝概此乃甲之河口所嘗見云	池大雅
41		聞中(聞中浄復)、まさに東せんとして池生(池大雅)に過る。生、富士を画きて贈となす。ためにその上に題す。	聞中将東過池生画富士為贈為題其上	池大雅
42	七	兼葭雅集の図の序。	兼葭雅集図序	(木村兼葭堂)
43	八	藤景和(伊藤若冲)の画の記。	藤景和画記	伊藤若冲
44		長楽寺の降誕、涅槃二像の記。	長楽寺降誕涅槃二像記	(明兆)
45	九	若冲居士(伊藤若冲)の寿蔵の碣銘。	若冲居士寿蔵碣銘	伊藤若冲
46	十	藤景和(伊藤若冲)の花木の石冊に跋す。	跋藤景和花木石冊	伊藤若冲

『北禅遺草』文化四年(1807)刊(富士川英郎・松下忠・佐野正巳編『詩集日本漢詩』第6巻[汲古書院 1986年]所収)				
47	巻一	松前大夫・蛸崎世祐[名広年](蛸崎波響)、来りて京師に在り。予に謁して始めて遇う。世祐画を善くす。頃、蝦夷の酋長十二人を図す。丹青妙麗、毫末纖巧、展観して目を驚す。一律を賦して贈となす。[近ごろ夷賊、松前を寇す。この十二人皆我に忠にして勲を策する者と云う。]	松前大夫蛸崎世祐[名広年]来在京師謁予始遇世祐善画頃蝦夷酋長十二人丹青妙麗毫末纖巧展観驚目賦一律為贈[近夷賊寇松前之十二人皆忠于我策勲者云]	蛸崎波響
48		「雲浜秋露の図」に題す。[雲浜は若の国都なり。酒井氏これに襲封すること、すでに百有余歳を歴、実に一方の雄藩たり。吾山の維明上人、若の人なり。かつて高に登りて臨眺し、その勝状を図す。既にして太原生(大原呑響)を倩いて丹青一巻を作らしむ。余、展玩之余、題するにこの詩を以てす。聞くならず、当今の国政休明にして民物輯寧なりと。しかして吾山の支派、その治下に居る者、多となす。よりにて思これに及ぶと云う。]	題雲浜秋露図[雲浜者若之国都也酒井氏襲封于此既歷百有余歳突為一方雄藩焉吾山維明上人若人也嘗登高臨眺図其勝状既倩太原生作丹青一巻余展玩之余題以此詩聞当今国政休明民物輯寧而吾山支派居其治下者為多因思及之云]	維明 大原呑響
49		秋杪、維明と蒼龍和尚を訪ひ、龍吟の曲室に宿す。すなわち文応上皇かつて大明国師のために親ら湯薬を飲する処の事、旧記に詳らかなり。夜、坐して俱に古昔を話し、懐を述べて奉呈す。[俗に伝えて御薬問と名づく。]	秋杪与維明訪蒼龍和尚宿龍吟之曲室乃文応上皇嘗為大明国師親執湯薬処事詳旧記夜坐俱語古昔述懷奉呈[俗伝名御薬問]	維明
50		春生、茶宴を以て招かる。維明、新州と同会す。実に冬至前三日なり。席上にて賦して贈る。	春生以茶宴見招与維明新州同会矣冬至前三日也席上賦贈	維明
51		慈雲の観音殿、新たに成る。月仙上人に龍を画きて、これを仰板に張らんことを乞う。これを賦して謝を申す。	慈雲観音殿新成乞月仙上人画龍張之仰板賦此申謝	月仙
52		大原雲卿(大原呑響)、近ごろ河東に寓居し、号づくるに墨斎を以てす。よりにてこれに贈る。	大原雲卿近寓居河東号以墨斎因贈之	大原呑響
53	二	谷文晁の画山水大幅に題す。	題谷文晁画山水大幅	谷文晁
54		谷文晁の白河に在るに寄す。	寄谷文晁在白河	谷文晁
55		筆を走らせ、慈仙上人の画梅を贈らるるに謝す。	走筆謝慈仙上人画梅見贈	慈仙
56		画虎[朝鮮人の筆]	画虎[朝鮮人筆]	(文郁)
57		世継氏(世継希仙)の白河山荘に遊ぶ。時に余、東府の召ありてまさに発たんとす。	遊世継氏白河山荘時余有東府之召将発	世継希仙
58	三	不忍池の荷花盛んに開く。余を邀て池亭に饒宴す。席上にて諸子と留別す。…[右履仁(天沼恒庵)]…[右洪脚(小島洪脚)]…[右伯寧(千賀伯寧)] [医を業とす]…[右仲用(谷辺仲用)]…[右太復(横田如圭)] [画を業とす]…[右稚節(小島梅外)] [雅節、竹を愛し、軒を造りて宜雨と名づけんと欲す。余に請いてこれが説を作らしむ。しかるにそれいまだ成らず。よりにてその意を申す。]	不忍池荷花盛開邀余池亭饒宴席上留別諸子…[右履仁]…[右洪脚]…[右伯寧[業医]]…[右仲用]…[右太復[業画]]…[右稚節[雅節愛竹欲造軒名宜雨請余作之説而且未成因申其意]]	横田如圭
59		席上にて洪脚(小島洪脚)の扇に紹真(欽形意斎)、松を画き、太復(横田如圭)、鶴を図す。戯れに一絶を題す。	席上洪脚扇紹真画松太復画鶴戲題一絶	欽形意斎 横田如圭
60		鳴海小山園の雑題。[余、別に記あり。]	鳴海小山園雜題[余別有記]	(下郷学海)
61	四	太原生(大原呑響)に贈る序。	贈太原生序	大原呑響 (維明)
62		月仙上人の画帖の序。	月仙上人画帖序	月仙
63		近江八景の序。(寛政8年8月)	近江八景序	(月仙)
64	五	石山に遊ぶ記。(天明8年)	遊石山記	(世継希仙) (中谷)
65		慈雲山龍興寺の「五百羅漢図」の記。(寛政3年)	慈雲山龍興寺五百羅漢図記	(加藤信清)
66		鳴海小山園の記。(寛政11年5月)	鳴海小山園記	(下郷学海)
67	六	惟善堂の説。	惟善堂説	(横田如圭)
68		山興居士(桜井雪館)の墓碑の銘。	山興居士墓碑銘	桜井雪館
69	七	趙子昂(趙孟頫)の准雲帖の跋。	趙子昂准雲帖跋	(維明)
70		月仙の「仙境図」の跋。(寛政10年4月)	月仙仙境図跋	月仙
71		「百翁の図」に跋す。(寛政8年9月)	跋百翁図	(月仙)
72		大原生(大原呑響)に与うる別紙。	与大原生別紙	大原呑響

僧g・極誉恵頓【1725~85】

(摂津五箇荘の人。浄土宗の僧で法名は証蓮極譽。江戸の増上寺で修行するかたわら、儒学を大内熊耳に学んだ。)

『泉谷瓦礫集』天明三年(1783)序(早稲田大学図書館本)				
1	巻上	鷺山上人に与う。	与鷺山上人	鷺山
2	中	忍海上人の伝。(安永7年)	忍海上人伝	忍海 (牧谿 「蘆雁双図」) 忍海「模雪舟渡唐宮嶽図」)
3		著山上人に与う。	与著山上人	
4	下	大経曼荼羅の開壇の記。自ら叙す。代作(東武牛門光照寺沙門随天)(明和3年)	大経曼荼羅開壇記自叙 代作	(高田敬輔) (高田三敬)

僧h・慈周【六如、1734~1801】

(近江八幡の人。天台宗の僧。江戸、川越に住し、のち京都へ移って長く嵯峨に住した。)

『六如庵詩鈔初編』天明三年(1783)刊(富士川英郎・松下忠・佐野正巳編『詩集日本漢詩』第8巻[汲古書院 1985年]所収)				
1	巻一	百如兄画ける「遊仙の図」を観る。	觀百如兄画遊仙図	百如
2	二	平安の世継氏(世継希仙)の園亭にて蕉中禅師に邂逅す。同に微韻を賦し得たり。	平安世継氏園亭邂逅蕉中禅師同賦得微韻	世継希仙
3	三	池大雅丈人の遺像に題す[引あり]。丈人、書画を以て名を海内に著す。余、向きに空遊きを以てしばしば相往來し、ほぼその人を知れり。けだし葆真稱俗し、小伎に隠るる者なり。頃、人ありてその遺像を齎し、一辞を題されんことを求む。余、私かに高風を飲ひ、蕪陋を揣らず。すなわちために長句を賦す。字々実録にして、敢えて文飾せず。丈人、知ることあらば、まさに掌を無何有の郷に撫すべし。	題池大雅丈人遺像[有引] 丈人以書画著名海内余向以空遊屢相往來略知其人蓋葆真稱俗隱于小伎者也頃有人齎其遺像來題一辞余私欽高風不揣蕪陋為賦長句字字実録不敢文飾丈人有知庶撫掌於無何有之郷矣	池大雅

4	四	春日、松林山人過らる。事に即きて賦して贈る。	春日松林山人見過即事賦贈	松林山人
5		東山の花開き、友人、宴を命いて客と會す。余、尚詮上人、井純卿(井上金峨)、源文龍(沢田東江)、松林山人、木八郎と共に往く。席上にて戯れに賦す。	東山花開友人命宴會客余尚詮上人井純卿源文龍松林山人木八郎共往席上戲賦	松林山人
6		春日、淡軒の集にて、明浄、璫弟、尚詮上人、井純卿(井上金峨)、源文龍(沢田東江)、源長卿(佐々木琴台)、松林山人諸子と共に賦す。二首	春日淡軒集与明浄璫弟尚詮上人井純卿源文龍源長卿松林山人諸子同賦二首	松林山人
7		余、まさに西上せんとし、井純卿(井上金峨)、舟を具して餞飲せらる。すなわち二律を賦して用て感謝を申し、兼て以て留別す。情を辞に見わす。[この日、会せる者、尚詮上人、源長卿(佐々木琴台)、松林山人、木八郎、余と主人を併せて凡そ六人なり。源文龍(沢田東江)、事に坐して至らず。時に壬寅(天明2年)八月十九日なり。]	余將西上井純卿具舟餞飲輒賦二律用申感謝兼以留別情見于辞是日會者尚詮上人源長卿松林山人木八郎併余与主人凡六人源文龍坐事不至時壬寅八月十九日也	松林山人
8		窮冬の十九夜、弊居の小集。余、西上の後、甫めてこの一閑を得、賦して諸友に示す。[この日、会せる者、永俊平(永田親鸞)、伊藤士善(伊藤君嶺)、清君績(清田龍川)、岩孟厚(岩垣龍溪)、田伯魏(太田玩鶴)、端文仲(端春莊)、佐貞吉(佐竹噲々)、凡そ七人なり。]	窮冬十九夜弊居小集余西上後甫得此一閑賦示諸友[此日會者永俊平伊藤士善清君績岩孟厚田伯魏端文仲佐貞吉凡七人]	佐竹噲々
9		春日、尚詮上人に寄せ、兼ねて木八郎、松林山人を懐う。	春日寄尚詮上人兼懷木八郎松林山人	松林山人
10	五	池大雅の画蘭。	池大雅画蘭	池大雅
11		池大雅の「溪橋掃樵の図」。	池大雅溪橋掃樵図	池大雅
12		建孟喬(建部凌岱)の山水小幀に題す。[書林頑仙の需めに応ず。]	題建孟喬山水小幀[応書林頑仙需]	建部凌岱
13		東福寺に楓を觀、噲々山人(佐竹噲々)、酒を売るに遇う。戯れに贈る。	東福寺觀楓遇噲々山人売酒戲贈	佐竹噲々
14		井純卿(井上金峨)の画幅二幀。[浪速の野雜遠のために題す。]	井純卿画幅二幀[為浪速野雜遠題]	井上金峨
15	六	松林山人の牡丹蛺蝶。	松林山人牡丹蛺蝶	松林山人
【六如庵詩鈔二編】寛政九年(1797)刊(同上)				
16	卷一	円応拳(円山応挙)の海棠黄鳥。	円応拳海棠黄鳥	円山応挙
17		玉澗上人、方竹杖を恵さる。	玉澗上人恵方竹杖	玉澗
18		費漢源の画山水。	費漢源画山水	費漢源
19		玉澗上人の溪石疎竹。	玉澗上人溪石疎竹	玉澗
20		維明禪師の「雪梅の図」。	維明禪師雪梅図	維明
21		三熊思孝(三熊花顔)、貌を戯れ、容を陋しくし、披篋の像を作る。題を索む。[柏原に在りて作る。]	三熊思孝戲貌陋容作披篋像索題[在柏原作]	三熊花顔
22	二	王元章(王冕)の「梅花屋の図」。	王元章梅花屋図	王冕
23		柏原にて維明禪師の墨梅に題す。	柏原題維明禪師墨梅	維明
24		郊行の口占。[寛政元年己酉三月、余寒なお甚し。八日、円応拳(円山応挙)と伏水の梅花を尋ぬ。途中、雨に値い、果さずして還る。福祠茶店に憩い、口に信せて景に即きて賦す。応挙、行視を以て詩意を扇面に写す。一時の雅興、忘るべからず。故にこれを録す。]	郊行口占[寛政元年己酉三月余寒猶甚八日与円応拳尋伏水梅花途中值雨弗果而還憩福祠茶店信口賦即景應挙以行視写詩意扇面一時雅興不可忘故録此]	円山応挙
25		三熊思孝(三熊花顔)画ける「桜花の図」。	三熊思孝画桜花図	三熊花顔
26		白雲山寺に維明禪師を邀う。師、画を善くす。	白雲山寺邀維明禪師善画	維明
27		愛宕山房に維明禪師、永観鶯(永田親鸞)訪われ、喜びて賦す。観鶯贈りし約に次ぐ。	愛宕山房維明禪師永観鶯訪喜賦次観鶯贈約	維明
28		円応拳(円山応挙)の「水底暁月の図」。	円応拳水底暁月図	円山応挙
29		月湖道人(大友月湖)の画石。	月湖道人画石	大友月湖
30		維明禪師の墨梅。三首	維明禪師墨梅三首	維明
31		円応拳(円山応挙)の「狗子の図」。	円応拳狗子図	円山応挙
32		原雲卿(大原呑響)の画牡丹。	原雲卿画牡丹	大原呑響
33		題画。二首[書林頑仙子の需めに応ず。] … [池大雅の墨梅] … [山水]	題画二首[応書林頑仙子需] … [池大雅墨梅] … [山水]	池大雅
34	三	蕉中禪師(梅莊頭常)、月仙師の墨梅を得、五山諸老に各々一詩を題されんことを乞う。今、余もまたその尾に附す。	蕉中禪師得月仙師墨梅乞五山諸老各題一詩今余亦附其尾	月仙
35		僧若仲の画に題す。二首 鷄 梅鶴	題僧若仲画二首 鷄 梅鶴	伊藤若冲か
36		維明禪師の墨梅に題す。二首	題維明禪師墨梅二首	維明
37		円応拳(円山応挙)の海棠黄鳥。[俗に朝鮮鷓者と称す。]	円応拳海棠黄鳥[俗称朝鮮鷓者]	円山応挙
38		波響楼に寄題す。[松前の人・源広年、字は世祐、別に波響と号す。今の藩主の親弟なり。出でて大夫の家を嗣ぎ、蠣崎氏を冒姓す。年、甫めて強仕、風流温雅にして書を読み、詩をよくし、最も絵事に長ず。当世、画を以て家に名ある者といえども、よく及ぶことなし。居する所に楼ありて前は大洋に臨む。名づくるに波響を以てす。よりにてまた自号とす。辛亥(寛政3年)の夏、京師に上り、僑寓すること数月。予しばしば欲接を得、遂に忘年の交を結ぶ。すなわち囑するに波響楼の詩を以てし、余もまた乞いてその筆蹟を獲たり。]	寄題波響楼[松前人源広年字世祐別号波響今藩主親弟出嗣大夫家冒姓蠣崎氏年甫強仕風流温雅讀書能詩最長于絵事雖当世以画名家者莫能及也所居有楼前臨大洋名以波響因亦自号焉辛亥夏上京師僑寓数月予屢得欲接遂結忘年之交乃囑以波響楼詩余亦乞獲其筆蹟]	蛸崎波響
39		原雲卿(大原呑響)の画に題す。	題原雲卿画	大原呑響
40		維明禪師の墨梅に題す。五首	題維明禪師墨梅五首	維明
41		別後、松前の源君世祐(蛸崎波響)を懐う。	別後懷松前源君世	蛸崎波響
42		冬抄、維明禪師、永観鶯(永田親鸞)、伴嵩蹊、三宅嘯山の数子と浦子承(三浦乾齋)の宅に集し、洗散の会となす。	冬抄与維明禪師永観鶯伴嵩蹊三宅嘯山数子集浦子承宅為洗散会	維明
43		蘆山の笑翁(大鵬)の墨竹に題す。	題蘆山笑翁墨竹	大鵬正観
44		玉澗上人画ける挿瓶菊花に題す。	題玉澗上人画挿瓶菊花	玉澗
45	四	原在中画ける「班婕妤の図」。[丹後の木子賤の蔵する所なり。]	原在中画班婕妤図[丹後木子賤所蔵]	原在中
46		維明禪師の「朝暎梅花の図」。	維明禪師朝暎梅花図	維明
47		池大雅の水亭夏景。	池大雅水亭夏景	池大雅
48		原在中の「月夜放舟の図」。	原在中月夜放舟図	原在中
49		三熊思孝、写生せる重瓣桜花。	三熊思孝写生重瓣桜花	三熊花顔

50	四	柴順卿、蔵する所の斎藤一興画ける「秋江漁艇の図」に題す。	題柴順卿所蔵斎藤一興画秋江漁艇図	斎藤一興
51		玉湊上人の朱竹双幅。	玉湊上人朱竹双幅	玉湊
52		備前の藤山伯謙、蔵する所の円応挙(円山応挙)の画虎図に題す。	題備前藤山伯謙所蔵円応挙画虎図	円山応挙
53		維明禪師、崎陽より寄懐せらるるに酬ゆ。韻を次ぐ。三首[壬子の歳(寛政4年)七月、師、海西の諸名勝を歴尋し、ついに長崎に到る。留寓すること数月、明年癸丑五月、まさに京に還らんとす。歴る所の諸州の人、画梅を索め、詩を索め、長崎に在りては華客と詩若干篇を唱和するを聞く。帰後、諸州贈答の詩文を以てこれを屏風に貼り、以て雅詠となす。]	酬維明禪師從崎陽見寄懐次韻三首[壬子歲七月師歷尋海西諸名勝遂到長崎留寓數月明年癸丑五月方還于京聞所歷諸州人索画梅索詩在長崎与華客唱和詩若干篇歸後以諸州贈答詩文貼之屏風以為雅詠焉]	維明
54		嵐峡の行。[寛政癸丑(寛政5年)四月廿六日、原雲卿(大原呑響)、古川翁(古川古松軒)と宕山より保津村に抵り、足助重義の家に宿す。翌早、舟を發して峡を下り、嵯峨に還る。重義もまた童僕及び舟人を従併すること、総て十四人。余は詩を賦し、以て記に代ゆ。篇内すこぶる瑣細に渉るは、いまだ遊ばざる者をしてその概を領せしめんことを欲するなり。重義、余の網紀の僕、すこぶる書を読むを喜ぶと云う。]	嵐峡行[寛政癸丑四月廿六日与原雲卿古川翁從宕山抵保津村宿足助重義家翌早發舟下峡還于嵯峨重義亦從童僕及舟人總十四人余賦詩以代記篇内瑣細欲使未遊者領其概也重義余網紀之僕頗喜誦書云]	大原呑響
55		夏日の山居、原雲卿(大原呑響)に東す。	夏日山居東原雲卿	大原呑響
56		玉湊上人の雪竹。	玉湊上人雪竹	玉湊
57	五	三熊思孝(三熊花顔)の画桜花。[俗に若木桜と称する者なり。]	三熊思孝画桜花[俗称若木桜者]	三熊花顔
58		紀梅亭の六十を賀す。[名は時敏、京師の画家なり。今は湖南に寓す。]	賀紀梅亭六十[名時敏京師画家今寓于湖南]	紀梅亭
59		東山の席上にて円応挙(円山応挙)の画に題す。	東山席上題円応挙画	円山応挙
60		東都の親友、書して松林山人の卒を報ずるを得。	得東都親友書報松林山人卒	松林山人
61		庭瀬大夫・森岡白圭蔵する所の呉月谿(呉春)の画双幅に題す。	題庭瀬大夫森岡白圭所蔵吳月谿画双幅	呉春
62		池大雅の浅絳山水。	池大雅浅絳山水	池大雅
63		円応挙(円山応挙)画ける「獼猴、南鳩子を採る図」。	円応挙画獼猴採南鳩子図	円山応挙
64		原雲卿(大原呑響)の「壳花翁の図」。	原雲卿壳花翁図	大原呑響
65		甲寅(寛政6年)の秋、京師にて重ねて松前の源君世祐(蛸崎波響)に逢う。喜びて賦す。	甲寅秋京師重逢松前源君世祐喜賦	蛸崎波響
66		甲寅(寛政6年)の中秋、松前の源君世祐(蛸崎波響)、備後の菅礼卿[別に太冲と号す](菅茶山)、伴高蹊、原雲卿(大原呑響)、橋忠風(橋南谿)と伏水の豊後橋東駅の楼に会し、舟を泛べて巨椋湖に遊ぶ。各々賦す。	甲寅中秋与松前源君世祐備後菅礼卿[别号太冲]伴高蹊原雲卿橋忠風会伏水豊後橋東駅楼泛舟遊巨椋湖各賦	蛸崎波響 大原呑響
67		画に題す。三首 妙法王の教に应ず。富山冬景。[大王、自ら山を作り、応挙(円山応挙)、月溪(呉春)の二生をして小かに林檎を粧点せしむ。] 罌粟花[月溪(呉春)画] 寿老人手桃の図[月仙画]	題画三首应妙法王教 富山冬景[大王自作山令应举月溪二生小粧点林檎] 罌粟花[月溪画] 寿老人手桃图[月仙画]	円山応挙 呉春 月仙
68		三熊思孝(三熊花顔)を哭す。[生、画を以て家に名あり。最も桜花において伝神の妙を得。]	哭三熊思孝[生以画名家最於桜花得传神之妙]	三熊花顔
69		三熊生(三熊花顔)、末苦に臨みて親友に嘱し、茶毘取骨してこれを大堰川に投ぜしむ。その意測ることなし。これを聞いて惘然として作あり。	三熊生臨末苦嘱親友茶毘取骨投之大堰川莫測其意聞之惘然有作	三熊花顔
70	六	維明禪師の「阿蘇山に登る」の韻に追和す。	追和維明禪師登阿蘇山韻	維明
71		原雲卿(大原呑響)画ける「桃源の図」に題す。	題原雲卿画桃源図	大原呑響
72		「王右軍蘭亭の図」に題す。[円応挙(円山応挙)の画、霊曹上人の蔵する所なり。]	題王右軍蘭亭図[円応挙画霊曹上人所蔵]	円山応挙
73		僧鶴亭の画鳳仙花。[書林頑仙子のために題す。]	僧鶴亭画鳳仙花[為書林頑仙子題]	鶴亭
74		「翁媪樵山浣溪の図」[村上東洲の画、台山恭副上人の蔵する所なり。]	翁媪樵山浣溪图[村上東洲画台山恭副上人所蔵]	村上東洲
75		松前の源君世祐(蛸崎波響)の書斎に寄題す。	寄題松前源君世祐書斎	蛸崎波響
76		原雲卿(大原呑響)、松前侯の聘に応じてしばらくその国に赴くを送る。	送原雲卿应松前侯聘暫赴其国	大原呑響
77		白伝の「晚掃香山寺」の詩、備前の斎藤一興に嘱してその図を作らしむ。既に成り、その上に題して白詩の韻に次ぐ。	白伝晚掃香山寺詩嘱備前斎藤一興作其图既成題其上白詩韻	斎藤一興
78		維明禪師の墨梅の歌。	維明禪師墨梅歌	維明
79		備前の斎藤一興の画山水に題す。	題備前斎藤一興画山水	斎藤一興
『六如庵詩鈔遺編』文政六年(1823)刊(同上)				
80	上	妙法大王の教に応じて画に題す。三首 … [月溪(呉春)の扇面、早春郊外] … [月仙の春山憩樵] … [月溪(呉春)の江上梅林]	应妙法大王教題画三首 … [月溪扇面早春郊外] … [月仙春山憩樵] … [月溪江上梅林]	呉春 月仙
81		宕山の冬夜、賦して維明禪師に呈す。[時に師、山房に留寓す。]	宕山冬夜賦呈維明禪師[時師留寓山房]	維明
82		方西園画ける「讃州の小富士の図」に題す。	題方西園画讃州小富士図	方西園
83		原雲卿(大原呑響)の「山間樵村の図」。	原雲卿山間樵村図	大原呑響
84		維明長老の月梅。	維明長老月梅	維明
85		僧月仙画ける「山民驅犢の図」。[大愚上人の需めに应ず。]	僧月仙画山民驅犢图[应大愚上人需]	月仙
86		維明和尚の墨梅に題す。[集句]	題維明和尚墨梅[集句]	維明
87		維明、玉湊両上人の合作梅竹。	維明玉湊両上人合作梅竹	維明 玉湊
88		「稚子撲蝶の図」[柳里恭(柳沢淇園)の画。]	稚子撲蝶图[柳里恭画]	柳沢淇園
89		月仙僧の画に題す。	題月仙僧画	月仙
90		瓊浦の岩江雲(岩井江雲)画ける「赤鯉の図」に題す。	題瓊浦岩江雲画赤鯉图	岩井江雲
91		二月十日、下山し、維明禪師、畑橋洲と嵯峨に会して共に梅花を見る。	二月十日下午山会維明禪師畑橋洲于嵯峨同見梅花	維明
92		方西園の「松枝啼鳥の図」。	方西園松枝啼鳥图	方西園
93		維明禪師の「雪後朝暎梅花」。	維明禪師雪後朝暎梅花	維明
94		杉の図に題す。[狩野探山(鶴沢探山)の画。]	題杉图[狩野探山画]	鶴沢探山

95	上	蒔田暢斎に贈る。	贈蒔田暢斎	蒔田暢斎
96		源応挙(円山応挙)画ける「淵明撫松の図」に題す。	題源応挙画淵明撫松図	円山応挙
97		永原痴翁高上の寄せらるるに答う。[寛政戊午(寛政10年)の夏]	答永原痴翁高上見寄[寛政戊午之夏]	(維明)
98		玉溝上人の竹。	玉溝上人竹	玉溝
99		東都の武子慎、墨水の陽に家す。子慎、絵事をよくし、その居より眺むる所の形勝風物に即きて、以て寄題の詩を求む。余、嚮に浅草寺に寓すること数年、図中の神祠、仏宇、農莊、鶴渚は皆、親しく遊歴する所なり。巻に對し、撫然として往事において感なきことあたわず。今を距つこと十七八年、聞くならく、近載、埭堰増築すること数尺、三圍祠の華表、水を隔ててこれを望まば、僅かにその頂を見るのみ。その隄上、多く桜花を植うと。この二事は、余、いまだ往見せず。他はなお眼中に依稀す。すなわち四韵を綴りて遥かに心賞を寄す。よりにまた竊かに鄙感を寓すと云う。	東都武子慎家于墨水之陽子慎能絵事即因其居所眺形勝風物以索寄題詩余寓浅草寺数年圖中神祠仏宇農莊鶴渚皆所親遊歴對卷撫然不能無感於往事矣距今十七八年聞近載埭堰増築數尺三圍祠華表隔水望之僅見其頂隄上多植桜花此二事余未往見他猶依稀乎眼中乃綴四韵遥寄心賞因亦竊寓鄙感云	武子慎
100		玉溝師の竹石。	玉溝師竹石	玉溝
101		維明禪師、朝鮮菊を惠さる。賦して以て奉謝す。	維明禪師惠朝鮮菊賦以奉謝	維明
102	中	画に題す。二首[妙法王の教に必ず。其一是呉春の筆、其の二は月仙の筆なり。]	題画二首[応妙法王教其一呉春筆其二月仙筆]	呉春 月仙
103		源栲亭(村瀬栲亭)の画竹に題す。戯れにその體に倣う。	題源栲亭画竹戲倣其體	村瀬栲亭
104		源応挙(円山応挙)の「水莊秋多の図」に題す。[靈曹上人の需。]	題源応挙水莊秋多図[靈曹上人需]	円山応挙
105		牧童の詞。[備前の空山老侯(池田継政)の画に題す。]	牧童詞[題備前空山老侯画]	池田継政
106		霞樵(池大雅)の画に題す。[松平縫殿頭侯の需に必ず。]	題霞樵画[松平縫殿頭侯需]	池大雅
107		三月廿三日、畑橋洲、村上東洲と平野に花を看る。	三月廿三日与畑橋洲村上東洲平野看花	村上東洲
108		「芭蕉獼猴の図」[市橋侯の需に必ず。浪速の祖仙(森狙仙)の画。]	芭蕉獼猴圖[応市橋侯需浪速祖仙画]	森狙仙
109		青々光琳(尾形光琳)の「雪松の図」[勢州の寒松院主の請。]	青々光琳雪松圖[勢州寒松院主請]	尾形光琳
110		峨山の別荘に畑橋洲、村上東洲(村上東洲)を携えて至る。遊山亭に引く。[己未(寛政11年)九月十七日。]	峨山別荘畑橋洲携村東洲至引遊山亭[己未九月十七日]	村上東洲
111		維明禪師の梅花。[冷泉三位某公の需に必ず。]	維明禪師梅花[冷泉三位某公需]	維明
112		白雲山寺、辱くも源君世祐(蛸崎波響)の訪わるるを蒙る。卒然として喜を志す。[寛政十一年己未季冬廿日、訊ねられ、三宿して還る。]	白雲山寺辱蒙源君世祐訪見訪卒然志喜[寛政十一年己未季冬廿日見訊三宿而還]	蛸崎波響
113		春夜、源君波響(蛸崎波響)の晝水橋舎に宿す。早起して戸を開かば、雪深数寸なり。	春夜宿源君波響晝水橋舎早起開戸雪深数寸	蛸崎波響
114		郊行の尋梅。[正月廿五日、松前の源世祐(蛸崎波響)、大愚上人、蘭洲(春日亀蘭洲)、村上東洲諸君と北野社に詣で、次いで平野を經。]	郊行尋梅[正月廿五日与松前源世祐大愚上人蘭洲村上東洲諸君詣北野社次經平野]	蛸崎波響 村上東洲
115		正月十七日、源世祐(蛸崎波響)と春を城外に尋ぬ。薄暮、その橋舎に宿す。即事を書す。二首	正月十七日与源世祐尋春城外薄暮宿其橋舎書即事二首	蛸崎波響
116		春雨、源君世祐(蛸崎波響)の僑寓に簡す。[正月廿九日]	春雨簡源君世祐僑寓[正月廿九日]	蛸崎波響
117		嵯峨の尋梅。[寛政十二年庚申二月五日、源波響(蛸崎波響)、村上東洲(村上東洲)と俱に行く。八日雨を冒して還る。]	嵯峨尋梅[寛政十二年庚申二月五日与源波響村上東洲俱行八日冒雨而還]	蛸崎波響 村上東洲
118		源波響(蛸崎波響)の韵に和す。三首	和源波響韵三首	蛸崎波響
119		春雨、波響子(蛸崎波響)の絃唱を聞く。戯れに作る。	春雨聽波響子絃唱戲作	蛸崎波響
120		東山の遊春。人に代りて賦す。[二月十一日、源世祐(蛸崎波響)と遊ぶ。]	東山遊春代人賦[二月十一日与源世祐遊]	蛸崎波響
121		旭庵上人(玉翁)の風竹に題す。	題旭庵上人風竹	玉翁
122		三月五日、源波響君(蛸崎波響)、余及び畑世吉(畑柳奈)諸子を邀え、三品弄頼尾樓に宴す。席上にて即暈を賦す。[この日、会せる者は、畑世吉、木思齋(木村思齋)、村上東洲(村上東洲)、山口、紀竹堂、余及び主人を併せて凡そ七人なり。詩は遊治に渉りて一時の戯に出づ。留録すべからず。ただ後日これを追思するためにし、また棄擲するに忍びず。しばらくこれ、これを録するのみ。終にまさに删除すべし。]	三月五日源波響君邀余及畑世吉諸子宴三品弄頼尾樓席上賦即暈[是日会者畑世吉木思齋村上東洲山口紀竹堂伴余及主人凡七人詩涉于遊治出于一時之戲不可留録但為後日追思之亦不忍棄擲且此録之耳終當删除]	蛸崎波響 村上東洲 紀竹堂
123		呉月溪(呉春)の「寒山梅花鳥島」。[妙法王の命に必ず。]	呉月溪寒山梅花鳥島[妙法王命]	呉春
124		「馬の図」[波響君(蛸崎波響)の求めに必ず。]	馬圖[波響君求]	蛸崎波響
125		村上東洲(村上東洲)の「春溪釣魚の図」。	村上東洲春溪釣魚圖	村上東洲
126		源世祐(蛸崎波響)、しばらく浪速に之くを送る。よりに木世肅(木村兼葎堂)に寄す。[四月七日]	送源世祐之浪速因寄木世肅[四月七日]	蛸崎波響 木村兼葎堂
127		霞樵居士(池大雅)の二十五周の忌辰。旧社義故、双林寺に会して祭となす。余もまた遊えらる。これを賦していざさか追慕の意を寄す。庚申(寛政12年)四月十三日なり。	霞樵居士二十五周忌辰旧社義故会双林寺為祭余亦見遊賦此聊寄追慕之意庚申四月十三日也	池大雅
128		僧白雲の像に題す。[白雲、奥州白河の人なり。画をよくす。藩主少将公(松平定信)、命じて諸州に往かしめ、所在名勝の真景を写す。]	題僧白雲像[白雲奥州白河人能画藩主少将公命往于諸州写所在名勝真景]	白雲
129		別後、源君世祐(蛸崎波響)を懐う。[君、庚申(寛政12年)五月六日を以て京を發つ。]	別後懷源君世祐[君以庚申五月六日發京]	蛸崎波響
130		世祐(蛸崎波響)の浜松駅の書を得。[十一日、遠州浜松駅に到り、その夜、書を發して廿一日京師に達す。東海路の十二程、浜松はまさにその中に当たる。]	得世祐浜松駅書[十一日到遠州浜松駅其夜發書廿一日達京師東海路十二程浜松正当其中]	蛸崎波響
131		「飲中八仙の図」[月仙の画。]	飲中八仙圖[月仙画]	月仙
132		「崎陽唐人館宴会の図」に題す。[江戸の人・佐藤坦、字は大道、一斎と号す。今ここに庚申(寛政12年)、崎陽に遊びて飯り、次いで京を過りて余を訪う。[唐館にて呉興の錢子文に会する図]を携へ、以て余に題を索む。図はすなわち小栗光胤(小栗十洲)の筆にして、上に劉雲台、錢子文の詩あり。並に即席にて作る所なり。樓の名は清遠と曰い、周匝、柳を植うると云う。余、一たび展覽してすなわちために小詩を題す。時に八月八日なり。]	題崎陽唐人館宴会圖[江戸人佐藤坦字大道一斎今茲庚申遊于崎陽飯次過京訪余携唐館會于吳興錢子文圖以索余題圖則小栗光胤筆上有劉雲台錢子文詩並即席所作樓名曰清遠周匝植柳云余一展覽即為題小詩時八月八日也]	小栗十洲
133		谷文晁の「秋山遠眺の図」に題す。	題谷文晁秋山遠眺圖	谷文晁



134	中	池無名(池大雅)の郊村返照。	池無名郊村返照	池大雅
135		呉春の画に題す。二首 妙法王の教に应ず。「澱河夜航」[榴子]	題呉春画二首应妙法王教 澱河夜航榴子	呉春
136		僧月仙の「野雪帰農の図」。	僧月仙野雪帰農図	月仙
137		呉月溪(呉春)の「蕃黍の図」。 <small>[一名玉蜀黍、一名玉高粱、和俗に南蛮黍と呼ぶ。]</small>	呉月溪蕃黍图[一名玉蜀黍一名玉高粱和俗呼南蛮黍]	呉春
138		去年庚申(寛政12年)正月十七日、源世祐(崎崎波響)、樵弄客舎に宿す。その夜微かに雪ありて、「夜来雪壓第三橋」の句あり。今年(享和元年)のこの日、また当然り。世祐、既に国に帰り、余、疾に臥す。物候異らずして悲歎大いに相似す。悵然として興懐已むあたわざるなり。	去年庚申正月十七日宿源世祐樵弄客舎其夜微雪有夜来雪壓第三橋句今年是日亦雪然世祐既帰国余臥疾物候不異而悲歎大不相似悵然興懐不能已也	崎崎波響
139		去年(寛政12年)正月廿五日、大愚上人、源波響(崎崎波響)、村東洲(村上東洲)と梅を北野に尋ぬ。余、詩を賦し、上人、歌を和し、東洲、描きて図を作り、波響、装背して軸を上す。今ここに諸友、皆恙なきといえども、離居して合併することあたわず。余ひとり懐に感あり。	去年正月廿五日与大愚上人源波響村東洲尋梅北野余賦詩上人和歌東洲描作図波響装背上軸今茲諸友雖皆無恙離居不能合併余独有感于懷	崎崎波響 村上東洲
140		松前の源君世祐(崎崎波響)、国に返るを送る。 <small>[去年(寛政12年)、君、別詩を贈られんことを懇求す。余、語していまだ果さず。胸次に来往し、すこぶる芥帯を覚ゆ。さきに病、問して事なく、当時の情状を憶いて凄然として長篇一首を作る。ただ恨むらくは、各天遠絶し、飛鴻といえども折封を速達するあたわず。一祭、何れの日なるやを知らず。悵々たり。]</small>	送松前源君世祐返国[去年君懇求贈別詩余語而未果来往胸次頗覺芥帯乃者病問無事憶當時情状凄然作長篇一首但恨各天遠絶雖飛鴻不能速達折封一祭不知何日悵々]	崎崎波響

僧・祥水海雲【1738~1827】

(越後南魚沼の人。曹洞宗の僧。江戸で服部南郭、服部白貞に学ぶ。郷里で出家在家に係わらず、多くの門弟を教導した。)

『金城余稿』寛政十二年(1800)刊(大阪府立中之島図書館本)				
1	卷一	忍海上人の房にて「廬山の図」を観る。	忍海上人房觀廬山図	忍海
2	二	春日、関子卿(関口雪翁)、村士礼、祢百朋と同じく、洞玖庵の鐘楼に登りて觀眺す。実堂老禪に呈す。	春日同関子卿村士礼祢百朋登洞玖庵鐘楼觀眺呈実堂老禪	関口雪翁
3		早春、子卿(関口雪翁)に寄懐す。	早春寄懐子卿	関口雪翁
4		子卿(関口雪翁)の西遊を送る。	送子卿西遊	関口雪翁
5		「雪鷹の図」、宮田蕃秀のためにす。 <small>[関童子の画くところなり。]</small>	雪鷹圖為宮田蕃秀[関童子所画]	関童子
6		栄川翁(狩野典信)画ける「承露盤の図」。	栄川翁画承露盤図	狩野典信
7		「雪竹の図」、富伯和(富取松風亭)の求めに应ず。これ雪翁の画く所なり。	雪竹図应富伯和之求是雪翁所画	関口雪翁
8		梅笑画史(狩野梅笑)に示す詩。(天明3年)	示梅笑画史詩	狩野梅笑
9		子卿(関口雪翁)の宅にて月仙上人画ける「桃源の図」を観る。	子卿宅觀月仙上人画桃源図	関口雪翁 月仙
10		春日、関家の太孺人の六十寿辰。賦して子卿(関口雪翁)に贈る。	春日関家太孺人六十寿辰賦贈子卿	関口雪翁
11		蘆船翁の八十の寿詞。子卿(関口雪翁)、予に懇懇して作り、賦して贈る。	蘆船翁八十寿詞子卿懇懇予作賦贈	関口雪翁
12		子卿(関口雪翁)、予に「山水の図」に題されんことを請う。構思いまだ成らず。近ごろ子卿、書以て促す。急ぎ賦して需を塞ぐ。	子卿請予題山水図構思未成近者子卿書以見促急賦塞需	関口雪翁
13		清嘯館に寄題す。	寄題清嘯館	(関口雪翁)
14	三	雪中、子卿(関口雪翁)を懐うことありて、明公(貞明上人)と同じく賦す。二首	雪中有懐子卿同明公賦二首	関口雪翁
15		子卿(関口雪翁)、初冬に寄せらるるの作に酬ゆ。	酬子卿初冬見寄之作	関口雪翁
16		嵐法眼(五十嵐俊明)画ける「莊周偃臥の図」に題す。函莽道人の求めに应ず。	題嵐法眼画莊周偃臥図函莽道人之求	五十嵐俊明
『海雲禪師摺拾集』文化十三年(1816)刊(早稲田大学図書館本)				
17	卷上	縮景園の八勝、岡君璋(岡岷山)の需めに应ず。	縮景園八勝应岡君璋之需	岡岷山
18		壬申(文化9年)の秋、芙蓉木生(鈴木芙蓉)と塩沢の楓館に再会す。手を把りて俱に圮橋以来の旧を話す。	壬申秋与芙蓉木生再会塩沢楓館把手俱話圮橋以来之旧	鈴木芙蓉
19		祖海、具寿、再び江東に遊ぶを送り、兼ねて関君子卿(関口雪翁)に寄す。五首	送祖海具寿再遊江東兼寄関君子卿五首	関口雪翁

僧・古梁紹岷【南山、1756~1839】

(武藏八王子の人。臨濟宗の僧。江戸で出家し、仙台瑞巖寺十四世、また京都妙心寺の住持を務めた。) →画人

『南山外集』天保七年(1836)刊(早稲田大学図書館本)				
1	卷一	鉄笛の歌。勾文饒(勾台嶺)、尾藩に還るを送る。	鉄笛歌送勾文饒還尾藩	勾台嶺
2	三	東都瀧川長州(瀧川南谷)の玉芝園の集にて、諸子各々寄懐の作あり。よりて各々の韻に次ぎ、却りて謝す。 … [右は刃延暉(渡辺玄対)]	東都瀧川長州玉芝園集諸子各有寄懐之作因次各韻却謝 … [右刃延暉]	渡辺玄対
3	四	東都木文熙(鈴木芙蓉)、まさに至らんとす。これを賦してこれを待す。[文熙、画を以て業となす。]	東都木文熙将至賦此待之[文熙以画為業]	鈴木芙蓉
4		自画山水の賛。	自画山水賛	自画
5	五	堪界道人、性疎卒にして、狂画を以て自ら娛しむ。近ごろすこぶる狂態を發し、ついにこれを以て示寂せり。余、計を聞きてなおその狂を疑う。すでにして真なり。哀みてこれを悼む。	堪界道人性疎卒以狂画自娛近頗發狂態遂以此示寂余聞計尚疑其狂既而真矣哀而悼之	堪界
6		水戸の立原子遠(立原杏所)に寄懐す。	寄懐水戸立原子遠	立原杏所
7		梅関(菅井梅関)の画山水に題す。	題梅関画山水	菅井梅関
8		画師東洋(東東洋)に寄す。	寄画師東洋	東東洋
9	六	勾文饒(勾台嶺)、尾藩に還るに贈る序。	贈勾文饒還尾藩序	勾台嶺 (渡辺玄対)
10	七	董太史(董其昌)の書画錦堂の記の跋。	董太史書画錦堂記跋	董其昌
11	付録	塩松紀行	塩松紀行	(菅井梅関)

## 四 画人索引

### 〔凡例〕

- ・詩文集からの抽出はできる限り行ったが、繁を避けるために、画に関係する記述のみにとどめた画人には頭に「・」を付した。中国、朝鮮の画人は画関係の記述のみに限った。なお、龍玉淵に関しては、その父・龍草廬の著作からの抽出は画に関する記述のみにとどめた。
- ・日本の画人には簡単な情報を付し、『世界美術辞典』（新潮社 1985年）に掲載される人物については〔美術〕と付した。
- ・『世界美術辞典』に未掲載の画人のうち、『国書人名辞典』（岩波書店 1999年）に掲載される人物には〔国書〕と付した。加えて、江戸時代に刊行された画人の基本情報を記載する著作や人名録のうち、『画乗要略』（白井華陽著 天保2年自序・1831）、『山中入饒舌』（田能村竹田著 文化10年自序・1813）、『竹田莊師友画録』（田能村竹田著 天保4年・1833）、『近世逸人画史』（岡田栲軒著 文政7年写・1824）、『平安人物志』（明和5年・1768、安永4年・1775、天明2年・1782、文化10年・1813）、『浪華郷友録』（安永4年・1775、寛政2年・1790）、『張城人物志』（安永7年・1778）、『古今諸家人物志』（明和6年・1769）に掲載される人物については、それぞれ〔画乗〕、〔饒舌〕、〔師友〕、〔逸人〕、〔平安・（明、安、天、化）〕、〔浪華・（安、寛）〕、〔張城「□□」部〕、〔諸家〕と付した。ただし『平安人物志』と『浪華郷友録』に関しては、「画家」部に収載される人物のみに限っている。
- ・一覧表に略歴を記載した人物（漢詩文集の著者）については、末尾に「→詩文集」と付し、作品を掲げた人物には「→図」と付した。

### 〔あ〕

- 青生(市川)東谿【1765～1838】 尾張の人、薬商・井桁屋茂兵衛、画家。〔国書〕→図10  
(おj-4, 14, 21)
- 青木夙夜【?～1802】 京都の人、韓天寿の従弟、池大雅門の画家。〔美術〕  
(はf-14, 78, まj-111)
- 青木木米【1767～1833】 京都の人、陶工。〔美術〕  
(まf-2)
- 青山猷山【江戸中期】 柳沢伊信の『宴遊日記』安永年間、下郷学海の『千代倉家日記』明和4、5年にその名がある。後者は佚山門の温山(良隠)とともに記され、同門・松隠との関連を考える必要がある。→図1  
(おj-25)
- 赤田章斎【?～1845】 飛騨高山の人、赤田臥牛の子、漢学者。  
(あa-2)
- ・秋山玉山【1702～63】 肥後の人、熊本藩漢学者。〔国書〕→漢詩文  
(かh-4, まk-14)
- 浅井図南【1706～82】 京都の人、尾張藩医、墨竹画。〔国書〕〔画乗〕〔張城「文苑」部〕  
(たl-9, なf-7, まg-15)
- ・朝倉頼母【景福、1741～90】 下総の人、古河藩家老。『三百藩家臣人名事典』（新人物往来社 1988年）古河藩に収載。  
(たk-11)
- 東東洋【1755～1839】 陸奥の人、狩野梅笑、呉春門の画家。〔画乗〕〔師友〕〔平安・化〕  
(さf-6, まg-51, j-93, 94, 95, 106, 僧j-8)
- ・有馬照長【1781～1851】 筑後の人、久留米藩家老、三谷映信門の画家。『三百藩家臣人名事典』久留米藩に収載。  
(かc-6)
  - ・伊形靈雨【1745～87】 肥後の人、熊本藩漢学者。〔国書〕→漢詩文  
(あf-11, たb-2)
- 五十嵐元誠【1746～84】 越後新潟の人、浚明の次子、画家。〔画乗〕  
(いf-2, えa-9, おb-18, 22, k-2, かb-10)
- 五十嵐子謹【江戸中期】 越後新潟の人、浚明の長子、28歳で歿、画家。〔画乗〕  
(あd-15)
- 五十嵐(呉)浚明【1700～81】 越後新潟の人、画家。〔美術〕  
(いf-3, h-2, うc-1, 3, 6, 僧i-16)
- 五十嵐竹沙【主膳・静所、1774～1844】 越後新潟の人、元誠の子、浚明の孫、画家。〔国書〕  
(いf-7, 8, かd-4, f-6)
- 池玉瀾【1727～84】 京都の人、池大雅の妻。〔美術〕  
(はf-67, まg-88)

- 池大雅【1723～76】 京都の人、書家、画家。〔美術〕  
 (あj-1, いg-5, i-6, えa-1, おj-3, かb-1, 2, e-1, 2, 3, 6, j-76, n-14, さb-15, 45, 46, 50, 61, c-11, d-3, なg-2, はf-8, 9, 11, 12, 13, 16, 38, 42, 43, 66, 67, 72, 75, 78, 92, 110, 126, 128, 131, まf-3, g-11, 39, 43, 53, 56, 57, 59, 60, 68, 70, 71, 88, j-20, 63, 97, 101, 104, 109, 110, 111, やb-3, d-3, らd-37, 僧b-4, e-1, 3, 11, f-23, 27, 29, 35, 38, 40, 41, h-3, 10, 11, 33, 47, 62, 106, 127, 134)
- 池井祐川【頂月堂信親、江戸後期】 江戸もしくは越後の人、信濃木曾代官・山村蘇門に招かれ、お抱えの画師となる。  
 (やe-14, 20)
- ・池田継政【1702～76】 備前岡山藩主。〔国書〕  
 (僧h-105)
- 石川枝山【1747～1818】 丹波亀山の人、円山応挙門の画家とされるが、伝存作品は墨竹などの草体画が多い。  
 (なa-6, 7, 9)
- 石川大浪【1762～1817】 江戸の人、幕府の御家人、洋風画。〔国書〕  
 (さc-8)
- 石崎融思【1768～1846】 長崎の人、唐絵日利職。〔美術〕  
 (らc-8)
- 板谷慶舟【広当、1729～97】 江戸の人、住吉広守門の画家、幕府奥画師。〔美術〕  
 (さb-31)
- 市河米庵【1779～1858】 江戸の人、市河寛斎の子、書家。〔美術〕  
 (いe-37, 39)
- 佚山【黙隠・見友寺、1702～78】 大坂の人、曹洞宗の僧。〔国書〕〔画乗〕〔平安・安〕〔浪華・安〕  
 (いh-1, 4, 5, かn-9, らd-9, 11, 12, 17, 19, 20, 27, 28, 44, 僧c-2)
- ・伊藤華岡【1709～76】 伊勢の人、書家。〔国書〕  
 (あj-2, たa-7, はh-3, まi-7)
- 伊藤若冲【1716～1800】 京都の人、画家。〔美術〕  
 (いi-13, おi-2, はd-14, f-47, 87, まg-3, 23, j-76, 僧f-22, 32, 39, 43, 45, 46, h-35)
- ・井上金峨【1732～84】 江戸の人、漢学者。〔国書〕→漢詩文  
 (かd-1, さa-4, 6, 僧h-14)
- 健明【1730～1808】 越前若狭の人、臨済宗の僧、墨梅画。〔画乗〕〔鏡舌〕〔逸人〕〔平安・天〕  
 (あc-6, かt-2, さb-28, はf-31, 90, まj-33, 88, やe-3, らd-45, 僧f-9, 11, 13, 16, 31, 48, 49, 50, 61, 69, h-20, 23, 26, 27, 30, 36, 40, 42, 46, 53, 70, 78, 81, 84, 86, 87, 91, 93, 97, 101, 111)
- 岩井(巖井)江雲【江戸中期】 長崎の人、熊斐門の画家か。  
 (僧h-90)
- 岩溪嵩台【?～1812】 播磨赤穂の人、福知山藩漢学者、池大雅門の画家。〔国書〕〔平安・天〕→図2  
 (あb-1, 3, 4, 6, c-5, 9, いg-1, 2, 4, おb-15, かe-4, さe-1, たe-1, まj-7, らd-48)
- 上田琴風【1788～1843】 周防大道の人、菅紅嶺門の女流画家、『名教画譜』に書画あり。  
 (やe-15)
- 上田耕夫【?～1832】 京都の人、画家。〔師友〕〔平安・化〕  
 (まg-44, 45, 74, 80, j-41, 46, 57, 75, 91, 102, 105, 107, 108)
- 内田陶丘【?～1808】 江戸の人、渡辺玄対の子、画家。〔国書〕  
 (かa-7, 11, f-15)
- 浦上玉堂【1745～1820】 備中鴨方の人、鴨方藩士。〔美術〕  
 (あa-1, 6, 8, いj-5, おf-11, かc-11, f-2, j-18, 28, 30, たb-6, 10, なb-5, e-2, 3, はg-16, まg-26, 27, k-3, 4)
- 浦上春琴【1779～1846】 備中鴨方の人、浦上玉堂の子、画家。〔美術〕  
 (かj-68, らc-11)
- 雲華大舎【1783～1850】 豊前の人、本願寺派(浄土真宗)の僧。〔美術〕  
 (かj-51, 60, 61, らb-2, 5, 6)
- 雲谷等仲【1720～81】 周防の人、雲国等達の子、萩藩画師。  
 (やc-1)
- 雲谷等直【繁沢南塘、1684～1762】 周防の人、雲谷等宥の子、萩藩画師、藩校明倫館講師。  
 (たc-6, やc-1)
- 雲室【1753～1827】 信濃の人、浄土真宗の僧。〔美術〕  
 (いe-2, 10, 13, かa-8, j-46, はe-3)

- 越鳥齋【江戸中期】 大坂の人、小柴守直門の画家、安永6年版『難波丸網目』に「天満砂原」の住とあり。  
(はf-34)
- 江馬細香【1787~1861】 美濃の人、画家。[国書][画乗]  
(らc-15)
- 大井州亭【江戸中期】 大坂の人、安永4年版『難華郷友録』には「聞人」部に収載。[浪華・寛]  
(たm-5、はb-2、f-25)
- ・大石良雄【内蔵助、1659~1703】 播磨の人、赤穂藩家老。[国書]  
(あb-7、c-7、11、やa-14、16)
- 大岡春ト【1680~1763】 大坂の人、狩野派の画家。[美術]  
(かi-2、はf-23、やa-15)
- 鉅鹿民部【魏皓、1728~74】 長崎の人、明楽の楽人。[国書][逸人][平安・明]  
(おh-1、らd-53)
- ・大窪詩仏【1767~1837】 常陸の人、漢学者、墨竹画。[国書][画乗]  
(かc-13)
- 大倉笠山【1785~1850】 山城笠置の人、中林竹洞門の画家。[国書][画乗][師友]  
(らc-11)
- 大島来禽【奥田・蘿井、江戸中期】 高芙蓉の妻。[画乗][逸人][平安・天]  
(はf-61)
- ・大菅中養父【1712~78】 近江彦根の人、彦根藩士。[国書]  
(なg-1)
- 太田午庵【1753~1808】 安芸の人、広島藩士。[国書]  
(はd-2、17、18、21)
- 太田春畊【江戸後期】 長崎の人、漢学者。安政4年版『文苑人名録』には「詩」で収載。  
(らc-16)
- 大地文宝【1777~1827】 加賀の人、金沢藩士、谷文晁門の画家。[国書]  
(いe-27、36)
- 大友月湖【江戸中期】 長崎の人か。画家。[平安・安、天]  
(僧h-29)
- 大西醉月【?~1771】 京都の人、望月玉蟾門の画家。[美術]  
(らd-15、31)
- 大野文泉【1774~1837】 陸奥白河の人、白河藩士、谷文晁門の画家。[国書]  
(かj-12、まj-105)
- 大原呑響【1761頃~1810】 陸中東磐井の人、漢学者。[国書][画乗][饒舌]  
(あc-10、かj-4、5、6、20、25、27、29、50、さc-4、5、まj-23、26、30、34、49、74、100、僧f-48、52、61、72、h-32、39、54、55、64、66、71、76、83)
- 岡延年【亀亭、1740~1811】 備中倉敷の人、岡雀汀の弟。文化5年、宇野蘭溪による岡山の書画会に出品。  
(おg-3、4、5、6、9、10)
- 岡岷山【1734~1806】 安芸の人、広島藩士。[画乗][逸人]  
(あd-10、16、おd-1、かj-1、さf-5、まi-1、3、5、8、僧i-17)
- 岡井赤城【?~1803】 讃岐の人、高松藩漢学者。[国書] → 図3  
(さb-3、34、38、なd-2、まd-5、7)
- 岡田南山【清白主人、1742~1810】 阿波の人、徳島藩漢学者。[国書][浪華・安] → 漢詩文・図4、5  
(かb-6、7、9、n-6、s-5、たm-6、はb-9、f-22、52、59、102、121、135、やb-1、4、らa-3、14、b-7)
- 尾形光琳【1658~1716】 京都の人、画家。[美術]  
(はf-48、まf-5、僧f-2、h-109)
- 岡野石圃【元振、江戸中期】 伊勢の人、画家。[美術]  
(はf-6、僧b-1、e-8)
- 岡部南嶽【1733~1800】 越前の人、福井藩家老。『三百藩家臣人名事典』福井藩に収載。[逸人]  
(さd-1)
- 岡本豊彦【1773~1845】 備中倉敷の人、呉春門の画家。[美術]  
(まj-80、93、95、106)

・奥平昌鹿【1744～80】 豊前中津藩主。〔国書〕  
(おb-1、たc-3、やf-1)

・奥平広問【江戸中期】 丹波の人、龟山藩家老。  
(まd-6)

小栗十洲【?～1811】 若狭小浜の人、常山の弟、漢学者。〔国書〕〔師友〕  
(さc-2,3,6、僧h-132)

小栗常山【1763～84】 若狭小浜の人、漢学者。〔国書〕  
(さe-2)

雄崎折甫【嘯風亭、江戸中期】 京都の人、扇商、池大雅門の画家。大雅堂建設連名簿(天明4年)に「雄崎新六」とある。  
(はf-77、まj-115)

織田瑟々【1779～1832】 近江の人、三熊露香門の画家、桜画。〔画乗〕〔逸人〕  
(おg-7)

〔か〕

恢応【?～1795】 近江の人、浄土宗(増上寺仏心院)の僧、桜井雪館門の画家。〔饒舌〕〔諸家〕  
(うa-4,5,6,10、かa-2,c-1,f-19、たd-6、まk-5,13)

海門【江戸中期】 雲華大舎『雲華草』巻11に「海門指墨竹」とあり、指頭画の墨竹で名を成したと推察される。→図11  
(らd-50)

可翁【南北朝時代】 建仁寺の僧か。〔美術〕  
(おi-15)

蛸崎波響【1764～1826】 蝦夷松前藩主・松前資広の子、大原吞響、円山応挙門の画家。〔美術〕  
(おc-9、かj-2,3,4,9,10,21,29,38,39,50,53,54,62,69,70、さb-25、なe-6,7、まg-72,j-17,21,28,39,54、らc-7,d-43、僧f-47,h-38,41,65,66,75,112,113,114,115,116,117,118,119,120,122,124,126,129,130,138,139,140)

鶴洲靈鷲【?～1731?】 加賀の人、黄檗宗の僧、住吉如慶の子。  
(たi-8)

鶴亭【海眼浄光、1722～85】 黄檗宗の僧、熊斐門の画家。〔美術〕  
(かn-2、はf-3,54、まj-18,98、らd-30、僧e-5,7,9,10,h-73)

勝野范古【江戸中期】 肥前長崎の人、墨竹画。〔画乗〕〔逸人〕〔諸家〕〔平安・明〕  
(なc-1、まg-2)

勝部(山本)如春斎【?～1784】 摂津西宮の人、狩野派の画家。  
(はf-18,20,137)

加藤信清【遠塵斎、1734～1810】 江戸の人、幕府御家人、狩野玉燕門の画家、文字絵。  
(おd-3、僧f-65)

狩野永納【山静、1631～97】 京都の人、京狩野・山雪の子。〔美術〕  
(まg-70)

狩野克信【洞寿、?～1777】 江戸の人、浅草猿屋町代地狩野分家・洞琳の子、幕府表画師。〔国書〕  
(はi-17)

狩野惟信【養川、1753～1808】 江戸の人、栄川典信の子、木挽町狩野家6世。〔国書〕  
(あa-4、さb-7)

狩野宗秀【桃山時代】 京都の人、松栄の子、永徳の弟。〔美術〕  
(まg-73)

狩野探信【1653～1718】 江戸の人、狩野探幽の次男、鍛冶橋狩野家2世。〔美術〕  
(まj-56)

狩野探幽【1602～74】 京都の人、孝信の長子、幕府奥画師・鍛冶橋狩野家の祖。〔美術〕  
(はa-19,i-4,5,6,13,17、やa-4)

狩野尚信【1607～50】 京都の人、孝信の次子、幕府奥画師・木挽町狩野家の祖。〔美術〕  
(いf-6、はe-7)

狩野洞雲【益信、1625～94】 彫金師・後藤益乗の子、探幽の養嗣子、幕府表画師・駿河台狩野家の祖。〔美術〕  
(たk-12)

狩野梅笑【玉元、1728～1807】 江戸の人、深川水場狩野家・梅春旭信の子、幕府表画師。  
(僧i-8)

- 狩野古信【1696～1731】 江戸の人、如川周信の子、木挽町狩野家4世。〔国書〕  
(はi-4)
- 狩野典信【栄川、1730～90】 江戸の人、栄川古信の子、木挽町狩野家5世。〔美術〕  
(いi-4、かh-2、たa-9、はf-137、僧i-6)
- 狩野元信【1476～1559】 京都の人、狩野派の祖・正信の子。〔美術〕  
(いe-41)
- 狩野安信【1614～85】 京都の人、孝信の三男、幕府奥画師・中橋狩野家の祖。〔美術〕  
(たk-9)
- 鐙木雲潭【1782～1852】 梅溪の義子、谷文晁門の画家。〔国書〕  
(かj-74)
- 鐙木梅溪【1750～1803】 長崎の人、画家。〔国書〕〔画乗〕〔逸人〕  
(いd-1,3、おf-12)
- 亀井(小倉)東溪【1748～1816】 讃岐高松の人、画家。〔国書〕〔画乗〕  
(さb-30)
- ・亀井南冥【1743～1814】 筑前の人、福岡藩漢学者。〔国書〕〔師友〕  
(かj-16)
- 鴨(梨木)祐為【1740～1801】 京都の人、下鴨神社祠官。〔国書〕  
(はf-89)
- 川口士寅【江戸中期】 細合斗南『隠居放言』に「東六条画仏師の属」とあり、京都東本願寺の絵仏師とみられる。  
(はf-81,86)
- 河益之【江戸中期】 東京西早稲田の穴八幡神社に「明月帖」が伝存し、風俗画的な作風で描く。  
(おe-2,3、かi-4,12)
- 河島雪亭【江戸中後期】 『無名翁随筆』後藤茂右衛門条に「田安侯の画師なり、雪舟画孫なり、雪舟と少し異なれども名手也、寛政頃より天保の今に至て存す、市ヶ谷に住す」とあり、『江戸方角分』「四谷」に収載される。  
(うa-11,12、やe-5)
- 河原保寿【1714～83】 江戸の人、松下烏石門の書家。〔国書〕〔逸人〕  
(あd-3,8,12、おe-6,7,m-1,2、かf-3,7、はa-17、僧d-5,10)
- 河村文鳳【?～1821】 京都の人、岸駒門の画家。〔国書〕〔画乗〕〔師友〕〔平安・化〕  
(まj-93,94,115)
- ・菅茶山【1748～1827】 備後神辺の人、漢学者。〔国書〕→漢詩文  
(かc-12)
- 岸駒【1749～1839】 越中もしくは加賀の人、岸派の祖。〔美術〕  
(かe-7、まg-41,77,78,81,j-32,37,60,64,78,85,87,90,93,94)
- 岸岱【1782～1865】 京都の人、岸駒の子。〔国書〕〔画乗〕〔平安・化〕  
(まg-81,j-94)
- 韓天寿【1727～95】 京都の人、青木夙夜の従兄、書家。〔美術〕  
(あj-6、かq-4,6、さb-41,49,54,57、たa-4,6、はf-15,38,43,56,66,68,71、まb-3、やg-1,2、らa-21、僧b-3)
- 寛隆法親王【1672～1707】 霊元天皇の第二皇子、仁和寺門跡。  
(やa-3)
- 紀竹堂【?～1812頃】 京都の人、村上東洲門の画家。〔国書〕〔画乗〕→画13  
(僧h-122)
- 紀梅亭【時敏、1734～1810】 山城烏羽の人、与謝蕪村門の画家。〔国書〕〔画乗〕〔師友〕〔逸人〕〔平安・天〕  
(まd-10,g-75,j-1,5,6,27,81、僧h-58)
- 祇園南海【1677～1751】 江戸の人、紀伊和歌山藩漢学者。〔美術〕→詩文集  
(あb-8、えa-3、かc-15,j-23,s-10、さb-5,59,60、まg-62,j-116、やa-1,2,8,10,11)
- 岸(崖)南嶠【1769～1834】 紀伊の人、和歌山藩漢学者、文化6年の「南紀名山新書画展観」を森月航とともに催す。  
(さc-1、やe-16,18)
- 岸(崖)熊野【1734～1813】 紀伊の人、和歌山藩儒学者、南嶠の義父。〔国書〕  
(いi-16、やe-19)
- 木田初心斎【?～1785】 大坂の人、画家。細合斗南の詩文集に散見される木田伯子のこと。弟・仲子は松花堂流の書家。  
(はf-26,53,55,57,69,96)

- 北向雲竹【1632～1703】 京都の人、書家。〔国書〕  
(はf-132)
- 北山晋陽【馬道良、?～1801】 長崎の人、幕府御家人(与力)、北山寒巖の父。〔国書〕  
(なb-9)
- 木下応受【1777～1815】 京都の人、円山応挙の子。〔画乗〕〔平安・化〕  
(まj-93,95)
- ・木村兼葭堂【1736～1802】 大坂の人、酒造業、池大雅門の画家。〔美術〕  
(はf-74,92,99,112,120、僧f-42,126)
- 玉翁【旭応湛空・岳陽、1739～1822】 浄土宗の僧(近江不動院、京都永観堂)、墨竹画。〔画乗〕〔饒舌〕〔平安・化〕  
(おb-19、僧h-121)
- 玉澗【1751～1814】 近江の人、浄土宗の僧、墨竹画。〔画乗〕〔饒舌〕〔師友〕〔逸人〕〔平安・化〕  
(まj-65、僧h-17,19,44,51,56,87,98,100)
- 清原雪信【江戸前期】 京都の人、狩野探幽門の女流画家。〔美術〕  
(かk-7)
- ・草場佩川【1788～1867】 肥前の人、佐賀藩漢学者。〔国書〕  
(らb-8)
- 釧雲泉【1759～1811】 肥前島原の人、画家。〔美術〕  
(かd-5,j-73、はf-95)
- 倉屠龍【江戸中期】 伝不詳の画家。〔平安・安〕  
(まg-8)
- 栗栖探叔【守尚、1700～55】 相模三浦の人、狩野探信門の画家、萩藩画師。  
(はa-19)
- 黒川亀玉【1732～56】 江戸の人、画家。〔美術〕  
(さb-29、たk-10、はj-2,4,5,6)
- 黒川亀玉(2代)【松田英、1754～1814】 江戸の人、亀玉の養嗣子。〔諸家〕  
(たk-13、まi-6)
- 黒田綾山【1755～1814】 讃岐高松の人、福原五岳門の画家。〔画乗〕〔師友〕  
(おg-1,2、なe-4)
- 鋏形蕙斎【北尾政美、1764～1824】 江戸の人、狩野惟信門の画家、浮世絵、津山藩画師。〔美術〕  
(僧f-59)
- 桑山玉洲【1746～99】 紀伊の人、池大雅門の画家。〔美術〕  
(かg-3、はf-29,51,125)
- 月仙【1741～1809】 尾張名古屋の人、浄土宗の僧、桜井雪館門の画家。〔美術〕  
(いe-14、かj-52,q-2、さb-8,13,19,22,59,f-4、たf-2、はd-4,20,22,24,f-83,91,100,104,111,127、まg-65,j-3,10,15,25,40,61,70,73,83,86,89,92,96,99、らa-13,d-23,29,36,38、僧f-1,3,4,5,6,7,8,10,24,26,28,34,51,62,63,70,71,h-34,67,80,85,89,102,131,136,i-9)
- 月峰【1760～1839】 天台宗の僧、池大雅門の画家。〔画乗〕〔師友〕〔平安・化〕  
(まg-60,j-67,77,101)
- 阮自千【江戸中後期】 「大雅堂建設連名簿」(天明4年)に名あり。作品に「阮寧」、「葛簞樵翁自千」と署す。→画6  
(かq-5、はf-5)
- 源琦【1747～97】 京都の人、円山応挙門の画家。〔美術〕  
(まj-24、らd-42)
- 呉(佐野)北汀【其正・必大、江戸後期】 越後新潟の人、浦上春琴門の画家。『画乗要略』の「北汀先生」。〔画乗〕  
(いf-1)
- 呉春【松村月溪、1752～1811】 京都の人、与謝蕪村、円山応挙門の画家、四条派の祖。〔美術〕  
(かe-8、はf-124、まg-23,76,j-8,22,31,43,44,45,48,53,58,62,69,71,72,79,93,94,95,106、僧h-61,67,80,102,123,135,137)
- 公寛親王【1697～1738】 東山天皇の第3皇子、日光山輪王寺門跡、天台座主。〔国書〕  
(あe-1,2)
- 古礪【明誉、1653～1717】 浄土宗の僧、狩野永納門の画家。〔美術〕  
(かs-6)

小柴景山【守典、?~1801】 大坂の人、狩野派・小柴守直の養嗣子。〔浪華・寛〕

(はf-76)

・米田是著【1720~97】 肥後の人、熊本藩士。〔国書〕→漢詩文

(あf-1)

・古梁紹岷【1756~1839】 武藏八王子の人、臨濟宗の僧。〔国書〕→漢詩文

(かa-1)

〔さ〕

斎藤一興【九畹、1758~1823】 備前の人、岡山藩士。〔国書〕

(かj-7, 8, 14, 24, 26, 33, 48, 63, 僧h-50, 77, 79)

・酒井忠貫【1752~1806】 越前若狭藩主。

(あj-9)

彭城百川【1697~1752】 尾張名古屋の人、薬商、画家。〔美術〕

(いb-1、かi-3、なb-7、はf-74)

佐久間草偃【?~1814】 京都の人、土佐光貞、呉春門の画家。〔国書〕〔画乗〕〔平安・化〕

(まg-33, j-94)

佐久間洞巖【1653~1736】 陸奥仙台の人、同藩漢学者。〔国書〕〔逸人〕

(いi-1, 3, おi-9, 10, 14, 21, はa-2, 3, 13)

桜井雪館【山興、1715~90】 常陸水戸の人、雪舟流の画家。〔国書〕〔画乗〕〔逸人〕〔諸家〕

(あi-11, いj-1, 僧f-68)

桜井雪鮮【1762~1804】 雪館の甥、幕府の御家人。〔国書〕〔逸人〕

(かs-8)

佐々木縮往【1649~1734】 長門の人、萩藩漢学者。〔国書〕

(あk-2, おl-22, やc-3)

佐竹嚶々【1738~90】 京都の人、池大雅門の画家。〔美術〕

(いa-1, えa-7, おh-4, かq-3, さd-3, なa-4, g-2, はd-10, まd-2, 8, らd-26, 49, 僧h-8, 13)

佐竹蓬平【1750~1807】 信濃伊那の人、宋紫石、池大雅門の画家。〔逸人〕

(たb-1, 8, 13, 14, はh-4)

沢呉龍【江戸中後期】 伊勢の人、円山応挙門の画家。『兼葭堂日記』寛政5年7月25日条に「勢州呉龍来」とあり、同8年6月には谷文晁の知恩院調査に円山応瑞、世継希仙と同道。同9月、「東山新書画展観」に作品を出品。→図7

(いe-18)

沢東宿【江戸中期】 江戸の人、宋紫石門の画家。〔諸家〕

(たc-4)

佐脇崇之【1707~72】 江戸の人、英一蝶門の画家。〔美術〕

(いc-7)

・沢田東江【1732~96】 江戸の人、書家。〔美術〕→詩文集

(いe-9)

慈仙【忍仙如慧、1739~1821】 和泉の人、黄檗宗の僧。〔師友〕→図8

(たb-7, 9, らa-9, 10, b-1, 3, 4, 僧f-18, 19, 20, 55)

司馬江漢【1747~1818】 江戸の人、洋風画家。〔美術〕

(おf-7)

柴田義董【1780~1819】 備中玉島の人、呉春門の画家。〔美術〕

(まj-95)

柴田西涯【1745~1812】 尾張琵琶島の人、尾張藩医。〔張城「拾遺」部〕

(やe-6)

島士通【江戸中期】 京都の人、画家。〔平安・安、天〕

(さb-43)

清水(楊)伯民【源逸、1712~93】 長崎の人、伊孚九門の画家。〔国書〕〔逸人〕

(いc-2, e-24)

下郷学海【1742~90】 尾張鳴海の人、酒造業。〔国書〕〔張城「文苑」部〕

(おb-17, かh-5, さb-4, らd-16, 18, 僧f-12, 17, 30, 60, 66)



- 證覚【江戸中期】 阿波海部興願寺の僧。池大雅門の画家。〔画乗〕  
 (おb-8, 13)
- ・松花堂昭乗【1584~1639】 和泉堺の人、真言宗の僧、書家。〔美術〕  
 (はf-28, 70, 136)
- 祥啓【室町後期】 相模の人、建長寺の僧で書記。芸阿弥門の画家。〔美術〕  
 (さb-26)
- ・莊田豊城【子謙、1697~1754】 豊後の人、白杵藩漢学者。〔国書〕  
 (おa-1, 4)
- 松林山人【?~1792】 長崎の人、熊斐門の画家。〔逸人〕  
 (いe-12、僧h-4, 5, 6, 7, 9, 15, 60)
- 諸葛監【清水湖南、1719~90】 江戸の人、画家。〔画乗〕〔逸人〕〔諸家〕  
 (あa-3、まi-1, 2, 3)
- 白川芝山【1764~1824】 淡路洲本の人、画家。〔国書〕  
 (おk-5)
- ・神保蘭室【1743~1826】 出羽の人、米沢藩士。〔国書〕  
 (はg-10)
- 菅井梅関【1784~1844】 陸奥仙台の人、画家。〔美術〕  
 (僧j-7, 11)
- ・菅原誠意【江戸中期】 明和8年、山脇東門が女体を解剖した際に従事した画家。所見は『玉碎臓図』として著された。  
 (まg-84)
- 菅原洞斎【1772~1821】 江戸の人、狩野派の画家。〔国書〕  
 (さb-36)
- 鈴木鷗汀【鷗亭、江戸中期】 越後村上藩士か。  
 (いi-9, 10, 11, 12, 15, 17、かa-6, 9、たd-3、なa-3、まk-9、やe-10)
- 鈴木芙蓉【1749~1816】 信濃伊那の人、阿波徳島藩の画家。〔国書〕〔画乗〕  
 (あf-13, i-4, 5, 6, 7, 8, 9、いe-20、おc-3, 5, j-23、かc-16, d-9, f-7, 8, j-31, 44, 72、さb-10, 24、なa-5、はb-4, 10, e-1, 2、まg-34, 35, 36, h-1、僧i-18, j-3)
- 巢(鷲)見修父【東苑、江戸中期】 尾張名古屋の人、画家。〔張城「画家」部〕  
 (なf-1, 2)
- 住江滄浪【1691~1728】 肥後の人、熊本藩士。〔国書〕  
 (おc-7, i-4, 5, 8, 11, 13, 16, 20、はa-1、やb-11)
- 墨江武禪【1734~1806】 大坂の人、月岡雪鼎門の画家。〔国書〕〔画乗〕〔浪華・安・寛〕  
 (まj-50)
- 住吉広行【1755~1811】 江戸の人、板谷慶舟の子、幕府御用画師。〔国書〕  
 (さb-6, 12, 31, 32, 37, 44, 47, 48)
- 関口雪翁【1753~1834】 越後十日町の人。美作津山藩漢学者、墨竹画。〔国書〕→漢詩文・画12  
 (たd-1、はd-7, 15、まk-7, 10、僧i-2, 3, 4, 7, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 19)
- 雪峨【祖俊、1740~1818】 寛政8年9月「東山新書画展観」には「丹波人」とあり、『丹波人物志』は「但馬八鹿の人」とする。維明門の画家、丹波宗福寺(亀岡市千代川町)の臨濟僧。  
 (なa-2、まd-1, 11)
- 雪舟【1420~1506】 備中赤浜の人、相国寺の僧、周文門の画家。〔美術〕  
 (おc-6、かc-6、たb-15、はa-8, g-6, i-16、やb-5, 6, 7, c-2、僧b-7, f-14, g-3)
- 雪村【室町末期】 常陸太田の人、臨濟宗の僧、雪舟に私淑。〔美術〕  
 (やa-7)
- 雪舫【玄洲、江戸中後期】 大坂の人、黄檗宗(正通院)の僧、葛子琴の外甥、雪舟流の画家。〔浪華・寛〕  
 (はd-13, 19)
- 泉必東【?~1764】 大坂の人、細井広沢門の書家。〔国書〕〔画乗〕  
 (いh-3、かb-8, i-1, p-1、たf-1, g-1, 2, m-1、なb-8、はf-2, g-4)
- 宋紫石【1715~86】 江戸の人、熊斐門の画家。〔美術〕  
 (おd-2、かo-3、たc-4、まg-61、やe-22)
- 相阿弥【?~1525】 京都の人、将軍家同朋衆、芸阿弥の子。〔美術〕  
 (いf-4、まg-33)

曾我蕭白【1730～81】 京都の人、高田敬輔門の画家。〔美術〕  
(まe-1)

〔た〕

大鵬正鯤【1691～1774】 中国福建の人、黄檗宗の僧、墨竹画。〔美術〕  
(あf-5、おb-6、かn-11、さa-2、たa-3、k-6、はg-3、h-1、僧h-43)

高田敬輔【1674～1756】 近江日野の人、狩野永敬、古欄門の画家。〔美術〕  
(僧g-4)

高田三敬【三徑、1703～66】 近江日野の人、薬商、高田敬輔の子。〔逸人〕  
(僧g-4)

建部凌岱【1719～74】 陸奥弘前の人、熊斐門の画家。〔美術〕  
(あf-7、いj-4、たj-1、僧h-12)

立原杏所【1786～1840】 上総水戸の人、谷文晁門の画家。〔美術〕  
(僧j-6)

・伊達村寿【1763～1836】 伊予宇和島藩主。〔国書〕  
(いi-5)

伊達村泰【磐山、1682～1731】 仙台藩岩出山領主・伊達氏の4代。  
(いi-2、おi-2,6,23、たi-2,3)

田中索我【1742～1814】 備中鴨方の人、鶴沢探索門の画家。  
(なe-1)

田中岫巖【1695～1770】 紀伊の人、和歌山藩士。〔国書〕  
(かk-5,6,11)

谷森英【秋香、江戸中後期】 江戸の人、谷文晁の妹、中田榮堂の妻。〔画乗〕  
(いe-25、さb-36)

谷文一【1787～1818】 江戸の人、谷文晁の養嗣子。〔国書〕〔画乗〕〔師友〕  
(かf-7,8,9、さb-36)

谷文二【1812～50】 江戸の人、谷文晁の子。〔画乗〕〔師友〕  
(かj-58)

谷文晁【1763～1841】 江戸の人、田安德川家の画師、画塾・写山楼の主。〔美術〕  
(あj-7,8、いe-5,17、おc-4、かd-8、j-13,17,31,40,43,58、t-16、s-4、さb-2,9,14,20,33,35,36,53,55,58,60、はb-12、g-14、まg-74、h-2、j-66、らa-16、僧f-53,54、h-133)

田能村竹田【1777～1835】 豊後竹田の人、岡藩漢学者。〔美術〕  
(かj-64、たb-5,11,12、まj-38,42,117)

千村鷺湖【1727～90】 尾張の人、尾張藩士。〔国書〕〔張城「文苑」部〕→詩文集  
(いc-4,d-4、はg-7,9)

趙陶齋【1713～86】 長崎の人、書家。〔国書〕  
(あg-2,3、かb-12、j-15,56、t-3、はf-116,119、らa-4,8,17,18,20,22)

苧蘿山人【平賀(阮)才二・多田玄介、1732～88】 加賀鳳至の人、医者、彭城百川門の画家。近刊に『苧蘿山人を追って』  
(宇崎寿美子著 神戸新聞総合出版センター 2008年)あり。〔浪華・安〕→画9  
(かb-4,13,14、はf-33)

月岡雪鼎【1710～87】 近江の人、高田敬輔門の画家、肉筆浮世絵。〔美術〕  
(かn-16)

津田北海【応圭、?～1780】 尾張の人、尾張藩家老。〔逸人〕〔張城「画家」部〕  
(いc-1,3、たt-1,3,4,5,7、はa-16、らd-21)

鶴沢探鯨【幽皓、?～1769】 京都の人、鶴沢探山の子、鶴沢派2代。〔画乗〕  
(まj-84)

鶴沢探索【?～1797】 京都の人、鶴沢探鯨の養嗣子、鶴沢派3代。〔国書〕〔画乗〕  
(やe-1)

鶴沢探山【1655～1729】 京都の人、狩野探幽門の画家、鶴沢派の祖。〔美術〕  
(僧h-94)

田其相【江戸中後期】 『古今墨蹟鑑定便覧』(安政2年)に「字は子玉、浪花の人、画風一家頗る風致あり」とある。  
(はf-1,4,107)

- 天龍道人【**渋川虚庵・玉瑾、1718～1810**】 信濃の人、画家。〔美術〕  
 (やe-17, 21)
- 董九如【**井戸弘梁、1745～1802**】 江戸の人、幕府の旗本、宋紫石門の画家。〔国書〕〔画乗〕〔逸人〕  
 (いe-16, 19, 22, 23、なa-1、はe-4)
- 土岐清美【**江戸後期**】 京都の人、円山応挙門の画家。〔画乗〕〔平安・化〕  
 (おi-1)
- ・独麟【**醉竹、1677～1741**】 臨濟宗の僧。『池田人物志』に一項が設けられる。  
 (おi-23、たi-4, 5)
- 土佐経隆【**鎌倉前期**】 京都の人、土佐隆親の子、絵所預。〔国書〕  
 (さb-37)
- 土佐光起【**1617～91**】 土佐光則の子、宮中の絵所預、土佐派中興の祖。〔美術〕  
 (さb-62)
- 土佐光貞【**1738～1806**】 京都の人、土佐光芳の子、宮中の絵所預。〔美術〕  
 (さb-37)
- 土佐光孚【**1780～1852**】 京都の人、土佐光貞の子、宮中の絵所預。〔美術〕  
 (はf-105)
- 土佐光信【**室町後期**】 京都の人、宮中の絵所預、土佐派の祖。〔美術〕  
 (はa-14)
- 土佐光芳【**1700～72**】 京都の人、土佐光祐の子、宮中の絵所預。  
 (はf-50)
- 十時梅厓【**1749～1804**】 大坂の人、伊勢長島藩漢学者。〔美術〕  
 (いd-2、はf-58, 98, 101, 116, 117、らa-19)
- 鳥羽台麓【**石隠・希聡、1739～1823**】 京都の人、池大雅門の画家。〔国書〕〔逸人〕〔平安・安、天〕  
 (さb-45, 63、はf-40, 64)
- 鳥越烟村【**梅澹、江戸後期**】 備前の人、浦上春琴門の画家。〔師友〕  
 (かf-3)
- 鳥山石燕【**1714～88**】 狩野玉燕門の画家、浮世絵師。〔美術〕  
 (たk-1, 12)

〔な〕

- 内藤東甫【**正誠・正参、1728～88**】 尾張の人、尾張藩士。〔国書〕〔張城「聞人」部〕  
 (おj-2、たl-6)
- 長沢芦雪【**1754～99**】 山城淀の人、円山応挙門の画家。〔美術〕  
 (はf-106, 109, 130、まg-50, 83)
- 中野龍田【**1756～1811**】 尾張の人、三河岡崎藩漢学者。〔国書〕〔画乗〕〔師友〕  
 (おj-5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 16、さc-9、まj-14)
- 中林竹洞【**1776～1853**】 尾張名古屋の人、和漢学者、画家。〔美術〕  
 (かd-3, j-68、さc-9、らc-11)
- 長町竹石【**江戸後期**】 讃岐の人、建部凌岱門の画家。〔美術〕  
 (おk-3、さb-23)
- 中山高陽【**1717～80**】 土佐高知の人、漢学者、彭城百川門の画家。〔美術〕→漢詩文  
 (あj-3、いj-2, 3、おb-5, 9, 10、さa-1, 3、たk-4、はf-7、僧f-36)
- 長山孔寅【**1765～1849**】 出羽秋田の人、呉春門の画家。〔国書〕〔画乗〕〔師友〕  
 (まj-29, 93)
- ・成瀬正太【**正泰、1709～85**】 尾張の人、尾張藩家老、5代犬山城主。『三百藩家臣人名事典』尾張藩に収載。  
 (まc-1)
- ・成瀬正典【**1742～1820**】 尾張の人、尾張藩家老、6代犬山城主。『三百藩家臣人名事典』尾張藩に収載。  
 (やe-2)
- ・西河九松【**1700～85**】 尾張の人、漢学者。〔張城「文苑」部〕  
 (おj-18、たc-1, 2, 5)
- 西河璃琪【**1752～1831**】 尾張の人、西河九松の娘、関戸富信妻。〔張城「名媛」部〕  
 (おj-24)

西村清狂【1727～94】 尾張の人、画家。〔国書〕〔逸人〕〔張城「画家」部〕

(おj-20、なf-5,6,8,9)

忍海【白華忍海、1696～1761】 浄土宗、増上寺の僧。〔国書〕

(あd-1,4,5,11, f-3,4,6, いc-5,9, おe-4, かa-10, o-2, はa-7,8,10,11,12,18,20, i-13,14, らd-23, 僧d-1,6,9,11, g-2,3, i-1)

野間蘭陵【江戸後期】 『愚山先生文稿』に「讃岐丸亀人、嗜漢画」とある。文化9年9月の「長竹石追悼書画展観」の補事を務めた「讃岐国丸亀」の野間蘭陵であろう。

(まf-1)

野呂介石【1747～1828】 紀伊の人、和歌山藩士、池大雅門の画家。〔美術〕

(かj-45, f-8, s-14, まj-113, らc-3, 11)

〔は〕

馬寅【1776～1830】 摂津池田の人、呉服神社神主、呉春門の画家。『伊居太神社日記』に記述多し。

(まj-118)

・白隠慧鶴【1685～1769】 駿河原の人、臨済宗の僧。〔美術〕

(やa-9, 17)

白雲【1764～1825】 京都の人、浄土宗の僧。〔美術〕

(かj-11, s-3, まj-105, 僧h-128)

橋本冬青【江戸中期】 山川墨湖の妻、画家。〔張城「名媛」部〕

(まc-2, らd-13)

長谷川青楓【長禹功、1716～74】 京都の人、漢学者、朱竹画。〔国書〕〔逸人〕〔平安・明〕

(おb-2, 16, かp-2, らd-1,4,7,14,52)

・蜂須賀治昭【1757～1814】 阿波徳島藩主。

(はb-6)

・服部南郭【1683～1759】 京都の人、漢学者。〔美術〕→漢詩文

(あd-9, f-12, うb-1,2, おa-3, f-12, n-1,3, かu-3, たa-5, はi-12,13, 僧d-3,4)

英一蝶【1652～1724】 京都の人、狩野安信門の画家。英派の祖。〔美術〕

(まj-12)

浜田杏堂【1766～1814】 大坂の人、医者、福原五岳門の画家。〔画乗〕〔浪華・寛〕

(かj-22,47, まf-4)

林岳州【江戸中後期】 長門の人、林東溟の子、円山応挙門の画家。『逢原紀聞』に記述あり。

(はf-82)

原在中【1750～1837】 京都の人、円山応挙門の画家、原派の祖。〔美術〕

(はf-79, 僧h-45,48)

春木南湖【1760～1839】 江戸の人、費晴湖門の画家。〔美術〕

(かj-36,74, まg-89)

春木南溟【1795～1878】 江戸の人、春木南湖の子。〔画乗〕

(いe-40)

繁沢豊城【1732～1806】 萩藩藩校・明倫館6代学頭。『近世藩校に於ける学統学派の研究』(笠井助治著 吉川弘文館1969年)に収載。

(たh-1,2)

菱田房行【鵬拳、江戸中期】 江戸の人、幕府御家人(作事方)、伊東藍田の兄。

(いi-1,2,8)

・人見璣邑【1729～97】 尾張の人、尾張藩士。〔国書〕〔張城「儒林」部〕

(はg-13)

百拙元養【1668～1749】 京都の人、黄檗宗の僧。〔国書〕

(えa-4, たi-1, はd-9, 僧a-1, b-6, e-6)

平賀蕉斎【1745～1805】 安芸広島の人、広島藩重臣・浅野士教の臣。〔国書〕→詩文集

(あd-7, かh-1, まg-28,31,65, k-15, l-2,7)

・平沢旭山【1733～91】 山城宇治の人、昌平黉教授。〔国書〕→詩文集

(いe-1, さa-5, たm-3)

平田玉蘊【1785～1855】 備後尾道の人、八田古秀門の女流画家。〔画乗〕〔師友〕

(かj-19,32,55, らa-7, b-9, c-5, 13)

- 平松曼容【自得山人、1743～1805】 備中倉敷の人、大西酔月門の画家、九州行は寛政7年。[師友]  
(おg-8、らa-2)
- 広瀬台山【1751～1813】 美作の人、津山藩士。福原五岳門の画家。[美術]  
(かc-3,4、らc-2,4,9)
- 福岡撫山【江戸中後期】 寛政2年版の『浪華郷友録』「聞人」、「書家」部に収載。  
(はf-93)
- 福原五岳【1730～99】 備後尾道の人、池大雅門の画家。[美術]  
(おk-4,5、かb-5,11,m-1,n-12,t-1、なe-5、はb-3,5,d-3,12,f-36,62,92,129、まj-4,16,51、らa-6,15,d-8,34,35,41,46,47)  
・富士谷成章【1738～79】 京都の人、皆川淇園の弟、肥前柳川藩国学者。[国書]  
(まg-7,22)
- 淵上旭江【1753～1816】 備中児島の人、大西酔月門の画家。[国書][師友]  
(うa-9、まg-29)  
・細合斗南【1727～1803】 伊勢江島の人、漢学者、書家。[国書]→漢詩文  
(僧f-37)  
・細井平洲【1727～1801】 尾張の人、同藩漢学者。[国書][饒舌]→漢詩文  
(かc-2,10,15)  
・細川興文【1723～85】 肥後宇土藩主。[国書]→漢詩文  
(あb-2,5、かu-6,8、たa-8、まi-4,9)  
・細川重賢【1720～85】 肥後熊本藩主。[国書]  
(さb-17、はb-11、やe-11)  
・本多忠統【1691～1757】 伊勢神戸藩主。[国書]→漢詩文  
(いk-1、おt-1,17,18、かh-3、はa-4,6,9)  
・本多忠如【1714～73】 磐城泉藩主。[国書]→漢詩文  
(まb-1,i-8、やg-3)  
・本多康桓【1714～69】 近江膳所藩主、本多忠統の長子。  
(まb-2)
- [ま]
- 勾田台嶺【?～1826?】 尾張の人、中林竹洞門の画家。[国書][画乗]  
(僧j-1,9)  
・牧詩牛【1788～1833】 讃岐の人、漢学者。[国書]  
(かj-34)
- 蒔田暢斎【1738～1801】 伊勢山田の人、書家、諸葛監門の画家。[国書][諸家]  
(あi-1,2,3,10、さa-7,b-34,41,42、はf-27,103,133、まg-30、僧h-95)
- 増山雪斎【1754～1819】 伊勢長島藩主。[美術]  
(あa-5,j-4、いe-6,8,30,32,33,38,42,g-3,i-3、うa-7、かa-4,j-42、さb-1,16,18,21,39,40,f-1,2、たd-2,5、なd-1、はf-32,39,41,58、まd-4,g-4,5,25,37,89,k-5,6,8,13、やe-4,7,8,9,12,13,23、らa-19,d-51)  
・松下烏石【1699～1779】 江戸の人、細井広沢門の書家。[国書]  
(おn-2)
- 松平醉翁【忠敦・丹下、1697～?】 摂津尼崎藩家老。  
(いe-7、かn-15、はf-37、らd-40)
- 松村景文【1779～1843】 京都の人、呉春の異母弟、四条派の確立者。[美術]  
(まj-93,95)
- 松本奉時【?～1800】 大坂の人、蝦藝画。[逸人]  
(はd-3,5,16,f-85、まg-58)
- 円山応挙【1733～95】 丹波亀山の人、石田幽汀門の画家、円山派の祖。[美術]  
(おb-21,i-1、かe-5、さb-52、はf-44,60、まd-14,e-2,g-1,10,17,18,20,21,23,63,64,82,90,91,j-59,61,103、らa-1,12,d-39、僧h-16,24,28,31,37,52,59,63,67,72,96,104)
- 円山応瑞【1766～1829】 京都の人、円山応挙の子。[国書][画乗][平安・化]  
(はf-123、まg-63,82,j-93,94,95)
- 三浦恒升【江戸中期】 播磨高砂の人、三浦迂斎の子。  
(あb-9,c-2,3,4、かq-1)

- 三上渭川【蕙圃、1728～55】 京都の人、画家。『艸廬文集』に墓碑銘あり。  
(らd-2, 3, 5, 6, 24, 54)
- 三熊花顔【1730～94】 京都の人、大友月湖門の画家、桜画。[美術]  
(たj-2, 3, はf-114, まd-13, g-86, 僧h-21, 25, 49, 57, 68, 69)
- 三熊露香【江戸後期】 京都の人、三熊花顔の妹、桜画。[国書][画乗]  
(まg-49)
- 水野廬朝【1748～1836】 江戸の人、幕府の旗本、肉筆美人画。[国書]  
(おe-1, 2, 5, かf-4)
- 三谷(狩野)映信【永錫、1752～1822】 筑後の人、久留米藩画師。中橋狩野家・永徳高信門の画家。『三百藩家臣人名事典』  
(おc-2, かc-5, 7, 8, 9, 14, 17, 18) 久留米藩に収載。→画14
- ・皆川淇園【1734～1807】 京都の人、漢学者。[美術] →漢詩文  
(いe-28, さb-27, 59, はb-8, f-49, まd-12)
- 宮崎筠圃【1717～74】 尾張の人、漢学者、墨竹画。[国書][画乗]  
(えa-10, なb-1, f-7, はf-10, まc-3, g-69, j-36, らd-10, 僧b-2, 5, 9, e-2, 4)
- ・宮地敬之【世恭、江戸中期】 備後尾道の人、漢学者。  
(えa-11)
- 宮本武蔵【1584～1645】 美作宮本の人、熊本藩士、画家。[美術]  
(たb-16)
- 明兆【1351～1431】 淡路の人、京都東福寺の画僧。[美術]  
(はf-53, 僧f-44)
- 村井中漸【1708～97】 肥後熊本の人、漢学者、医者。[国書][画乗]  
(えa-2)
- 村上東洲【1742?～?】 京都の人、画家。[画乗][平安・安、天、化]  
(さc-7, 僧h-74, 107, 110, 114, 117, 122, 125, 139)
- ・村瀬栲亭【1744～1818】 京都の人、出羽秋田藩漢学者。[国書][饒舌][師友] →漢詩文  
(僧h-103)
- 村田龍亭【江戸中期】 京都の人、画家。[逸人][平安・亭]  
(おb-11)
- 望月玉蟾【1693～1755】 京都の人、山口雪溪門の画家。[美術]  
(あg-1, うc-2, 4, えa-5, はa-14, まg-24, 87, らd-32)
- 森五石【常勝、1747～1822】 豊後日田の人、酒造業。[師友]  
(おf-5)
- 森狙仙【1747～1821】 摂津鷲林寺の人、狩野派・勝部如春齋門の画家。[美術]  
(僧h-108)
- 森徹山【1775～1841】 大坂の人、森周峯の子、森狙仙の養嗣子、円山応挙門の画家。[美術]  
(はf-118)
- 〔や〕
- 梁川紅蘭【紅鸞、1804～79】 美濃の人、星巖の妻、漢学者、中林竹洞門の女流画家。[国書][画乗]  
(かj-65, 71)
- 梁川星巖【1789～1858】 美濃の人、漢学者。[国書]  
(かj-65, 66, 71, らc-10, 14)
- 柳沢淇園【1704～58】 大和郡山藩の重臣、画家。[美術]  
(えa-6, 8, かn-1, 3, 4, 5, 7, 8, 10, 13, たm-2, はa-5, f-92, 122, まj-52, やa-6, 12, 18, 19, 僧h-88)
- ・柳沢伊信【信鴻、1724～92】 大和郡山藩主。[国書]  
(おb-20, k-1, たm-4, らd-22)
- 山内俊度【江戸中期】 肥後熊本藩士。菟孤山編『学泮集』に「山真、復姓山内、字俊度、一字次郎助、縣尹」とあり。  
(かf-1, u-7, たb-3, やb-8)
- 山口雪溪【1644～1732】 京都の人、画家。[美術]  
(らd-25)
- 山崎石燕【1709～85】 上野群馬の人、漢学者。[国書]  
(はg-1, 5)

山田宮常【1747～93】 尾張の人。画家。[画乗]

(なf-10)

熊斐【1693～1773】 長崎の人、沈南蘋門の画家。[美術]

(おf-5、まi-5)

横田(三好)汝圭【1765～1842】 江戸の人、画家。

(僧f-18, 58, 59, 67)

与謝燕村【1716～84】 摂津東成の人、俳人、画家。[美術]

(いe-15、さb-11、まd-3, f-3, g-19, j-1, 13, 101)

吉村孝敬【1770～1836】 京都の人、円山応挙門の画家。[画乗] [平安・化]

(まj-55, 93)

吉村周山【江戸中期】 大坂の人、根付師、狩野派・牲川充信門の画家。[美術]

(やa-13)

世継希仙【?～1843】 京都の人、月仙門の画家。[平安・化]

(はf-113、まj-47, 61、僧f-57, 64, h-2)

[ら]

・頼杏坪【1756～1834】 安芸竹原の人、広島藩漢学者。[国書] →漢詩文

(らa-5)

・頼山陽【1781～1832】 安芸竹原の人、頼春水の子、漢学者。[美術]

(かj-68, 75)

・頼春風【1753～1825】 安芸竹原の人、漢学者、医者。[国書] →漢詩文

(かj-57, 59、らc-1)

鸞山【?～1791】 浄土宗(浅草誓願寺)の僧、桜井雪館門の画家。[国書] [画乗]

(あd-2, 6、おa-2, 5, j-17、たk-7、僧g-1)

劉安生【筑玄育、1736～90】 安芸の人、広島藩医、諸葛監門の画家。[逸人]

(うa-6, 8、おf-2)

龍玉淵【1751～1821】 龍草廬の子、彦根藩漢学者。[国書] [平安・天]

(あh-1、おh-2, 3、かg-1, 2、たl-8、なg-3、らd-33)

[わ]

若城藍田【江戸中期】 京都の人、漢学者、村井中漸門の画家。[画乗]

(かe-9、まj-9)

渡辺玄対【1749～1822】 江戸の人、湊水の養嗣子、赤水の父、画家。[国書] [画乗] [諸家]

(いe-3, 4, 11, 26, 29, 31、うa-1, 2, 3、おf-1, 8、かa-3, 5, 12, 14, 15, 16, l-10, 14, 15、さf-3、なb-9、はg-11, 15、まk-12、やe-24、僧j-2, 9)

渡辺湊水【1720～67】 江戸の人、玄対の義父、画家。[国書] [逸人] [諸家]

(かa-16, l-15)

渡辺赤水【1776～1833】 江戸の人、玄対の子。[画乗]

(かl-15)

渡辺南岳【1767～1813】 京都の人、円山応挙門の画家。[美術]

(まg-46)

渡辺鳳来【江戸中期】 江戸の人、諸葛監門の画家。[諸家]

(おe-2, 3、かl-4, 17)

〔中国〕

- 伊孚九【清人・来舶】(はf-43, g-2)  
王翬【清人】(かs-1)  
王振鵬【元人】(たi-7)  
王冕【元人】(僧h-22)  
郭熙【北宋人】(はi-5, 15)  
韓幹【唐人】(たa-1)  
徽宗【北宋人】(はi-10、らc-12)  
仇英【明人】(あf-9、ゝe-21、おi-3, 18, 19、たi-7、はa-6, i-2, 7, 11、僧f-21)  
玉潤【南宋人】(はi-6)  
呉鎮【元人】(まg-70, 79)  
呉道玄【唐人】(おc-8)  
江芸閣【清人・来舶】(ゝe-34, 35、やe-25)  
江稼圃【清人・来舶】(おc-1、かf-4、たb-4、らa-11)  
高克恭【元人】(まj-101)  
朱式穀【清人】(まg-85)  
鍾礼【明人】(はj-3)  
沈周【明人】(ゝe-22、やb-10)  
沈南蘋【清人】(ゝe-22, i-14、さb-51、たa-2、はf-134、やf-2)  
盛懋【元人】(まg-40)  
銭選【元人】(なb-2、はe-6)  
銭穀【明人】(かb-3)  
詹景鳳【明人】(まg-66)  
詹仲和【明人】(はf-84)  
蘇軾【北宋人】(うc-5)  
曾鯨【明人】(はe-5)  
大鵬正鯤 上記参照  
張秋琴【清人・来舶】(ゝe-34, 35)  
張僧繇【梁人】(おi-7、はi-3)  
趙昌【北宋人】(はi-8)  
趙孟頫【元人】(えa-12、たk-3、なb-3、まg-69)  
陳繼儒【明人】(まg-48)  
陳淳【明人】(はf-65)  
陳裸【明人】(あj-10)  
程亦城【清人・来舶】(まg-67)  
唐寅【明人】(かk-10、まg-54)  
董其昌【明人】(まj-35、僧j-10)  
陶逸【不明】(さc-10)  
馬元欽【清人】(まg-46)  
馬麟【南宋人】(ゝf-5, 9)  
費漢源【清人・来舶】(かj-41, s-9, 12, 13、僧h-18)  
文嘉【明人】(あf-8、ゝe-22、まj-2)  
文徵明【明人】(おi-18、まg-54)  
米芾【北宋人】(ゝe-21)  
方西園【清人・来舶】(はb-7、僧h-82, 92)  
牧谿【南宋人】(おi-15、かi-6、はa-7, i-9、まg-12、僧g-3)  
孟涵九【清人・来舶】(まg-38, j-68)  
藍瑛【明人】(はf-73)  
李公麟【北宋人】(あc-8、かc-10、さb-60、たi-6)  
李攀龍【明人】(僧d-2)  
陸復【明人】(さb-48)  
劉珏【明人】(僧b-8)



劉顯宗【明人】(さd-2)  
林長英【明人】(まj-112)

〔朝鮮〕

槐園(まj-82)  
金有声【通信使】(いh-6、かj-67、はf-19)  
卞璞【通信使】(まj-19)  
文郁(僧f-25,56)  
李義養【通信使】(かs-11)  
李聖麟【通信使】(まj-11)

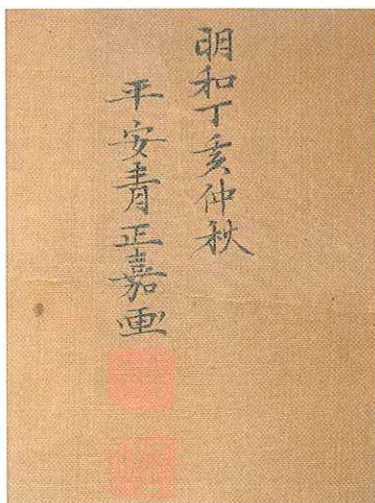
五 図版



图1 青山猷山「桃園結盟図」(明和4年・1767)



图2 岩溪高台「山水図」(清田儋叟賛)



平安青正嘉画  
(白文「正嘉之印」朱文「猷山」)



高台(白文「高台」朱文「巖恭」)



图3 岡井赤城「薔薇に文鳥図」



图4 岡田南山「冬景山水図」  
(明和元年・1764)



图5 岡田南山「驟雨山水図」  
(寛政11年・1799)



滕師礼 (白文「滕師礼」) 白文「滕伯和」



岡豹写 (白文「岡豹」) 白文「君章」



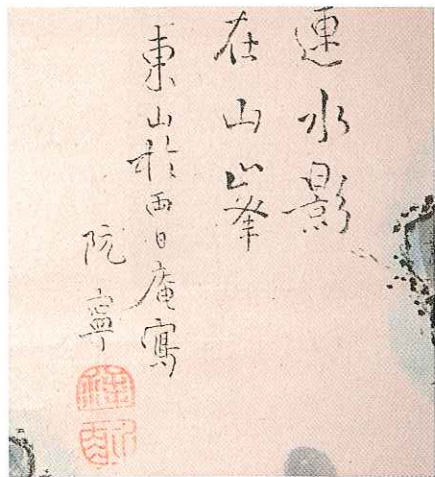
墨樵翁 (朱文「岡田豹」) 白文「君章」



图6 阮自千「夏景山水图」



图7 沢吳龍「梅月图」(市河寬齋贊)



阮寧(朱文連印「□□」「自千」)



(白文「沢辰之印」白文「五龍」)



图8 慈仙「桃花山水图」 慈仙（白文「忍印」白文「慈仙」）



图9 苧蘿山人「達磨图」 苧蘿阮晉（白文「阮晉」白文「苧蘿釣徒」）



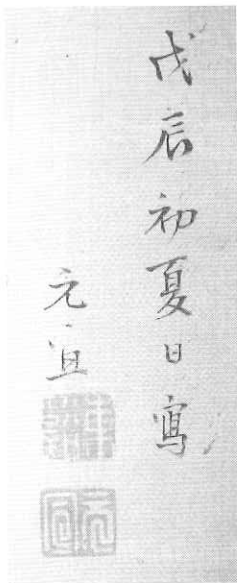
図10 青生東谿「山水図」  
(文化5年・1808)



図11 海門「墨竹図」  
(天明元年・1781)



図12 関口雪翁「竹に月図」  
(文政7年・1824)



元宣(白文)「東谿」白文「元宣」



海門指墨(朱文「釈氏」白文「海門」)



七十二雪翁(朱文「粥粥若无能也」)



图13 紀竹堂「驟雨孤舟圖」 竹堂（白文連印「紀寧」「清夫」）



图14 三谷映信「富嶽圖」（細井平洲贊） 南筑三谷永錫（白文「高芳之印」）

[追記]

『古文化研究』第七号掲載の拙稿「[館藏品研究]「鯉図屏風」と画家・渡辺南岳について」で、渡辺南岳による版本の挿図に関する書名一覧表を掲載した。

このことに関して千葉市美術館の学芸員・伊藤紫織氏から、Mitchell, C.H., and Osamu Ueda “The Illustrated Books of the Nanga, Maruyama, Shijo and Other Related Schools of Japan: A Bibliography” (1972) という研究書の存在をご教示いただいた。このような版本挿図の分野においては、アメリカで先進的な研究がなされていることを始めて知り、すでに紀要の発行から時間が経過してしまっているが、この場を借りて改めて伊藤氏に感謝申し上げる次第である。

同書に列挙された渡辺南岳に関する版本資料のうち、南岳在世中に刊行され、表に取り上げていないのは『美人合』『花月帖』『発句下絵』『春の光』の4点である。このうち『花月帖』と『春の光』については『国書総目録』で特定することができず、いまだ調査するには至っていない。

『美人合』（文化4年、野馬五趙序、菊舎太兵衛発行）は、円山四条派（岡本豊彦、松村景文、紀広成など）を中心とした京都の画家10名の手になる挿図を掲載し、巻頭の「宮女図」を南岳が担当している。一方、『発句下絵』（文化7年、四時堂志諺序）は、人物画を中心とした挿図20図を載せ、末尾の図のみに南岳の落款（「南岳」の署、白文「巖之印」印、白文「維石」印を捺す）が見られるが、全て南岳の手になるとみられる。図様の多様性から、南岳の研究上『街道狂歌合』と同様に資料性の高い俳書といえる。